トラクタ

取扱説明書

GV 500・550・600 650・700・750 760・850・950



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

- 注意マーク
- 火気厳禁
- ディーゼル軽油
- 燃料残量
- 燃料計
- アワーメータ（積算時間計）
- エンジン予熱
- バッテリ充電異常
- エンジンオイル圧力
- 水温計
- ホーン
- 方向指示器表示
- ハザード
- 作業灯
- ライトスイッチ
- 固定（ロック）
- ヘッドライト（上向き）
- ヘッドライト（下向き）
- 駐車ブレーキ
- 高速又は高
- 低速又は低
- エアクリーナエレメント
- エンジン回転
- 前輪駆動（入）
- 前輪駆動（切）
- 倍速ターン
- AB ブレーキ
- 後輪デフロック
- 前輪デフロック
- ブレーキ連結解除
- 3 点リンク（上げ）
- 3 点リンク（下げ）
- クイックアップ
- 耕深制御
- S モード
- ドラフト
- レーザ
- 傾き自動
- 旋回アップ（オートアップ）
- バックアップ
- 油圧補助コン シリンダ（縮み）
- 油圧補助コン シリンダ（伸び）
- PTO（切）
- PTO（入）
- ワイパ
- デフォッガ

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式

機械番号（製造番号）

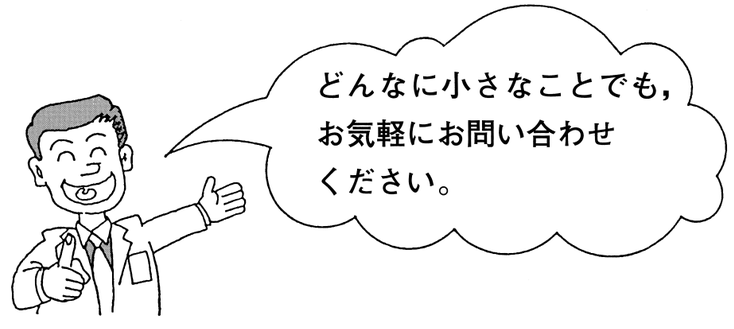
●ご使用状況は…？

（何速で，どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

TEL　　（　　）

はじめに

このたびは三菱農機製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危　険**	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警　告**	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注　意**	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重　要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補　足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は **GV750** を基本とし，**GV750** と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

- エンジン出力(PS)によって ……GV500 仕様，GV550 仕様，GV600 仕様
  GV650 仕様，GV700 仕様，GV750 仕様
  GV760 仕様，GV850 仕様，GV950 仕様

- 傾斜・制御付き……M 仕様

- グランド PTO 付き……G 仕様

- GV500・550・600 仕様の
  1 連 油圧補助コントロールバルブ付き ……C 仕様
  (GV650・700・750 は 1 連標準装備)
  (GV760・850・950 は 2 連標準装備)

- トレッドによって……ワイドトレッド仕様（文中記号：W）
  (GV760・850・950 に適用)

目　次

⚠安全に作業するために

安全キャブについて 1
運転前に 2
始動時に 3
運転時に 3
作業機使用時に 6
道路走行時に 8
駐車、格納時に 10
点検・給油・整備時に 10
表示ラベルと貼付け位置 14
表示ラベルの手入れ 18

サービスと保証について

小型特殊自動車としての取扱い

運転に必要な各部の名称

運転前の点検

エンジンの始動と停止

始動のしかた 14
　キースイッチ 15
　オートグロー 16
　モニタランプ 17
　寒冷時の始動のしかた 19
停止のしかた 19
寒冷時の暖機運転 20
バッテリあがりの処置 20

トラクタの運転

ならし運転（最初の約 50 時間） 21
運転席回りの調節 22
　シート 22
　安全キャブとシートベルトについて 22
　チルトステアリングハンドル 23
　バックミラー 23
灯火類の操作 23
　ヘッドライトスイッチ 23
　ウインカスイッチ 23
　ハザードスイッチ 24
　ホーンボタン 24
　バックランプ 24
　ブレーキランプ 24
　車幅灯・尾灯 24
発進・走行 25
　ブレーキペダル 25
　クラッチペダル 26
　主変速レバー 27
　副変速レバー 28
　クリープレバー 28
　シャトルレバー 29
　走行モード切換スイッチ 30
　アクセルレバーとアクセルペダル 32
　駐車ブレーキ 33
停車・駐車 34
電子メータパネルの取扱い 35
　表示の切替え 35
　車速係数の入力について 36
運転中の作動確認 38
　次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。 38
　イージーチェッカ 38
　燃料計 39
　水温計 40
　回転計 40
デフロックの使い方 41
　後輪デフロックペダル 41
　前輪デフロックスイッチ 41
旋回のしかた 42
坂道での運転 42
ほ場への出入り時の注意 43
道路走行中の注意 43
トラックへの積み・降ろし 44
パワーステアリングの取扱い 45
外部電源取出端子 45
　電源取出し 45
トレーラ用カプラ（オプション） 46

油圧・三点リンク・PTO

作業機昇降装置 48
　各部の名称 48
　作業切替スイッチ 49
　ドラフトストッパピン 49
　ポジションレバー 50
　下限規制ダイヤル 50
　高さ規制調整ダイヤル 50
　作業機落下速度調整ダイヤル 51
　耕深調節ダイヤル 51
　感度調整ダイヤル 52
　クイックアップレバー（スイッチ） 52
　三点リンクの安全ロック機能 53
　旋回アップ（オートアップ）スイッチ 54
　バックアップスイッチ 55
　油圧ロックレバー 56
　作業モードの切替手順 56
傾き自動［M 仕様］ 57
　各部の名称 57
　傾き自動切替スイッチ 58
　傾き自動角度調節ダイヤル 59

目　次

傾き手動スイッチ 60
傾き自動の安全ロック機能 60
平行復帰スイッチ 61
ランプ表示一覧 62
外部油圧取出し 63
油圧補助コントロールレバー 63
補助コントロールバルブ単複切換えつまみ 64
三点リンク 65
各部の名称 65
耕深ワイヤ 66
三点リンク（JIS 1・2）の切換え 67
ロアーリンク取付け穴の選択 67
リフトロッドの長さ調整 68
フローティング機構 69
三点リンク外部操作スイッチ 69
傾き手動外部操作スイッチ［M 仕様］..... 69
トップリンク 70
クイックジョイント 71
リフトロッド（右）の調整 71
チェックチェーン 71
作業機を取付けないときの注意 72
けん引ヒッチ（ドローバ）..... 73
すき込み開始高さの調整 73
すき込み開始高さの設定変更手順 73
PTO 74
PTO クラッチコントロールスイッチ..... 74
PTO 変速レバー..... 75
PTO 軸カバー・PTO 軸キャップ 77

タイヤ・ウエイト

タイヤ 78
タイヤの空気圧 78
輪距の調整 79
前輪 79
後輪 79
前輪輪距 80
後輪輪距 83
前輪切れ角の調整 86
ストッパボルトの調整 86
ストッパ交換要領 88
ウエイト（別売）..... 88
前部ウエイト（オプション）..... 89
後輪ウエイト（オプション）..... 89

安全キャブ装備品の取扱い

ドア・窓の開閉とロック 90
ドア 90
リヤウインド 90
クォータウインド 90
ルームランプ 91
ルームランプ 91
ワイパ 91
フロントワイパ・ウォッシャスイッチ 91
リヤワイパ・ウォッシャスイッチ..... 91
寒冷時のワイパの使用..... 92
作業灯 92
作業灯スイッチ..... 92
作業灯（前）..... 92
作業灯（後）..... 93
サンバイザ 93
サンバイザ..... 93
エアコン 94
空気の流れ..... 94
風向調整..... 94
コントロールパネル..... 96
取扱い操作方法..... 96
ヒータの使用上の注意..... 97
アンテナ 97
アンテナ..... 97
AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの取扱い 98
電源の入／切..... 98
音量調節..... 98
リリースボタン..... 98
音質調整..... 99
重低音の増強..... 99
時計表示への切換え..... 100
時刻合わせ..... 100
左右スピーカの音量バランス調整..... 101
スクリーンセーバーの設定..... 101
ラジオの選択..... 102
受信バンドの選択..... 102
クイック選局（ISR 機能）..... 102
プリセット選局..... 103
メモリ登録（自動選局）..... 103
メモリ登録（手動選局）..... 103
メモリ登録の確認..... 103
自動選局..... 103
手動選局..... 103
CD の挿入と再生 104
CD の取出し 104
演奏の一時停止..... 104
次の曲／前の曲の選択..... 105
早送り／早戻し..... 105
トップ機能..... 105
曲を探す（スキャン演奏）..... 105
曲を繰り返し聴く（リピート演奏）..... 105
ランダムに演奏を聴く（ランダム演奏）.. 105
取扱い上の注意..... 106
お問合わせ..... 106
インプルメントの装着 107
インプルメント用操作ボックスの取付... 107

トラクタの簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について 108
洗車時の注意 108
定期点検箇所一覧表 109
給油（水）一覧表 111

目　次

トラクタの給油（水）..... 111
推奨オイル・グリース一覧..... 112
エンジンオイル・ミッションオイル..... 112
グリース..... 112
ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方..... 113
ボンネットの開閉..... 113
サイドカバーの取り外し..... 113
日常点検..... 114
前日の異常箇所..... 114
トラクタの回りを歩いて..... 114
エンジンオイルの量及び汚れ..... 114
ミッションオイルの量及び汚れ..... 115
冷却水の量..... 115
セパレータの水の排出..... 116
バキュエータバルブの清掃..... 116
ワイヤハーネス，バッテリ（＋）コードの点検・交換..... 117
タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷..... 117
防虫網の清掃..... 118
ブレーキペダルの遊び・点検..... 119
駐車ブレーキの作動点検..... 120
メータ・ランプ類の作動..... 120
燃料の補給..... 121
50 時間ごとの点検・整備..... 121
グリースの注入..... 121
エンジン始動システムの点検..... 123
タイヤ取付けボルトの点検..... 124
クラッチハウジングの水抜き..... 124
パワーステアリングホースの点検..... 124
燃料ホースの点検..... 125
100 時間ごとの点検・整備..... 126
バッテリ電解液の点検..... 126
エアクリーナエレメントの清掃..... 127
ファンベルトの点検・調整..... 128
ブレーキペダルの点検・調整..... 128
200 時間ごとの点検・整備..... 129
エンジンオイルの交換..... 129
ラジエータホースの点検..... 130
オイルクーラホースの点検..... 130
油圧オイルフィルタカートリッジの交換. 131
トーイン調整・タイロッドの点検..... 131
燃料タンクの水抜き..... 132
室内エアフィルタの清掃..... 132
外気フィルタの清掃..... 133
エアコンコンデンサの詰まり..... 134
エアコンベルトの張り..... 134
400 時間ごとの点検・整備..... 135
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換..... 135
燃料フィルタカートリッジの交換..... 135
600 時間ごとの点検・整備..... 136
ミッションオイルの交換..... 136
前車軸ケースオイルの交換..... 136
前部デフケースのオイル交換..... 137
前輪ケース左・右のオイル交換..... 137
前部デフケース前後遊びの調整..... 137
800 時間ごとの点検・整備..... 137
エンジンバルブクリアランスの点検..... 137
１年ごとの点検・整備..... 137
エアクリーナエレメントの交換..... 137
エアコン配管，ホースの点検..... 137
２年ごとの点検・整備..... 138
冷却水の交換..... 138
ラジエータの洗浄..... 139
ラジエータホースの交換..... 139
パワーステアリングホースの交換..... 139
燃料ホースの交換..... 139
傾き自動シリンダホースの交換［M 仕様］ 139
メインシリンダホースの交換..... 139
オイルクーラホースの交換..... 139
デフロックホースの交換..... 139
必要に応じた点検・整備..... 140
燃料の空気抜きのしかた..... 140
ヒューズの交換..... 141
スローブローヒューズの交換..... 141
ヘッドランプの交換..... 142
ランプ一覧..... 143
注油..... 143
ウォッシャ液の補充..... 143
冷媒（ガス）量の点検..... 144

格納

長期格納時の手入れ..... 145

不調と処置

エンジンの不調と処置..... 146
傾き自動・耕深制御・ドラフト・レーザ・AB・倍速・トランスミッションの故障と処置..... 147
AM/FM ラジオ付き CD プレーヤの不調と処置..... 149
エラー表示について..... 149

付表

主要諸元..... 150
トラクタの主要諸元..... 150
走行速度表..... 152
標準付属品..... 153
主な消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう）..... 154
アタッチメント一覧表（純正アタッチメントを使いましょう）..... 156
補助コントロールバルブ一覧表..... 157
検査成績表..... 158

目　次

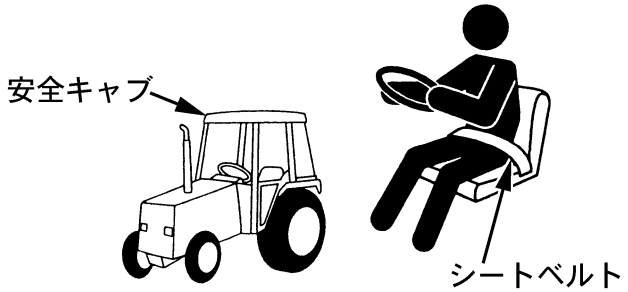
作業ごとの一般的な調整要領

⚠ 安全に作業するために　必ず読んでください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危 険・⚠警 告・⚠注 意・重 要・補 足 としてそのつど取上げています。

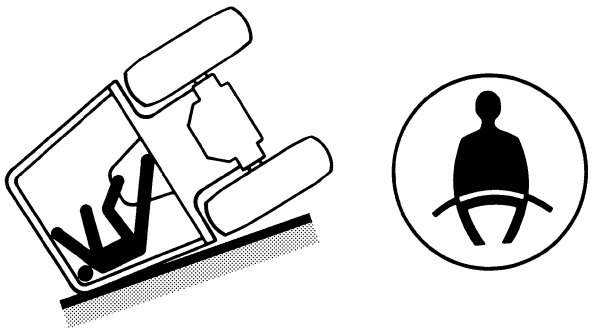
安全キャブについて

安全キャブは，万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。

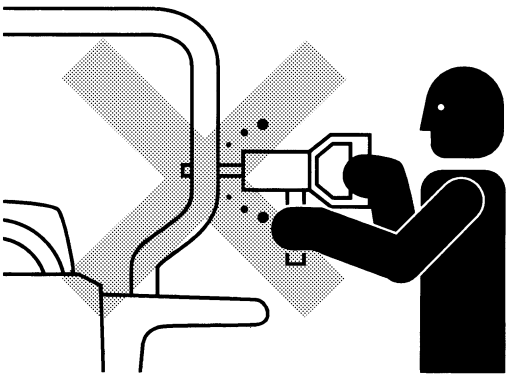


1AGADALAP0010

1. 運転時は安全キャブとシートベルトを常に使用するようにしてください。


1AGALAFAP0500

2. 安全キャブを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。


1AGALAFAP0340

運転前に

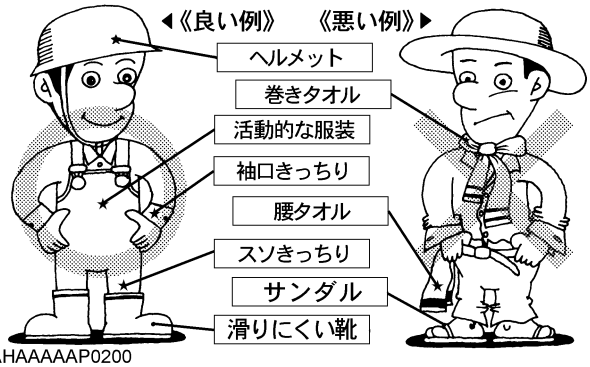
1. トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。
2. トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。
3. 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
4. 飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。



1AGALAFAP0350

5. ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
   回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
   安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。
6. トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。
7. 安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。
   紛失したり損傷した部品は交換してください。
   ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
   又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。（詳細は**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章参照）
8. トラクタは常に清掃しておいてください。
   バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

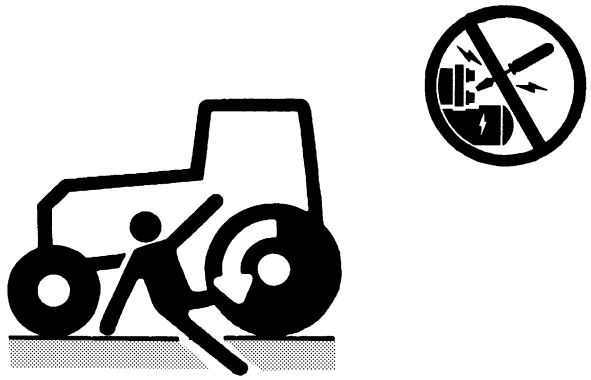
作業時の服装



1AHAAAAAP0200

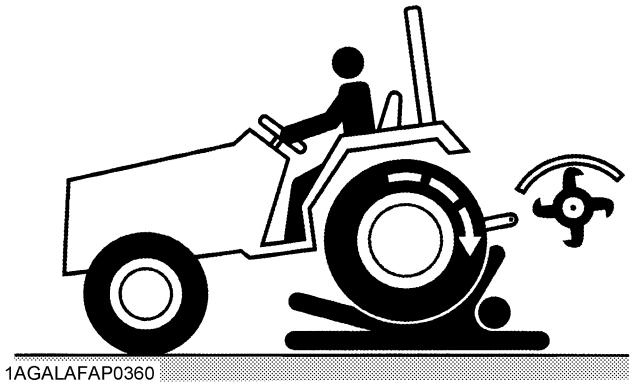
始動時に

1. エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，シャトルレバー・PTO 変速レバーが**［中立］**かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
   PTO クラッチコントロールスイッチも**［切］**にしてください。
2. 地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
   トラクタが突然動き出す恐れがあります。



1AGALAFAP0580

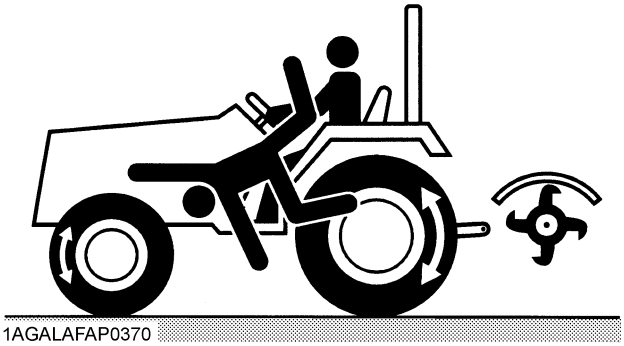
3. トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になる恐れがあります。又，安全キャブに当たる障害物がないかも確認してください。



1AGALAFAP0360

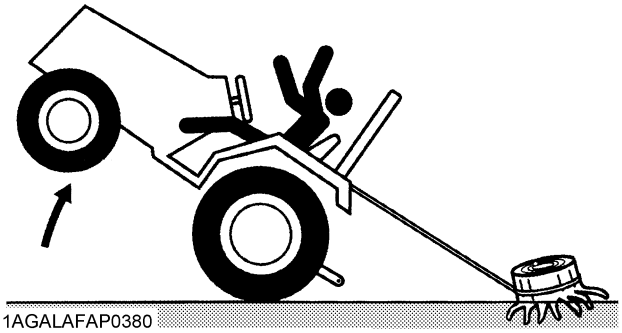
運転時に

1. 子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
   又，必ずシートに座って運転してください。



1AGALAFAP0370

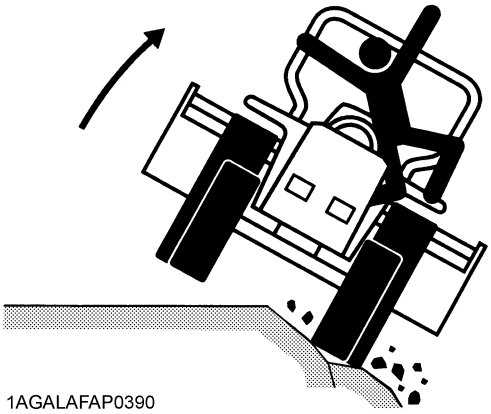
2. けん引作業には，けん引ヒッチ（別売）を用い，絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
トラクタの破損や転覆の原因となります。


1AGALAFAP0380

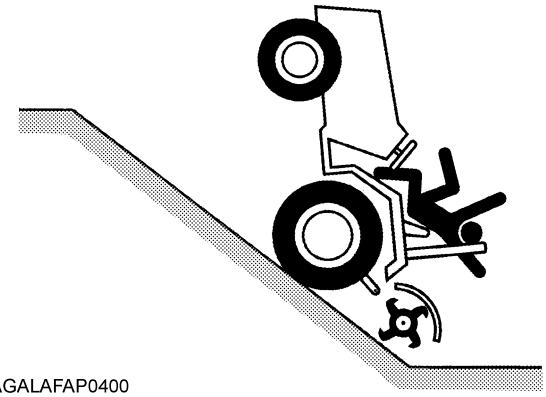
3. 換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒の恐れがあります。


1AGALAFAP0520

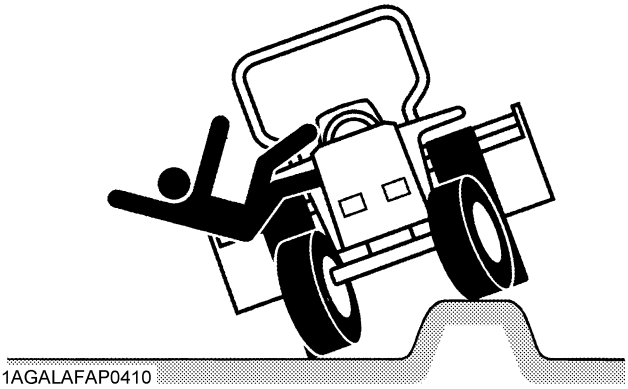
4. 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
また，草の繁ったところや水たまりなどには，隠れて見えない窪地がある場合があり，トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。


1AGALAFAP0390

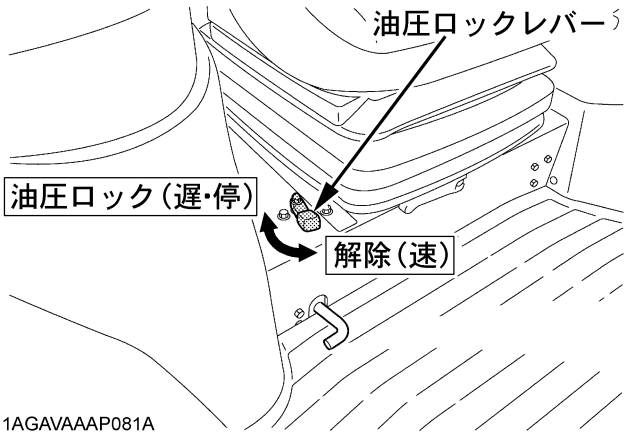
5. 溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では，バックで運転してください。
6. 共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。


1AGALAFAP0400

7. ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず左右のブレーキペダルを連結し，デフロックの解除を確認してください。

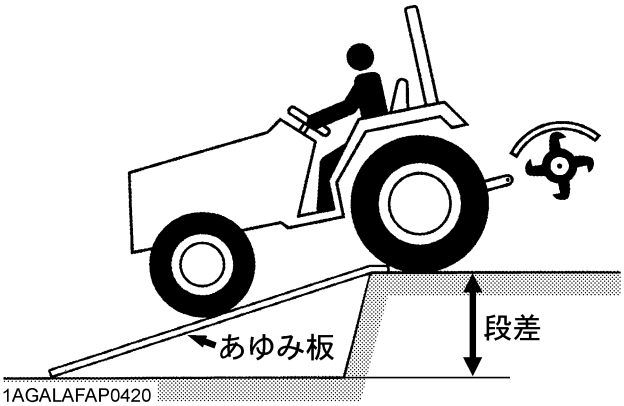

1AGALAFAP0410

8. ほ場外では，油圧ロックレバーで油圧ロック（停止）をして作業機の落下を防止してください。



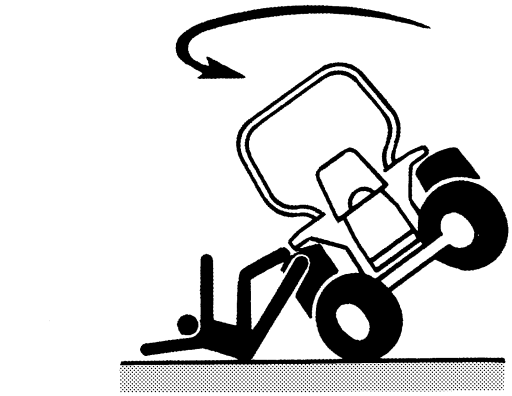
1AGAVAAAP081A

9. ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。
   あゆみ板は段差の４倍以上の長さのものを使用してください。
10. 急な坂道・車両への積込み積降ろし・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。



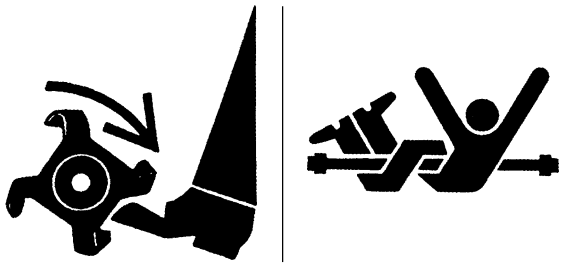
1AGALAFAP0420

11. ほ場以外や高速走行時，倍速ターン及びAB倍速ターンを使用すると，旋回時急に回り事故を引起こす恐れがあります。
   必ず走行モード切換スイッチを**【2WD】**又は**【4WD】**に切換えてください。

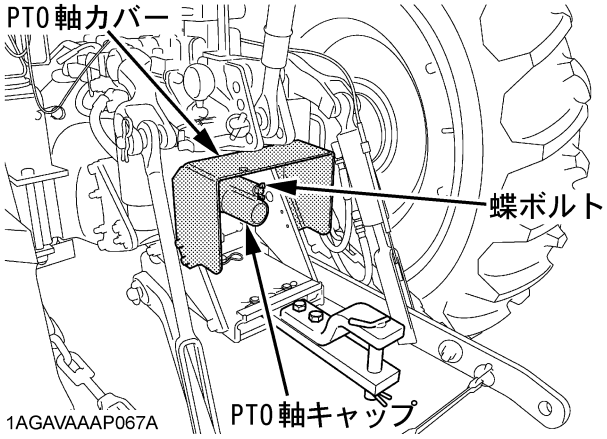

1AGALAFAP0590

作業機使用時に

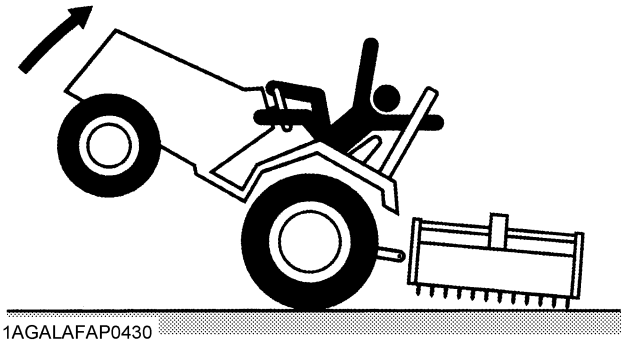
1. 作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。
2. トラクタから降りるときや，ロータリなどPTO作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。


1AGALAFAP0540

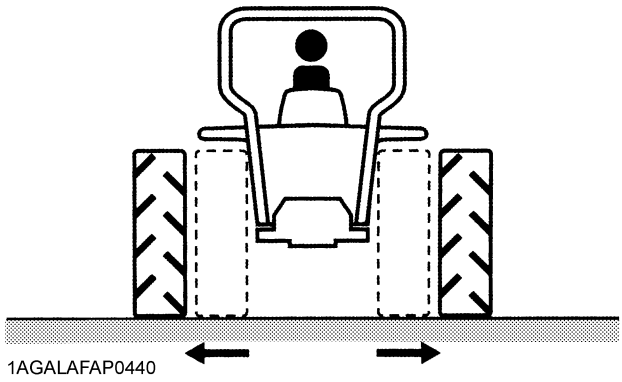
3. PTO を使用しないときは，PTO 軸キャップを装着しておいてください。
4. PTO 軸カバーは常に取付けておいてください。
5. PTO 作業機は，その作業機で定められた PTO 回転以上で使用しないでください。
機械の破損や人身事故の恐れがあります。



6. トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20％以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故の恐れもあります。
7. 作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。
大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
詳細は購入先にご相談ください。

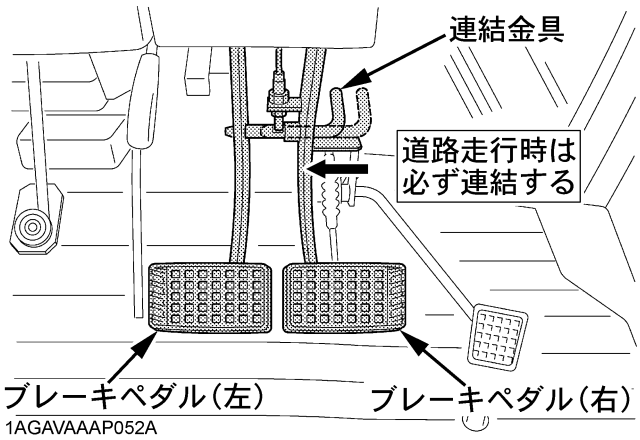


8. 傾斜地作業，フロントローダ作業などでは，安定を良くするために，支障のない範囲で輪距（タイヤ中心間の距離）を大きくしてください。



道路走行時に

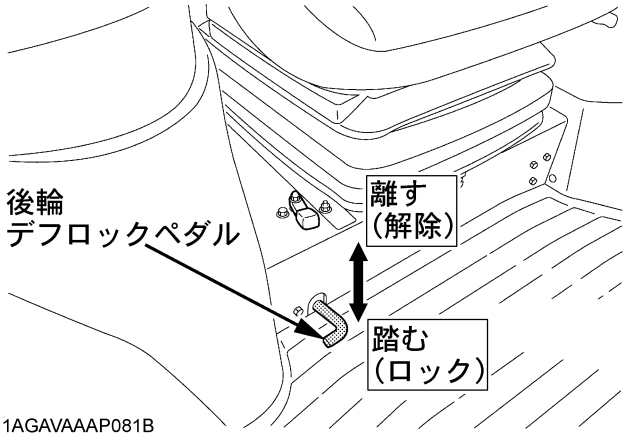
1. 道路走行時は，左右のブレーキペダルを連結してください。
   高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ，転倒や交通事故の恐れがあります。



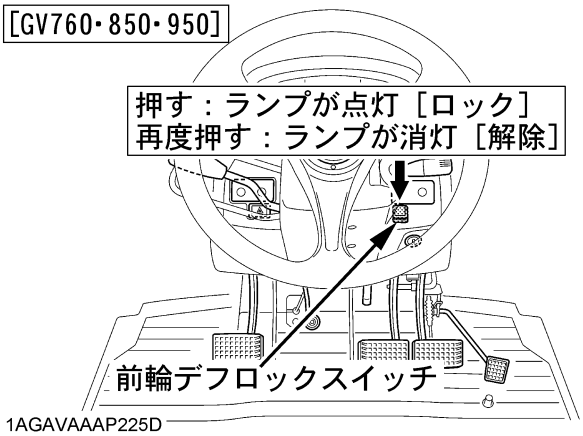
1AGAVAAAP052A


1AGALAFAP0450

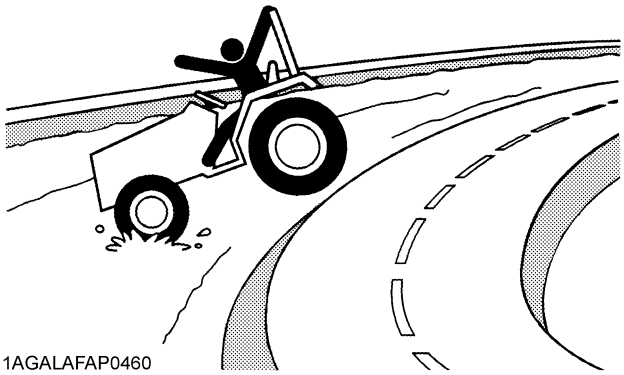
2. 道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
   ハンドル操作が出来なくなります。
3. 旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
   高速で旋回するとトラクタが転倒する恐れがあります。



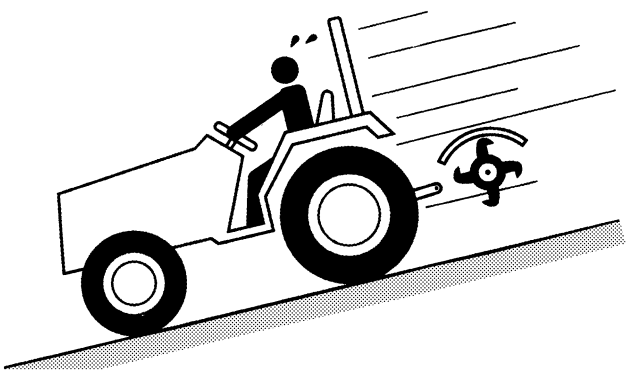
1AGAVAAAP081B



1AGAVAAAP225D

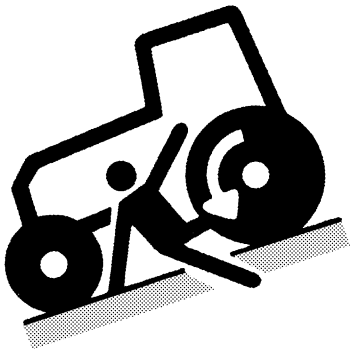

1AGALAFAP0460

4. 坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を**［中立］**にして惰性で走行しないでください。
   操縦ができなくなる恐れがあります。
5. トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。(道路運送車両法の保安基準)
   作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。
6. 交通や安全規則を守ってください。
   運転免許証は，必ず携行してください。


1AGALAFAP0470

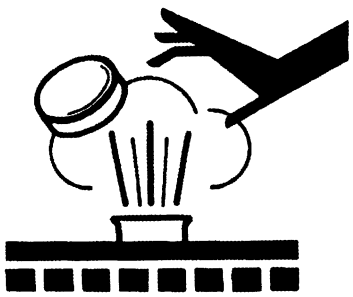
駐車、格納時に

1. 駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，PTO を**［切］**，作業機を**［下げ］**，各変速レバーを**［中立］**，駐車ブレーキを**［掛け］**，エンジンを**［停止］**してキーを抜いてください。
   やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
2. 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
3. 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行なってください。

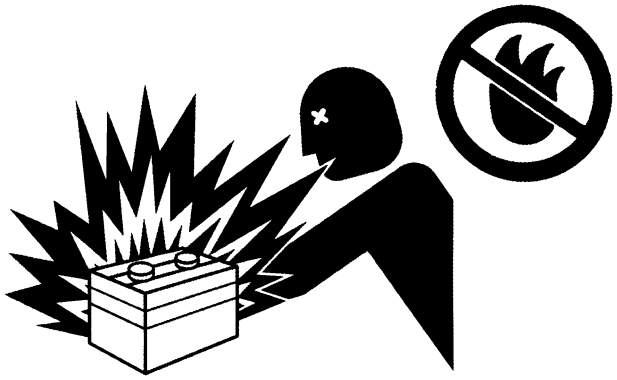

1AGALAFAP0530

点検・給油・整備時に

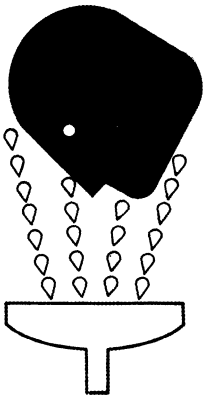
1. 平たんな場所に駐車し，作業機を**［下げ］**，駐車ブレーキを**［掛け］**，各変速レバーを**［中立］**にし，そしてエンジンを停止してください。
2. エンジン・マフラ・ラジエータなどが充分冷えてから点検整備してください。ヤケドの恐れがあります。


1AGALAFAP0550

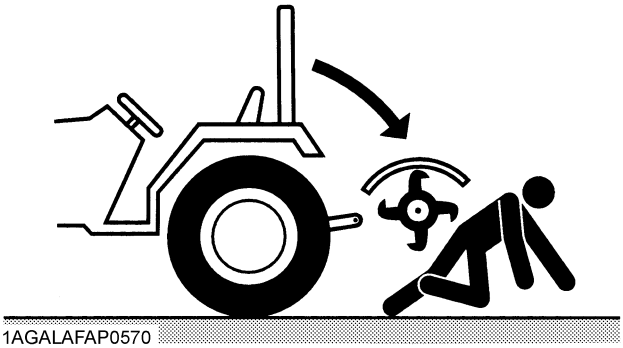
3. 燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
   バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発の恐れがあります。
4. 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
   (**[エンジンの始動と停止]**の章**[バッテリあがりの処置]**を参照)


1AGALAFAP0480

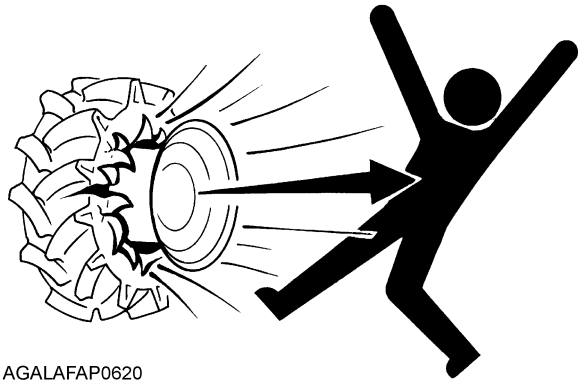
5. バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
   LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
   すぐに UPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下限）の間に補水してください。(補水可能なバッテリ)
6. バッテリを外すときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。
7. バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。


1ARAEABAP0140

8. ３点リンク作業機を上げた状態で点検整備を行なう場合，必ず油圧ロックレバーで作業機が落下しないようにロック（停止）してください。ロック（停止）するとともに適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし，落下防止を行なってください。


1AGALAFAP0570

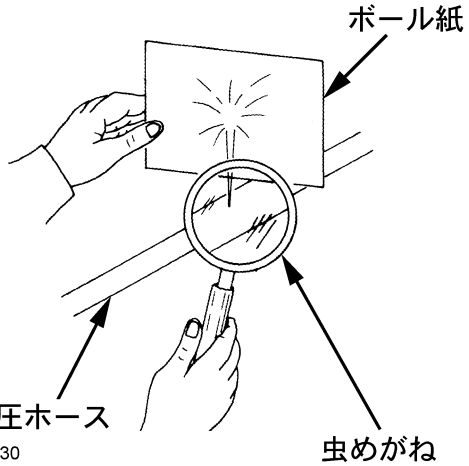
9. タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入過ぎは，タイヤ破裂の恐れがあり死傷事故を引起こす原因になります。
10. タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂の恐れがあります。
11. タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）


1AGALAFAP0620

12. 圧力がかかり噴出した油は，皮膚を貫通する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。


1BAACAAAP0100

13. 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
万一，油が皮膚を貫通したときは，強度のアレルギーを起こす恐れがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。



1AGALAFAP0330

14. 点検・整備時に，後輪だけを地面から浮かせた状態にしてエンジンを始動させないでください。ブレーキを踏むと前後輪を連結状態にする機構になっていますので前輪が回転し，トラクタが動き出す恐れがあります。

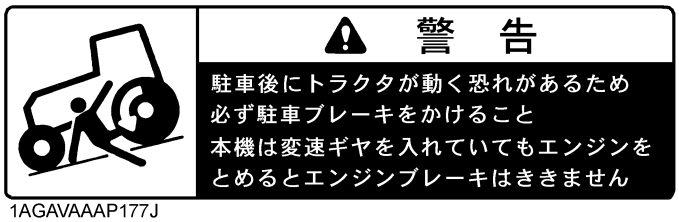
15. 廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。



1BJABAAAP018B

表示ラベルと貼付け位置

①品番　KT018049061



1AGAVAAAP177J

②品番　K3R60398261

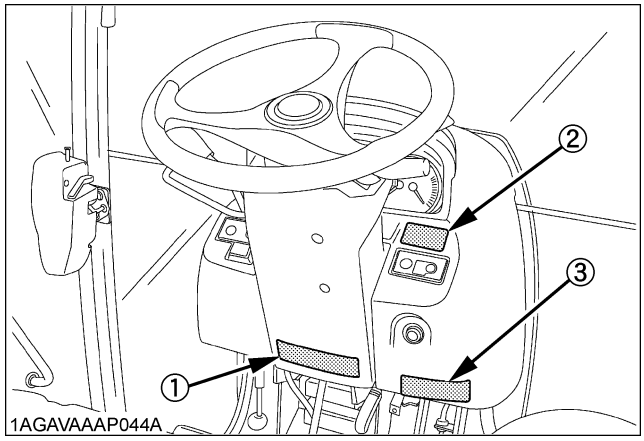


1AGAVAAAP194J

③品番　K3F76098471



1AGAVAAAP170J



1AGAVAAAP044A

①品番　KT106549022

⚠ 注　意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

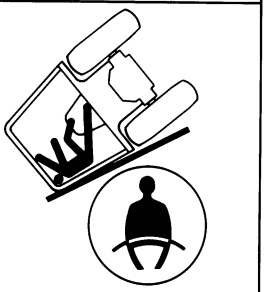
始動時
- ●シートにすわり、ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にすること
- ●前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
- ●運転者以外に人を乗せないこと
- ●排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れかあるので換気の不十分な所で使用しないこと
- ●溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
- ●急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速て運転し、途中で変速しないこと
- ●道路走行時はデフロックを使用しないこと
- ●道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
- ●ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

点検、整備時
- ●エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
- ●３点リンクで作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

⚠ 警　告



転倒、転落による死傷事故軽減のために、運転時は必ずシートベルトを着用すること

1AGALBAAP130J

②品番　K3R60098241

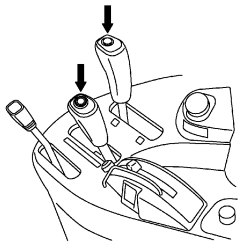
⚠ 警　告

点検・整備時に、後輪だけを地面から浮かせた状態にしてエンジンを始動させないで下さい。
　ブレーキを踏むと前後輪を連結状態にする機構になっている為、前輪が回転しトラクタが動き出す恐れがあります。

1AGAVAAAP173J

③品番　K3R60098321

⚠ 注　意



クラッチボタンを押している間はクラッチが切れた状態になっています。
クラッチボタンを戻すとトラクタが動き出します。

1AGAVAAAP192J

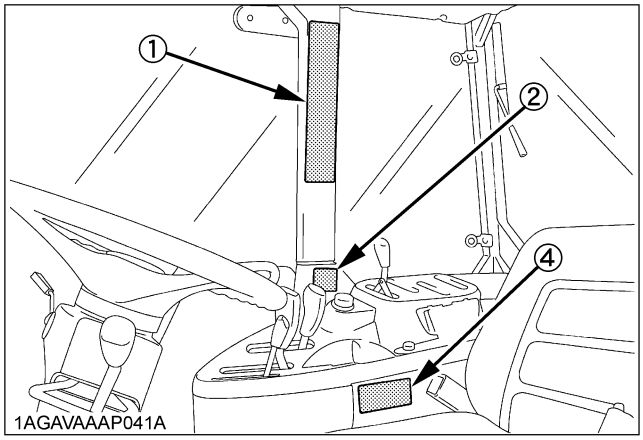
④品番　K3R60098251

⚠ 注　意

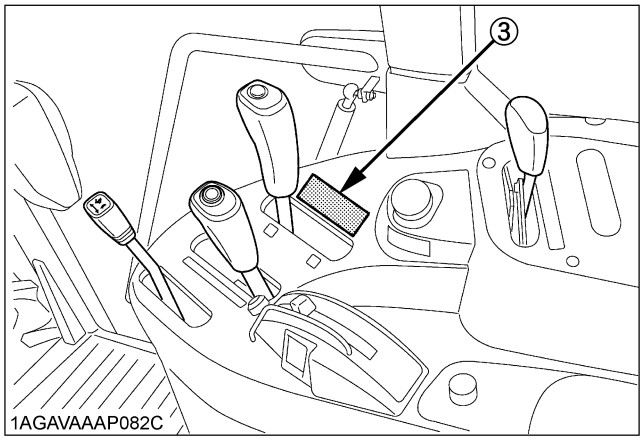
低温始動時の発進遅れ
・異常ではないので変速を入れたまま降りないこと
　遅れて動き出し危険です

傾斜面での変速操作
・急斜面で変速操作を行うと、滑走する恐れがあるので、低速で走行し、途中変速しないこと

1AGAVAAAP174J

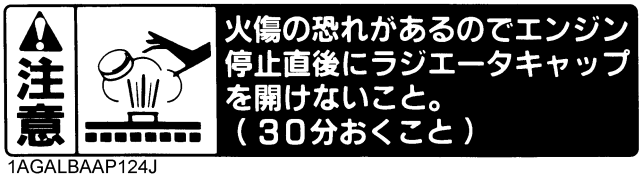


1AGAVAAAP041A



1AGAVAAAP082C

① 品番　KT106049541



1AGALBAAP124J

② 品番　K3P30049581



1AGADALAP248J

③ 品番　KT106049551

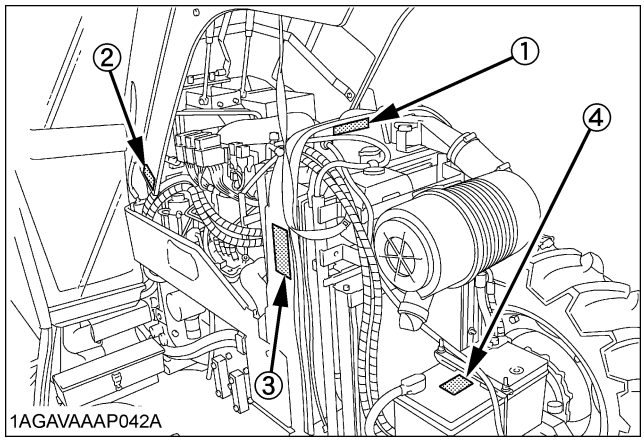


1AGALBAAP122J

④ 品番　K3R60098921



1AGAVAAAP168J



1AGAVAAAP042A

① 品番　KT106049551



1AGALBAAP122J

② 品番　K3P30049581



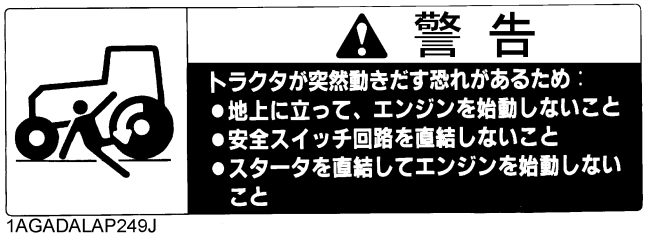
1AGADALAP248J

③ 品番　K3F74098282

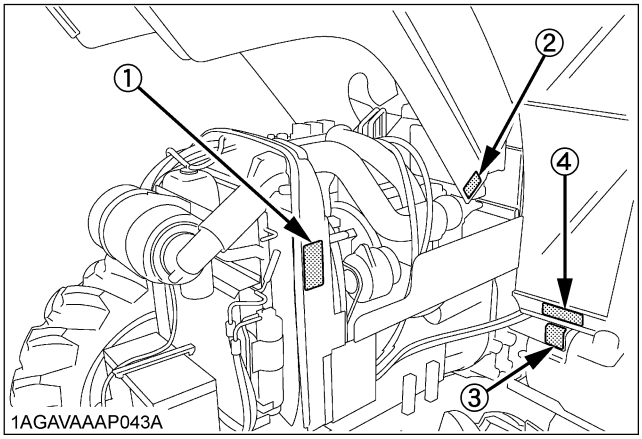


1AGADALAP246J

④ 品番　KT018049652

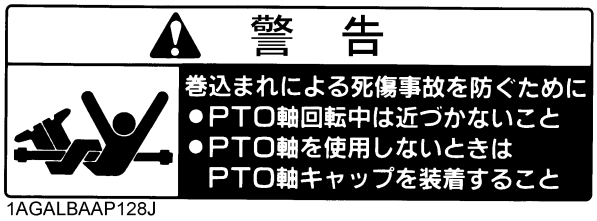


1AGADALAP249J



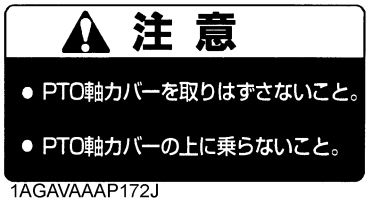
1AGAVAAAP043A

① 品番　KT106049591



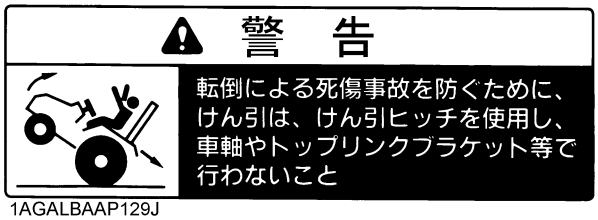
1AGALBAAP128J

② 品番　K6A10047721



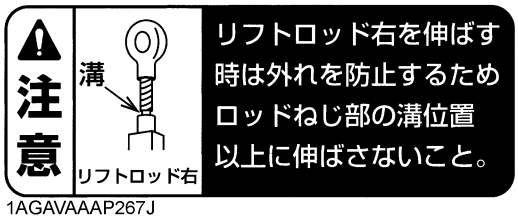
1AGAVAAAP172J

③ 品番　KT106049041

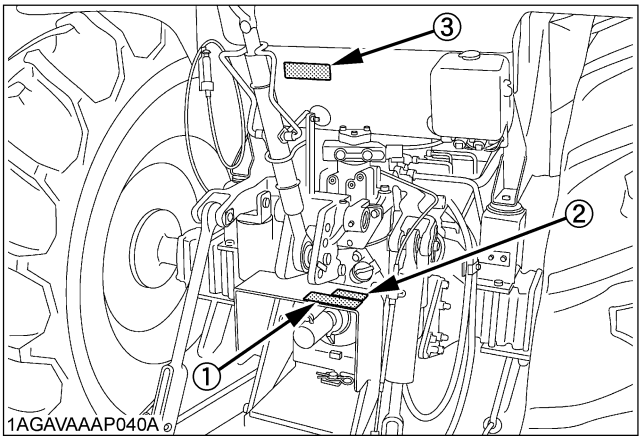


1AGALBAAP129J

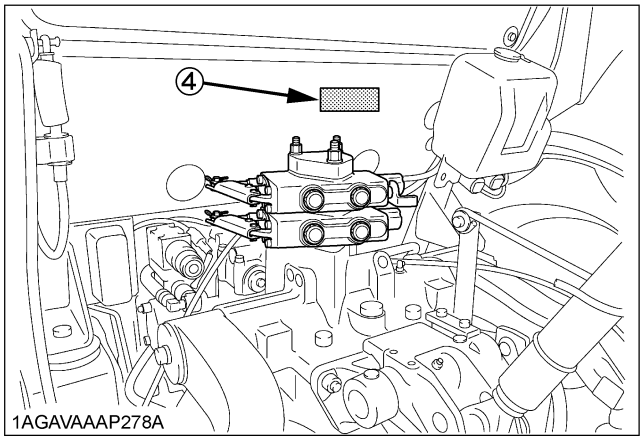
④ 品番　K3R90098561 **[M仕様以外]**



1AGAVAAAP267J



1AGAVAAAP040A



1AGAVAAAP278A

表示ラベルの手入れ

1. ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
   もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
2. 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
3. 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
4. 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
5. ラベルが貼付けられている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

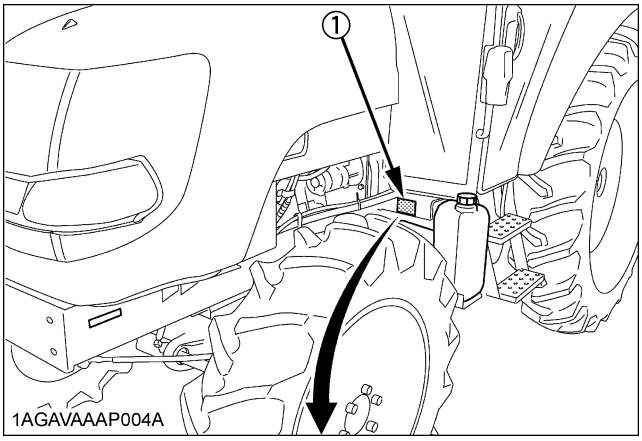
■ ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**【ご相談窓口】**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している
1. 型式名
2. 製造番号

を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

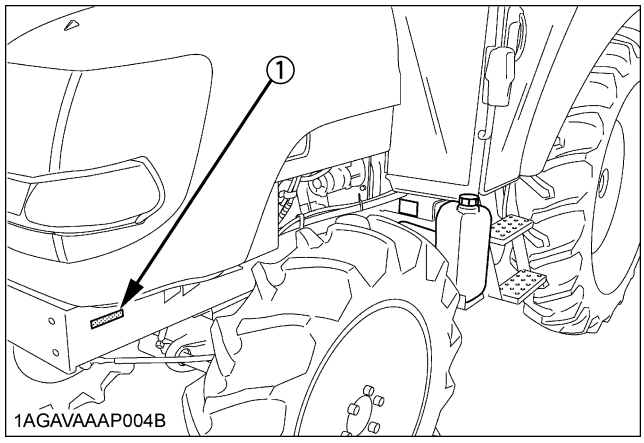


農業機械の種類	農用トラクター(乗用型)
型　式　名	
区　　分	
製 造 番 号	
製　造　元	
商　品　名	

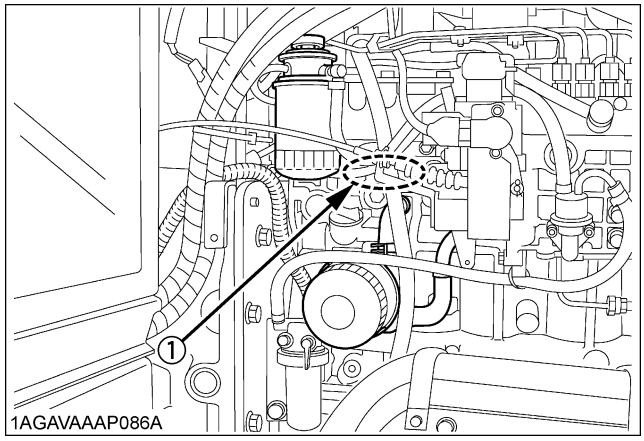
三菱農機株式会社

1AGAVAAAP1880

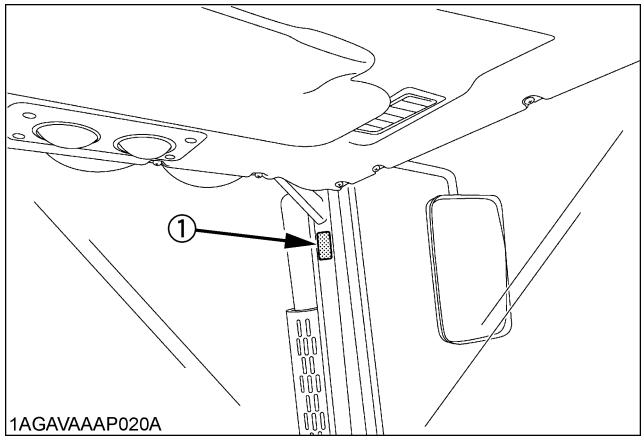
①銘板



①車台番号



①エンジン型式／エンジン番号



①キャブ銘板

■ 補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後 12 年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

サービスと保証について

農 機 型 式 名	型式検査（国検）合格番号
クボタ IC75MZ （安全キャブ）	206015
クボタ IC95MZ （安全キャブ）	207018

型式名	農機型式名	安全鑑定適合番号	小型特殊自動車車両型式名	型式認定番号
GV500	クボタ MZ50	31071	クボタ SB-MZD	農 3106 改造型
GV550	クボタ MZ55	31070	クボタ SB-MZD	農 3106 改造型
GV600	クボタ MZ60	31069	クボタ SB-MZD	農 3106
GV650	クボタ MZ65	31068	クボタ SB-MZF	農 3107
GV700	クボタ MZ70	31067	クボタ SB-MZF	農 3107 改造型
GV750	クボタ MZ75	31066	クボタ SB-MZF	農 3107
GV760	クボタ SMZ76	32063	クボタ SB-MZG	農 3128
GV850	クボタ SMZ85	32062	クボタ SB-MZG	農 3128 改造型
GV950	クボタ SMZ95	32061	クボタ SB-MZG	農 3128

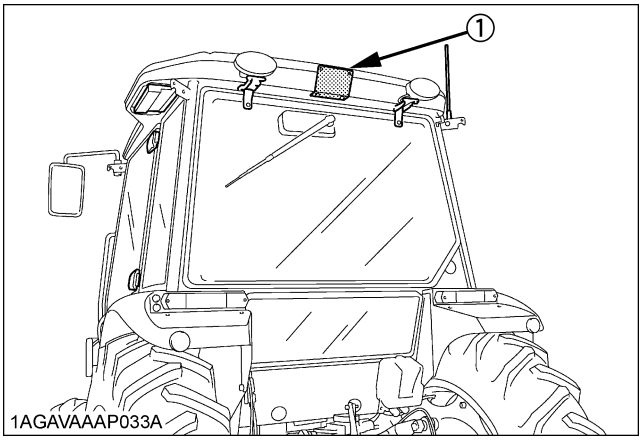
小型特殊自動車としての取扱い

このトラクタは，道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■ 小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得したことを市町村役所に届けて，標識（ナンバープレート）の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により，多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

1. 小型特殊自動車を購入したときは，販売証明書など（購入先で発行）に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバープレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバープレート）は，車体の取付け位置に取付けてください。



①標識（ナンバープレート）取付け位置

■運転免許

公道を走行する場合は，大型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

重　要

＊ このトラクタは道路運送車両法上の小型特殊自動車に該当しますが，**［道路交通法］**では，大型特殊自動車に該当します。従って公道を走行する場合は，**［大型特殊自動車の運転免許証］**が必要です。

■ 損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

重　要

＊ エンジンで封印されている所はさわらないでください。（封印が外されたと認められる場合は，一切の保証は致しません。）

補　足

＊ インプルメントやアタッチメントを装着した状態では**［道路運送車両法の保安基準］**を満足しませんので，道路走行することはできません。
＊ 作業灯は**［道路運送車両の保安基準］**第 42 条（灯火の色等の制限）において，**［走行中に使用しない灯火］**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

小型特殊自動車としての取扱い

■ 輪距

公道走行は，必ず指定の輪距で走行してください。指定輪距は下表のとおりです。この輪距どおりでない場合は**【道路運送車両法の保安基準】**違反になり，道路を走行することができません。

◆前後輪タイヤ組合わせ表

型　式		前輪		後輪		[GV500・550・600] (標準は前輪固定)
		タイヤサイズ	輪距 (mm)	タイヤサイズ	輪距 (mm)	
GV500	A	8-18-4PR	1300	13.6-28-6PR	1220	標準　：ハイラグタイヤ A　：ローラグタイヤ RC　：ローラグ大径タイヤ （前輪可変） W　：ハイラグ大径タイヤ
	RC	8.3-20-4PR	1320	12.4-32-6PR		
	—	8-18-4PR	1300	13.6-28H-4PR		
	W	9.5-18-4PR	1320	14.9-28H-6PR		
GV550	A	8.3-20-4PR	1320	12.4-32-6PR	1220	
	RC	8.3-20-4PR		12.4-32-6PR		
	—	8.3-20-4PR		12.4-32H-4PR		
	W	9.5-18-4PR		14.9-28H-6PR		
GV600	A	8.3-20-4PR	1320	12.4-32-6PR	1220	
	RC	8.3-20-4PR		12.4-32-6PR		
	—	8.3-20-4PR		12.4-32H-4PR		
	W	9.5-18-4PR		14.9-28H-6PR		
GV650	A	9.5-22-6PR	1320	12.4-36-6PR	1320	[GV650・700・750] (全て前輪可変)
	K	9.5-24-6PR	1300	13.9-36-6PR		
	LA	9.5-24-6PR		16.9-30-6PR		標準　：ハイラグタイヤ A　：ローラグタイヤ K,LA,KK　：ローラグ大径タイヤ L　：ハイラグ大径タイヤ R　：ラジアルタイヤ
	—	9.5-22-6PR	1320	12.4-36H-6PR		
	L	9.5-24-6PR	1300	16.9-30H-6PR		
	R	★ 9.5R24		★ 13.6R36		
GV700 GV750	A	9.5-22-6PR	1320	12.4-36-6PR	1320	
	K	9.5-24-6PR	1300	13.9-36-6PR		
	LA	9.5-24-6PR		16.9-30-6PR		
	KK	9.5-24-6PR		12.4-38-6PR		
	—	9.5-22-6PR	1320	12.4-36H-6PR		
	L	9.5-24-6PR	1300	16.9-30H-6PR		
	R	★ 9.5R24		★ 13.6R36		

表中のタイヤは標準出荷を表記しています。
★印はラジアルタイヤを示します。

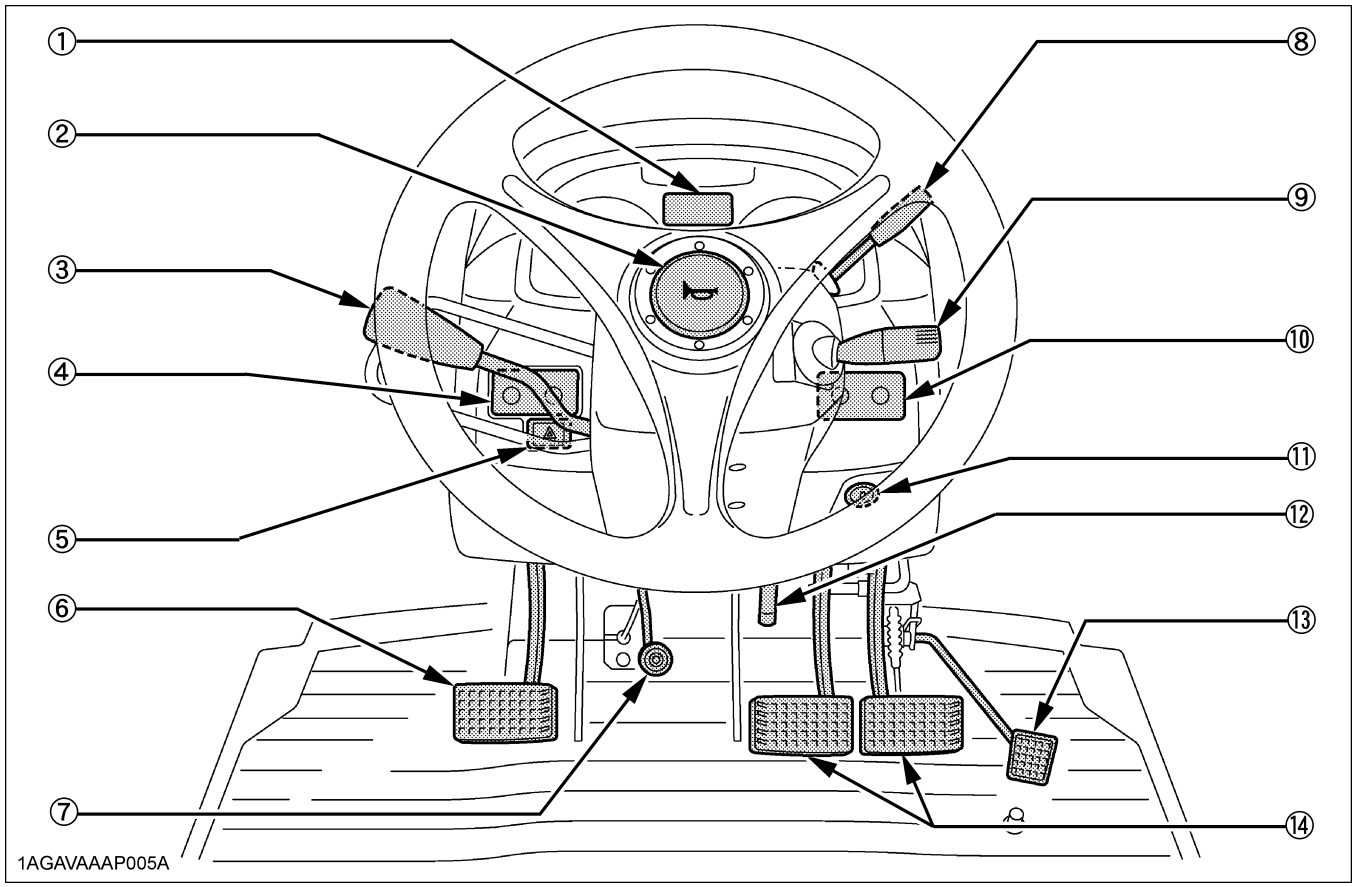
型　式		前輪		後輪	
		タイヤサイズ	輪距（mm）	タイヤサイズ	輪距（mm）
GV760	A	9.5-24-6PR	1400	13.9-36-6PR	1400
	RC	9.5-24-6PR		12.4-38-6PR	1440
	WA	9.5-24-6PR		16.9-30-6PR	1400
	LA	11.2-20-6PR		16.9-30-6PR	
	R	★ 9.5R24		★ 13.6R36	
	WR	★ 9.5R24		★ 16.9R30	
GV760W	A	9.5-24-6PR	1520	13.9-36-6PR	1500
	RC	9.5-24-6PR		12.4-38-6PR	
	WA	9.5-24-6PR		16.9-30-6PR	
	LA	11.2-20-6PR		16.9-30-6PR	
	H	8.3-24-6PR		12.4-36H-6PR	
	LH	11.2-24-6PR		13.6-38H-6PR	
	WH	9.5-24-6PR		16.9-30H-6PR	
	R	★ 9.5R24		★ 13.6R36	
	WR	★ 9.5R24		★ 16.9R30	
GV850 GV950	A	9.5-24-6PR	1400	13.9-36-6PR	1400
	RC	9.5-24-6PR		12.4-38-6PR	1440
	LA	11.2-24-6PR		16.9-34-6PR	1380
	WRC	11.2-24-6PR		13.6-38-6PR	1440
	LWA	11.2-24-6PR		18.4-30-6PR	1420
	LH	11.2-24-6PR		13.6-38H-6PR	1400
	R	★ 11.2R24		★ 13.6R38	
	WR	★ 11.2R24		★ 16.9R34	1380
GV850W GV950W	A	9.5-24-6PR	1520	13.9-36-6PR	1500
	RC	9.5-24-6PR		12.4-38-6PR	
	LA	11.2-24-6PR		16.9-34-6PR	1510
	WRC	11.2-24-6PR		13.6-38-6PR	1500
	LWA	11.2-24-6PR		18.4-30-6PR	1550
	LWB	11.2-24-6PR		18.4-30-6PR	1500
	LH	11.2-24-6PR		13.6-38H-6PR	
	R	★ 11.2R24		★ 13.6R38	
	WR	★ 11.2R24		★ 16.9R34	1510

A　：ローラグタイヤ
RC　：ローラグダブルブラケット
WA　：ローラグ幅広タイヤ
LA　：ローラグ大径タイヤ
WRC　：幅広ローラグ
　ダブルブラケット
LWA　：ローラグ幅広大径タイヤ
　（鋳物ディスク）
LWB　：ローラグ幅広大径タイヤ
　（板金ディスク）
H　：ハイラグタイヤ
LH　：ハイラグ大径タイヤ
WH　：ハイラグ幅広タイヤ
R　：ラジアルタイヤ
WR　：ラジアル幅広タイヤ

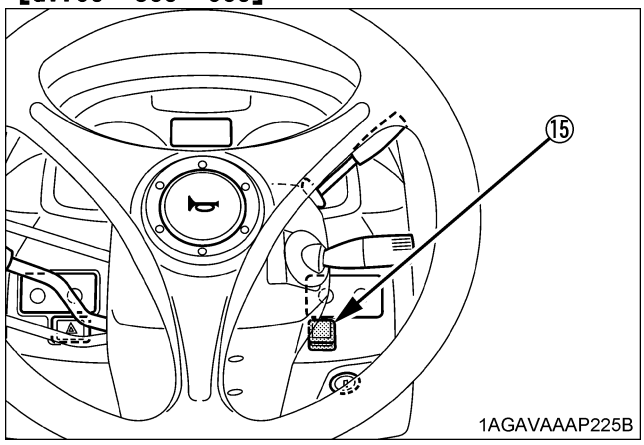
表中のタイヤは標準出荷を表記しています。
★印はラジアルタイヤを示します。

運転に必要な各部の名称

各装置の正しい名称と働きを理解してください。もし不明な点があれば，その名称に記してある参照ページをご覧ください。



[GV760・850・950]

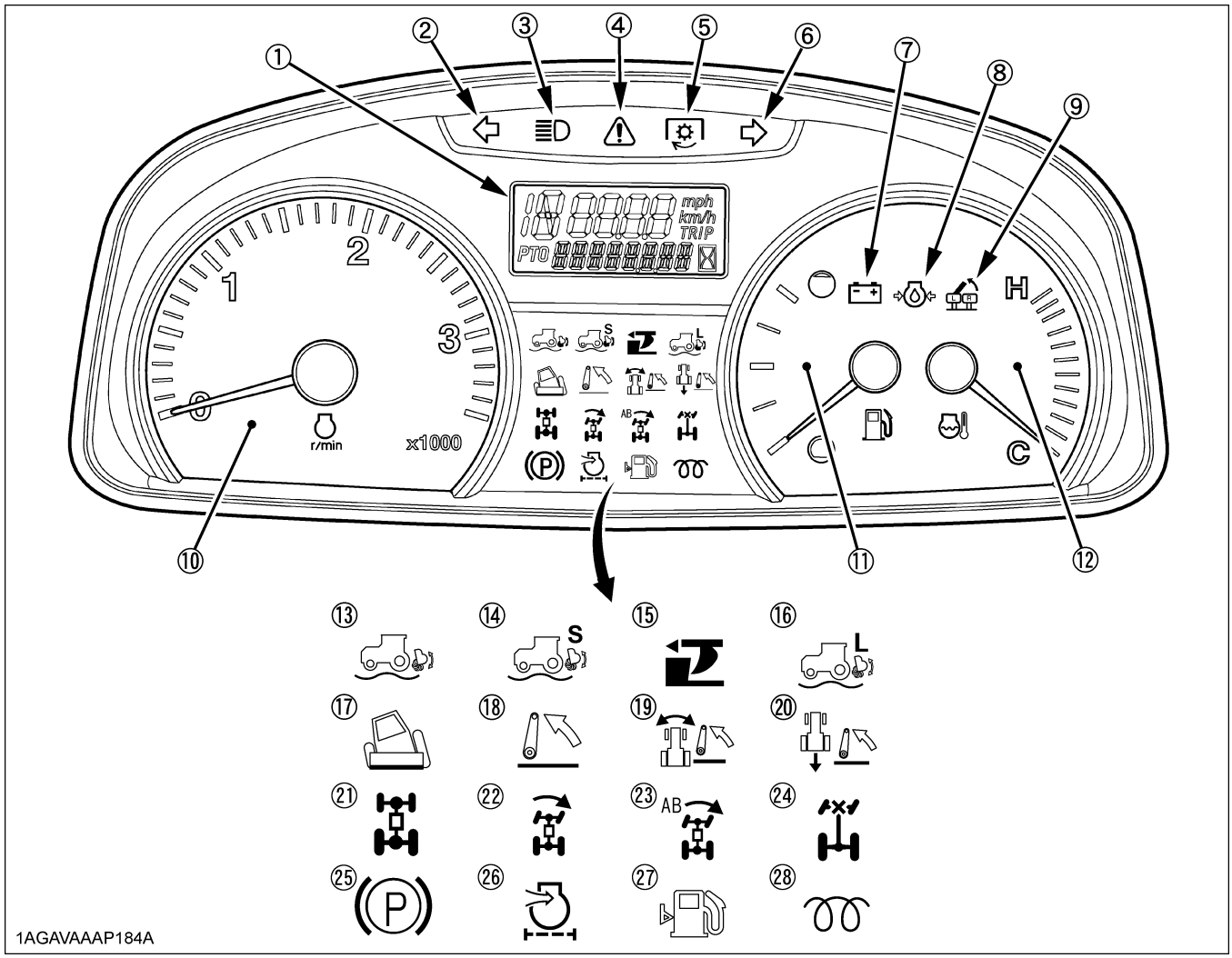


参照ページ

① 電子メータ…… 35
② ホーンボタン…… 24
③ シャトルレバー…… 29
④ メータ表示切替スイッチ…… 35
⑤ ハザードスイッチ…… 24
⑥ クラッチペダル…… 26
⑦ チルトペダル…… 23
⑧ クイックアップレバー…… 52
⑨ ヘッドライトスイッチ
ウインカスイッチ…… 23
⑩ 走行モード切換スイッチ…… 30
⑪ キースイッチ…… 15
⑫ 駐車ブレーキレバー…… 14, 34
⑬ アクセルペダル…… 32
⑭ ブレーキペダル…… 25
⑮ 前輪デフロックスイッチ
[GV760・850・950] …… 41

■ 電子メータ

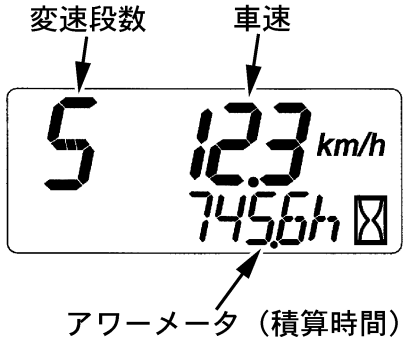
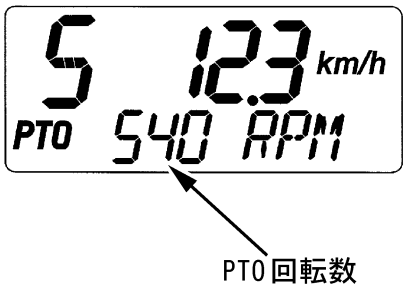
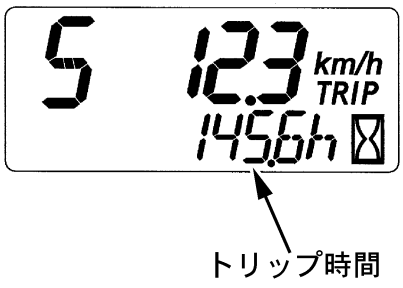
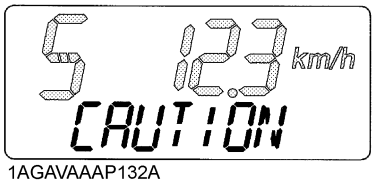
電子メータは，トラクタの運転に必要な各種情報を的確なタイミングでオペレータに提供するとともに，誤操作時の操作指示，各種警報や万一故障した場合にも故障箇所や緊急使用時の取扱いなどを，メッセージとグラフィックで表示しますので，表示に従って正しく取扱ってください。なお，次表のメッセージ以外が表示された場合は，巻末の**［不調と処置］**の項を参照してください。

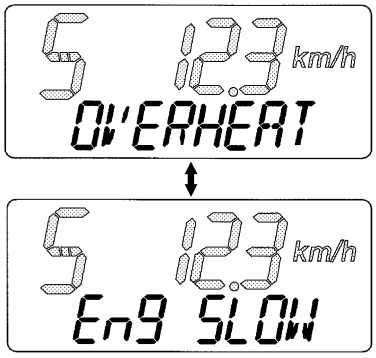
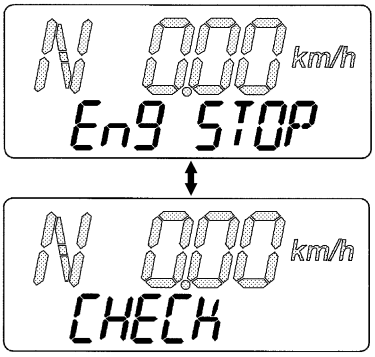
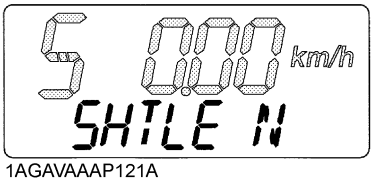
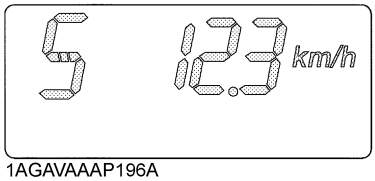
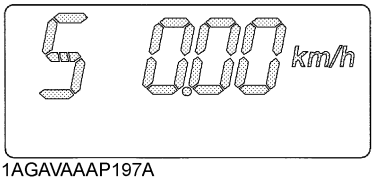


1AGAVAAAP184A

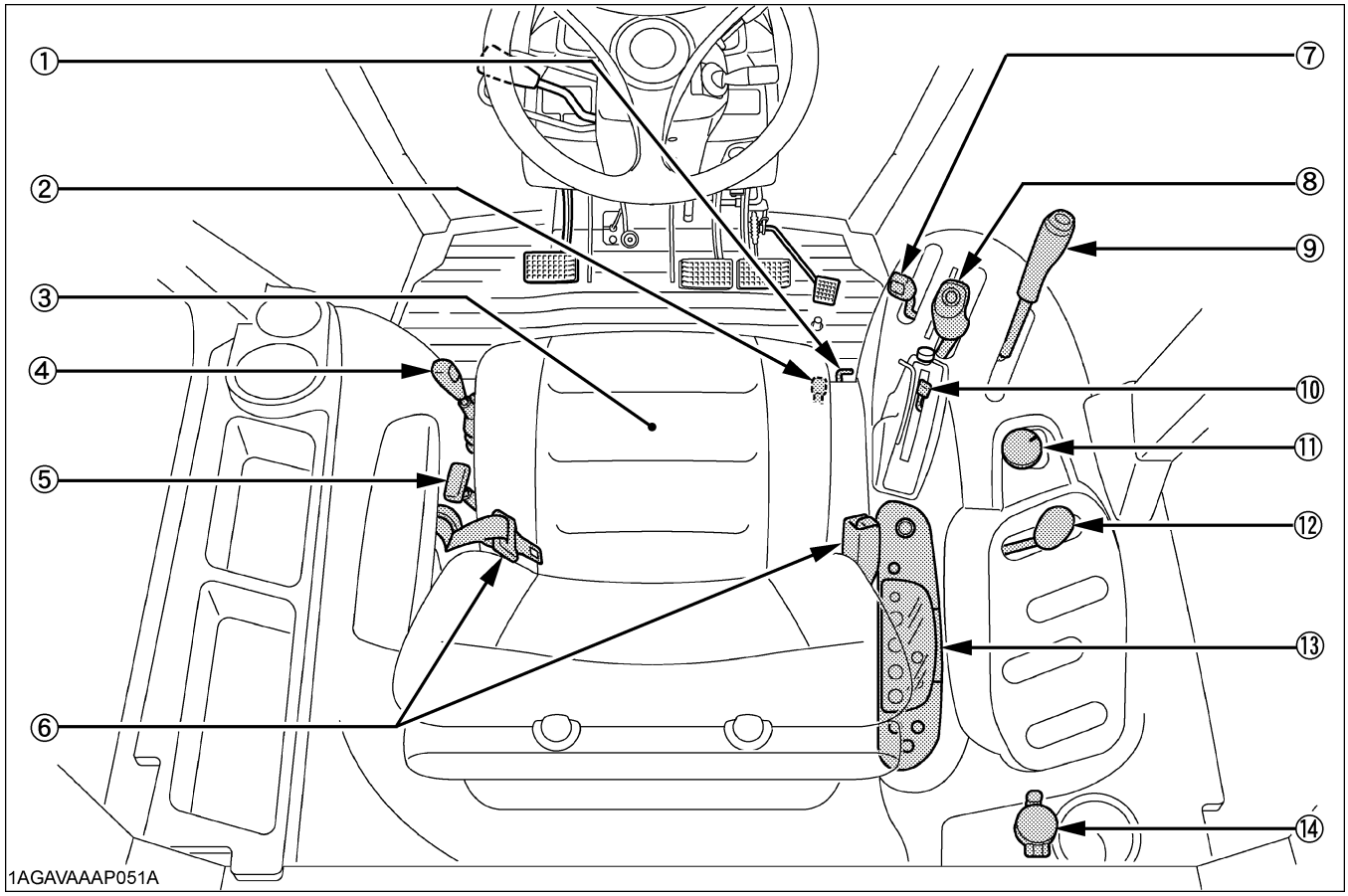
	参照ページ
① 液晶表示部（メッセージ）……	35
② ウインカパイロットランプ（左）…	23
③ ハイビームランプ……	23
④ 警告ランプ……	25,38
⑤ PTOランプ ……	74
⑥ ウインカパイロットランプ（右）…	23
⑦ バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）……	38
⑧ エンジンオイル油圧警告灯……	38
⑨ ブレーキ連結解除警告ランプ……	25,38
⑩ エンジン回転計……	40
⑪ 燃料計……	39
⑫ 水温計……	40
⑬ 耕深制御耕うんランプ……	49
⑭ Sモードランプ ……	49
⑮ ドラフトランプ……	49
⑯ レーザランプ……	49
⑰ 傾き自動ランプ……	58
⑱ クイックアップランプ……	52
⑲ 旋回アップ(オートアップ)ランプ…	54
⑳ バックアップランプ……	55
㉑ 4WD(4輪駆動)ランプ ……	30
㉒ 倍速ターンランプ……	30
㉓ ABランプ……	30
㉔ 前輪デフロックランプ **［GV760・850・950］**……	41
㉕ 駐車ブレーキ警告灯……	14,38
㉖ エアクリーナ目詰まり警告灯……	38
㉗ 燃料残量警告灯……	38
㉘ エンジン予熱ランプ……	16

◆ 液晶表示

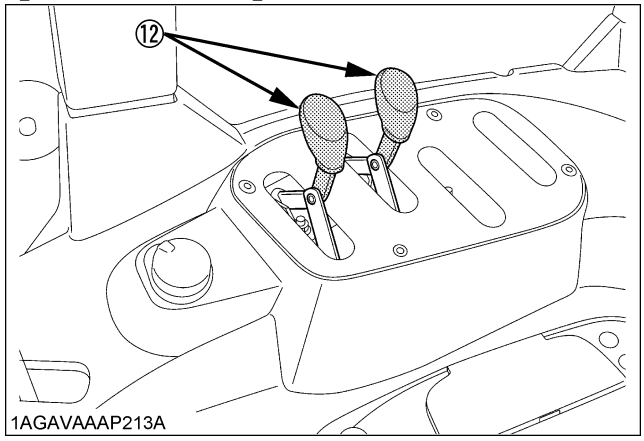
No.	メッセージ	内　　容	参　照 ページ
1	(アワーメータモード)  1AGAVAAAP129A	メータ表示部は，メータ表示切替スイッチを押すごとにNo.1 ～ 3 の 3 種類のモードに切換えることができます。 作業に応じ選択してください。	35
2	(PTO 回転モード)  1AGAVAAAP130A		
3	(トリップ時間モード)  1AGAVAAAP131A		
4	 1AGAVAAAP132A	ブレーキ連結金具を外したまま，車速が 10km/h を超えるとブザーが 1 回鳴ります。 同時にメータパネル内の⚠警告ランプ(赤色)が点灯し，左記メッセージも表示されます。	25,38

No.	メッセージ	内　　容	参　照 ページ
5	 1AGAVAAAP133A	冷却水がオーバヒートに近づくと，メータパネル内の⚠警告ランプ（赤色）が点灯と同時に左記メッセージが交互に表示されます。 (作業を中断しエンジンを低回転で回し続けてください)	40
	 1AGAVAAAP135A	冷却水温度が下がると左記メッセージに変わります。エンジンを停止し適切な処置を行なってください。 (詳細は**［運転中の作動確認］**の**［水温計］**の項を参照)	
6	 1AGAVAAAP121A	変速エラーが生じた場合クラッチが切れ，警告ブザーが鳴ります。 左記メッセージに従いシャトルレバーを**［中立］(N)**に戻すと解除されます。	27
7	 1AGAVAAAP196A	車速 11km/h 以上の状態で，シャトルレバーを**［前進］(F)・［後進］(R)**の切換えを行なうと，自動的にクラッチが切れ，警告ブザーが鳴ります。 シャトルレバーを**［前進］(F)**又は**［後進］(R)**に戻すと，ブザーが止まりクラッチもつながります。	29
8	 1AGAVAAAP197A	駐車ブレーキを掛けたまま発進しようとする。又は，走行中に駐車ブレーキを掛けようとすると警告ブザーが鳴ります。 1. 駐車ブレーキを解除する。 2. シャトルレバーを**［中立］(N)**に戻す。 3. 主変速レバーを**［中立］(N)**に戻す。 のいずれかの操作によりブザーが止まります。	33

運転に必要な各部の名称

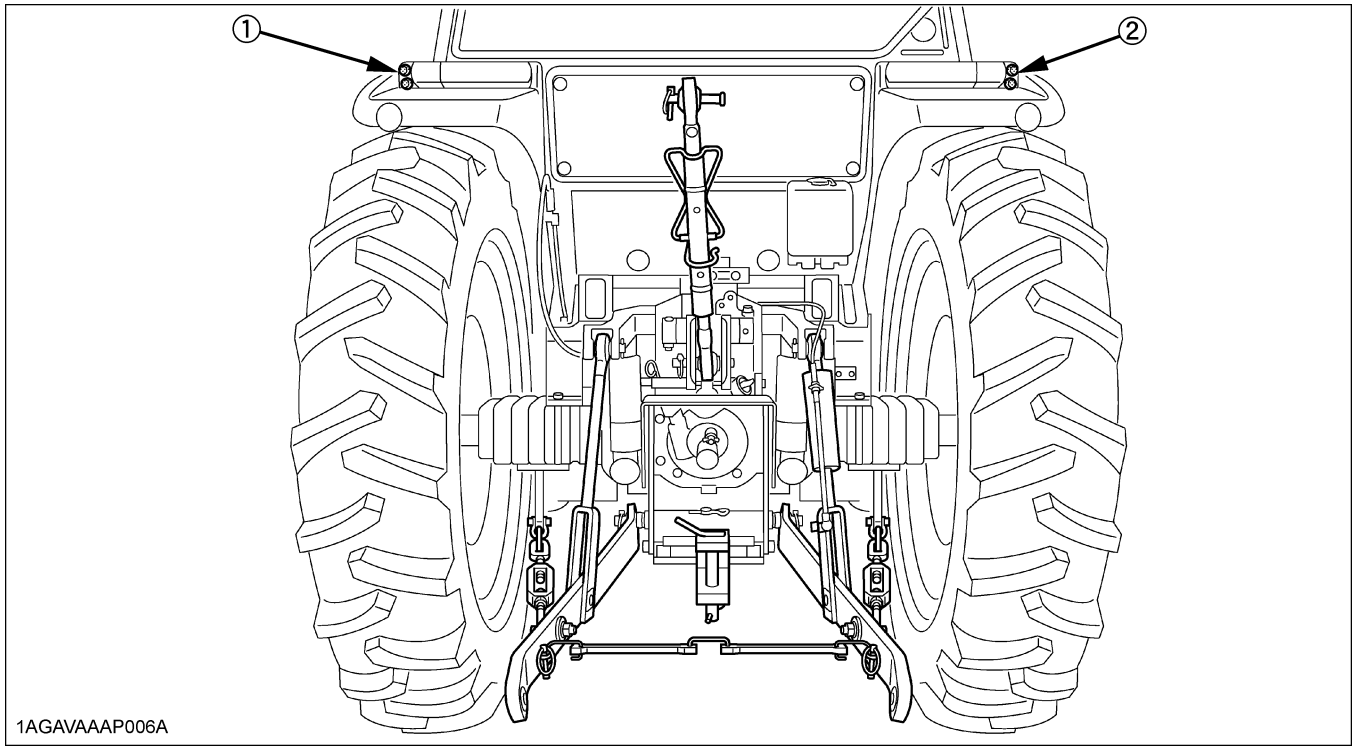


[GV760・850・950]

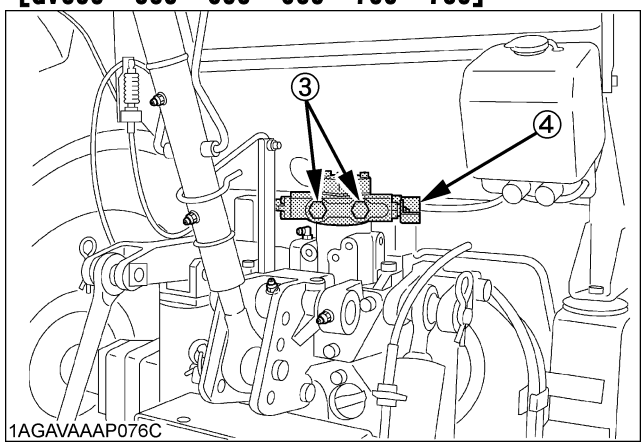


参照ページ

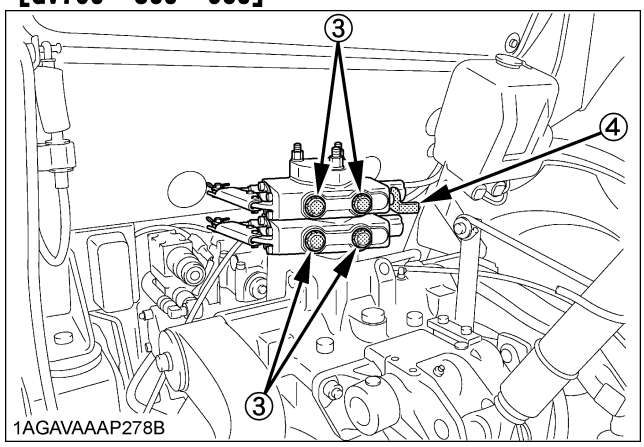
① 後輪デフロックペダル…… 41
② 油圧ロックレバー…… 56
③ シート…… 22
④ PTO 変速レバー …… 75
⑤ クリープレバー…… 28
⑥ シートベルト…… 22
⑦ アクセルレバー…… 32
⑧ 主変速レバー…… 27
⑨ 副変速レバー…… 28
⑩ ポジションレバー…… 50
⑪ PTO クラッチコントロールスイッチ … 74
⑫ 油圧補助コントロールレバー…… 63
⑬ 油圧操作パネル…… 57
⑭ 外部電源取出しソケット…… 45



[GV500・550・600・650・700・750]



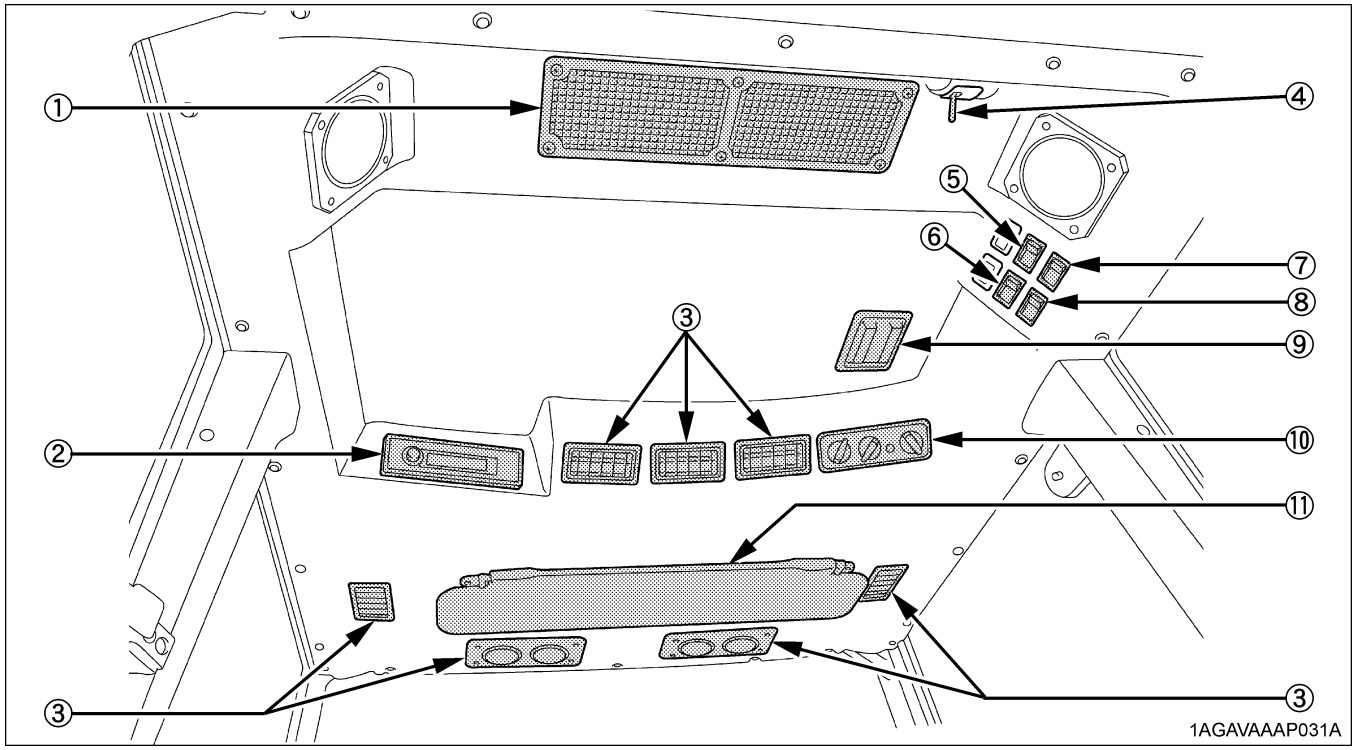
[GV760・850・950]



参照ページ

① 三点リンク外部操作スイッチ…… 69
② 傾き手動外部操作スイッチ
[M 仕様] …… 69
③ 油圧取出しプラグ…… 63
④ 補助コントロールバルブ
単複切換えつまみ…… 64

運転に必要な各部の名称



参照ページ

① 室内エアフィルタ…… 94
② AM/FM ラジオ付き CD プレーヤ …… 98
③ エアコン吹出口…… 94
④ 内外気切換えレバー…… 94
⑤ リヤワイパ・ウォッシャスイッチ…… 91
⑥ フロントワイパ・ウォッシャスイッチ… 91
⑦ リヤ作業灯スイッチ…… 92
⑧ フロント作業灯スイッチ…… 92
⑨ ルームランプ…… 91
⑩ エアコンコントロールパネル…… 96
⑪ サンバイザ…… 93

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。
（点検方法の詳細は，**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の項を参照。）

注　意

＊ 運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをするおそれがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
1. エンジン停止後 30 分経過してから開ける。
2. 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドのおそれがないことを確認する。

重　要

各部への給油と交換
＊ 点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，必ず**［指定オイル］**を使用してください。

エンジンの始動と停止

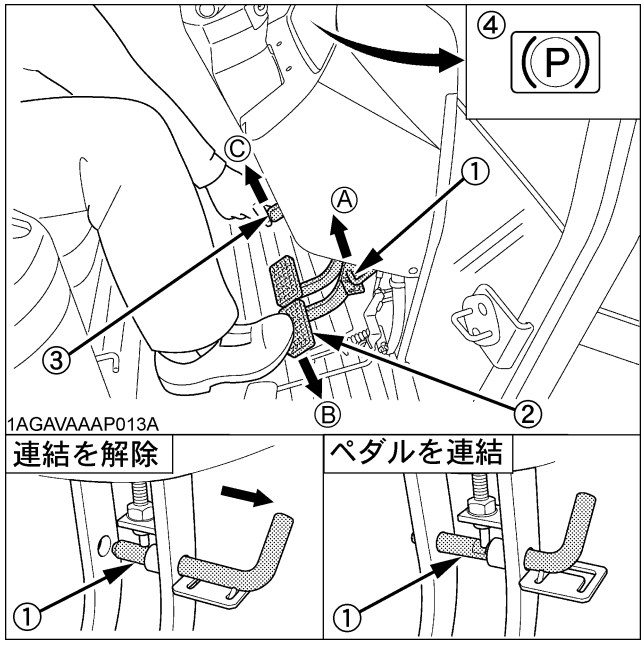
警　告

- **この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業するために］の内容を必ずお読みください。**
- **トラクタに貼ってある⚠表示ラベルの内容を必ずお読みください。**
- **エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速，シャトルレバーや PTO 変速レバーが［中立］(N) かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。**
- **PTO クラッチコントロールスイッチも [OFF] (切) にしてください。**
- **トラクタが突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。**
- **室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。**

始動のしかた

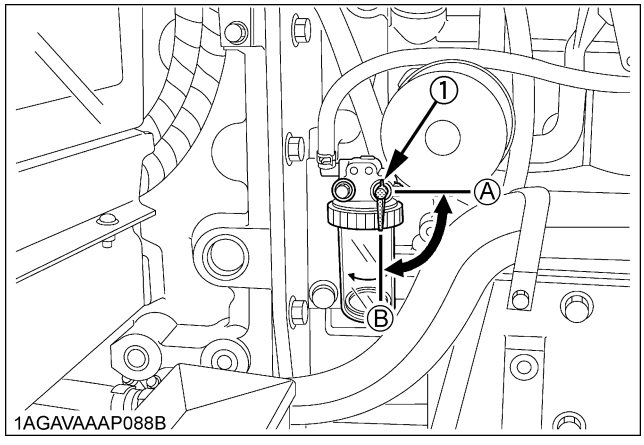
1. 駐車ブレーキをかけます。

ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを**[引い]**たまま足をはなすと駐車ブレーキが掛かります。
キースイッチ入時，駐車ブレーキを掛けると，メータパネル内の Ⓟ ランプが点灯します。



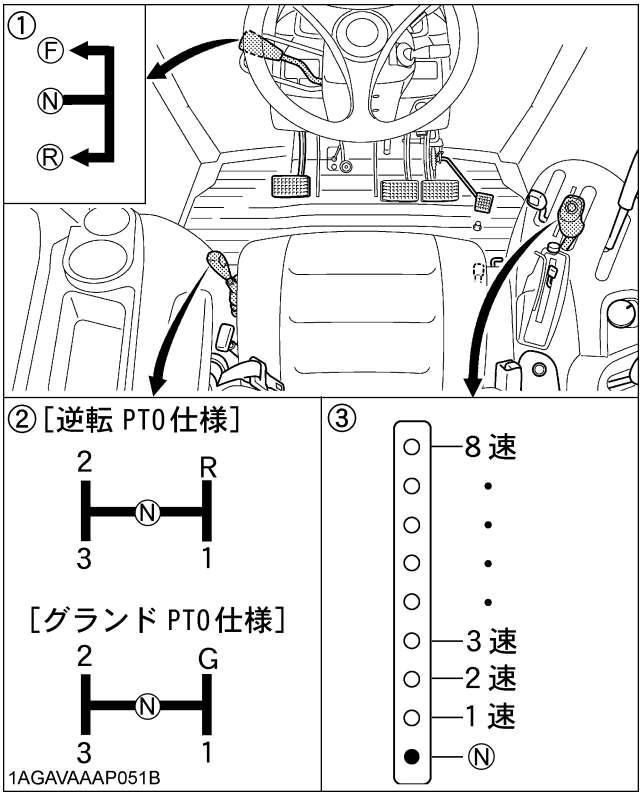
①連結金具
②ブレーキペダル
③駐車ブレーキレバー
④駐車ブレーキランプ
Ⓐ“連結（ロック）”
Ⓑ“踏込む”
Ⓒ“引く”

2. 燃料フィルタコックを［開］にします。



①燃料フィルタコック
Ⓐ“閉”
Ⓑ“開”

3. 主変速レバー，シャトルレバー，PTO 変速レバーを［中立］(N) にします。

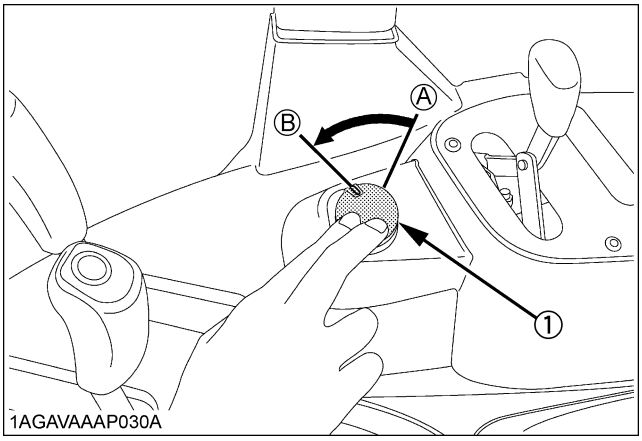


①シャトルレバー
② PTO 変速レバー
③主変速レバー
Ⓕ“前進”
Ⓝ“中立”
Ⓡ“後進”

補　足

＊ シャトルレバーを **［中立］(N)**，PTO クラッチコントロールスイッチを **［切］** にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

4. PTO クラッチコントロールスイッチを［切］にします。



① PTO クラッチコントロールスイッチ
Ⓐ “入”
Ⓑ “切”

5. キースイッチにキーを差込み［入］位置にします。

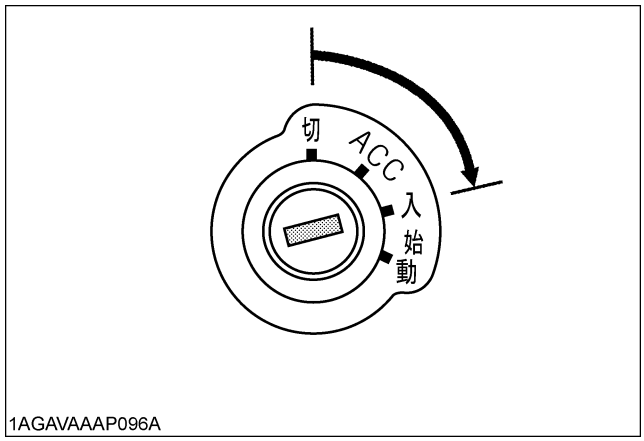
■キースイッチ

切・・・・・・・・・ エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。

ACC・・・・・・・・ エンジン停止中，ラジオ付き CD プレーヤが使えます。
（この位置で，長時間使用しないでください。バッテリあがりの原因になります。）

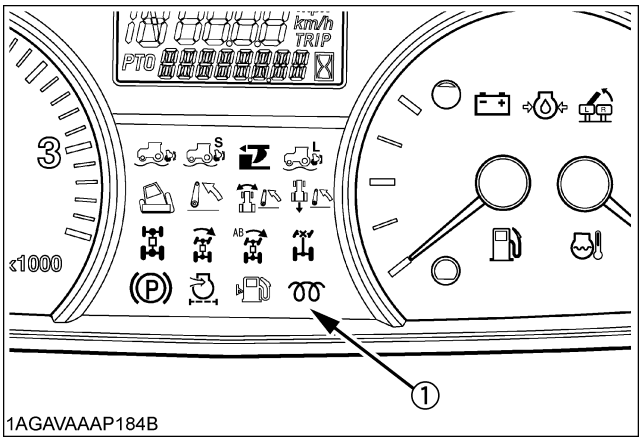
入・・・・・・・・・ 燃焼室内を予熱する位置。
エンジン回転中の位置，すべての電気装置が使えます。

始動・・・・・・・ エンジンを始動する位置。手を離せば自動的に **［入］** に戻ります。



■オートグロー

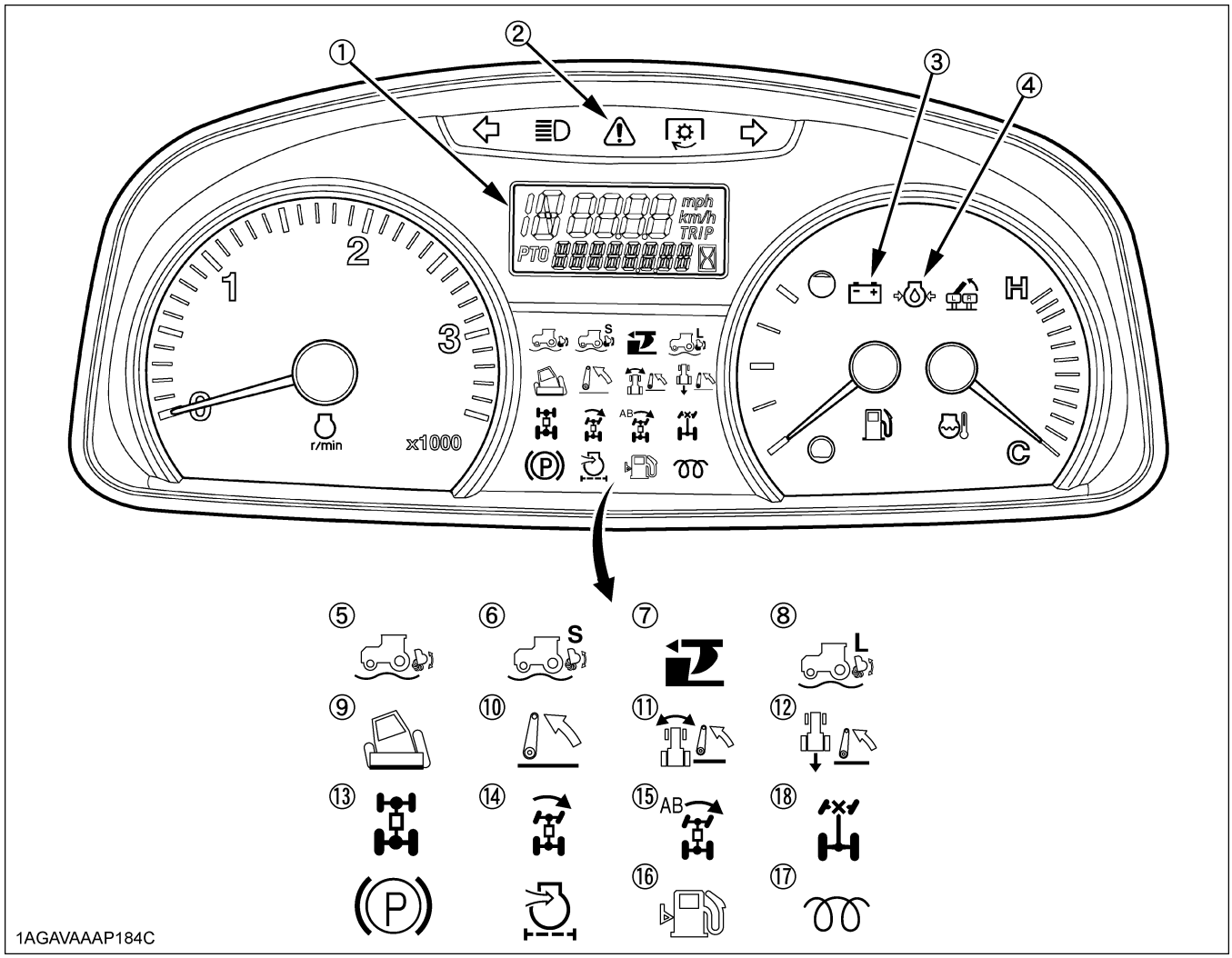
冷却水温が低いとき，キースイッチを**【入】**にすると，エンジン予熱ランプが点灯し，予熱が完了すると，自動的に消灯します。
寒冷時はエンジン予熱ランプが**【消灯】**したことを確認し，セルモータを回してください。



①エンジン予熱ランプ

■モニタランプ

キースイッチを**【入】**位置にすると，ランプ切れチェックのため，**【GV500・550・600・650・700・750】**は①～⑰，**【GV760・850・950】**は①～⑱ のランプが約 1 秒間点灯します。

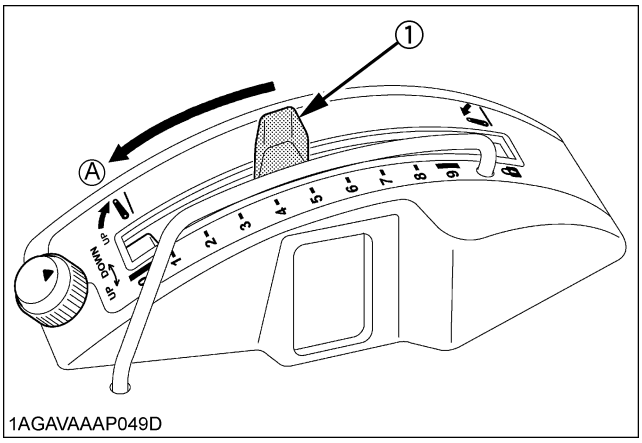


①メッセージ（液晶）表示部
②警告ランプ
③バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）
④エンジンオイル油圧警告灯
⑤耕深制御耕うんランプ
⑥ S モードランプ
⑦ドラフトランプ
⑧レーザランプ
⑨傾き自動ランプ
⑩クイックアップランプ
⑪旋回アップ（オートアップ）ランプ
⑫バックアップランプ
⑬ 4WD（4 輪駆動）ランプ
⑭倍速ターンランプ
⑮ AB ランプ
⑯燃料残量警告灯
⑰エンジン予熱ランプ
⑱前輪デフロックランプ

補　足

＊ 各スイッチの状態によりランプ切れチェック後、消灯や点灯のままのランプもあります。
＊ ⑤，⑥，⑧，⑨，⑱のランプは機種，仕様により点灯しない場合があります。

6. ポジションレバーを［前方に倒し］作業機を下げます。



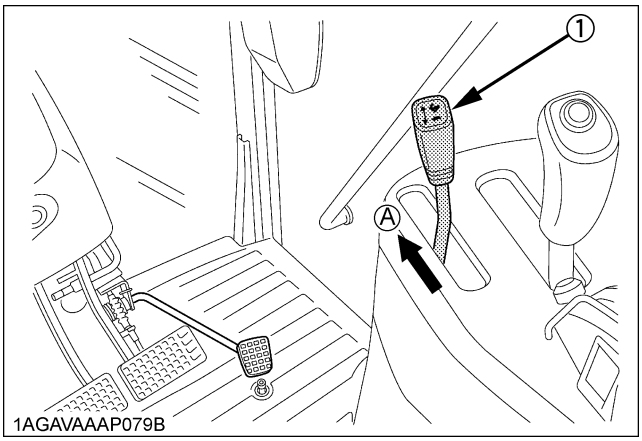
1AGAVAAAP049D

①ポジションレバー　　Ⓐ“下げる”

補　足

＊ 油圧ロックされている場合は下がりません。（詳細は**［作業機昇降装置］**の項を参照）
＊ クイックアップランプが点滅している場合は，ポジションレバーを後方に引き点滅を解除してください。

7. アクセルレバーを［低速］に合わせます。



1AGAVAAAP079B

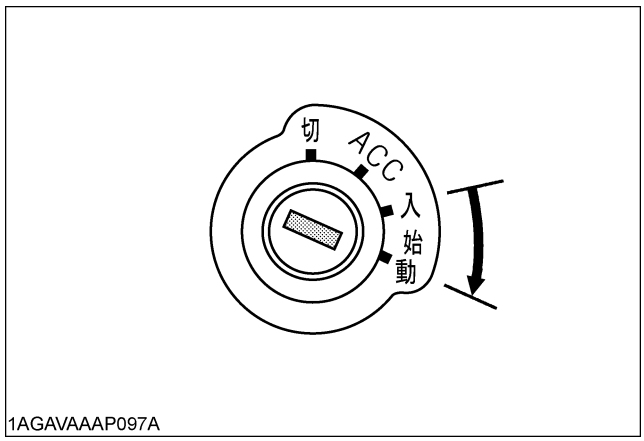
①アクセルレバー　　Ⓐ“加速”

8. クラッチペダルを［踏込み］ます。

補　足

＊ エンジンはクラッチペダルを踏込まなくても始動できますが，安全確保のため踏込んでください。

9. キーを［始動］位置に回します。



1AGAVAAAP097A

重　要

＊ セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。
10 秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30 秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

10. エンジンが始動したら，キーから手をはなしてください。

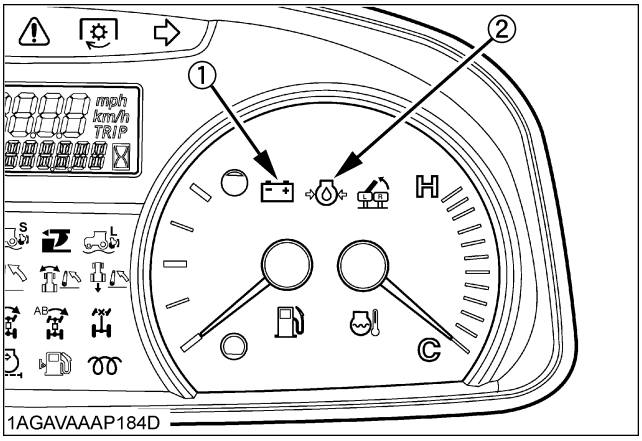
自動的に**［入］**にもどります。

重　要

＊ エンジン回転中は，キーを始動位置にしないでください。セルモータの故障原因になります。

11. バッテリチャージランプ，エンジンオイルランプが［消灯］したか確認します。

もし，点灯している場合は，エンジンを停止し，点検してください。



①バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）
②エンジンオイル油圧警告灯

12. エンジン回転を下げ，クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま 5 分程度暖機運転しましょう。

■寒冷時の始動のしかた

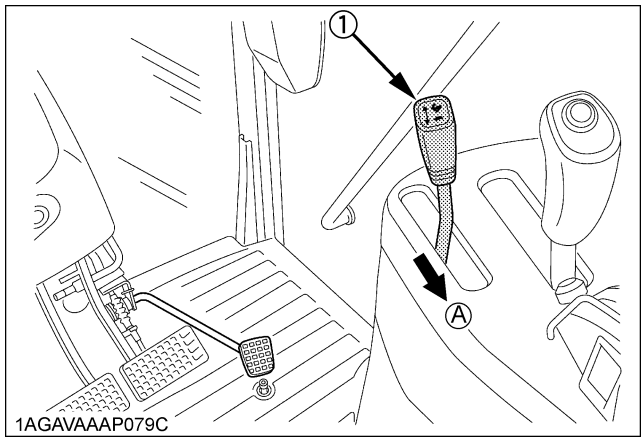
前に述べた **1.** ～ **9.** までの操作を行ないます。セルモータを約 10 秒まで回して始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30 秒以上休止してから，再度 **5.** からの操作を繰返してください。バッテリ及びセルモータを保護するために，10 秒を越えない範囲で，セルモータを回してください。

補　足

＊ 寒冷時の始動直後 1 分程度，青白煙を排出することがありますが，異常ではありません。また，それ以上に青白煙を排出し続ける場合でも，エンジンがじゅうぶんに加熱されれば，インジェクタのつまりなどの故障でない限り青白煙は消えます。

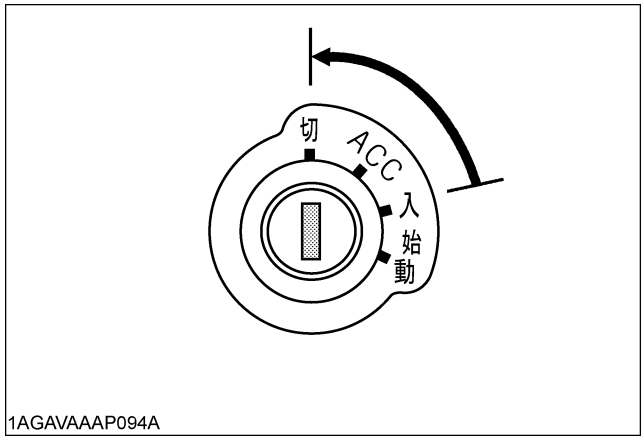
停止のしかた

1. アクセルレバーをいっぱい後へ［引き］，アイドリング状態にします。



①アクセルレバー　　Ⓐ“アイドリング”

2. キースイッチのキーを［切］の位置にすると，エンジンは停止します。



重　要

＊ **GV700・750・850・950 仕様**のエンジンの停止は，5 分間アイドリング運転してからにしてください。
高速負荷運転後，急にエンジンを停止するとターボチャージャに悪い影響を与えます。

3. キーは必ず［抜き］ましょう。

重　要

＊ キースイッチの切り忘れによるバッテリあがり防止のため，必ずキーは抜いてください。

寒冷時の暖機運転

注　意

＊ 換気が不十分な所では，暖機運転はしないでください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒のおそれがあります。
＊ 暖機運転中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。

始動後，約 10 分間は負荷をかけずにアイドリングで暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。
このトラクタには油圧クラッチが採用されており，油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しています。そのためアイドリングでの暖機運転終了後は，アクセルレバーを**【低速】**にして必ず下記の要領で暖機運転を行ない，トランスミッションオイルを暖めてください。暖機運転を行なわないと，満足な性能が得られないばかりか故障の原因になります。

気　　温	暖機運転時間
10 ～ 0 ℃	0 ～ 10 分間
0 ～ -10 ℃	10 ～ 20 分間
-10 ～ -20 ℃	20 ～ 30 分間
-20 ℃以下	30 分間以上

補　足

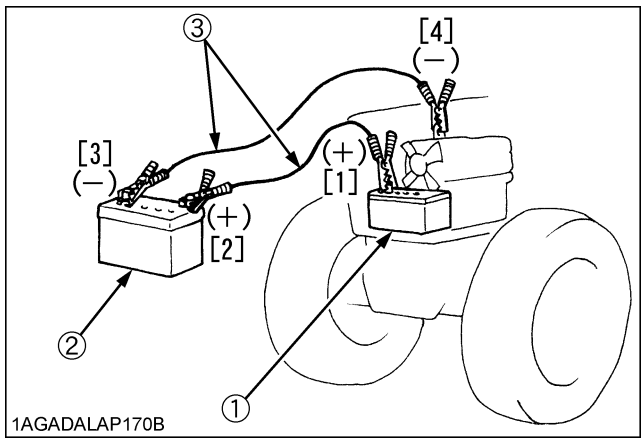
＊ エンジン始動後，エンジン回転を安定させるため，自動的に回転数が上がることがあります。
＊ 寒冷時の暖機運転では，マフラパイプ内で結露した水分が，水滴となって飛散することがあります。
アイドリング以外で暖機運転をすると，水滴の飛散量が多くなります。

バッテリあがりの処置

ブースタケーブル（別売）があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

1. ブースタケーブルを図の**【1】**～**【4】**の番号順で接続します。

＊ バッテリの（＋）端子同士を接続します。
＊ マイナスケーブルの他端**【4】**の接続位置は，バッテリから離れたエンジン本体に接続します。
（マイナスケーブルの他端**【4】**を直接バッテリの（－）端子に接続すると，バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがあります。）



①放電したトラクタバッテリ
②救援車バッテリ
③ブースタケーブル

2. 救援側の車を始動し，少しエンジン回転を高めに保ちます。
3. トラクタのエンジンを始動します。
（始動手順は**【エンジンの始動と停止】**の項を参照）
4. ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

重　要

＊ 救援車は必ず 12V バッテリ車を使用してください。
＊ ケーブル接続の際には，（＋）と（－）端子を絶対に接触させないでください。
＊ ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。
＊ ケーブル接続の際には，（＋）と（－）をよく確認し，絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると，トラクタや救援車の電子機器類が破損する場合があります。

トラクタの運転

警　告

＊ トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。
また，安全キャブに当たる障害物がないかも確認してください。
＊ 子供はもちろん，運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。
＊ 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
転落事故のおそれがあります。
＊ 急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。
＊ 下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。
＊ 負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。
＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。
デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
＊ 後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。
周囲の状況をよくみて，安全であることを確認してからシャトルレバーを後進位置に入れて，安全な速度で後進してください。
また後進中は，特に周囲の状況によく注意して運転してください。
＊ 運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

ならし運転（最初の約 50 時間）

この期間中は，特に次のことを厳守してください。

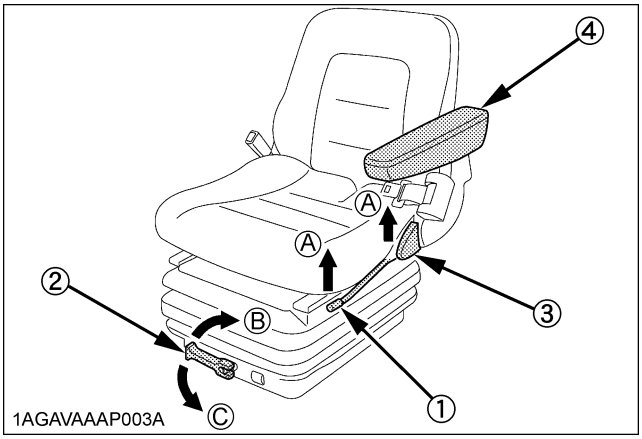
1. 急なスタート，急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
3. 運転は，エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。
4. 悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。
5. 50 時間使用後，**［定期点検箇所一覧表］**に従い各部の点検，オイル交換などを行なってください。

運転席回りの調節

■シート

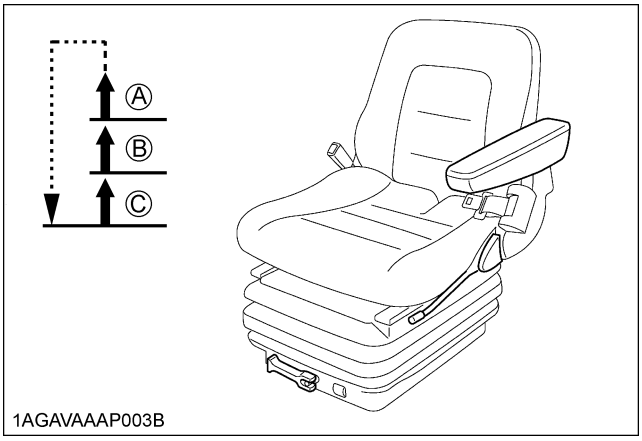
◆ 調整方法

1. 前後調節レバーを**［引く］**と，シートが前後に調節できます。
2. 体重調節ハンドルを**［回す］**と，クッションの強さが調節できます。
3. リクライニング調節レバーを**［上げる］**と，背もたれの角度が調節できます。
4. 左アームレストは，後方へ向けられます。



①前後調節レバー
②体重調節ハンドル
③リクライニング調節レバー
④左アームレスト
Ⓐ“解除”
Ⓑ“強くなる”
Ⓒ“弱くなる”

5. シートの高さは，シート全体を持上げるだけで，3 段階に変えられます。
   低い位置に戻すには，いったん最上昇位置まで持上げると最下位置まで下がります。



Ⓐ“高”
Ⓑ“中”
Ⓒ“低”

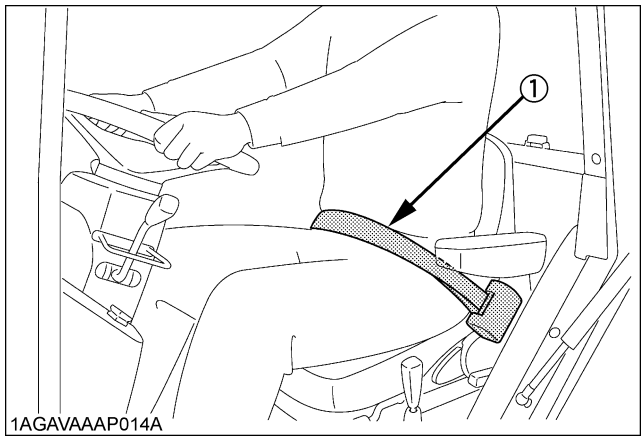
■安全キャブとシートベルトについて

警　告

転倒・転落による死傷事故防止のため，下記のことを守ってください。
＊ トラクタを使用するときは，必ずシートベルトを着用してください。
＊ 安全キャブの改造を絶対にしないでください。また，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。
＊ シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。

補　足

＊ 安全キャブは，万一のときに少しでも被害を軽くするためのものであって，すべての傷害を防げるものではありません。



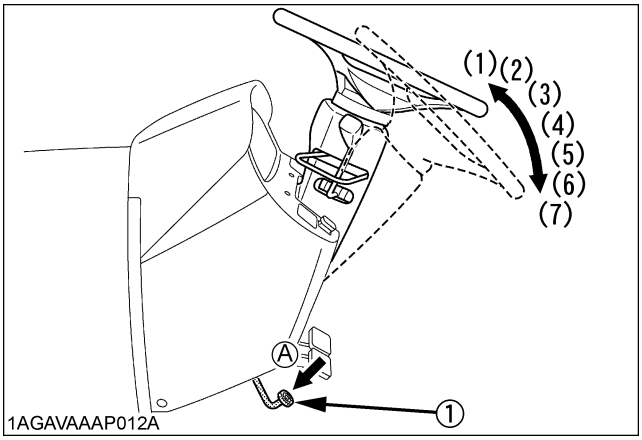
①シートベルト

■チルトステアリングハンドル

注　意

＊ 走行中の調節はしないでください。
＊ 調節後，ハンドルがロックされていることを確認してください。

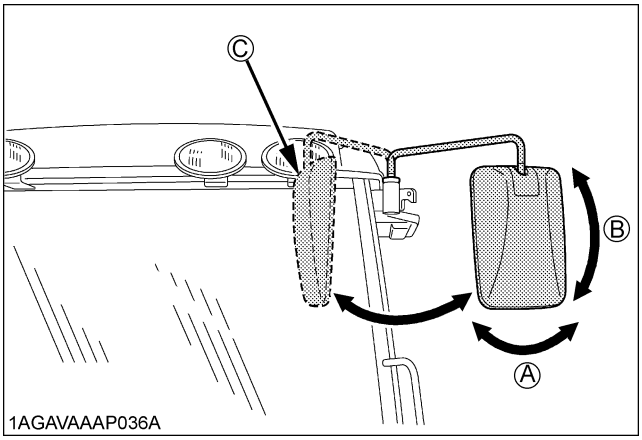
チルトステアリングハンドルの操作はチルトペダルを踏み込んで（1）～（7）の適当な位置でペダルをはなして位置を決めてください。
（1）…… 乗り降り時の位置
（2）～（7）…… 運転操作位置



①チルトペダル　　Ⓐ“踏み込む”

■バックミラー

1. バックミラーは，上下・左右に角度調節できます。運転席に座って見やすい位置に調節してください。
2. 狭い場所へ格納時折りたたんでください。

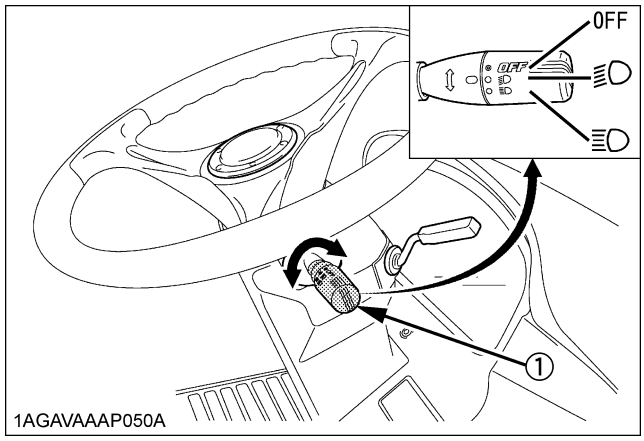


Ⓐ“左右”
Ⓑ“上下”
Ⓒ“格納位置”

灯火類の操作

■ヘッドライトスイッチ

ノブを回すとスイッチが入り，位置によって次のランプが点灯します。



①ヘッドライトスイッチ

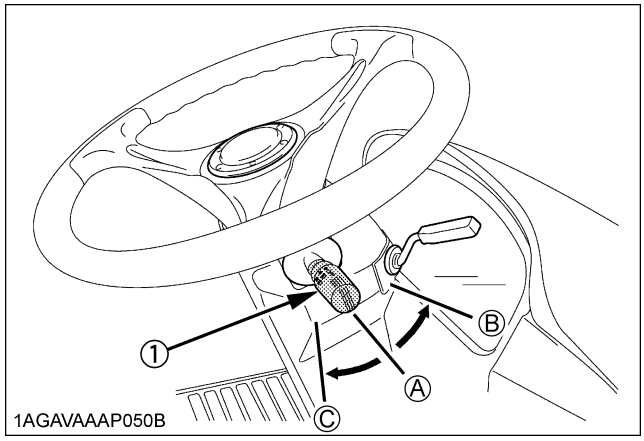
OFF……ヘッドライト消灯位置
≣D……ヘッドライト下向き照射位置
≣D……ヘッドライト上向き照射位置

補　足

＊ ヘッドライトが上向き照射時，メータパネル内の ≣D ランプが点灯します。
＊ キースイッチ**【切】**位置でも点灯します。

■ウインカスイッチ

1. スイッチを前後操作すると，ウインカランプ及びメータパネル内のパイロットランプが点滅します。
   前……左折
   後……右折
2. スイッチはハンドルを戻すと，自動的に中立に戻る，オートリターン機構になっています。



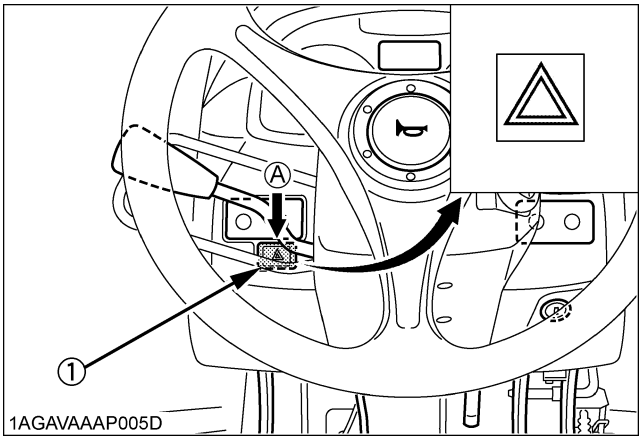
①ウインカスイッチ　　Ⓐ“中立”
Ⓑ“左折”
Ⓒ“右折”

補　足

＊ ハンドルを切る角度が小さいとレバーが中立に戻らない場合があります。戻らないときは手で戻してください。

■ハザードスイッチ

故障などで停止した場合，事故を防止するために使用します。スイッチを押すとウインカ前後及びメータパネル内のウインカ作動パイロットランプが点滅し，停止中を知らせます。
再度スイッチを押すと消灯します。



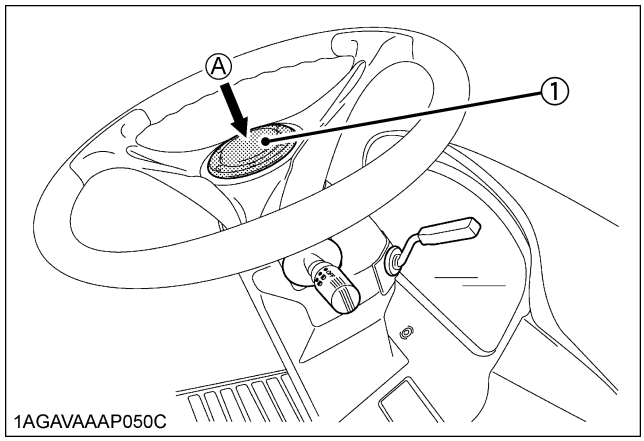
①ハザードスイッチ　　Ⓐ“押す”

補　足

＊ ハザードランプはキースイッチ**［切］**位置でも作動します。

■ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。



①ホーンボタン　　Ⓐ“押す”

補　足

＊ ホーンはキースイッチ**［切］**の位置でも作動します。

■バックランプ

シャトルレバーを**［後進］（R）**の位置に入れると，バックランプが点灯します。

■ブレーキランプ

ブレーキペダル左右を連結金具で連結し，ブレーキペダルを踏むと，ブレーキランプが点灯します。

補　足

＊ 駐車ブレーキをかけるとブレーキランプは消灯します。

■車幅灯・尾灯

ヘッドライトに連動して点灯します。

発進・走行

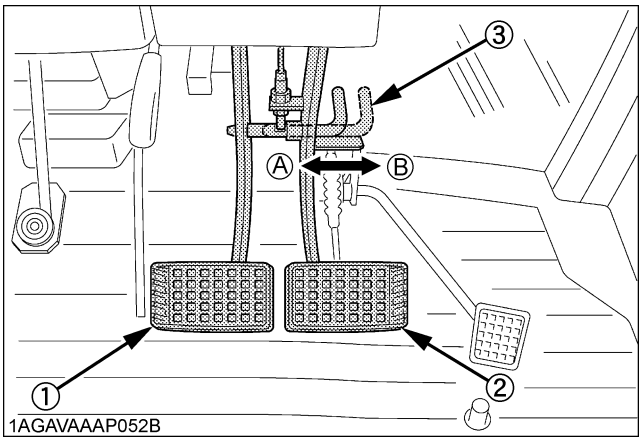
1. ブレーキペダルを確認します。

■ブレーキペダル

警 告

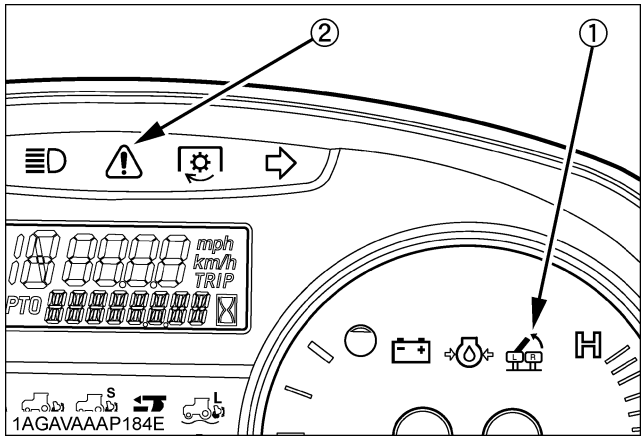
＊ 道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。
道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，転倒や交通事故のおそれがあります。

ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置で，一般車両と異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。また連結金具でブレーキペダルをつなぐと，左右両輪のブレーキが同時に働きます。
連結金具をかけた状態……道路走行時。
連結金具を外した状態……農作業時。



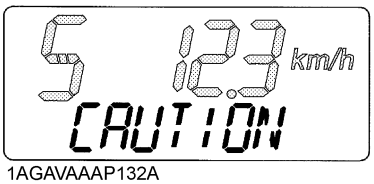
①ブレーキペダル（左） **Ⓐ“連結（ロック）”**
②ブレーキペダル（右） **Ⓑ“解除”**
③連結金具

◆ ブレーキ連結解除ランプ
ブレーキペダル連結金具を外すと**ブレーキ連結解除**ランプが点灯します。道路走行時などでは連結金具をかけ，ブレーキ連結解除ランプの消灯を確認してから，走行してください。



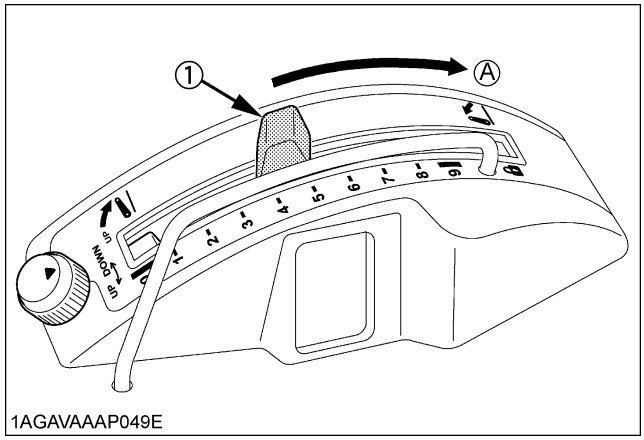
①ブレーキ連結解除ランプ
②警告ランプ

電子メータメッセージ
＊ ブレーキペダル連結金具を外したまま，車速が 10km/h を超えるとブザーが 1 回鳴ります。同時に⚠警告ランプが点灯し，下記メッセージも表示されます。



2. ポジションレバーを［後方に引き］作業機を上げます。

（詳細は**［作業機昇降装置］**の項を参照）



①ポジションレバー **Ⓐ“上げる”**

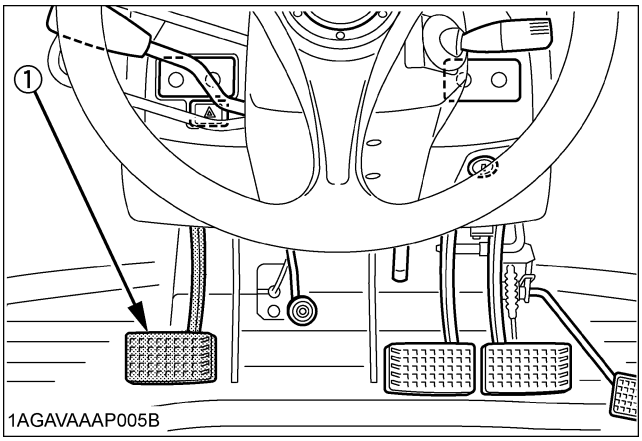
3. クラッチペダルを踏込みます。

注 意

＊ 急にクラッチを離すと，急に飛出すおそれがあります。
ゆっくり行なってください。

■クラッチペダル

クラッチは，エンジンの動力を走行部（車輪）に断続する装置です。
ペダルを踏み込む･･･････クラッチが切れる。
ペダルから足を離す･････クラッチがつながる。

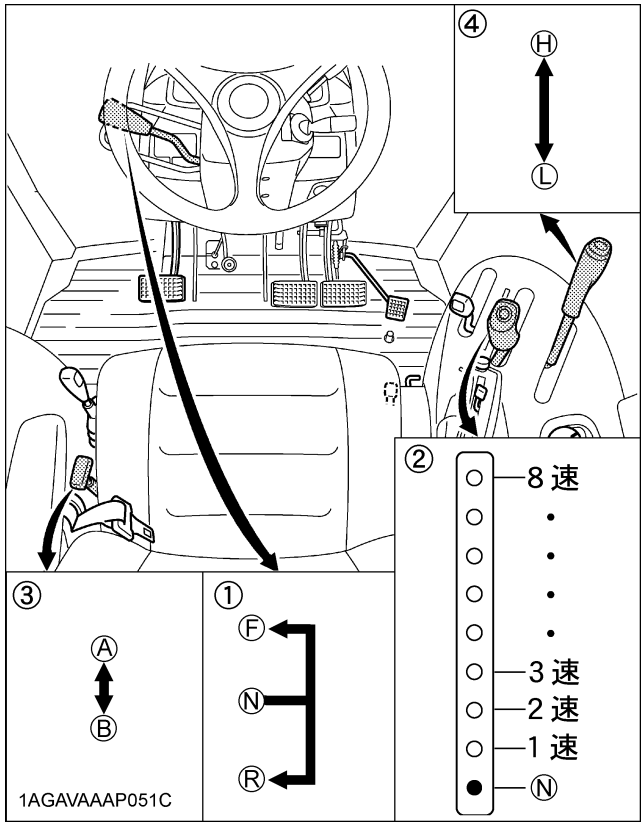


①クラッチペダル

補 足

＊ クラッチペダル操作によって**［半クラッチ］**を極度に多用すると，クラッチ保護のため自動的にクラッチが**［切れ］**，警告ブザーが連続的に鳴ります。
＊ クラッチが自動的に切れる前に警告としてブザーが間欠的に鳴りますので，クラッチペダルをいっぱい踏み込むか，ペダルから足を離してください。
＊ もし，ブザーが鳴れば下記いずれかの操作で解除してください。
警報ブザーが鳴ったままの状態で放置しないでください。
(1) クラッチペダルをいっぱい踏み込む。
(2) シャトルレバーを**［中立］(N)**にする。
(3) 主変速レバーを**［中立］(N)**にする。

4. 走行速度を選択します。



①シャトルレバー Ⓕ**“前進”** Ⓝ**“中立”** Ⓡ**“後進”**
②主変速レバー
③クリープレバー Ⓐ**“切”** Ⓑ**“入”**
④副変速レバー Ⓗ**“高速”** Ⓛ**“低速”**

4本のレバー操作を組合わせることにより前進24段，後進 24 段の車速が得られます。

補 足

＊ 副変速レバーが**［L］**（低速）時のみクリープ速度（クリープ入）が得られます。
（詳細は**［クリープレバー］**の項を参照してください。）

■主変速レバー

注　意

＊ 急発進はしないでください。
＊ 安全のため，急激な変速は避けてください。変速は１段ずつ行なってください。
＊ 緊急停止時や，作業機の取付け・取外しなど狭い場所での作業時には，クラッチを使用してください。
＊ 走行中は，主変速レバーに手を置いたままにしないでください。
＊ 急な坂道，車両への積み・降ろし，ほ場への出入り，あぜの乗り越えなどでは，途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れておいてください。
＊ クラッチボタンを押している間は，クラッチが切れた状態になっています。クラッチボタンを戻すとトラクタが動き出します。
＊ 低温始動時，ミッションオイルが暖まるまでは，発進までに時間がかかる場合があります。（発進遅れ）
● 十分に暖機運転をしてください。
● 低温時の発進遅れは異常ではないので，主変速レバーを変速に入れたままトラクタから降りないでください。遅れて動き出すおそれがあります。

重　要

＊ 油圧クラッチ・シンクロの寿命を保つため，次の点に注意してください。
1. 作業に合った車速とエンジン回転を選んでください。
2. 急激なシフトダウンは避けてください。
3. トラクタの使い始めの変速時に，油圧クラッチのつながり音がする場合がありますが，油温が上がってくると正常になります。

◆ 変速操作

主変速レバーは停止・走行中に関係なくノンクラッチで 8 段階に変速できます。
また，選択した変速段数は電子メータパネルの液晶表示部で確認できます。

● 重けん引作業時

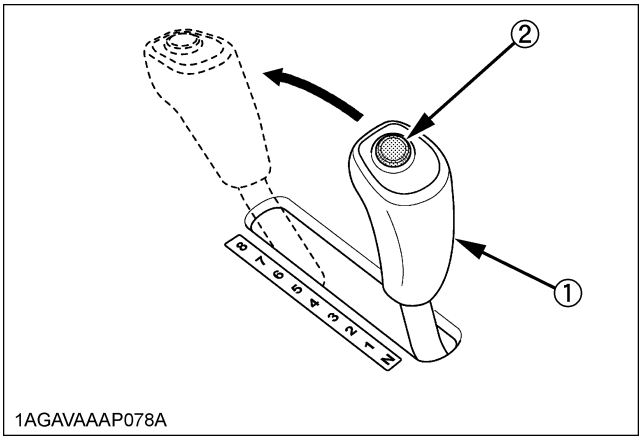
クラッチボタンを押さずに，主変速レバーを一段ずつ希望車速が得られるまで操作してください。
レバー操作に応じ自動的にスムーズに増減速されます。

● 軽負荷作業時

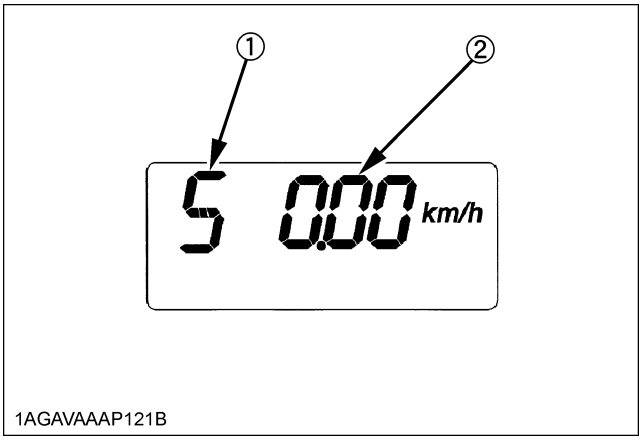
クラッチボタンを押さずにレバー操作した自動変速の最中にクラッチボタンを押すと，その時点で主変速レバーで選択した車速段数へ直接変速されます。（けん引作業時はこの変速操作は行なわないでください。）

● 道路走行時

クラッチボタンを押しながら主変速レバーを希望車速段数位置まで変速し，その位置でクラッチボタンを解放します。
選択した段数へのスムーズな変速が行なえます。
（けん引作業時は，この変速操作は行なわないでください。）



①主変速レバー
②クラッチボタン



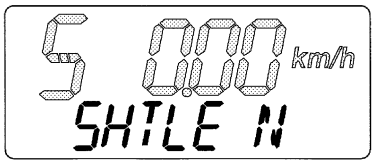
①変速段数
②車速

補　足

＊ 変速段数が点滅している時は，自動変速中です。選択した車速段に達すると点灯表示に変わります。
＊ 走行中にクラッチボタンを押すと，押している間クラッチが切れます。
ボタンを解放するとクラッチがつながり発進します。

電子メータメッセージ

＊ ある設定された時間内に自動的に変速できなかった時，クラッチが **[切れ]** 警告ブザーが鳴り，下記メッセージも表示されます。



1AGAVAAAP121A

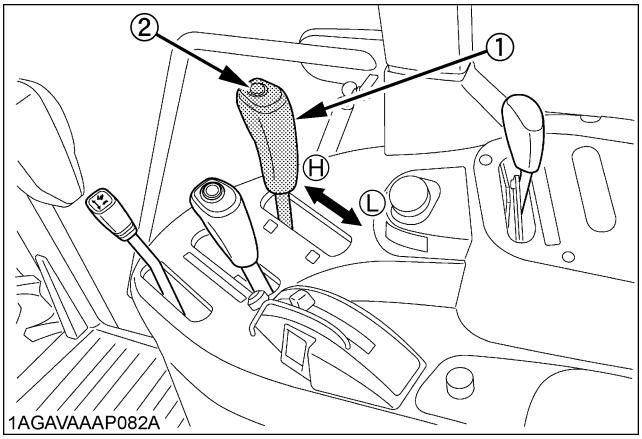
＊ シャトルレバーを **[中立]（N）** に戻すと，警告ブザーが止まります。数回連続して起こるようであれば購入先に相談してください。

■副変速レバー

注　意

＊ 急傾斜地で副変速の切換えをクラッチボタンの操作のみで行なうと，クラッチボタンを押したときトラクタの自重で自走し，危険な場合が予測されます。
必ずクラッチペダルとブレーキペダルを踏み込んでから，切換えを行なってください。
＊ クラッチボタンを押している間は，クラッチが切れた状態になっています。クラッチボタンを戻すとトラクタが動き出します。

[L] 位置で低速，**[H]** 位置で高速が得られます。



1AGAVAAAP082A

①副変速レバー　　**Ⓗ“高速”**
②クラッチボタン　　**Ⓛ“低速”**

重　要

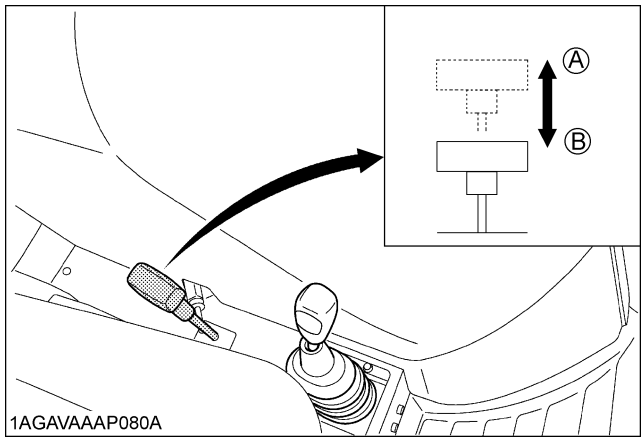
＊ 変速操作前にクラッチペダルとブレーキペダルを踏み，トラクタを完全に停止させてください。
変速はクラッチボタンを押しながら行ない，変速操作完了後にクラッチボタンを解放します。走行中の操作やクラッチボタンを押さずに変速すると，ミッションの損傷につながります。

■クリープレバー

注　意

＊ クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので，ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。

副変速レバーが **[L]**（低速）の場合，クリープレバーを **[押し下げる]** とクリープ速度が得られます。
クリープレバーが **[入]** の場合，副変速レバーを **[H]**（高速）に変速すると，クリープ速度が解除され，副変速 **[H]**（高速）の速度が選択されます。



1AGAVAAAP080A

①クリープレバー　　**Ⓐ“切”**
Ⓑ“入”

重　要

＊ 変速は主変速レバーを **[中立]（N）** にし，トラクタが完全に停止してから行なってください。走行中に操作するとミッションの損傷につながります。

◆ クリープの使い方

クリープ速度は，使用する作業と取扱い方を誤ると故障の原因になります。
次のことに注意してお使いください。

1. 使用できる作業
＊ ロータリでの深耕・細土耕うん作業。
＊ ロータリで，ほ場がかたく標準速度で耕うんできない場合。
＊ プランタによる移植作業。
＊ 農業用トレンチャによる作業（農業用に限る）。
＊ 車への積み・降ろしをするとき。
2. 使用できない作業（故障の原因になります）
＊ 湿田での沈没状態から脱出する作業。
＊ けん引・トレーラ作業。
＊ フロントローダ作業。
＊ フロントブレード作業（除雪作業）。
＊ 土木作業。
＊ ほ場への出入り。
3. クリープ速度を使用するときは，必ず次のことを守ってください。
＊ 変速は，主変速レバーを**［中立］(N)**にしてから行なってください。
＊ 発進は，必ず駐車ブレーキを外してから行なってください。
＊ クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので，ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。
停止は，必ずクラッチを切ってからブレーキをかけてください。

重　要

＊ クリープ速度でブレーキペダルをあまり強く踏むと故障の原因になります。
＊ クリープ速度では，けん引作業をしないでください。超低速で無理な負荷をかけると故障の原因になります。

補　足

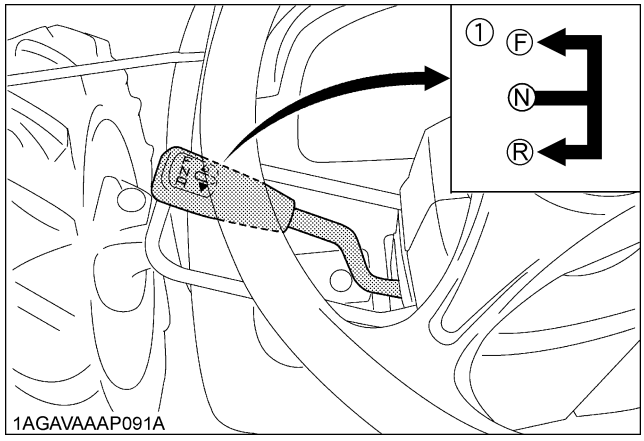
＊ クリープレバー操作時，レバー操作が重くなるときがあります。そのときは，クラッチペダルを踏み直し，再度クリープレバーを操作してください。

■シャトルレバー

注　意

＊ 高速（11km/h 以上）で前進・後進の切換えを行なうとクラッチが切れ，警告ブザーが鳴る装置を設けていますが 10km/h 前後のスピードでもたいへん危険です。必ずエンジン回転を低速にしてから切換えるようにしてください。
＊ 急傾斜地で前進･後進の切換えをシャトルレバーのみの操作で行なうと，前進・後進が切換わるときトラクタの自重で自走し，危険な場合が予想されます。必ずクラッチペダル・ブレーキペダルを踏み込んで切換えを行ない，クラッチペダルで発進してください。

1. シャトルレバーを持上げて，前進（後進）から後進（前進）に操作しますと，マイコンコントロールでスムーズな切換えを行ない前進（後進）と同じスピードで後進（前進）します。(切換え時のショックが少なく，タイヤがスリップしないので草地作業にも適しています。)
2. クラッチペダルを踏まなくてもシャトルレバーの操作で前進･後進の切換えができます。
3. 坂道で前進・後進の切換えを行なうときは，必ずブレーキペダルを踏み込んでトラクタが停止してから行なってください。ブレーキを使用しないで前進・後進の切換えを行なうとシャトルクラッチの寿命の低下や損傷の原因になります。



①シャトルレバー　　**Ⓕ“前進”**
Ⓝ“中立”
Ⓡ“後進”

補　足

＊ トラクタの速度が 11km/h 以上の状態で，シャトルレバー前進・後進の切換えを行なうと，自動的にクラッチが **[切れ]**，警告ブザーが鳴ります。
＊ もしブザーが鳴った時には，シャトルレバーを元の位置に戻してください。ブザーが止まりクラッチもつながります。警報ブザーが鳴ったままの状態で放置しないでください。

5. 走行モード（2WD，4WD，倍速，AB）を選択します。

■走行モード切換スイッチ

◆ 走行モードスイッチ

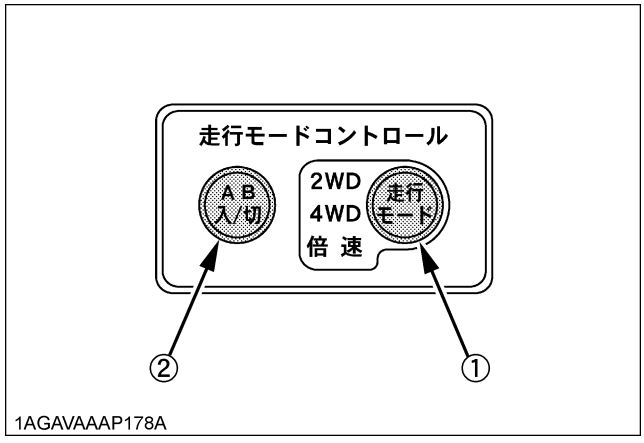
スイッチを押すごとに
2WD → 4WD →倍速→ 2WD
の順に切換わり，スイッチでの選択状態をメータパネル内のモニタランプで表示します。

	メータパネル
2WD選択時…… (2 輪駆動)	下記ランプ消灯
4WD選択時…… (4 輪駆動)	4WD ランプ点灯
倍速ターン選択時 ……	倍速ランプ点灯 4WD ランプ点灯

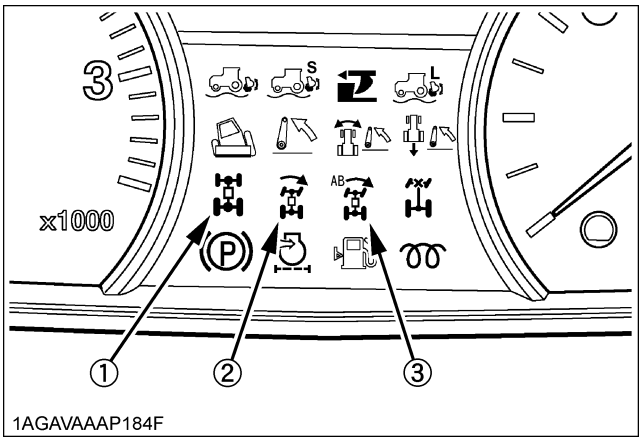
◆ AB スイッチ

スイッチを押すごとに AB **[入]・[切]** が切換わり，スイッチでの選択状態をメータパネル内のモニタランプで表示します。

	メータパネル
AB **[入]** 時…… (オートブレーキ)	AB ランプ点灯
AB **[切]** 時……	AB ランプ消灯



①走行モードスイッチ
② AB スイッチ



① 4WD ランプ
②倍速ランプ
③ AB ランプ

補　足

＊ ABスイッチと走行モードスイッチの組合せにより，6 種類の走行モードより作業に適した状態を選択してください。
(一般ロータリ耕うんは AB **【入】**・倍速が最も効果があります)
＊ 各スイッチはトラクタの走行・停止に関係なく操作できます。

		走行モードスイッチ		
		2WD	4WD	倍速
ABスイッチ	入	○	○	○
	切	○	○	○

◆ 4 輪駆動の使い方

4 輪駆動は,次のような場合に威力を発揮します。
1. 傾斜地，湿田，トレーラの運搬・フロントローダ作業時で，けん引が必要な場合。
2. 砂地で作業をする場合。
3. 固いほ場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。
4. ほ場への出入り及び，あぜ越えを行なう場合。

補　足

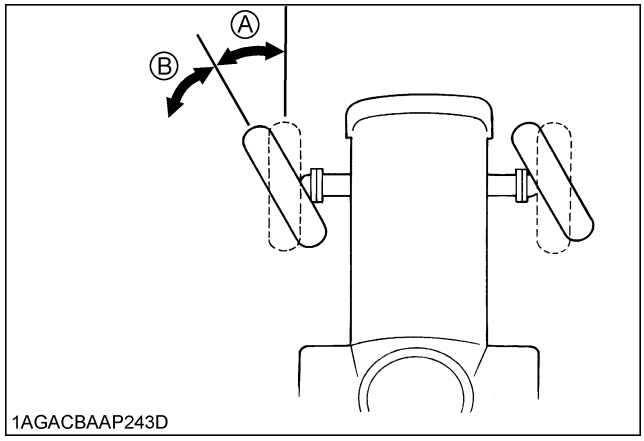
＊ 舗装道路や高速走行時の 4 輪駆動は避けてください。思わぬ事故の原因にもなります。走行モードスイッチを **【2WD】**，AB スイッチを **【切】**に切換え全モニタランプが消えていることを確認してから走行してください。
また，タイヤの摩耗を早める原因にもなります。但し ，走行時ブレーキ性能向上のため，左右ブレーキペダルを連結した状態でブレーキを踏むと自動的に 4 輪駆動が入ります。

◆ 倍速ターンの使い方

警　告

＊ 倍速ターンに入れたままでは,ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に走行モードスイッチを［2WD 又は 4WD］, AB スイッチを［切］に切換えてください。
＊ 倍速ターンは，畑，水田などのロータリ耕作業に役立ちますが,使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。

倍速ターンの作動は下図のようになっています。**【倍速】**モードで旋回動作に入り，ステアリングハンドルを切っていくと，前輪の切れ角が，直進状態からある一定の角度になるまでは，通常の 4 輪駆動の回転数で前輪が駆動されます。更にステアリングハンドルを切ると，倍速ターンが作動し，前輪の回転数がそれまでの約 2 倍の回転数で駆動され，小さくスムーズな旋回が行なえます。



Ⓐ“通常の 4 輪駆動”
Ⓑ“倍速ターン作動”

重　要

＊ トレーラけん引作業などの速度の速い作業には，使用しないでください。
＊ フロントローダを装着した場合は，使用しないでください。

補　足

＊ 倍速は，危険防止のため，旋回開始時の車速段数が副変速 **【H】**，主変速 5 以下で車速が約 12㎞/h 以下のときのみ作動します。

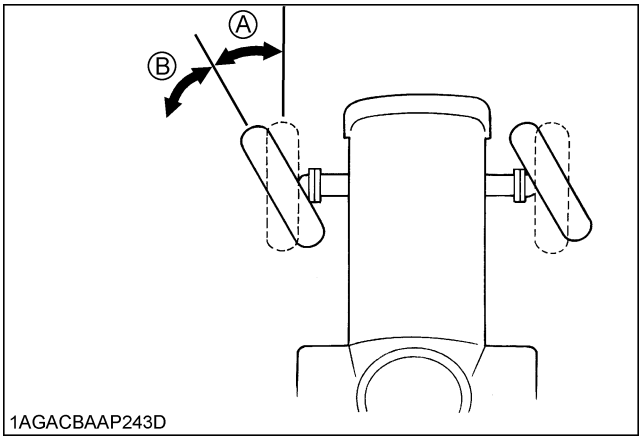
◆ AB の使い方

警　告

＊ AB［入］のままでほ場以外を走行すると，旋回時急に回り事故の原因になります。ほ場から出る前に AB スイッチを［切］に切換えてください。

隣接耕うん作業をする場合に，枕地で軽く片ブレーキを踏み，旋回を小さくする操作が行なわれますが，AB はこの操作を自動的に行なうものです。

AB の作動は下図のようになっています。
AB **【入】**で旋回動作に入り，ステアリングハンドルを直進状態からある一定の角度以上に切ると，AB が作動し，内側後輪に軽くブレーキがかかり小さくスムーズな旋回が行なえます。



Ⓐ**“AB が作動しない範囲”**
Ⓑ**“AB が作動する範囲”**

補　足

＊ AB は危険防止のため，車速段数は副変速 **[H]**，主変速 4 以下で旋回開始時の車速が約 0.2 ～ 5 km/h の範囲の時のみ作動します。

6.　エンジンを加速します。

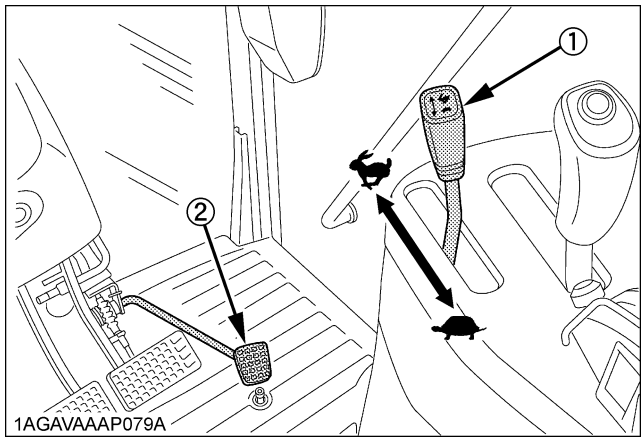
■アクセルレバーとアクセルペダル

◆ アクセルレバー

主に農作業時に使用する。
レバーを前側に押す……エンジン回転が上がる。
レバーを手前に引く……エンジン回転が下がる。

◆ アクセルペダル

主に走行時に使用する。
ペダルを踏込む……エンジン回転が上がる。
ペダルから足を離す……アイドリング状態。

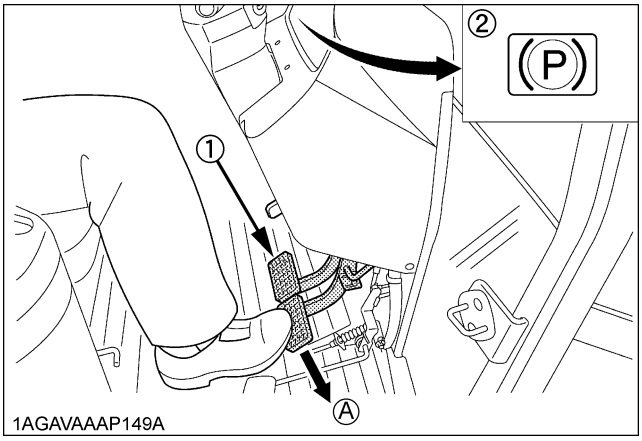


①アクセルレバー　　**：“高速”**
②アクセルペダル　　**：“低速”**

7. 駐車ブレーキを解除します。

■駐車ブレーキ

ブレーキペダルを**[踏込む]**と駐車ブレーキが解除され，メータパネル内の(Ⓟ)ランプが消灯します。



①ブレーキペダル　　**Ⓐ“踏込む”**
②駐車ブレーキランプ

補　足

＊ 駐車ブレーキを掛けたまま，発進しようとすると警告ブザーが鳴ります。
＊ もしブザーが鳴った時には，
1. 駐車ブレーキを解除する。
2. シャトルレバーを**[中立](N)**に戻す。
3. 主変速レバーを**[中立](N)**に戻す。

のいずれかの操作によりブザーが止まります。

8. クラッチペダルをゆっくり離し発進します。

重　要

＊ クラッチの寿命を伸ばすため，半クラッチの使用時間・回数を少なくするように，次の点にご注意ください。
(1) 速度調節はクラッチで行なわないようにしてください。
(2) 作業に応じた車速及びエンジン回転を選択してください。
(3) クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。
知らないうちに半クラッチを使用していることになります。
＊ トレーラけん引作業時などの発進は，低速度段で行ない，次に必要な車速段に入れて走行してください。
（クラッチの寿命が長くなります）
＊ 通常作業で頻繁に警告ブザーが鳴る場合は，トラクタの再設定が必要です。
購入先で点検をしてもらってください。

停車・駐車

警　告

＊ 本機は油圧ミッションのため，変速ギヤーを入れてエンジンを止めても，エンジンブレーキはききません。駐車後トラクタが動き出さないよう，必ず駐車ブレーキをかけてください。

注　意

＊ 駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，変速レバーを［中立］(N)，PTO クラッチコントロールスイッチを［OFF］(切)，作業機を［下げ］，駐車ブレーキを［引き］，エンジンを［停止］してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊ 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
＊ 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。
＊ トラクタから降りるときは，ロータリなどの PTO 作業機が完全に止まるまで待ってください。

1. アクセルレバーを手前に引き，エンジン回転をアイドリング状態にします。

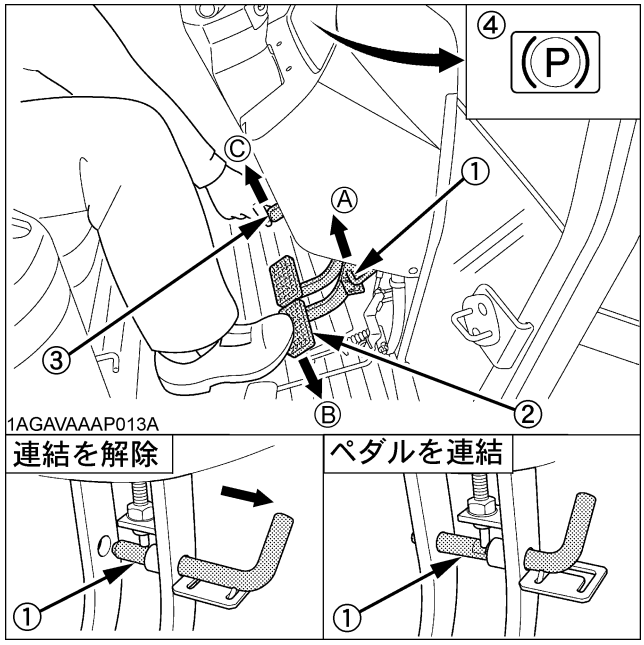
2. クラッチ及びブレーキペダルを［踏込み］ます。

3. 完全に停止してから，シャトルレバー，主変速レバーを［中立］(N) にします。

4. PTO を使用している場合は，PTO クラッチコントロールスイッチを［OFF］(切) にして，PTO を停止させます。

5. 作業機を取付けている場合は，ポジションレバーをゆっくり［前方に倒し］作業機を下げます。

6. 駐車ブレーキを確実に［ロック］してください。



①連結金具
②ブレーキペダル
③駐車ブレーキレバー
④駐車ブレーキランプ
Ⓐ“連結（ロック）”
Ⓑ“踏込む”
Ⓒ“引く”

補　足

＊ 走行中に駐車ブレーキを掛けようとすると警告ブザーが鳴ります。
＊ もしブザーが鳴った時には，
1. シャトルレバーを**［中立］(N)** に戻す。
2. 主変速レバーを**［中立］(N)** に戻す。
3. 駐車ブレーキを解除する。

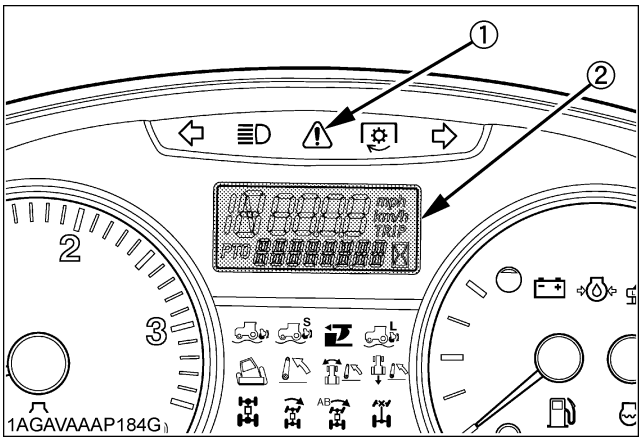
のいずれかの操作によりブザーが止まります。

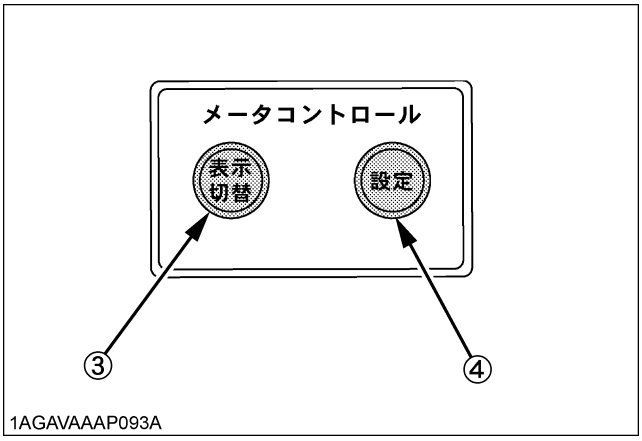
7. キースイッチを［切］にして，エンジンを停止します。

電子メータパネルの取扱い

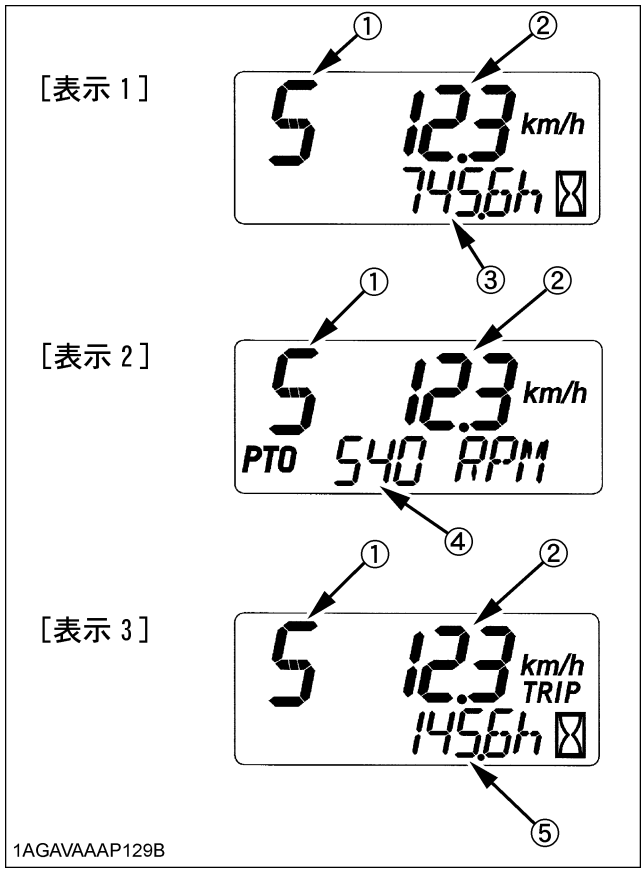
■表示の切替え

電子メータパネルの液晶表示部は，表示切替スイッチを押すごとに表示 1 ～ 3 の 3 種類のモードに切替えることができます。
作業に応じ切替えてください。





①警告ランプ（赤色）
②液晶表示部
③表示切替スイッチ
④設定スイッチ



①変速段数
②車速（時速）
③アワーメータ（積算時間）
④ PTO 軸回転数（回転／分）
⑤トリップ時間（時間）

補　足

＊ 表示 3 の状態で表示切替スイッチを 2 秒間押すとトリップメータは **0.0** にリセットされます。
＊ けん引作業などで，タイヤがスリップしている場合の車速表示は実車速と異なります。

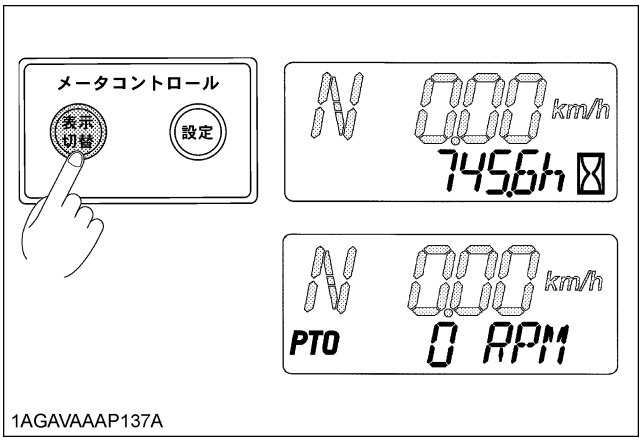
■車速係数の入力について

サイズの異なるオプション採用のタイヤに交換した場合，スピードが正しく表示されません。次表を参考に**[タイヤ外周長]**を入力してください。

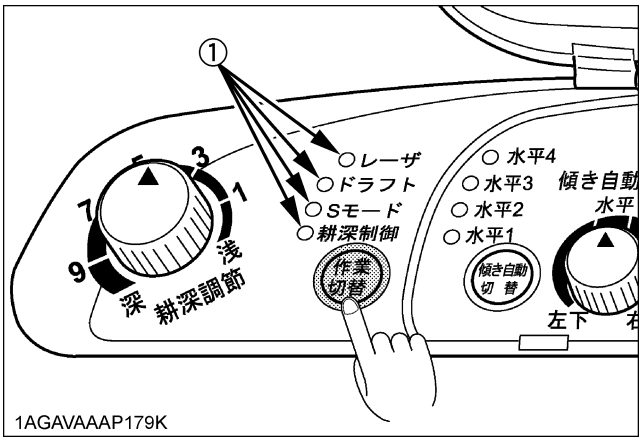
◆ タイヤ外周長の入力手順

例：3910mm と入力

1. キースイッチを **[入]** にする。
2. メータ表示切替スイッチを押し，アワーメータ又は PTO 表示モードを選択する。

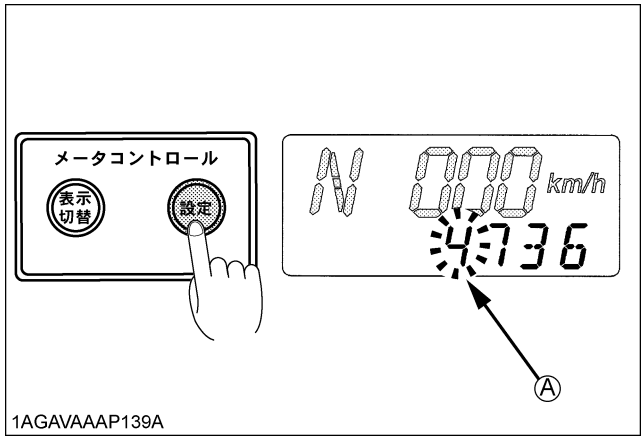


3. 作業切替スイッチを押し，全スイッチランプを消灯させる。（ポジションモード）



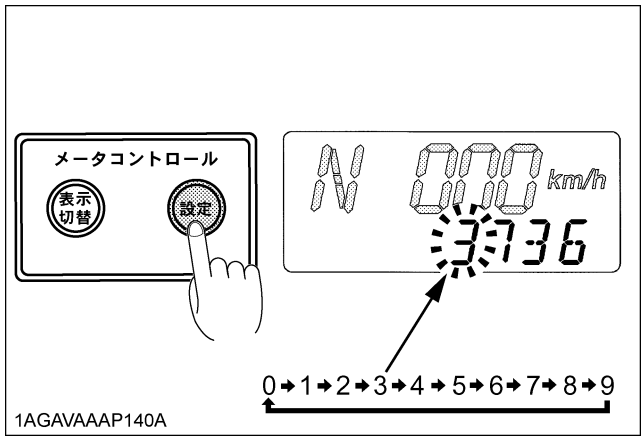
①スイッチランプ

4. 設定スイッチを現状のタイヤ外周長が表示されるまで押す。（約 2 秒）

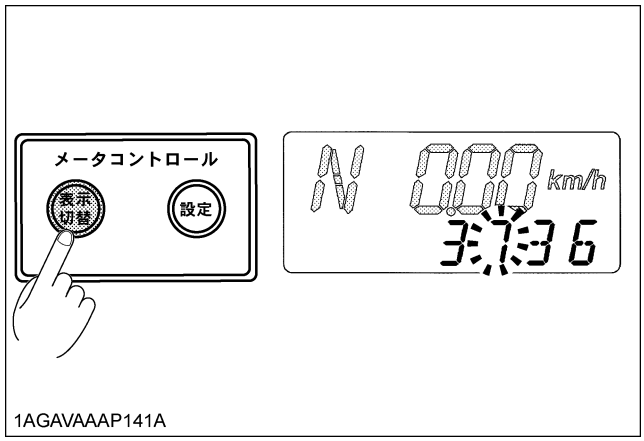


Ⓐ“点滅”

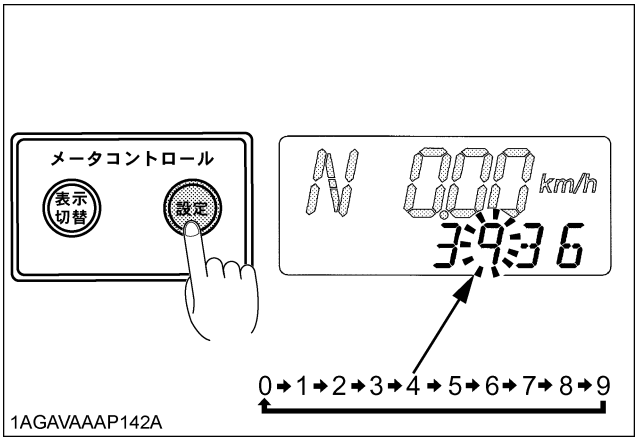
5. 点滅している桁の数字が変更できます。
   設定スイッチを押し **[3]** を選択します。



6. 表示切替スイッチを押し百の桁を選択します。



7. 設定スイッチを押し **【9】** を選択します。



8. 上記 6.7. の手順で（拾）と（壱）の桁を入力します。
9. 入力後，設定スイッチを **【2 秒以上】** 押すと設定が完了します。(アワーメータ又は PTO 表示モードに戻る)
10. キースイッチを **【切】** にします。

補 足

＊ 途中でキースイッチを **【切】** にするとキャンセルされます。
＊ スイッチ操作が 5 秒間以上途切れると初期状態に戻ります。
＊ タイヤが摩耗すると表示車速通りのスピードが出なくなります。
タイヤが著しく摩耗した場合，タイヤ外周長を実測し，再入力してください。

◆ タイヤ外周長一覧表

型式	後輪タイヤサイズ	入力値（周長）mm
GV500	12.4-32	4071
	13.6-28	3910
	13.6-28H	3910
	14.9-28H	4196
GV550	12.4-32	4071
	12.4-32H	4053
	14.9-28H	4196
GV600	12.4-32	4071
	12.4-32H	4053
	14.9-28H	4196
GV650	12.4-36	4372
	12.4-36H	4357
	13.6R36	4441
	13.9-36	4411
	16.9-30	4432
	16.9-30H	4432
GV700 GV750	12.4-36	4372
	12.4-36H	4357
	12.4-38	4504
	13.6R36	4441
	13.9-36	4411
	16.9-30	4432
	16.9-30H	4432

型式	後輪タイヤサイズ	入力値（周長）mm
GV760	12.4-36H	4357
	13.6-38H	4709
	16.9-30H	4432
	13.9-36	4411
	12.4-38	4504
	16.9-30	4432
	13.6R36	4441
	16.9R30	4399
GV850 GV950	13.6-38H	4709
	13.9-36	4411
	12.4-38	4504
	16.9-34	4736
	13.9-38	4670
	18.4-30	4626
	13.6R38	4593
	16.9R34	4704

運転中の作動確認

トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

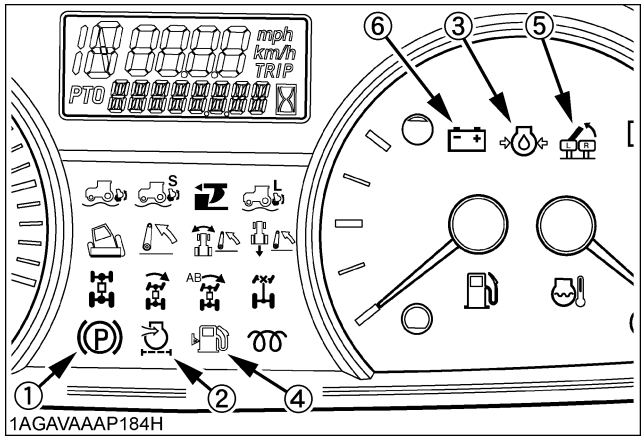
■次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。

1. 回転が急に下降したり上昇したりする。
2. 突然，異常な音をたてた。
3. 排気色が急に黒くなった。

運転中，メータ類に異常がないか，またイージーチェッカランプが点灯していないかを，たえず注意してください。

■イージーチェッカ

運転中イージーチェッカ内の下記警告ランプが点灯したとき，すみやかにエンジンを止め，点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは，購入先にご相談ください。



①Ⓟ駐車ブレーキ警告灯

駐車ブレーキが掛かっているとき，点灯して警告します。
点灯したままのときは，駐車ブレーキが掛かった状態になっていないか確認してください。

② エアクリーナ目詰まり警告灯

フィルタの目詰まりが多くなったとき点灯して警告します。
点灯したままのときは，フィルタの点検・清掃をしてください。

③ エンジンオイル油圧警告灯

エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。
点灯したままのときは，直ちにエンジンを止めてエンジンオイル量及び潤滑油系統を点検してください。

④ 燃料残量警告灯

燃料の残量が下表の数値以下になったとき点灯して警告します。
点灯したままのときは燃料を補給してください。

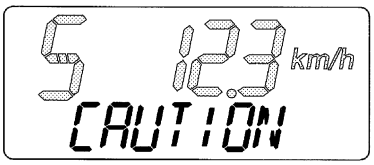
機　種	残　量
GV500・550・600	14 L
GV650・700・750 760・850・950	24 L

⑤ ブレーキペダル連結解除警告灯

ブレーキペダル連結金具を外すと警告灯が点灯します。
道路走行時などは連結金具をかけ警告灯の消灯を確認してから走行してください。

電子メータメッセージ

＊ ブレーキペダル連結金具を外したまま，車速が10km/hを超えるとブザーが1回鳴ります。同時に⚠警告ランプが点灯し，下記メッセージも表示されます。



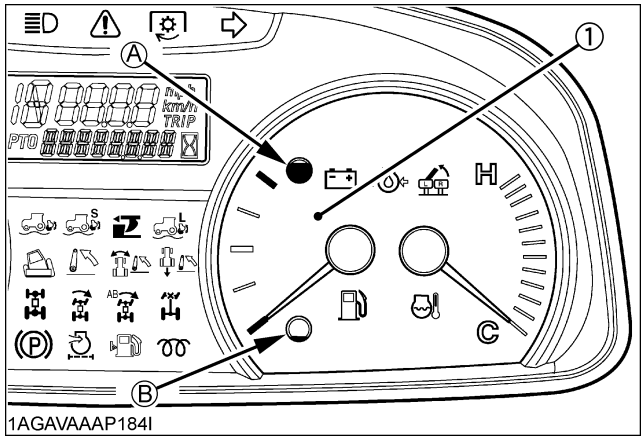
1AGAVAAAP132A

⑥ チャージランプ

充電系統に異常があれば，エンジン回転中ランプが点灯して警告します。

■燃料計

指針が**下方向**に近づいたら早めに燃料を補給してください。
からにすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。
（**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）



1AGAVAAAP184I

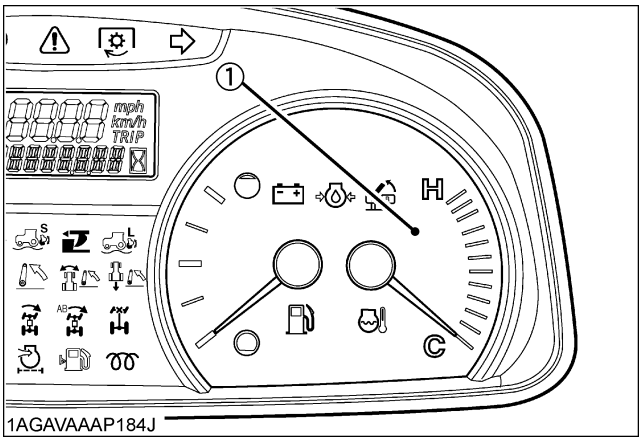
①燃料計　　**Ⓐ“満タン”**　**Ⓑ“空”**

■水温計

注　意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

指針が **[H]** を示すとき，または電子メータパネルの液晶表示に **[OVERHEAT]** と **[Eng SLOW]** が交互に表示されたときは，オーバヒート状態ですから下記に従って点検してください。



①水温計

◆ オーバヒートしたときの処置

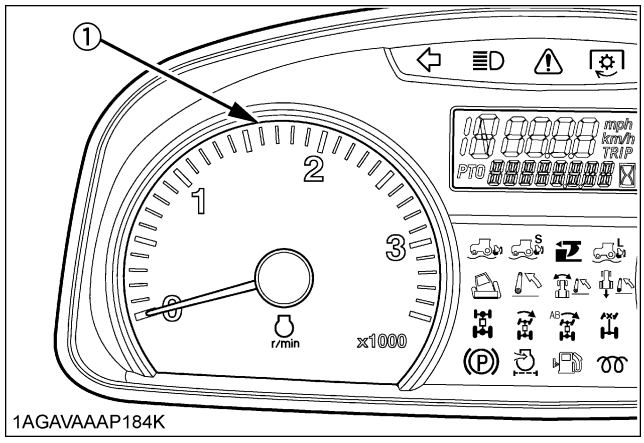
1. 作業を中止し，
2. エンジンをアイドリング回転にし(約5分間)，メッセージ表示が **[Eng STOP]** と **[CHEK]** の交互表示に変わってから
3. エンジンを停止し，停止後 30 分以上たって冷えてから，次の点検・整備をしてください。

   (1) リザーブタンク，ラジエータの冷却水の量（不足），及び水もれがないか。
   (2) フロントグリル，防虫網及びラジエータフィンとチューブの間に，泥やゴミが付着していないか。
   (3) ファンベルトのゆるみがないか。

重　要

- ラジエータのオーバフローパイプから蒸気が噴き出たら，前記 **[オーバヒートしたときの処置]** を行なってください。

■回転計



①エンジン回転計

◆ エンジン回転計

1 分間のエンジン回転数を示します。

補　足

＊ PTO 回転数は，メッセージ表示部に表示させることができます。
（**[電子メータパネルの取扱い]** の **[表示の切換え]** の項を参照）

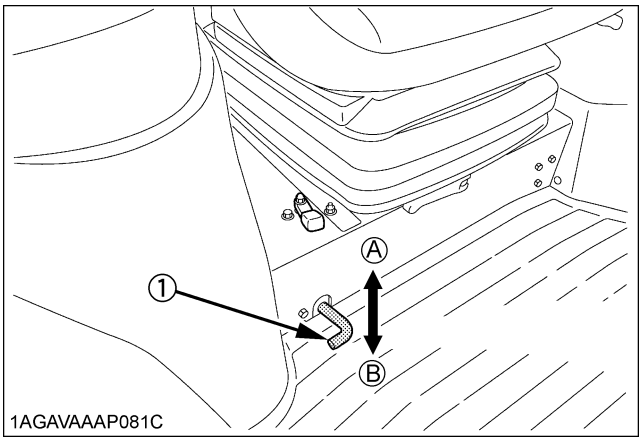
デフロックの使い方

■後輪デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏込む……ロックされる。

ペダルから足を離す…自動的に外れる。



①デフロックペダル　　**Ⓐ“離す”（解除）**
Ⓑ“踏む”（ロック）

◆ デフロックの使い方

注　意

＊ デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。
＊ 道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

デフロックは，下記のような場合に役立ちます。

1. 農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。
2. 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。
3. プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。

重　要

＊ デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。
＊ 抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
＊ 使用しないときは，足をペダルにのせないでください。

■前輪デフロックスイッチ

[GV760・850・950]

デフロックは，下記のような場合に役立ちます。

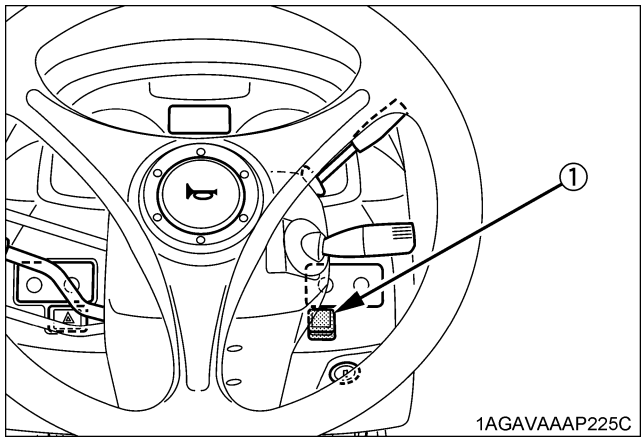
1. 農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。
2. 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。
3. プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。
4. 軟弱な農場内で旋回するときに，前輪がスリップして旋回が困難になったとき。

左右の前輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。

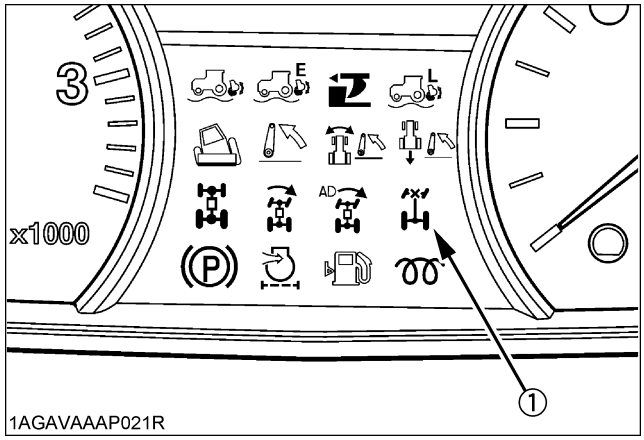
前輪駆動又は倍速ターン**【入】**の状態で，

スイッチを押す……　スイッチランプが点灯し，前輪デフロック**【入】**の状態でロックされる。

スイッチを再度押す…　ランプが点灯し，自動的にデフロックが解除される。



①前輪デフロックスイッチ



①前輪デフロックランプ

重　要

＊ デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。

旋回のしかた

注　意

＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと旋回してください。

坂道での運転

警　告

＊ ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
＊ 坂道では主変速を［中立］にしたり，クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。
＊ 急な坂では途中で変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。

1. 坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
2. 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
3. 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

ほ場への出入り時の注意

警　告

＊ 左右のブレーキペダルは，必ず［連結］しておいてください。
＊ ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。
あゆみ板などを利用してください。
＊ ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。
＊ ほ場への出入りの際は，あらかじめ遅い車速で運転し，途中で変速しないでください。

注　意

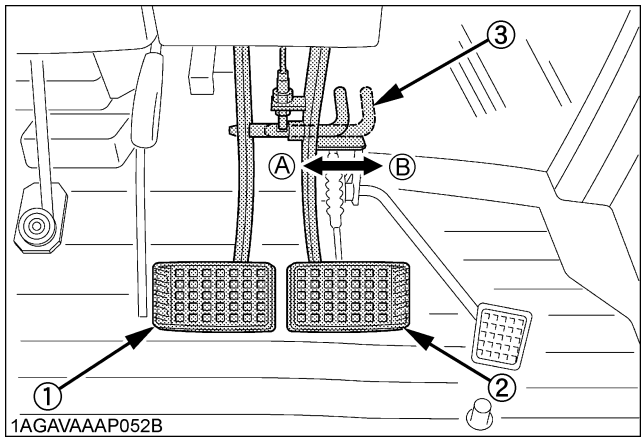
＊ 走行モード切換スイッチは[2WD]又は[4WD]にしてください。
＊ AB スイッチは［切］にしてください。

1. 作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
2. あぜを上がるとき，4 輪駆動の特色を生かして，バックであがると格段にあがる能力が増します。

道路走行中の注意

警　告

＊ 道路を走行するときは，左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
連結しないと，ブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの事故を引起こすおそれがあります。



①ブレーキペダル（左）　**Ⓐ“連結（ロック）”**
②ブレーキペダル（右）　**Ⓑ“解除”**
③連結金具

注　意

＊ 道路を走行するときは，関係法規を守り安全運転をしてください。
＊ 運転者のほかは乗せないようにしてください。
転落事故の原因になります。
＊ 溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意してください。
＊ トラクタは，ロータリなどの作業機を装着して公道を走行できません。
[道路運送車両法の保安基準]
(作業機を装着して道路を走行すると，他の車・電柱又はガードレールなどにロータリを引掛けて，事故の原因になります。)
＊ 道路走行時には傾き自動切替スイッチを必ず［切］(位置制御）にして走行してください。[M 仕様]
＊ ポジションレバーを［走行ロック位置］にして，油圧ロックレバーを［油圧ロック］位置にしてください。
＊ クイックアップランプの消灯を確認してください。
＊ 作業切替スイッチを［ポジション位置］にしてください。

1. 公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
2. 夜間走行中,対向車とすれちがうときは,ヘッドライトを下向き照射にし，対向車の妨害にならないように注意しましょう。
3. 踏切では，必ずいったん停止し，左右の確認をしてから，速やかに渡ってください。

補　足

＊ 作業灯は**[道路運送車両の保安基準]** 第 42 条（灯火の色等の制限）において,**[走行中に使用しない灯火]**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

トラックへの積み・降ろし

注　意

＊ あゆみ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が 15 度以下になる長さ：トラック荷台高さの 4 倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ 積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。

トラックへの積込みは,必ず左右のブレーキペダルを**[連結]**しバックで行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

パワーステアリングの取扱い

注　意

＊ パワーステアリングはエンジン運転中，ハンドル操作が大変軽くなりますので，走行は慎重に行なってください。

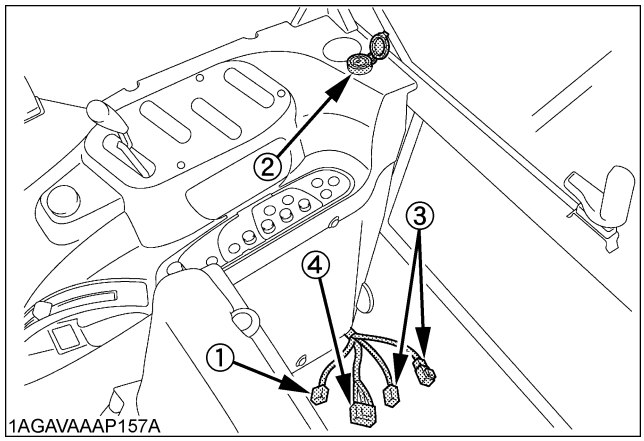
重　要

＊ パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。
＊ ローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。
＊ ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音（リリーフ音）が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。（ 短い時間ではかまいません。）また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。
＊ 不必要なハンドルのスエ切り（ 走行しないでハンドルを切る ）は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。
＊ 冬期は暖機運転を十分行なってから使用してください。

外部電源取出端子

■電源取出し

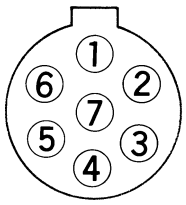
シート後部に各種電源取出しを設けてあります。



①ローダ用電源カプラ（15A）
②電源取出しソケット（15A）
③予備電源カプラ（30A）
④トレーラカプラ

トレーラ用カプラ（オプション）

1. トレーラと連結時に用いる電源カプラは別途購入してください。
   (オプション)
2. 電源は右図のとおりです。



1AGAVAAAP1860

トレーラハーネス	トレーラハーネス (ヨーロッパタイプ)
①アース ②尾灯（8W） 車幅灯（8W） 駐車灯（8W） ③方向指示器左(23W) ④制動灯（23W × 2） ⑤方向指示器右(23W) ⑥予備 ⑦後退灯（10W）	①方向指示器左(23W) ②後退灯（10W） ③アース ④方向指示器右(23W) ⑤尾灯（8W） 車幅灯（8W） 駐車灯（8W） ⑥制動灯（23W × 2） ⑦予備

ローダ作業を安全に行なうために！

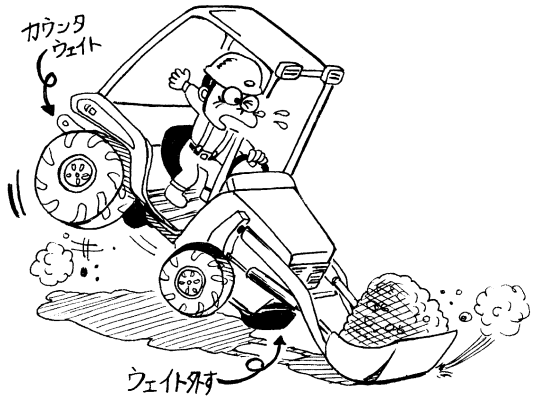
ローダ作業時の転倒事故を防止するために，次のことがらを必ず守ってください。

1.トラクタ後部にカウンタウエイトを取付ける！

トラクタの後部に，三点リンクを利用して適正量のカウンタウエイトを取付け，前・後進のバランスを保つようにしてください。

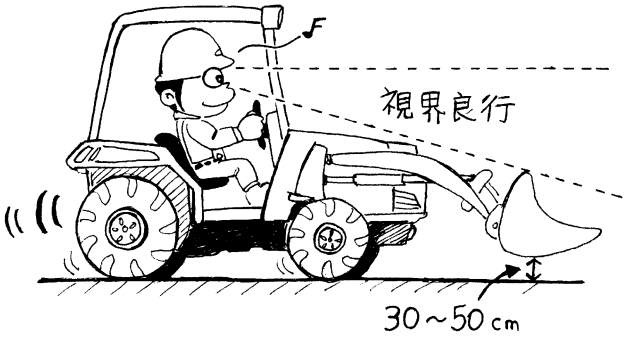
適正カウンタウエイト量（ロアーリンク先端）	
GV500･550･600･650･700･750	600kg
GV760･850･950	800kg

※純正フロントローダ装着時



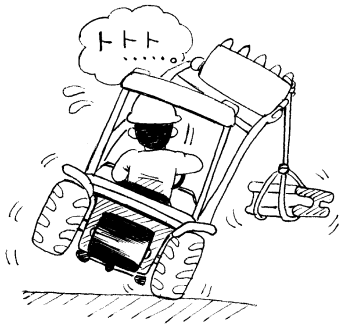
2.運搬はローダを低く下げてゆっくり走行する！

運搬・走行するときは，積荷の高さを地上から30～50cmにし，速度も５km/時以下で走行してください。特に傾斜地・悪路では，速度をひかえめに慎重に走行してください。



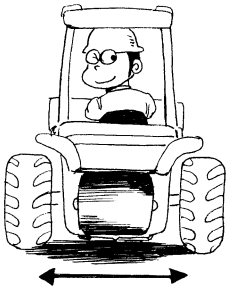
3.片持ち作業をしない！

片持ち作業はトラクタ横転の原因になりますので，荷物は左・右片寄らないようにバランスよく載せてください。



4.後輪トレッドはできるだけ広げる！

作業時はトラクタの安全性を増すため，後輪トレッドはできるだけ広げてください。



5.フロントローダ作業中はABや倍速ターンを絶対に使用しないでください。

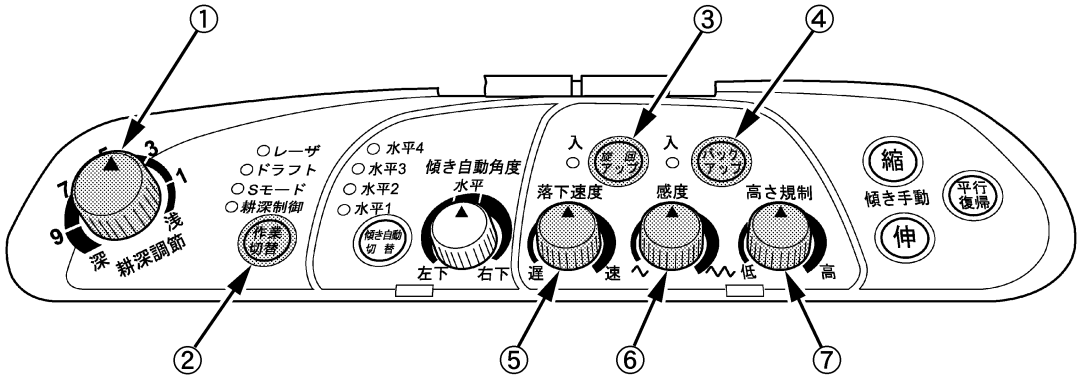
★以上，ローダ作業での転倒事故を未然に防いでいただくために，主だった注意事項を挙げました。これ以外にもローダの［**取扱説明書**］をよく読んで安全に作業をしてください。

油圧・三点リンク・PTO

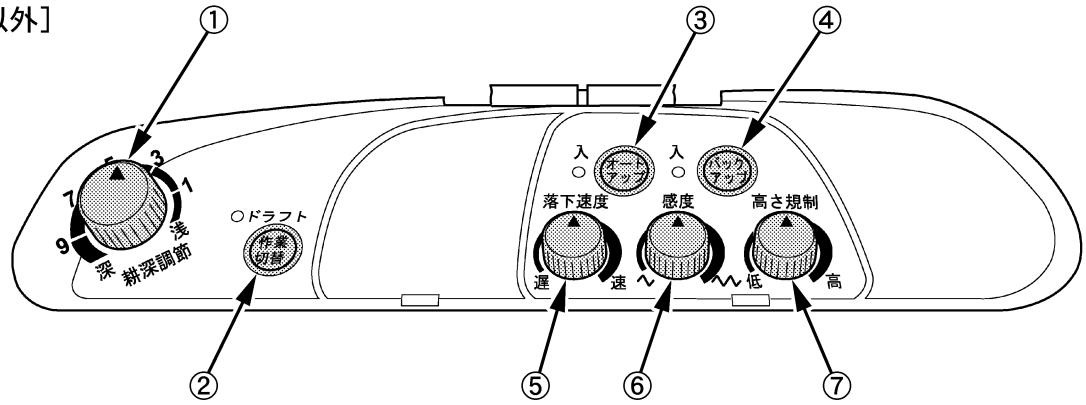
作業機昇降装置

■各部の名称

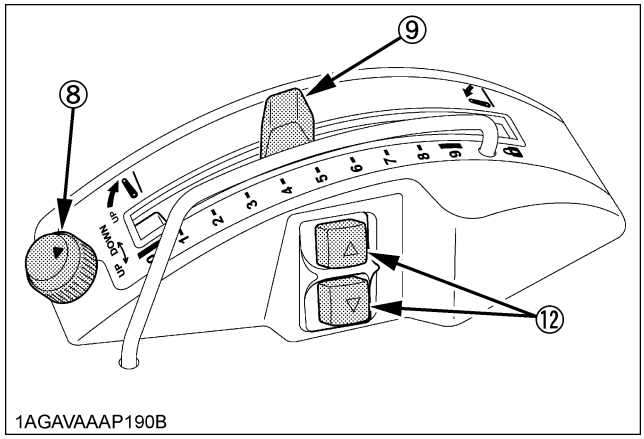
［M仕様］



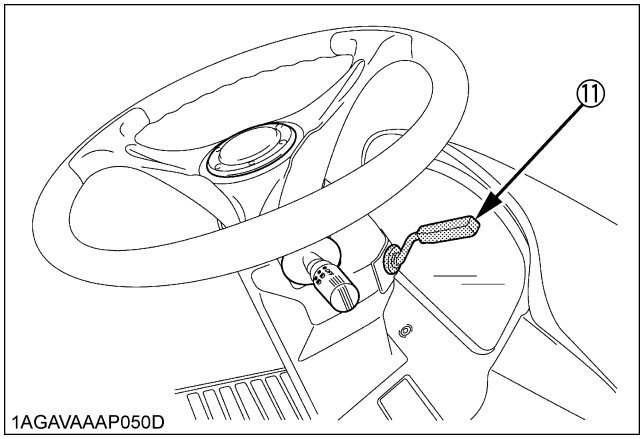
［M仕様以外］



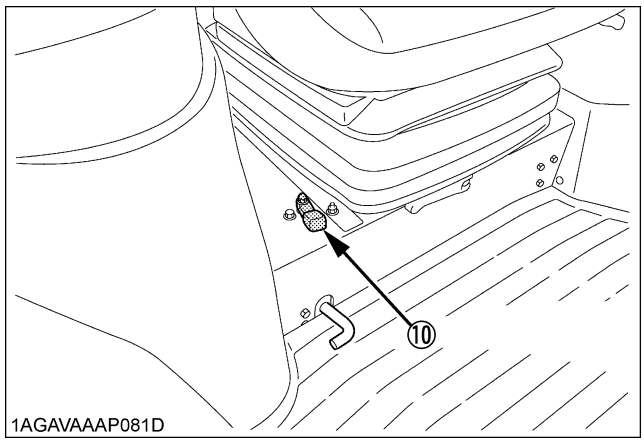
1AGAVAAAP274A



1AGAVAAAP190B



1AGAVAAAP050D

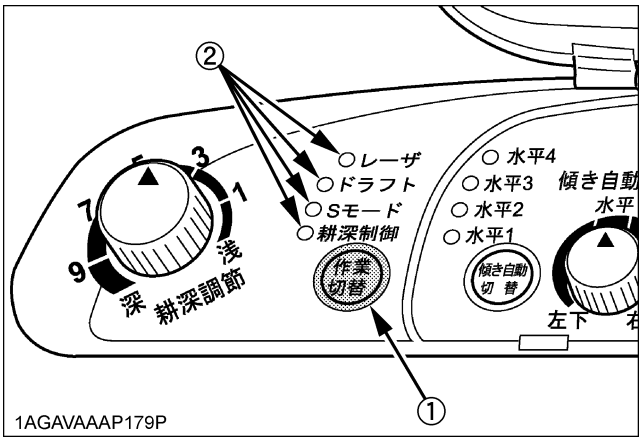


1AGAVAAAP081D

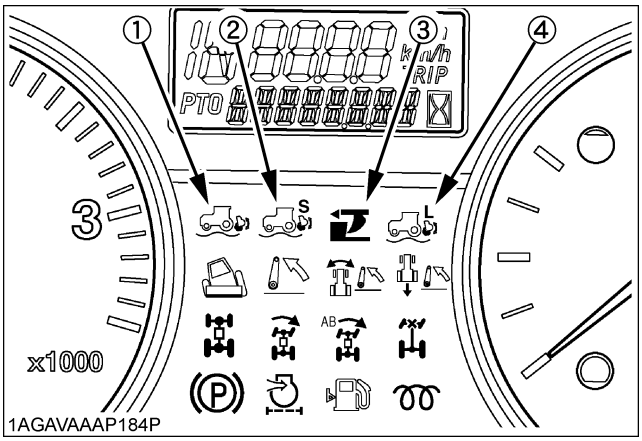
①耕深調節ダイヤル
②作業切替スイッチ
③旋回アップ（オートアップ）スイッチ
④バックアップスイッチ
⑤作業機落下速度調整ダイヤル
⑥感度調整ダイヤル
⑦高さ規制調整ダイヤル
⑧下限規制ダイヤル
⑨ポジションレバー
⑩油圧ロックレバー
⑪クイックアップレバー
［GV500・550・600・650・700・750］
［GV760・850・950（逆転PTO付きM仕様）］
⑫クイックアップスイッチ［GV760・850・950］

■作業切替スイッチ

スイッチを押すごとに
耕深制御→ S モード→ドラフト→レーザ→
ポジション→耕深制御→
の順に切換ります。作業に応じ選択してください。スイッチでの選択状態はスイッチランプとメータパネル内のモニタランプで確認できます。なお，全ランプ消灯時は**［ポジションコントロール］**となります。



①作業切替スイッチ
②スイッチランプ



①耕深制御
②Ｓモード
③ドラフト
④レーザ

補　足

＊ 耕深制御用作業機（ロータリ）やレーザ用信号が接続されていない場合，**［耕深制御］**や**［レーザ］**は選択できません。（表示ランプは点灯しません）
＊ メータパネル内のランプが**［点滅］**をしたときは，**［ランプ表示一覧］**を参照してください。

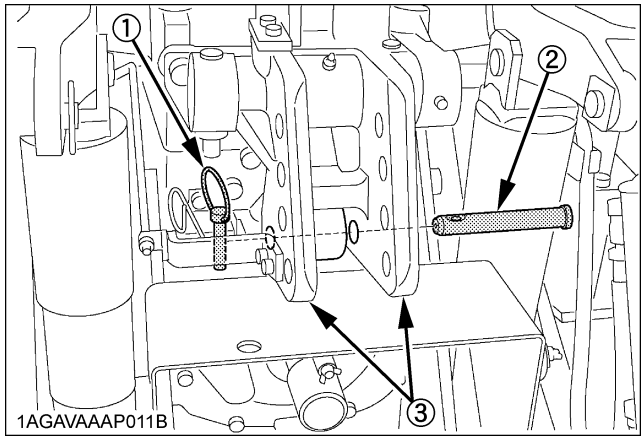
◆ モード別作業例

作業に応じ作業切替スイッチの切換えを行なってください。

作業切替スイッチ	作業例
耕深制御	耕深制御耕うんが可能なロータリを装着しての，一般耕うん，代かき作業に使用します。
S モード	ロータリカバーを上げたままで行なう，耕深制御作業に使用します。（耕深制御未対応の一般ロータリも使用可）
ドラフト	プラウ，サブソイラなどのけん引作業に使用します。
レーザ	オプションのレーザ作業機を装着しての均平作業に使用します。
ポジション	耕深制御，S モード，ドラフト，レーザの**［自動］**が解除されポジションコントロールになります。耕深制御耕うん**［切］**での一般ロータリ耕作業などに使用します。

■ドラフトストッパピン

プラウ作業などドラフトコントロールを使用する場合は，トップリンクホルダのストッパピンを抜いてください。
ドラフトコントロールを使用しない場合は，ストッパピンを入れてください。



①ロックピン
②ストッパピン
③トップリンクホルダ

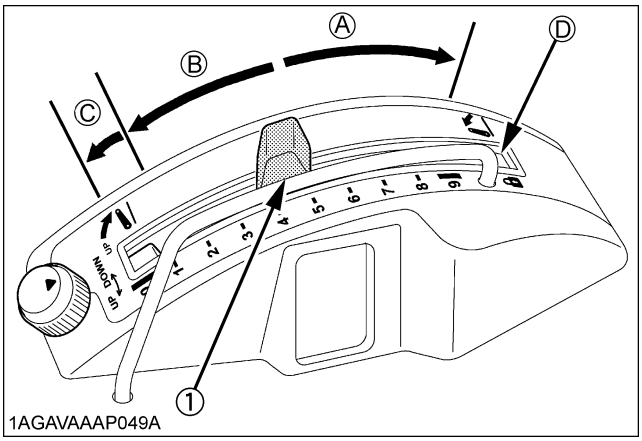
補　足

＊ ストッパピンを外したまま，ロータリ耕うんを行なうと，耕深制御が正常に作動しない場合があります。

■ポジションレバー

◆ ポジションコントロールとして使用の場合

1. ポジション範囲Ⓐ, Ⓑでは，作業機が任意の位置に保たれます。
2. フローティング範囲Ⓒでは，作業機はいっぱいに下がります。



①ポジションレバー

Ⓐ“上がる”
Ⓑ“下がる”
Ⓒ“フローティング”
Ⓓ“走行ロック位置”

補　足

＊ 走行時はポジションレバーを**［走行ロック位置（D)］**に入れ，不意の操作による急落下を防いでください。

◆ ポジションレバーの取扱い特性

1. エンジン停止後，キースイッチを**［入］**にしてポジションレバーを**［前方に倒す］**と，作業機は下降します。
2. 高さ規制調整ダイヤルで上昇高さを制限しているときは,制限位置までしか上昇しません。（詳細は**[高さ規制調整ダイヤル]**の項を参照）

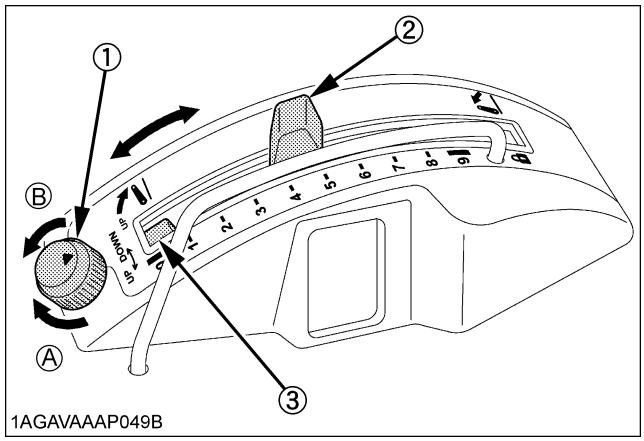
◆ 各作業モード（耕深制御，S モード，ドラフト，レーザ）を使用の場合

1. ポジションレバーをフローティング範囲Ⓒに下げても，作業機は耕深調節ダイヤルで設定した位置以下には下がりません。（レーザモードは受光位置）
2. 耕深ダイヤルで設定位置よりも，ポジションレバー位置が**【浅】**側にある時は，ポジションレバー位置まで下降します。

■下限規制ダイヤル

三点リンクの下降下限位置を変えるときに使用します。

1. ダイヤルを**【UP】**側に回すと，ポジションレバーのストッパ位置の下限高さが高くなります。
2. ダイヤルを**【DOWN】**側に回すと，ポジションレバーのストッパ位置の下限高さが低くなります。



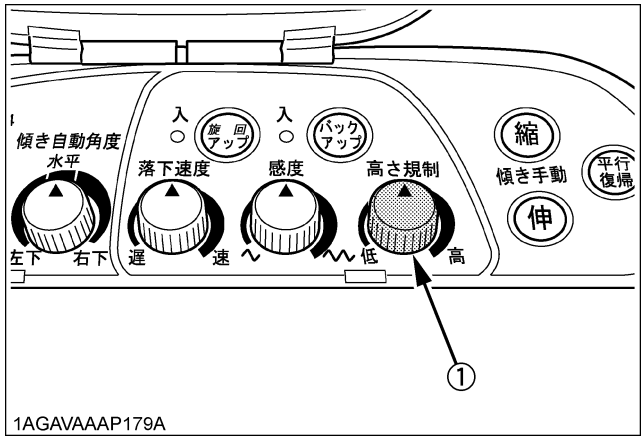
①下限規制ダイヤル
②ポジションレバー
③下限ストッパ

Ⓐ“高くなる (UP)”
Ⓑ“低くなる (DOWN)”

■高さ規制調整ダイヤル

三点リンクの上昇上限位置を変えるときに使用します。

1. ダイヤルを**【高】**にすると，三点リンクの上昇規制高さが高くなります。
2. ダイヤルを**【低】**方向に回すとは，三点リンクの上昇規制高さが低くなります。



①高さ規制調整ダイヤル

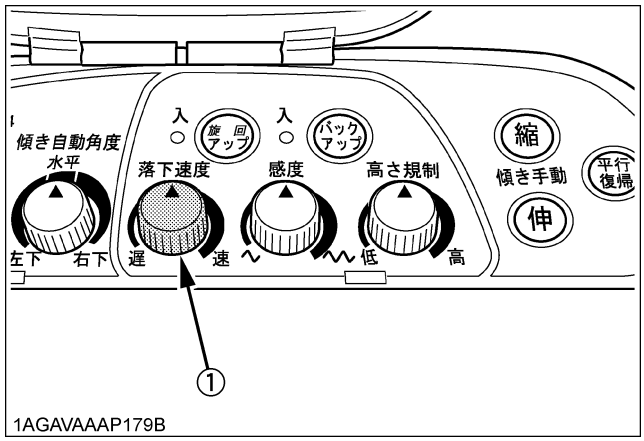
補　足

＊ 高さ規制調整ダイヤルにより，クイックアッププレバー及びポジションレバーでの上げ位置を任意の高さに規制できます。

■作業機落下速度調整ダイヤル

三点リンクの落下速度を変えるときに使用します。

1. ダイヤルを**【速】**にすると，三点リンクの落下速度が速くなります。
2. ダイヤルを**【遅】**にすると，三点リンクの落下速度が遅くなります。



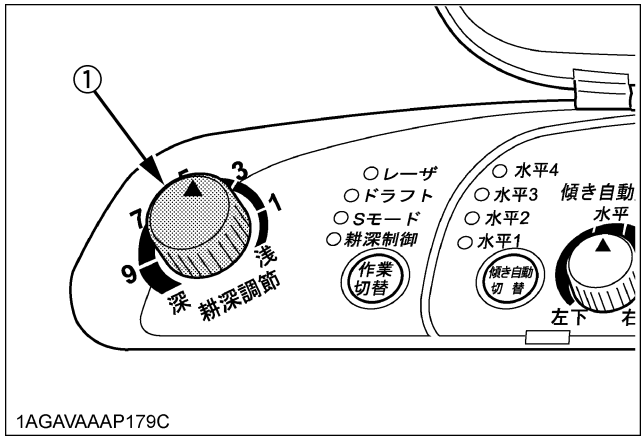
①作業機落下速度調整ダイヤル

補　足

＊ このダイヤルでは，**【油圧ロック】**を完全にはできません。
走行時やロータリなどの作業機を点検する場合は，必ずシート下の油圧ロックレバーでロックしてください。

■耕深調節ダイヤル

各作業モード（耕深制御，S モード，ドラフト，レーザ）を使用の場合，このダイヤルで作業機の耕深を設定してください。



①耕深調節ダイヤル

1. ダイヤルを**【浅】**方向へ回すと，プラウ・ロータリなどの耕深が浅く保持されます。
2. ダイヤルを**【深】**方向へ回すと，プラウ・ロータリなどの耕深が深く保持されます。

補　足

＊ ダイヤルを**【深】**方向へいっぱい回すと，フローティング範囲になります。また**【浅】**方向へいっぱい回すと作業機が上端近くまで上昇します。
＊ ポジションモードでは，耕深調節ダイヤルは作動しません。

◆ ドラフト耕深調節ダイヤルとして使用する場合

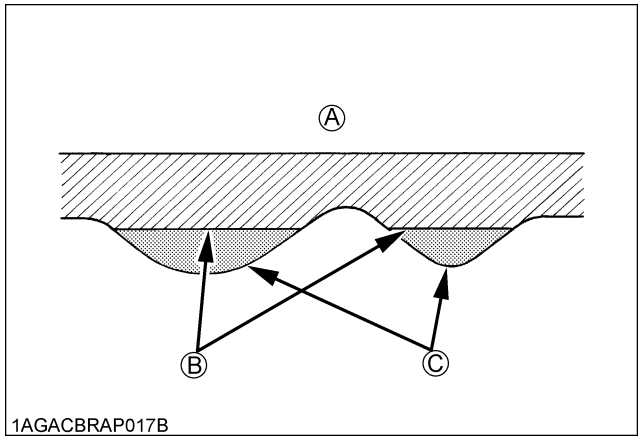
1. ポジションレバーを下げ，ダイヤルを**【浅】**方向へ回すと，プラウの耕深が浅く保持され，**【深】**方向へ回すと，プラウの耕深が深く保持されます。
2. 旋回時など作業機を上げるときは，ポジションレバー又は ，クイックアップレバーで行なってください。

◆ ワンタッチフローティング機能

クイックアップレバーを下げ続けている間はフローティング状態となり，プラウ作業のスキ込み時などに使用すると有効です。
またクイックアップレバーから手を離すと，ドラフト制御位置まで戻ります。

◆ ミックスコントロール

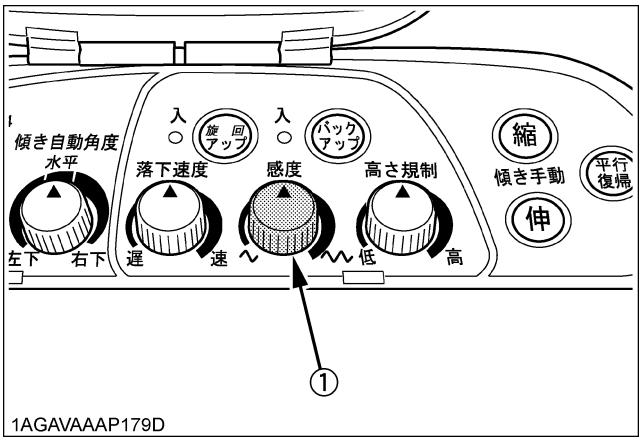
ポジションレバーで作業機の降下位置を規制し，耕深調節ダイヤルでけん引抵抗に応じた制御をするという 2 つのコントロールをします。軟弱な土質でのプラウ・サブソイラなどの作業に適しています。



Ⓐ“地表面”
Ⓑ“降下を制御する”
Ⓒ“軟弱で抵抗が小さい”

■感度調整ダイヤル

各作業モード（耕深制御，S モード，ドラフト，レーザ）を使用の場合，感度調整ダイヤルにより，負荷の変化量に対する作業機の動き量を調整することができます。



①感度調整ダイヤル

◆ 耕深制御や S モード選択時，一般耕起作業では下記を目安に調整してください。

感度調整ダイヤル	∿（左回し）	∿∿（右回し）
三点リンクの動き	鈍感←――→敏感	

- 敏感で作業をしてうねりが生じる場合，感度を**【鈍感】**側に調節してください。

◆ ドラフト選択時，一般けん引耕起作業では下記を目安に調整してください。

感度調整ダイヤル	∿（左回し）	∿∿（右回し）
耕深	浅く起こす ←――→	深く起こす
土質	軽い←――→重い	
ほ場の起伏	小 ←――→ 大	
（感度の目安）	（鈍）←――→（敏）	

補　足

＊ 感度調整ダイヤルを調整すると，耕深が多少変化します。
調整後は，耕深調節ダイヤルで耕深を再設定してください。

■クイックアップレバー（スイッチ）

クイックアップスイッチ： GV500・550・600・650・700・750 はオプション

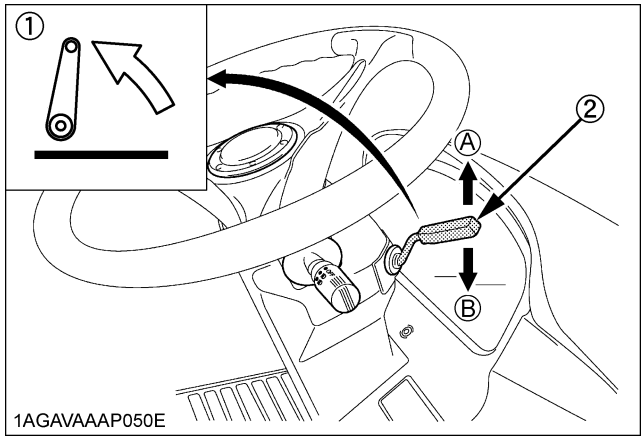
クイックアップレバー　： GV760・850・950 はオプション

(GV760・850・950 の逆転 PTO 付き M 仕様のみ，クイックアップレバー，クイックアップスイッチ共に標準装備)

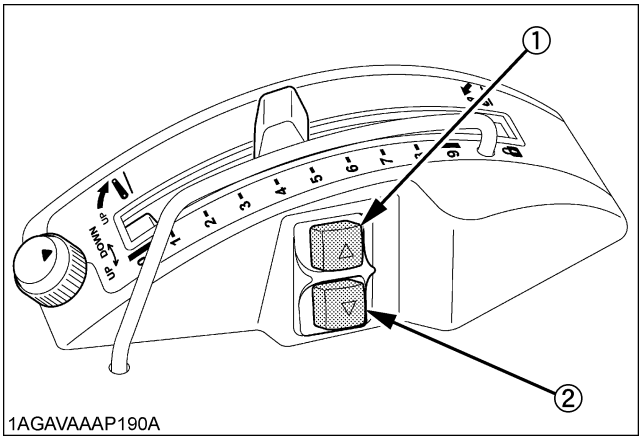
注　意

＊ 走行中は必ずポジションレバーを[走行ロック位置]にして，油圧ロックレバーを［油圧ロック］位置にしてください。
＊ ほ場内作業以外では，クイックアップを使用しないでください。
＊ クイックアップアップ状態で道路走行しないでください。
ほ場外（移動など）ではポジションレバーを使用してください。

クイックアップレバーとスイッチは同じ作動をします。また，この機能は併用できます。
レバーのワンタッチ操作で作業機を上下させる装置です。ほ場内での旋回操作が便利になります。
レバー上げる又はスイッチの**【上げ】**を押す
（クイックアップランプ点灯）… 作業機上昇
レバー下げる又はスイッチの**【下げ】**を押す
（クイックアップランプ消灯）… 作業機下降



①クイックアップランプ　Ⓐ“上げる”
②クイックアップレバー　Ⓑ“下げる”



①クイックアップスイッチ［上げ］
②クイックアップスイッチ［下げ］

補　足

＊ クイックアップレバー（スイッチ）はスイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。
＊ 新しい作業機を装着したときは，クイックアップレバー（スイッチ）ではなく，ポジションレバーを使って作業機を上げて，作業機がトラクタに当たらないことを確認してください。
＊ クイックアップレバー（スイッチ）操作時，ブザー音が 1 回鳴ります。
＊ クイックアップランプが点滅している場合，ポジションレバーは又はクイックアップレバー（スイッチ）を操作し，クイックアップランプの**［点滅を解除］**してから使用してください。
クイックアップレバー（スイッチ）で解除時，ブザーが 2 回鳴ります。

◆ クイックアップの上手な使い方

1. 三点リンク作動範囲の規制

ポジションレバーで下限位置，高さ規制調整ダイヤルで上限位置を設定しておくと，クイックアップ制御はその設定した範囲内で上昇・下降します。

2. ワンタッチフローティング機能

作業切替スイッチで**［ドラフト］**選択時，クイックアップレバー（スイッチ）を下げ側に押している間はフローティング状態となり，プラウ作業のスキ込み時などに使用すると有効です。
またレバー（スイッチ）から手を離すと，ドラフト制御位置まで戻ります。

3. クイックアップレバー（スイッチ）による上昇及び下降途中でのクイックアップレバー（スイッチ）の操作

1. クイックアップによる上昇途中，クイックアップレバー（スイッチ）を**［下げ］**側に操作すると，その位置で停止します。(クイックアップランプ点灯)その後再度レバー(スイッチ）を操作すると昇降します。
2. クイックアップによる上昇途中に三点リンクを下げたいときは，クイックアップレバー(スイッチ）を下降側に**［1 秒間］**押し続けるか，続けて**［2 度］**押します。
3. クイックアップによる下降途中にクイックアップレバー（スイッチ）を**［上げ］**側に操作すると**［上昇］**します。

■三点リンクの安全ロック機能

◆ 安全ロック

ポジションレバー位置とロアーリンク位置が異なる状態で以下の操作を行なったときには，安全ロックが働き，自動制御が停止し，クイックアップランプが点滅（1 秒間に約 1 回点灯）します。
1. エンジン始動時
2. 三点リンク外部操作スイッチ操作時
3. 作業切替スイッチ切換え時

◆ 安全ロックの解除

安全ロック状態のときには，以下のいずれかの操作で解除してください。
解除後は，クイックアップランプの消灯または，点灯を確認してください。
1. ポジションレバーをロアーリンク高さに一致する位置まで動かす。(クイックアップランプ消灯)
2. クイックアップレバー(スイッチ)**［上げ］**る。(クイックアップランプ点灯，ブザーが 2 回鳴る)

補　足

＊ ポジションレバーで解除する場合は，解除と同時に三点リンクが上昇又は下降するため，充分に注意してください。
＊ クイックアップレバー（スイッチ）**［上げ］**で解除する場合は，高さ規制調整ダイヤルで設定した位置まで上昇するため，充分注意してください。
＊ 耕深調節ダイヤルが**［浅］**く，高さ規制ダイヤルが**［低］**く設定されていると，上記の 1. 2. で解除できない場合があります。そのときはエンジンを停止（キースイッチを**［切］**にする）させ，耕深調節ダイヤルを**［深］**，高さ規制ダイヤルを**［高］**に設定してからエンジンを始動して，上記 1. 2. で解除してください。

■旋回アップ（オートアップ）スイッチ

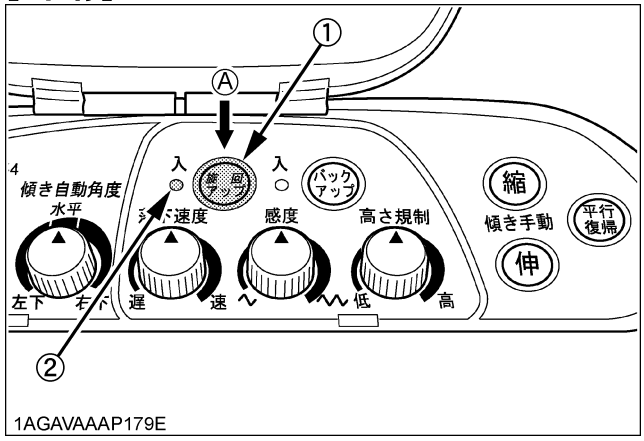
注　意

＊ 危険防止のため，旋回アップ（オートアップ）の使用は，ほ場内作業のみにしてください。
＊ 旋回アップ（オートアップ）で作業する場合は，ランプが点灯していることを確認してください。ランプが消灯しているときは，作業機は自動で上昇しません。この状態で旋回すると，作業機を引きずり，障害事故を引起すおそれがあります。
＊ スイッチの操作はエンジンを始動したあとに行なってください。エンジン始動によりバッテリ電圧が一瞬下がりますので，スイッチの操作が無効になる場合があります。

◆ 旋回アップ（オートアップ）の使い方

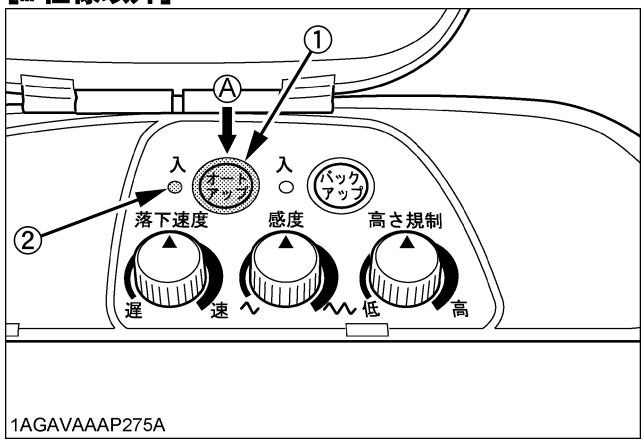
1. 旋回アップ（オートアップ）スイッチを押し**［入］**にします。
   旋回アップ（オートアップ）**［入］**のとき メータパネルの旋回アップ（オートアップ）ランプが点灯します。
2. 隣接耕うん作業での旋回時，ステアリングハンドルを回すと，作業機が自動で上昇し，ほ場内での旋回操作が簡単にできます。
   （上昇時ブザー音が 1 回鳴ります。）
3. 作業機を下げるときは，クイックアップレバー又はポジションレバーで行なってください。
4. 旋回アップ（オートアップ）スイッチを再度押すと，旋回アップ（オートアップ）が**［切］**となります。
   （旋回アップ（オートアップ）ランプ消灯）

［M 仕様］

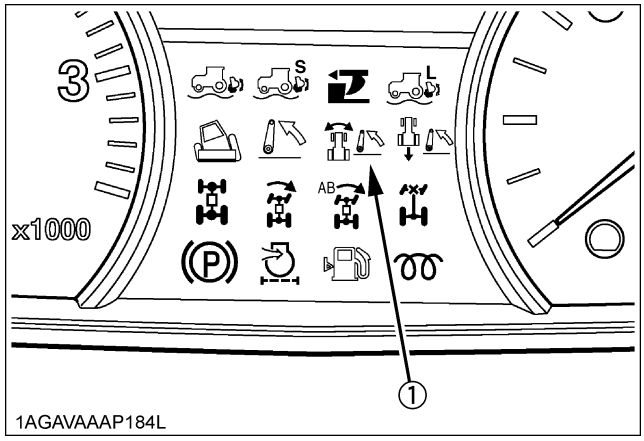


①旋回アップスイッチ　　Ⓐ“押す”
②スイッチランプ
（旋回アップ入時　点灯）

［M 仕様以外］



①オートアップスイッチ　　Ⓐ“押す”
②スイッチランプ
（オートアップ入時　点灯）



①旋回アップ（オートアップ）ランプ

◆ 旋回アップ（オートアップ）の作動条件

作業切替スイッチ	シャトルレバー	PTO クラッチコントロールスイッチ
耕深制御 S モード	前進	入（ON）
ドラフト レーザ ポジション	前進	—

補　足

＊ 隣接耕うん作業以外では，旋回アップ（オートアップ）スイッチを**［切］**にしてください。
＊ 三点リンクが安全ロック状態では作動しません。

■バックアップスイッチ

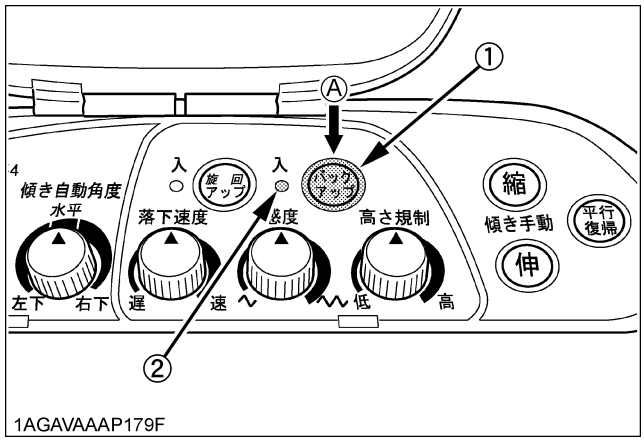
バックアップを**［入］**にしておくと，後進時作業機が自動的に上昇し，**［うっかりバック］**からの作業機の損傷を防ぎます。

注　意

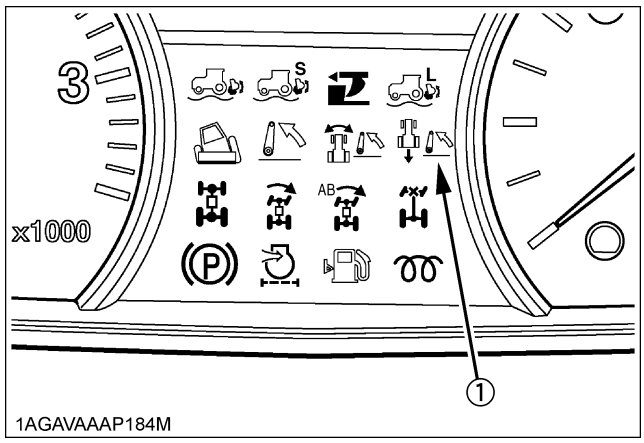
＊ スイッチの操作はエンジンを始動した後に行なってください。エンジン始動によりバッテリ電圧が一瞬下がりますので，スイッチの操作が無効になる場合があります。

◆バックアップの使い方

1. バックアップスイッチを押し**［入］**にします。バックアップ**［入］**のとき，メータパネルのバックアップランプが点灯します。
2. シャトルレバーを後進に入れると，作業機が自動で上昇します。
3. 作業機を下げるときは，クイックアップレバー又はポジションレバーで行なってください。
4. バックアップスイッチを再度押すと，バックアップが**［切］**となります。
（バックアップランプ消灯）



①バックアップスイッチ　　Ⓐ“押す”
②スイッチランプ
（バックアップ入時　点灯）



①バックアップランプ

補　足

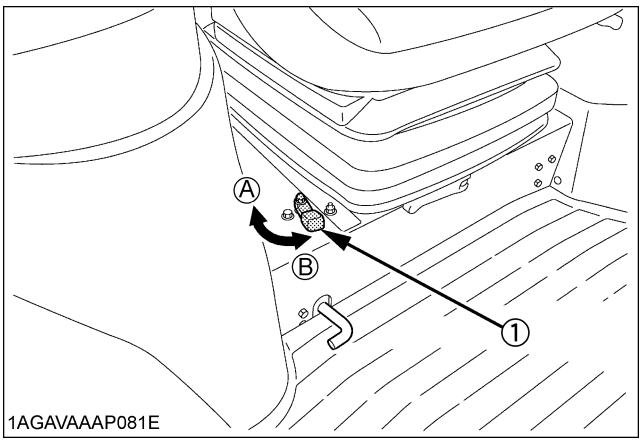
＊ 三点リンクが安全ロック状態ではバックアップは作動しません。

■油圧ロックレバー

注　意

＊ ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず油圧ロックレバーで，作業機が落下しないようにロック（停止）してください。
＊ 油圧ロックレバーでロックした後，ポジションレバーを［前方に倒して］，作業機が落下しないことを必ず確認してください。
＊ ロックするとともに適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし，落下防止を行なってください。

三点リンクの下降**［ロック］**と**［解除］**を切換えるときに使用します。
作業時……**［速］**位置にします。
走行時や作業機を上げて点検するとき
……**［遅・停］**位置にします。



①油圧ロックレバー　　**Ⓐ“油圧ロック（遅・停）”**
Ⓑ“解除（速）”

補　足

＊ 作業機落下速度の調節は，油圧操作パネルの**［作業機落下速度調整ダイヤル］**で行ないます。

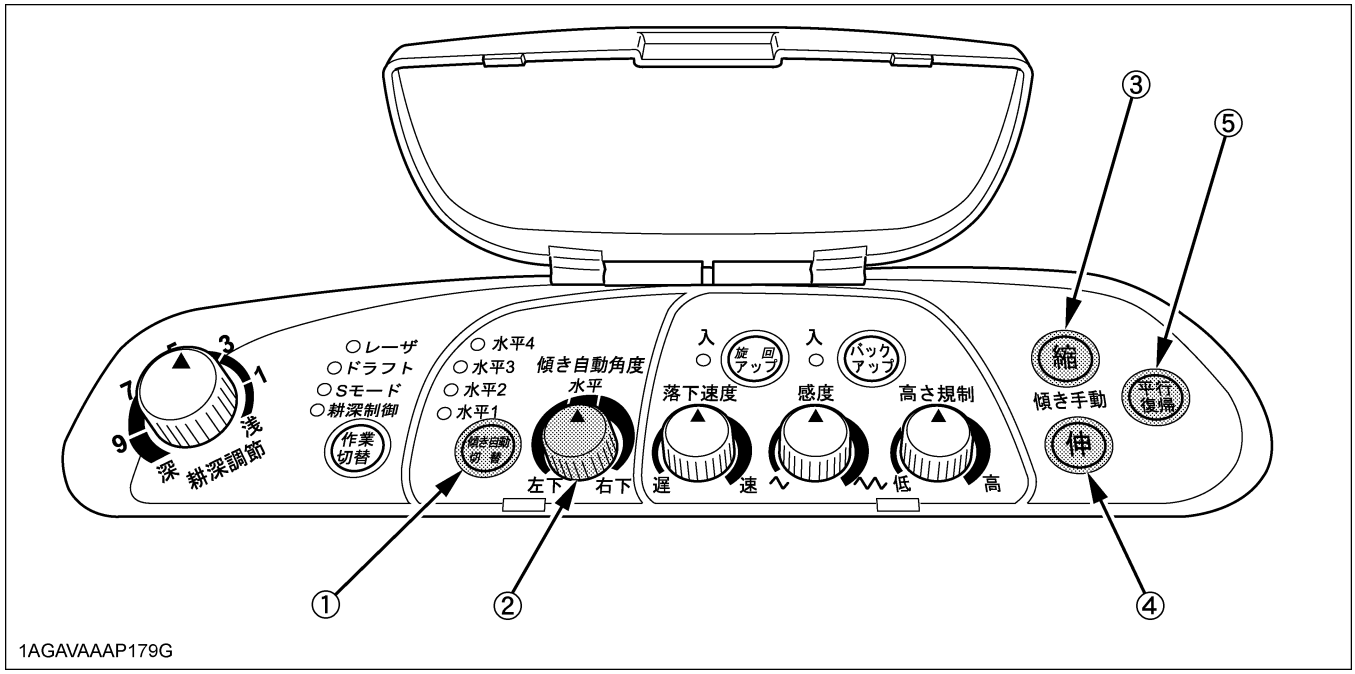
■作業モードの切替手順

作業機を交換した場合，下記手順でスイッチやダイヤルの切換えと調整を行なってください。
（レーザ使用時は，レーザ取扱説明書で確認してください。）

1. ポジションモードで作業機を装着する。
2. ポジションレバーで作業機を下げる。
3. 耕深調節ダイヤルを**［深］**，高さ規制調整ダイヤルを**［高］**位置に回す。
4. 作業切替スイッチを作業機に合わせ切換える。（耕深制御→Ｓモード→ドラフト）
5. ポジションレバーで作業機を持ち上げ，必要に応じ高さ規制調整ダイヤルで作業機の**［上限高さ］**を設定する。
6. 再度ポジションレバーで作業機を下げる。
7. 耕深調節ダイヤルを**［浅］**方向に回し，作業機の耕深設定を行なう。

傾き自動［M 仕様］

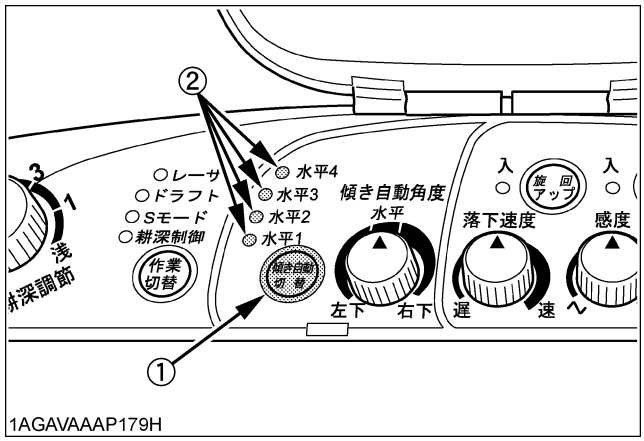
■各部の名称



①傾き自動切替スイッチ
②傾き自動角度調節ダイヤル
③傾き手動スイッチ［縮］
④傾き手動スイッチ［伸］
⑤平行復帰スイッチ

■傾き自動切替スイッチ

作業機によって定まる三点リンクの取付け状態(ロアーリンク幅及びロアーリンク穴)に応じて,下表を参考にスイッチを切換えてください。
選択状態はスイッチランプにより表示されます。



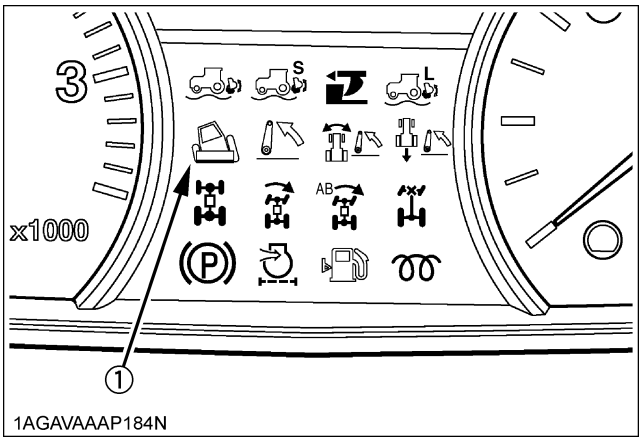
①切替スイッチ
②スイッチランプ（選択時点灯）

[GV500・550・600・650・700・750]

No.	傾き自動切替スイッチ	ロアーリンク穴位置	傾き自動ランプ	傾き自動動作	三点リンク	ロアーリンク内側寸法
1	水平 1	後	点灯	水平制御	純正オートヒッチフレーム付純正ロータリ	613mm
2	水平 2	前			—	613mm
3	水平 3				JIS 1 型	683mm
4	水平 4				JIS 2 型	825mm
5	切	後又は前	消灯	位置制御	—	—

[GV760・850・950]

No.	モンロー切替スイッチ	ロアーリンク穴位置	モンローランプ	モンロー動作	三点リンク	ロアーリンク内側寸法
1	水平 1	後	点灯	水平制御	JIS 2 型	825mm
2	水平 2					
3	水平 3	前				
4	水平 4					
5	切	後又は前	消灯	位置制御	—	—

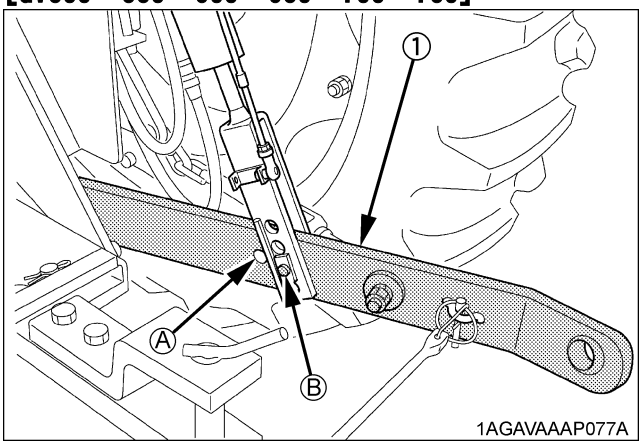


①傾き自動ランプ

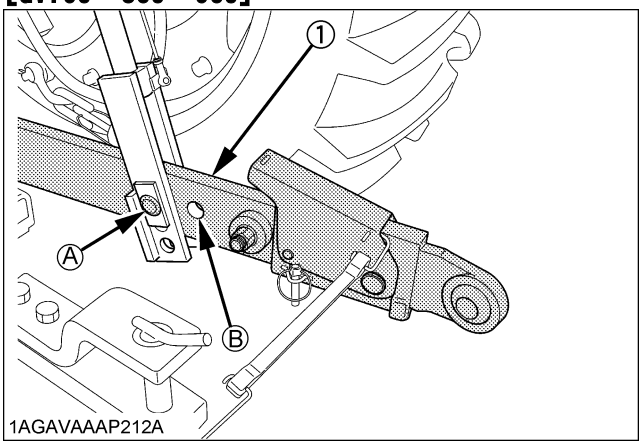
補　足

＊ 傾き自動ランプが**［点滅］**しているときは，**［ランプ表示一覧］**を参照してください。
＊ **［位置制御］**の取扱いは**［平行復帰スイッチ］**の取扱いの項を参照してください。

［GV500・550・600・650・700・750］



［GV760・850・950］



①ロアーリンク　　**Ⓐ“前穴”**
Ⓑ“後穴”

重　要

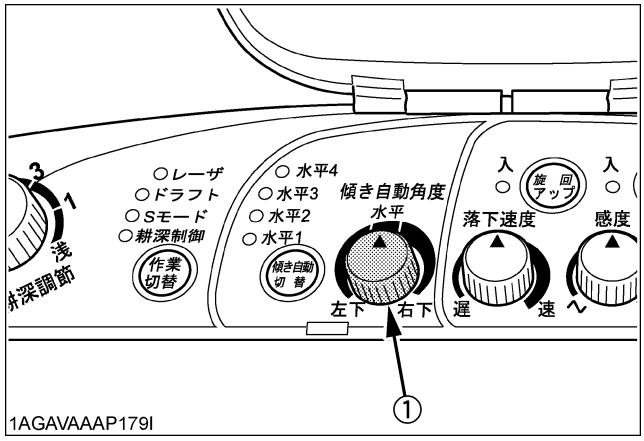
＊ 傾き自動が不要の場合（フロントローダ作業などの場合）や走行時には，**［切］**（位置制御）で作業してください。
＊ **［手動］**で作業機を傾斜させるとき，作業機を上端に上げると，ジョイント騒音が高くなる場合がありますので注意してください。
＊ チェックチェーンを張りすぎますと，傾き自動作業時に三点リンクに無理な力が加わりますので，チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。

■傾き自動角度調節ダイヤル

傾き自動切替スイッチが**［水平 1・2・3・4］**の場合，作業機の姿勢を調節するときに使用します。

1. ダイヤルの▲を中央の位置にすると，作業機は**水平**に保持されます。
2. ダイヤルを**［左下］**方向に回すと，作業機が**左下り**に保持されます。
3. ダイヤルを**［右下］**方向に回すと，作業機が**右下り**に保持されます。

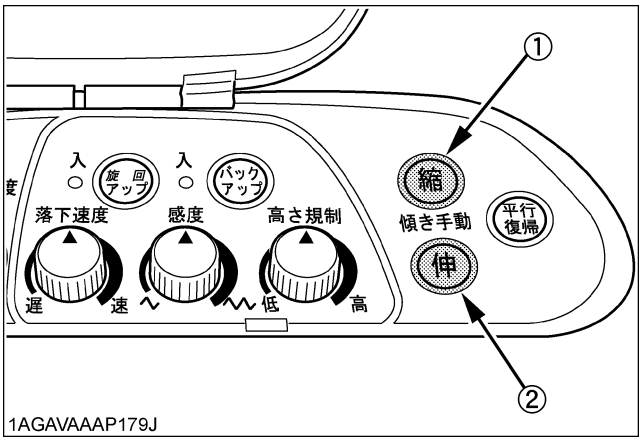
なお，傾き自動切替スイッチが**［水平 1・2・3・4］**の場合，作業機を高さ規制調整ダイヤルでの設定高さ付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。



①傾き自動角度調節ダイヤル

■傾き手動スイッチ

作業機を左右に傾斜させるときに使用します。



①傾き手動スイッチ［縮］
②傾き手動スイッチ［伸］

1. **【縮】**方向へスイッチを押すと，作業機の右側が上がります。
2. **【伸】**方向へスイッチを押すと，作業機の右側が下がります。

重　要

＊ スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

補　足

＊ 傾き自動を**【水平 1・2・3・4】**で運転中，いったん傾き手動スイッチ及び傾き手動外部操作スイッチを操作すると，自動水平制御が停止し手動制御となり，傾き自動ランプが点滅します。
＊ 再度自動水平制御に戻すには，**【傾き自動の安全ロック機能】**の項を参照してください。

■傾き自動の安全ロック機能

◆ 傾き自動安全ロック

傾き自動切替スイッチが**【水平 1・2・3・4】**のとき，傾き自動角度調節ダイヤル位置と傾き自動リフトシリンダ位置が異なる状態で，以下の操作を行なったときには，傾き自動安全ロックが働き，自動制御が停止し，傾き自動ランプが点滅（1 秒間に約 1 回点灯）します。

1. エンジン始動時
2. 傾き手動外部操作スイッチ操作時
3. 傾き手動スイッチ操作時

◆ 傾き自動安全ロックの解除

このようなときには，以下のいずれかの操作で安全ロックを解除してください。
解除後傾き自動ランプの点灯を確認してください。

1. 平行復帰スイッチを押す。
2. 傾き自動切替スイッチをいったん**【切】**（位置制御）にセットし，傾き自動ランプ消灯状態にしたのち，再度**【水平 1・2・3・4】**に入れる。

■平行復帰スイッチ

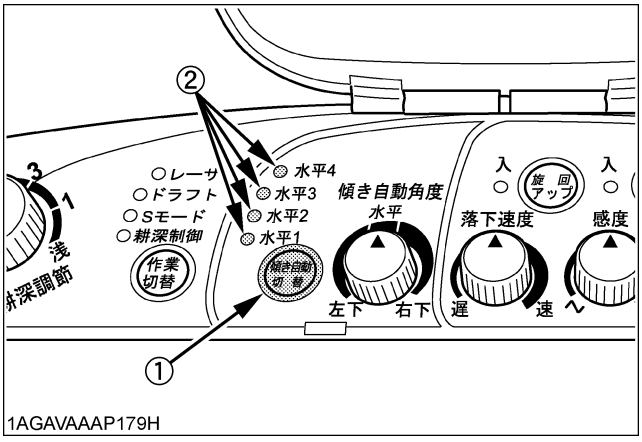
◆ 位置制御

プラウ作業などで常に傾き自動リフトシリンダ長さを一定に保ちたい場合に**［位置制御］**を使用します。

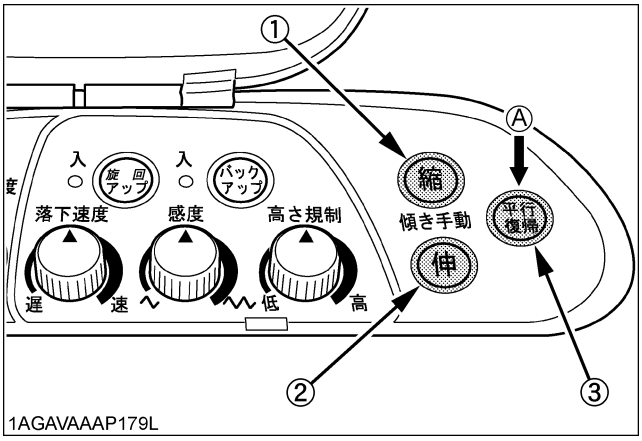
1. 傾き自動切替スイッチを**［切］**（位置制御）にセットします。(**［水平 1・2・3・4］**ランプ消灯)
2. 傾き自動ランプの消灯を確認します。
3. 傾き手動スイッチ又は傾き手動外部操作スイッチを操作し，リフトシリンダ長さを調整します。

◆ 平行復帰制御

［位置制御］のとき，傾き手動スイッチでリフトシリンダを適当な長さに合わせ，リバーシブルプラウなどでの口開け作業を行なった後通常に耕起する場合，**［平行復帰スイッチ］**を押すだけで常にプラウはトラクタと平行状態（微調整記憶値）に保たれます。



①傾き自動切替スイッチ
②スイッチランプ（消灯）



①傾き手動スイッチ［縮］　　**Ⓐ“押す”**
②傾き手動スイッチ［伸］
③平行復帰スイッチ

ランプ表示一覧

クイックアップ制御，ドラフトコントロール，傾き自動コントロールなどの作動状態を，イージーチェッカの各モニタランプで表示します。
下表の各ランプ表示に基づき，適切な取扱いを行なってください。

耕深制御	S モード	ドラフト	レーザ	傾き自動	クイックアップ	状態	備考
○	－	－	－	－	－	耕深制御モード状態	作業切替スイッチの項を参照
－	○	－	－	－	－	S モードモード状態	
－	－	○	－	－	－	ドラフトモード状態	
－	－	－	○	－	－	レーザモード状態	
－	－	－	－	○	－	傾き自動（水平）モード状態	傾き自動切替スイッチの項を参照
－	－	－	－	－	○	クイックアップアップ状態	クイックアップスイッチの項を参照
◎	－	－	－	－	◎	耕深制御モードで耕深制御が作動しない状態 三点リンク安全ロック状態（注 1）	モード切替スイッチの項を参照 三点リンク安全ロック機能の項参照
－	◎	－	－	－	◎	S モードモードで S モードが作動しない状態 三点リンク安全ロック状態（注 1）	
－	－	○	－	－	◎	ドラフトモードでドラフトが作動しない状態 三点リンク安全ロック状態（注 2）	
－	－	－	◎	－	◎	レーザモードでレーザが作動しない状態 三点リンク安全ロック状態（注 3）	
－	－	－	－	◎	－	傾き自動の安全ロック状態	傾き自動の安全ロック機能の項を参照
－	－	－	－	－	◎	ポジションモードの三点リンク安全ロック状態	三点リンク安全ロック機能の項を参照
●	－	－	－	－	－	異常検出時 ・購入先に点検・整備を依頼してください。	三点リンク外部操作スイッチで作業機を昇降させてください。
－	●	－	－	－	－		
－	－	●	－	－	－		
－	－	－	●	－	－		
－	－	－	－	●	－		位置制御または手動スイッチで操作してください。
－	－	－	－	－	●		－

○：点灯　◎：遅い点滅（1.0 秒 ON-0.2 秒 OFF）　●：早い点滅（0.3 秒 ON-0.3 秒 OFF）

・早い点滅時には警告ランプも点灯し，液晶表示にはエラーコードが表示されます。

(注 1)：
ポジションレバーを操作し，まず三点リンク安全状態を解除してください。(クイックアップランプが消灯する)
その後，ポジションレバーを手前方向（作業機が最大上昇する位置）に操作して耕深制御・S モードランプが点灯状態になり作業が行なえるようになります。
また，クイックアップレバーを上げる操作で三点リンク安全状態を解除と耕深制御・S モードランプ点灯状態になり作業が行なえるようになります。

(注 2)：
ポジションレバーを操作して三点リンク安全状態を解除してください。(クイックアップランプが消灯する)
ドラフトコントロール作業を行なえるようになります。
また，クイックアップレバーを上げる操作で三点リンク安全状態を解除でドラフトコントロール作業が行なえるようになります。

(注 3)：
レーザ装置の取扱説明書を参照してください。

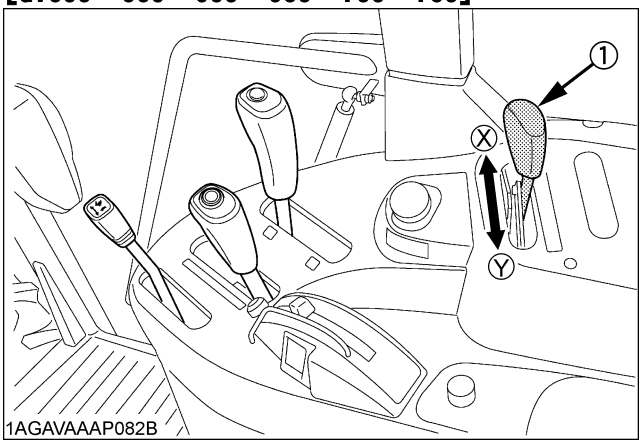
外部油圧取出し

型式	補助コントロールバルブ
GV500・550・600 C 仕様	● 単/複切換え式バルブ1連が標準装備 ● オプションで4連まで装着可能
GV650・700・750	● 1連目:単/複切換え式バルブ標準装備 ● オプションで4連まで装着可能
GV760・850・950	● 1 連目：単 / 複切換え式バルブが標準装備 2 連目：複動バルブ ● オプションで4連まで装着可能

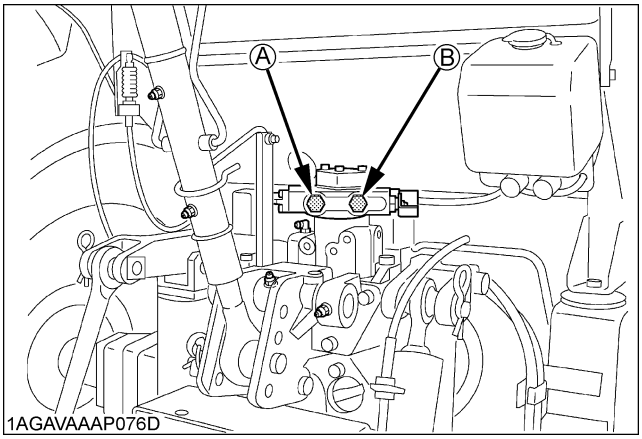
■油圧補助コントロールレバー

1. レバーの操作方向と油の流れは下記のようになっています。
   作業機側油圧ホース（吐出，戻り）の方向を確認し，接続してください。

[GV500・550・600・650・700・750]



①油圧補助コントロールレバー（1 連目）



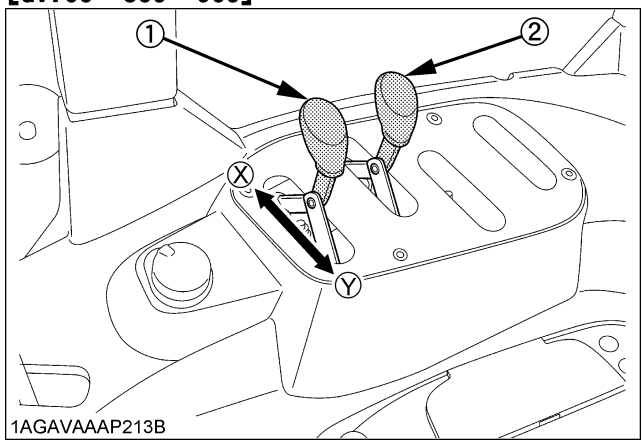
補　足

＊ 作業機の油圧シリンダが複動の場合，油圧シリンダの圧力側（負荷がかかったとき高圧となる側または，漏れを発生させたくない側）をポートⒶに接続してください。(ポートⒶのみにチェックバルブが入っています。)

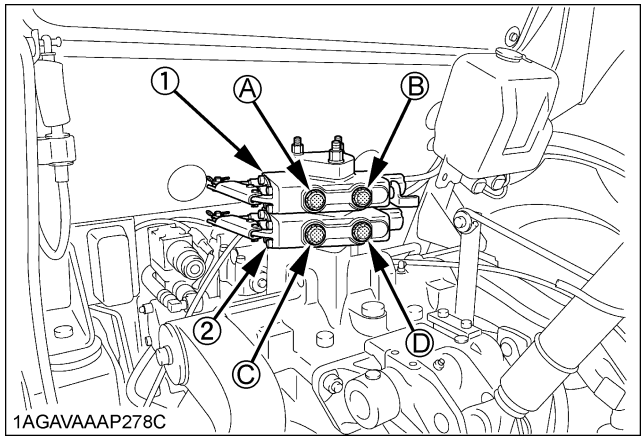
油圧補助コントロールレバー		複　動		単　動	
		ポートⒶ	ポートⒷ	ポートⒶ	ポートⒷ
一連目	(X) 方向	➡ 吐出	⇦ 戻り	➡ 吐出	-
	(Y) 方向	⇦ 戻り	➡ 吐出	⇦ 戻り	-

	ネジサイズ
ポート Ⓐ Ⓑ	PF3/8

[GV760・850・950]



①油圧補助コントロールレバー（1 連目）
②油圧補助コントロールレバー（2 連目）



①補助コントロールバルブ（1 連目）
②補助コントロールバルブ（2 連目）

補　足

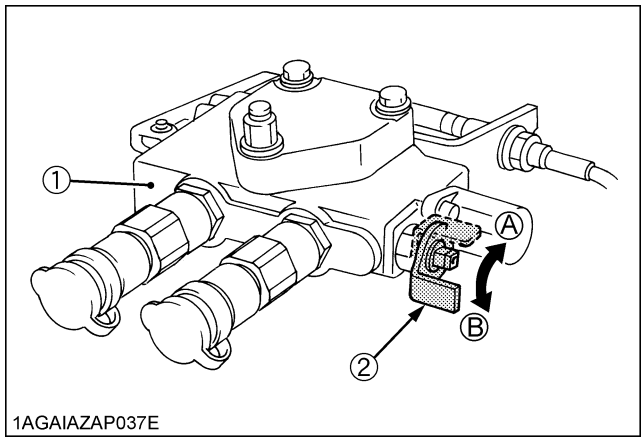
＊ 作業機の油圧シリンダが複動の場合，油圧シリンダの圧力側（負荷がかかったとき高圧となる側または，漏れを発生させたくない側）をポートⒶ,Ⓒに接続してください。(ポートⒶ,Ⓒのみにチェックバルブが入っています。)

油圧補助コントロールレバー		複　動	
		ポート Ⓒ	ポート Ⓓ
一連目	(X) 方向	➡ 吐出	⇦ 戻り
	(Y) 方向	⇦ 戻り	➡ 吐出

油圧補助コントロールレバー		複　動		単　動	
		ポート Ⓐ	ポート Ⓑ	ポート Ⓐ	ポート Ⓑ
二連目	(X) 方向	➡ 吐出	⇦ 戻り	➡ 吐出	－
	(Y) 方向	⇦ 戻り	➡ 吐出	⇦ 戻り	－

	ネジサイズ
ポートⒶ Ⓑ Ⓒ Ⓓ	PF3/8

■補助コントロールバルブ単複切換えつまみ



①単複切換えつまみ　　**Ⓐ“単動”**
Ⓑ“複動”

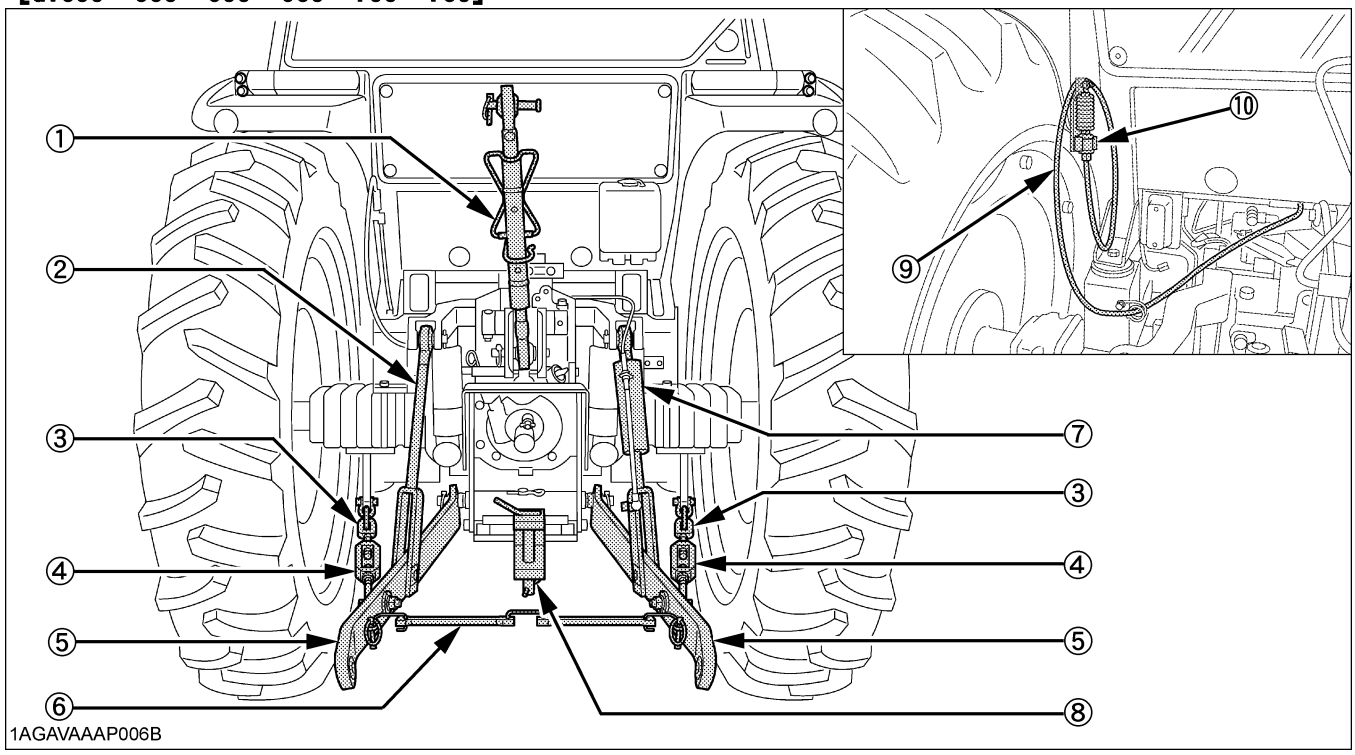
重　要

＊ **［単動］**の作業機を**［複動］**の位置で使用するとトラクタの故障の原因になります。
ご使用になる作業機に合わせて，切換えてください。

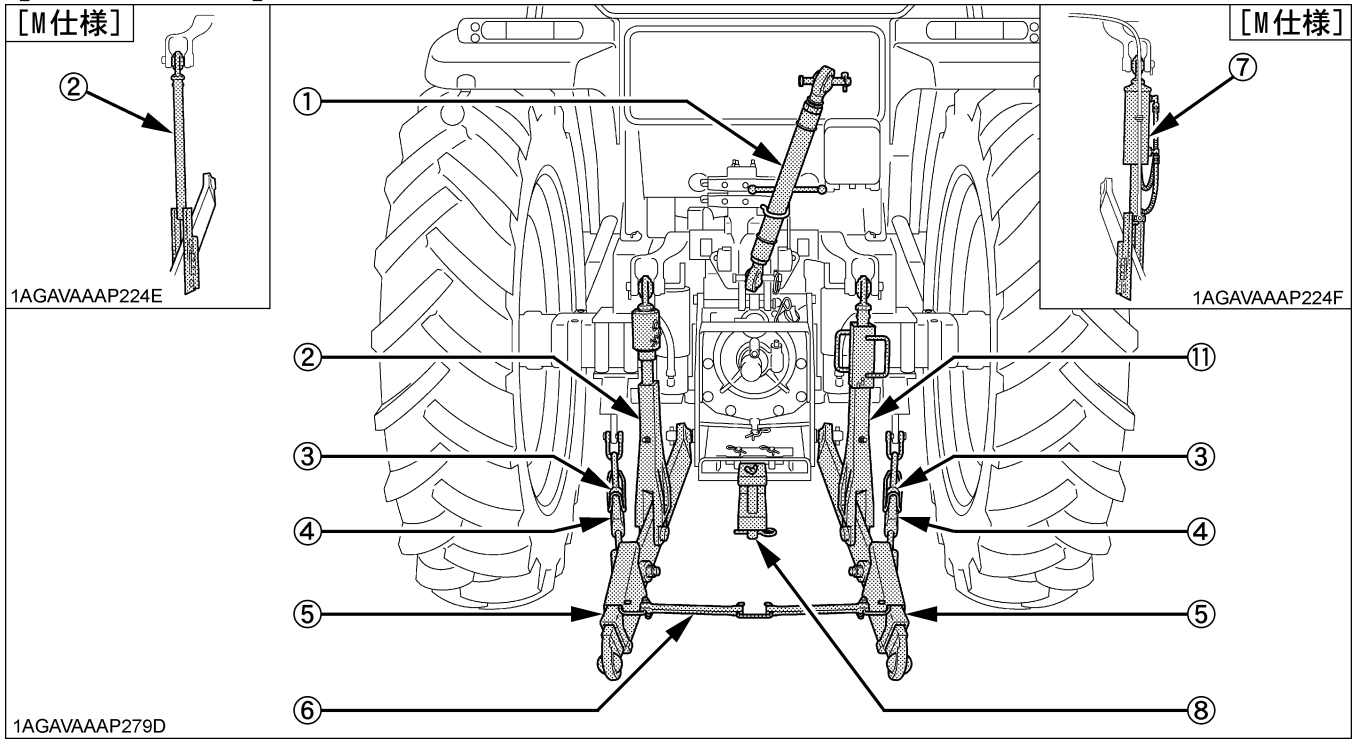
三点リンク

■各部の名称

[GV500・550・600・650・700・750]



[GV760・850・950]



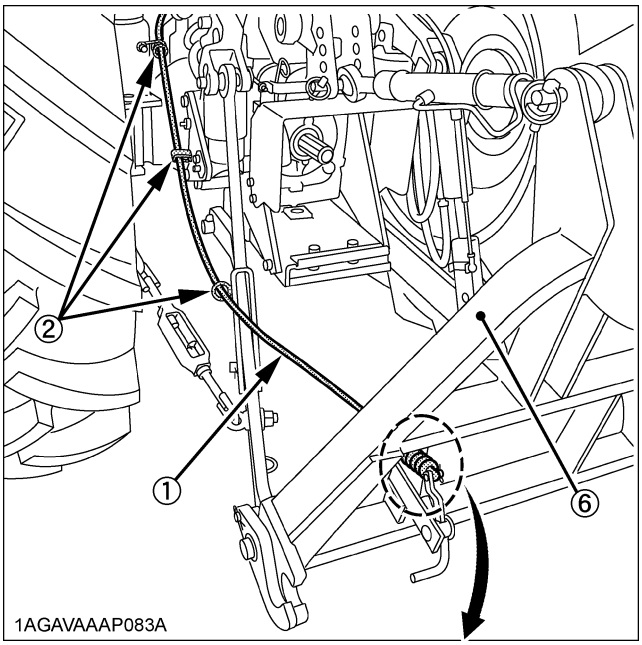
①トップリンク
②リフトロッド左
③チェックチェーン
④ターンバックル
⑤ロアーリンク
⑥振止めゴム
⑦リフトシリンダ
⑧ドローバ（ロータリ付き仕様はオプション）
⑨耕深ワイヤ
⑩ホルダ
⑪リフトロッド右

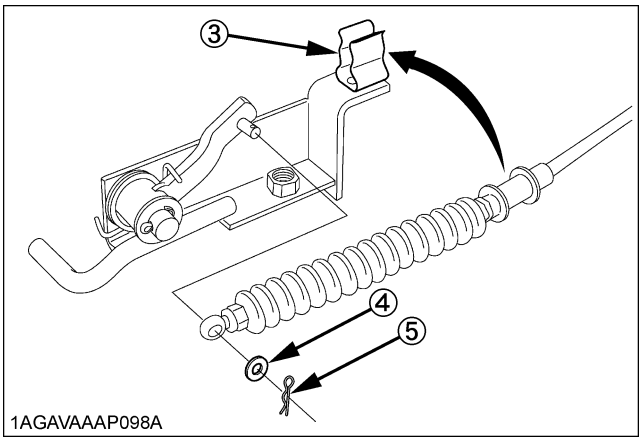
1. インプルメント取付け前の準備

■耕深ワイヤ

◆ 取付け方

オートヒッチフレームに耕深ワイヤを取付ける場合, ワイヤを 3 カ所のガイドを通し正しく取付けてください。

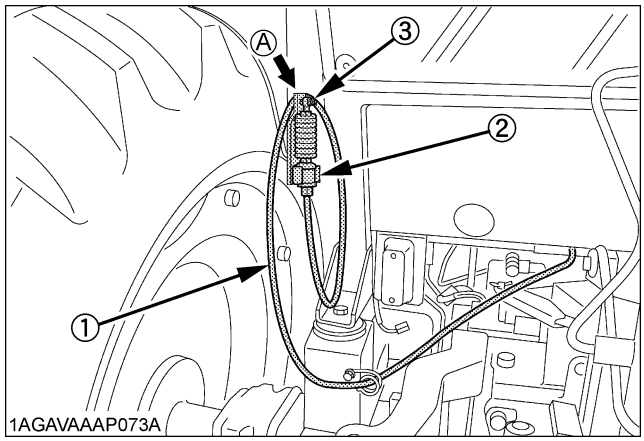




①耕深ワイヤ
②ガイド
③ワイヤ受け部
④平座金
⑤スナップピン
⑥オートヒッチフレーム

◆ 格納

オートヒッチフレームを外した場合, 耕深ワイヤを図のように格納してください。

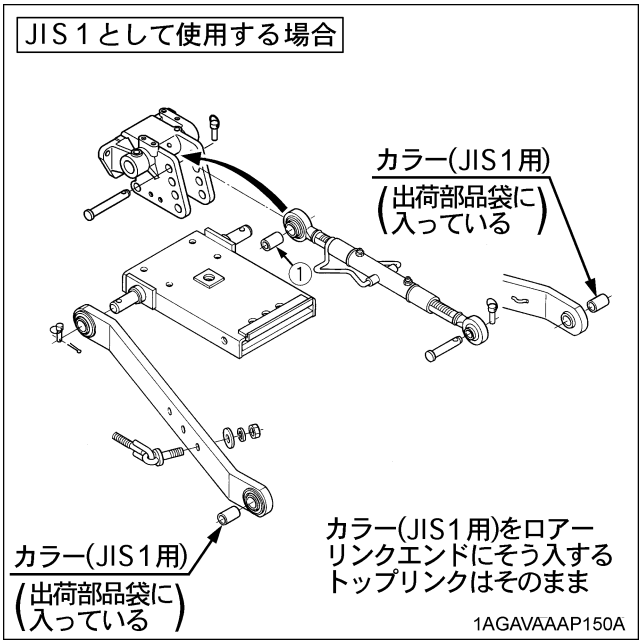


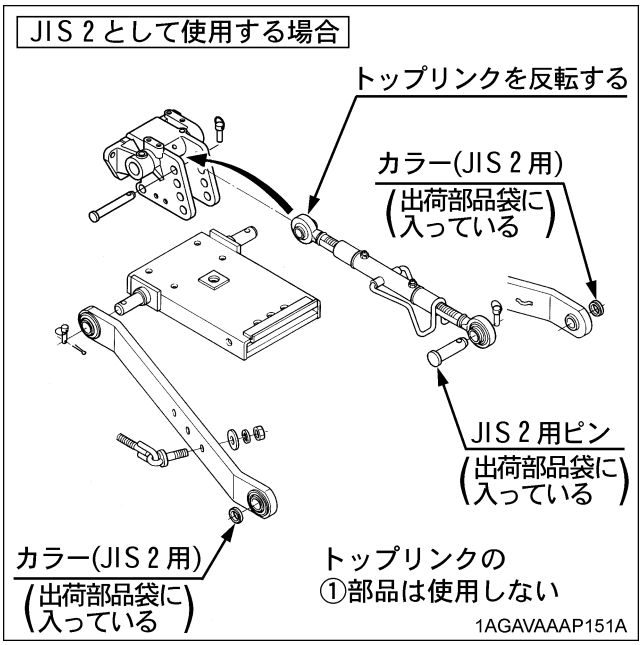
①耕深ワイヤ
②ホルダ
③スナップピン
Ⓐ“ワイヤを挟み込む”

■三点リンク（JIS 1・2）の切換え

[GV500・550・600・650・700・750]

作業機側取付けピンの大きさにより，三点リンクJIS 1・2の切換えを行なってください。

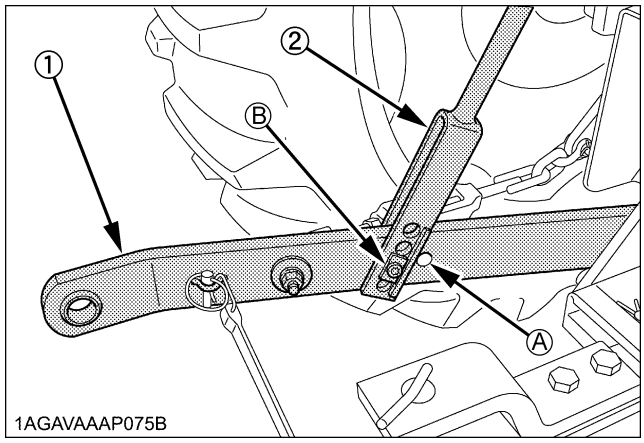




■ロアーリンク取付け穴の選択

[GV500・550・600・650・700・750]

一般作業機を使うときは，ロアーリンクの**【前穴】**を使ってください。特別な作業（重作業機）のみ**【後穴】**を使ってください。



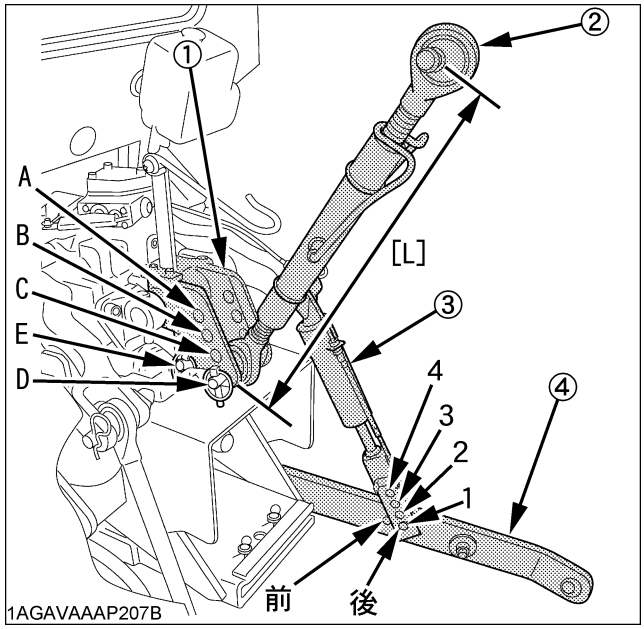
①ロアーリンク　**Ⓐ“前穴”**
②リフトロッド　**Ⓑ“後穴”**

◆ 純正オートヒッチフレーム使用時

[GV500・550・600・650・700・750]

注　意

＊ トップリンク取付位置，トップリンク長さ，リフトロッド取付穴位置，ロアーリンク取付穴位置を間違うと，ジョイント抜けやトップリンクの破損等による傷害事故のおそれがあります。



①トップリンクブラケット　**③リフトロッド**
②トップリンク　**④ロアーリンク**

トップリンク取付穴	D
トップリンク長さ **[L]** 寸法（mm）	570
リフトロッド左・右の取付穴	2
ロアーリンク取付穴	後
ドラフトストッパピン	E

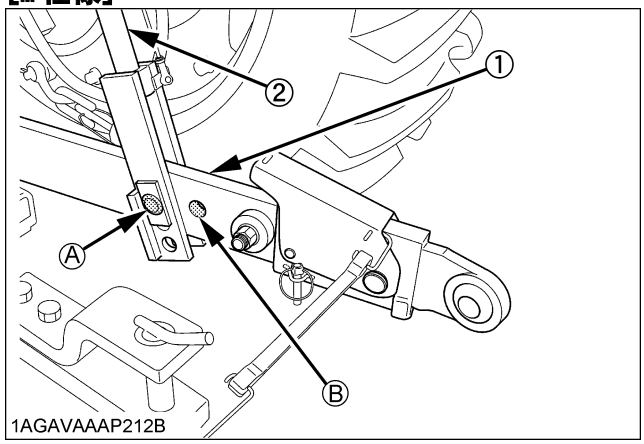
補　足

＊ トップリンク長さ **[L]** 寸法は装着時の目安とし，異音（ガラガラ音）が出る場合は± 5 mm の範囲で調整してください。

[GV760・850・950]

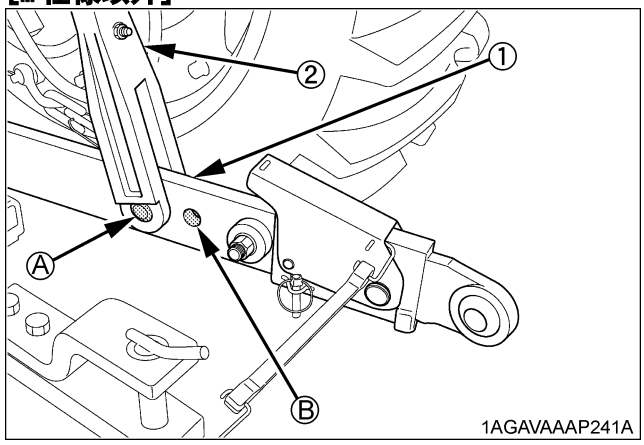
使用する作業機によって取付穴を選択してください。一般作業機を使うときは，ロアーリンクの **[前穴]** を使ってください。

[M 仕様]



①ロアーリンク　　**Ⓐ“前穴”**
②リフトシリンダ　　**Ⓑ“後穴”**

[M 仕様以外]



①ロアーリンク　　**Ⓐ“前穴”**
②リフトロッド右　　**Ⓑ“後穴”**

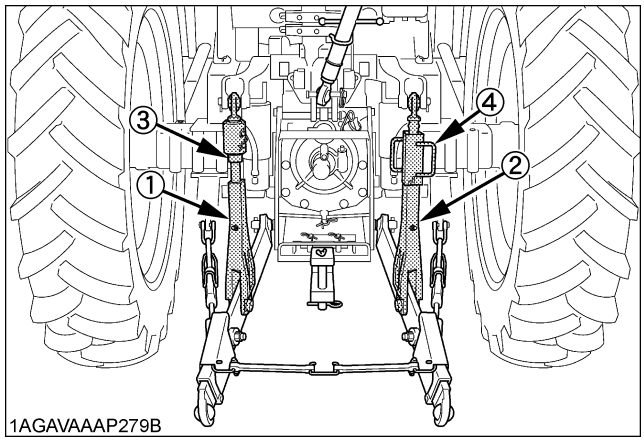
■リフトロッドの長さ調整

[GV760・850・950]

リフトロッド穴位置で長さを調整します。

[M 仕様以外]

1. 調整ハンドルで作業機の傾きを調整してください。
2. 調整後は，ハンドルをストッパで固定してください。

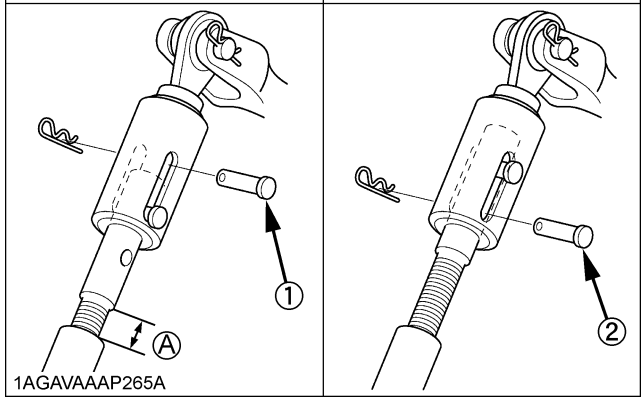


①リフトロッド左
②リフトロッド右
③ネジ部
④調整ハンドル

[M 仕様以外]

ピンの着脱及びネジ部により長さを調整します。

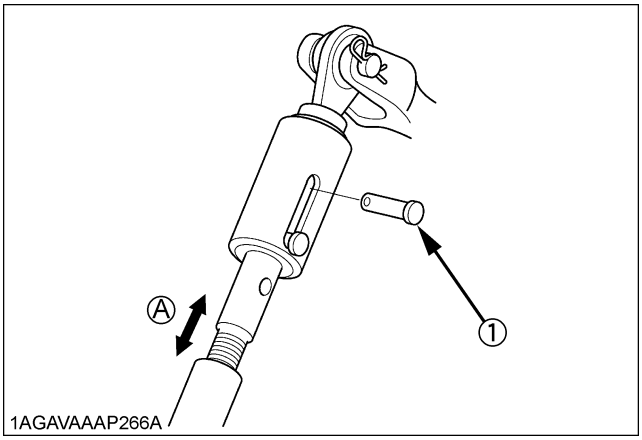
伸ばして使用する場合	縮めて使用する場合



①ピン（上に入れる）　　**Ⓐネジ部**
②ピン（下穴に入れる）

■フローティング機構
[M 仕様以外]

フローティング機構を働かすと, 作業機が地面や耕地の状態に応じて自由に追随します。トラクタより幅の広い作業機での作業に便利です。



①ピンを外す　　Ⓐ“上下に動く”

2. 作業機の着脱

警　告

- **作業機を着脱する前，必ずエンジンを止めてください。又，ロータリなどの PTO 作業機は完全に止まるまで待ってください。**
- **駐車ブレーキがかかっていないときは，トラクタと作業機の間に入らないでください。**
- **作業機の着脱は，固い平坦な場所で行なってください。**
- **作業機を取付けたとき，油圧で作業機を上下させ，トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。**
- **ポジションモードで着脱を行なってください。**

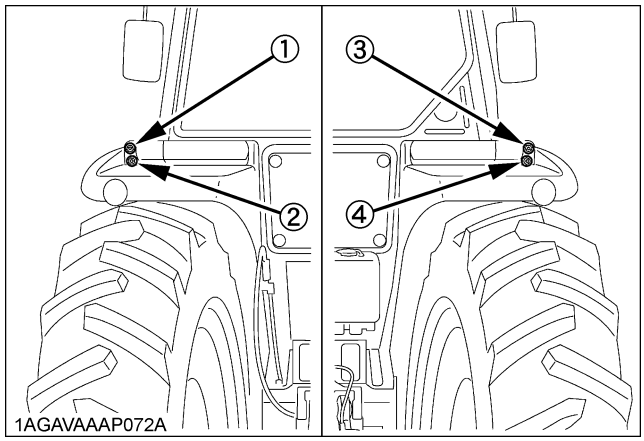
■三点リンク外部操作スイッチ

■傾き手動外部操作スイッチ［M 仕様］

注　意

- **作業機を装着しているときは，特に機械に巻き込まれるおそれがありますので，操作しないでください。**

作業機装着時, ロアーリンク高さを変えるときに使用します。



①三点リンク外部操作スイッチ（上昇側）
②三点リンク外部操作スイッチ（下降側）
③傾き手動外部操作スイッチ（上昇側）[M 仕様]
④傾き手動外部操作スイッチ（下降側）[M 仕様]

1. スイッチ①または②を押すと，三点リンクが昇降します。

このスイッチを操作すると, メータパネル内のクイックアップランプが **[点滅]** します。解除方法は **[三点リンクの安全ロック機能]** の項を参照。

2. スイッチ③または④を押すと，傾き自動用リフトシリンダが伸縮します。

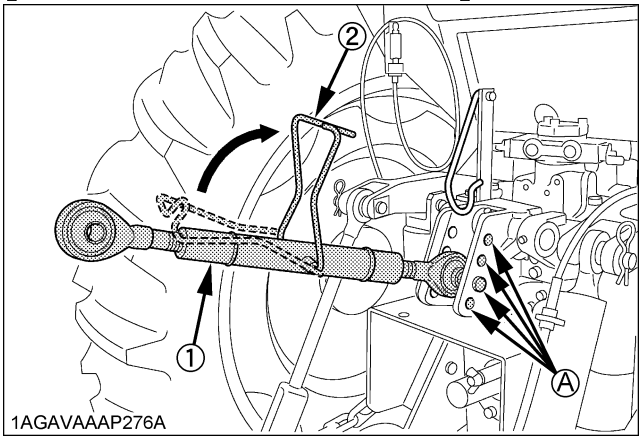
傾き自動自動水平制御のときにこのスイッチを操作すると, メータパネル内の傾き自動ランプが **[点滅]** します。解除方法は **[傾き自動の安全ロック]** の項を参照。

■トップリンク

◆ 取付け穴の選択

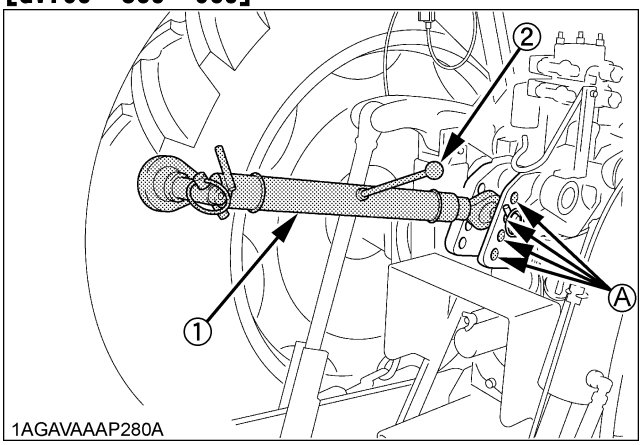
使用する作業機によって取付け穴を選択してください。

[GV500・550・600・650・700・750]



①トップリンク　　**Ⓐ"取付け穴"**
②ハンドル

[GV760・850・950]



①トップリンク　　**Ⓐ"取付け穴"**
②ハンドル

◆ トップリンク長さの調整

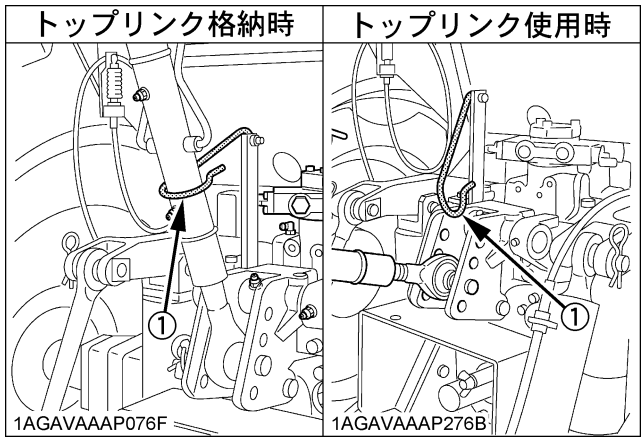
伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。
調整後はハンドルでロックしてください。

補　足

＊ トップリンクの取付け穴及び長さは，取付ける作業機の**［取扱説明書］**をご覧ください。

◆ トップリンクの格納

トップリンクを使用しない時は，トップリンクをトップリンクホルダで格納してください。
トップリンクを使用する時は，トップリンクホルダを下向きにしてください。



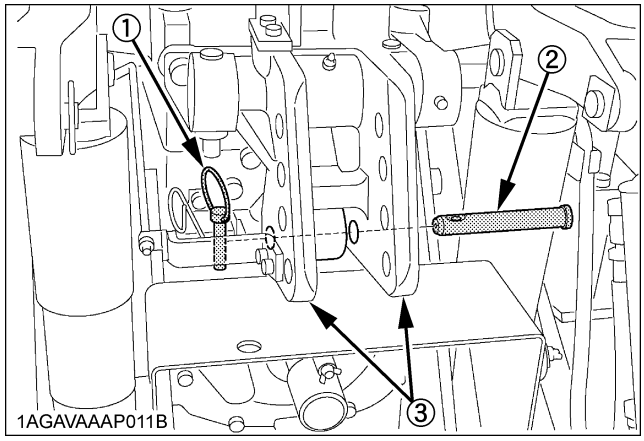
①トップリンクホルダ

補　足

＊ トップリンクホルダを下向きにしないで三点リンクを上げると，トップリンクホルダが破損する場合があります。

◆ ドラフトストッパピンの着脱

プラウ作業などドラフトコントロールを使用する場合は，トップリンクブラケットのストッパピンを抜いてください。また，ロータリ作業などポジションコントロールを使用する場合は，ストッパピンを入れてください。



①ロックピン
②ストッパピン
③トップリンクブラケット

補　足

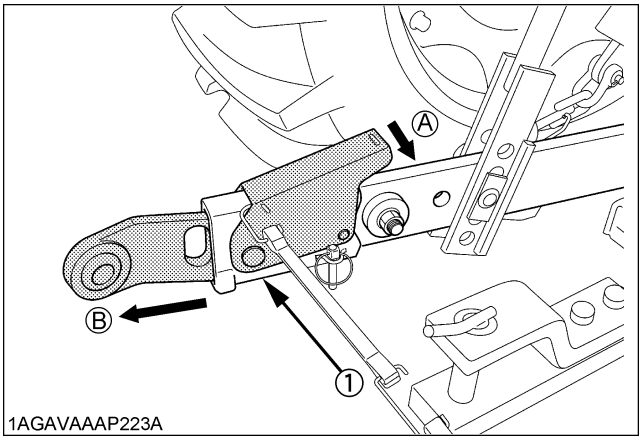
＊ ストッパピンを外したまま，ロータリ耕うんを行なうと，耕深制御が正常に作動しない場合があります。

■クイックジョイント

[GV760・850・950]

ロアーリンクの先端部が上下・左右に少し動くので，作業機の取付けが容易にできます。

1. レバーを押して先端部を引き出し，作業機を取付けます。
2. 作業機取付け後，トラクタを少しバックさせると，先端部が元に戻って固定されます。



①ロアーリンク

Ⓐ“押す”
Ⓑ“引き出す”

■リフトロッド（右）の調整

調整方法は**［傾き自動の取扱い］**の項を参照

■チェックチェーン

作業機の種類によってチェックチェーンの張り具合を調整してください。

作　業　機	チェーンの張り具合
プラウ，ハロー， サブソイラ， ディガー	ゆるめる 作業機が横方向に 5 ～ 6cm 動く程度
モーア，ヘイレーキ， テッダ，リッジャ， カルチベータ	軽く締める
ロータリ	作業機が横方向に 1 ～ 2cm 動く程度

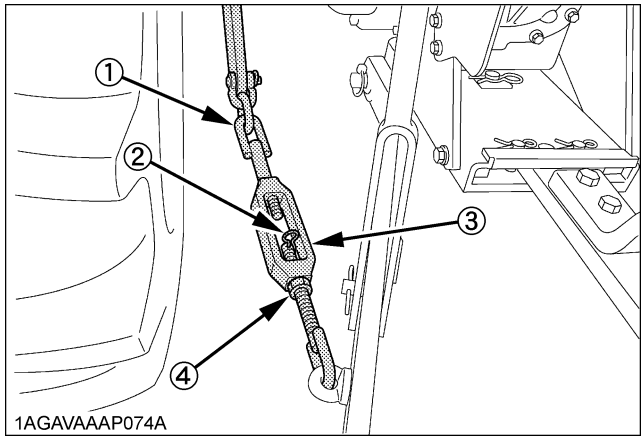
重　要

＊ チェックチェーンを張りすぎますと，傾き自動作業時に三点リンクに無理な力が加わりますので，チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。

[GV500・550・600・650・700・750]

スナップピンを抜き，ロックナットをゆるめ，ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。

調整後はスナップピンとロックナットで，ターンバックルを固定してください。

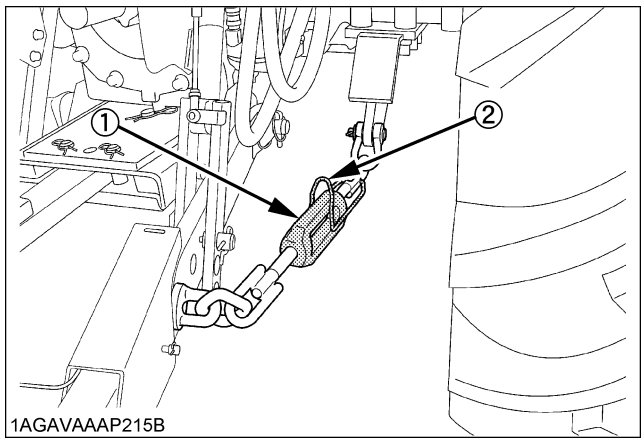


①チェックチェーン
②スナップピン
③ターンバックル
④ロックナット

[GV760・850・950]
ターンバックルを回して, 作業機の横振れを制限してください。
調整後はロックスプリングでターンバックルを固定してください。

重　要

＊ ターンバックルを下図のようにロックスプリングで固定してください。逆向きにするとロックスプリングが変形してしまいます。

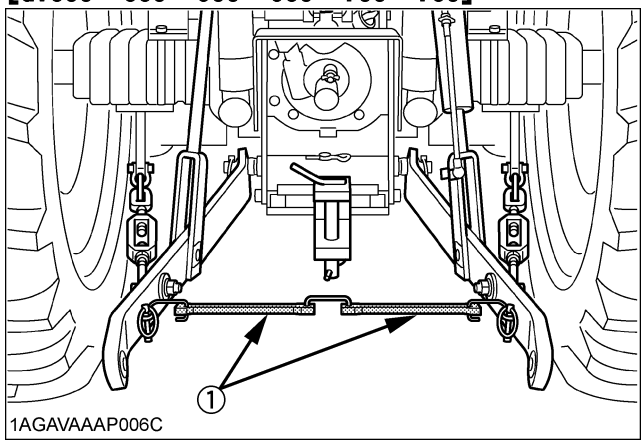


①ターンバックル
②ロックスプリング

■作業機を取付けないときの注意

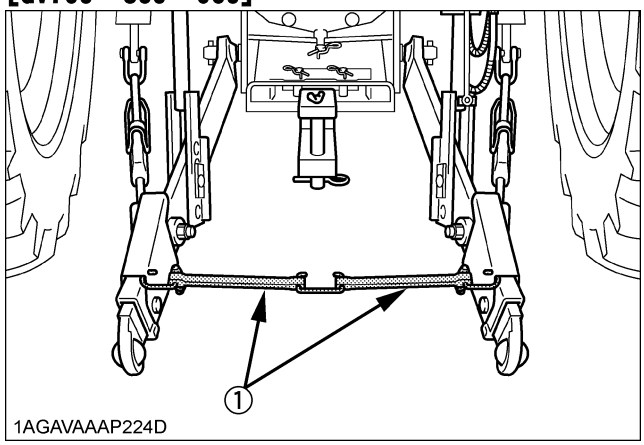
作業機を取付けないときは, ロアーリンクが後輪に当たらないように, 左右振れ止めをしておいてください。

[GV500・550・600・650・700・750]



①振止めゴム

[GV760・850・950]



①振止めゴム

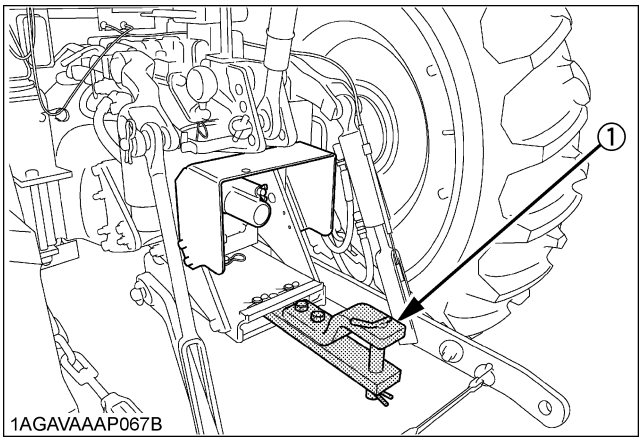
けん引ヒッチ（ドローバ）

（ロータリ付き仕様はオプション）

警　告

- **＊ けん引作業をするときは，必ずけん引ヒッチ（ドローバ）を使用し，トップリンクブラケットや車軸などで引張らないようにしてください。転倒事故を引起こすおそれがあります。**
- **＊ 三点リンクに取付け，PTO 軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント（ロータリ，ブロードキャスタなど）を使用するときは，けん引ヒッチ（ドローバ）を外してください。そうしないと，ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチ（ドローバ）に当って破損し，事故を起こすおそれがあります。**

けん引は，このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。
他の物をけん引する場合は，必ず購入先にご相談ください。



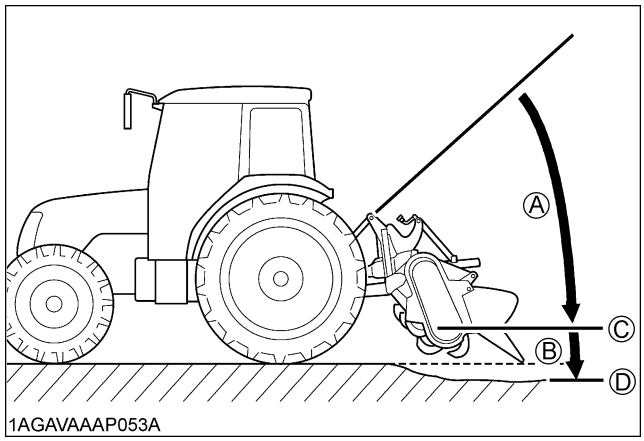
①けん引ヒッチ（ドローバ）

すき込み開始高さの調整

耕深制御やSモードを用いてロータリ耕うん作業時，すき込み時の仕上がり向上や代かき時の泥水飛散を防ぐため，耕うん爪が地面や水面に接する直前から希望耕深に達するまでロータリがゆっくり下降する**［すき込み制御］**が作動します。
なお，この機能は工場出荷時，**［純正ロータリでの乾田一般耕うん用］**に調整されています。
従ってタイヤが沈む湿田や代かき時では，下記手順で**［すき込み開始高さの設定変更］**をお奨めします。

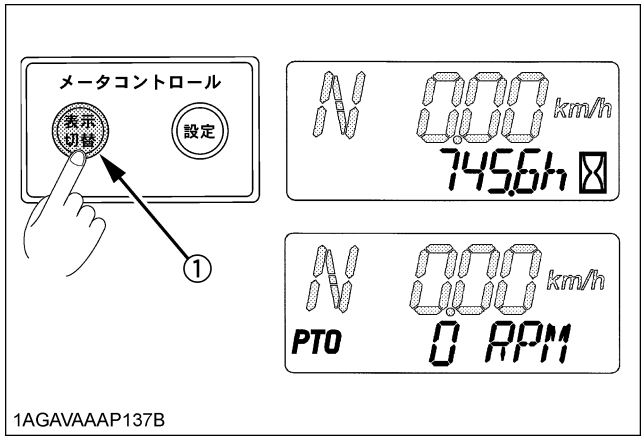
■すき込み開始高さの設定変更手順

1. トラクタを平たん面に停め，希望すき込み開始位置に作業機（ロータリ）の高さを合せます。



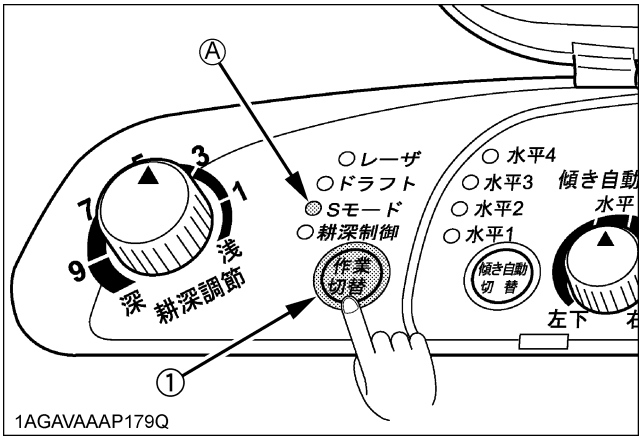
Ⓐ“速く下降”
Ⓑ“ゆっくり下降”
Ⓒ“すき込み開始高さ設定位置”
Ⓓ“耕深設定位置”

2. エンジン停止後，キースイッチを**［入］**にする。
3. メータ表示切替スイッチを押し，アワーメータ又はPTO表示モードを選択する。



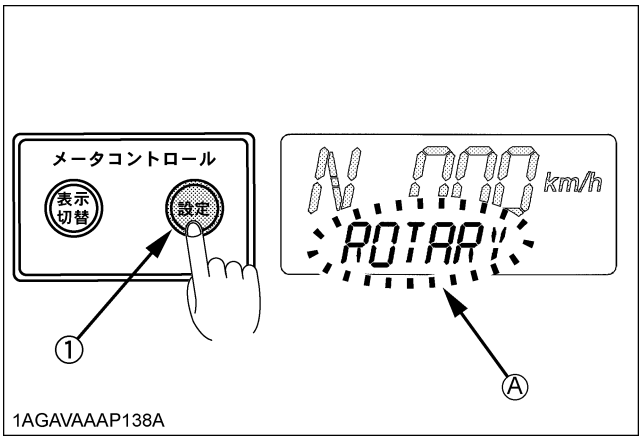
①メータ切替スイッチ

4. 作業切替スイッチを押し，**[S モード]** を選択する。



①作業切替スイッチ　　Ⓐ“点灯”

5. 設定スイッチを **[ROTARY]** が点滅表示されるまで押す（約 2 秒）。



①設定スイッチ　　Ⓐ“点滅”

6. 設定スイッチを **[ROTARY]** が点灯表示されるまで押すと完了します。
7. キースイッチを **[切]** にします。

補　足

＊ 途中でキースイッチを **[切]** にするとキャンセルされます。
＊ スイッチ操作が 5 秒間以上途切れると初期状態に戻ります。
＊ トリップモードで行なうと，トリップがリセットされる場合があります。

PTO

■ PTO クラッチコントロールスイッチ

注　意

＊ 走行クラッチを踏んだだけでは PTO は止まりません。
PTO を止めるには，PTO クラッチコントロールスイッチを［OFF］（切）にしてください。

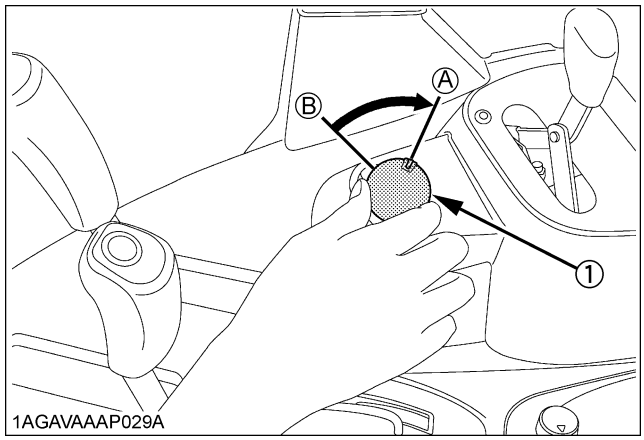
走行に関係なくPTOクラッチコントロールスイッチを**[入]** にすると，メーターパネル内の PTO ランプが点灯し，PTO クラッチが接続され，PTO 軸が回転します。

補　足

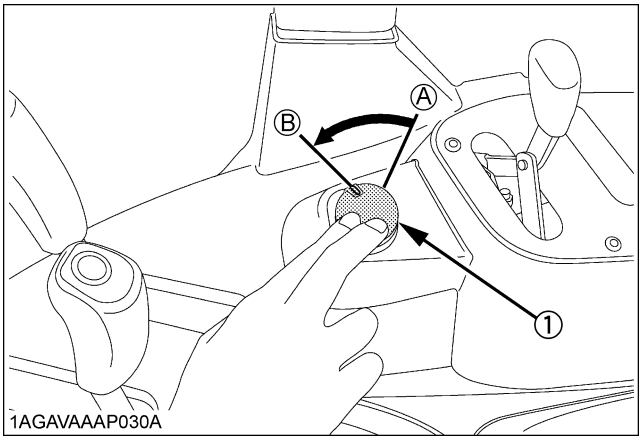
＊ PTO クラッチコントロールスイッチが**[切]** の位置でないとエンジンは始動できません。

◆ PTO クラッチコントロールスイッチの操作

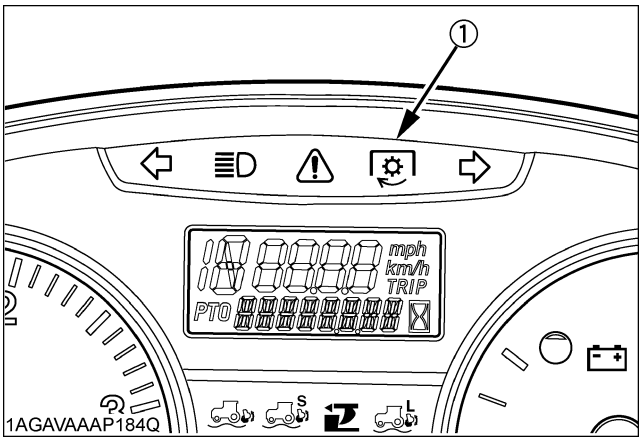
スイッチを押しながら右に回すと **[入]** になります。



スイッチを押すと**【切】**に戻ります。



① PTO クラッチコントロールスイッチ　Ⓐ “入” Ⓑ “切”



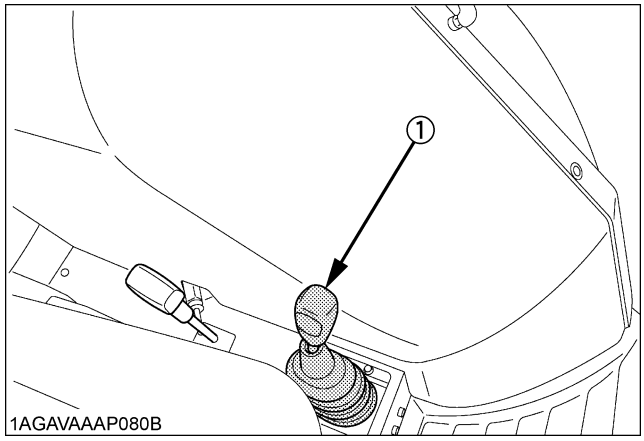
① PTO ランプ

■ PTO 変速レバー

注　意

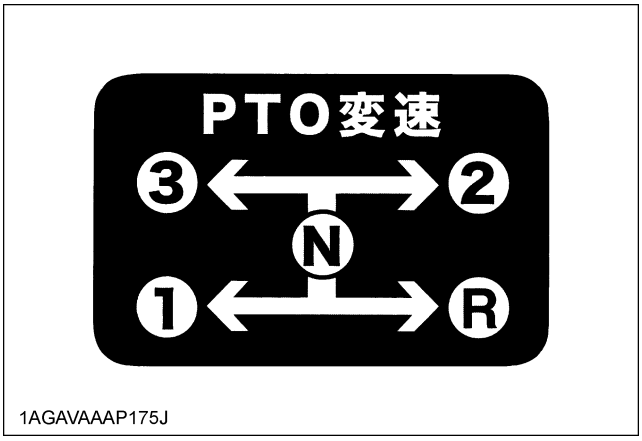
＊ 作業機に指定された PTO 回転速度を厳守してください。低速回転で使用すべき作業機を，高速回転で使用しないでください。

PTO 変速は，仕様により次の 2 種類があります。製品仕様をよく確認のうえ，正しく取扱ってください。なお，どちらの仕様も，変速操作時は，必ずPTOクラッチコントロールスイッチを切ってから行なってください。



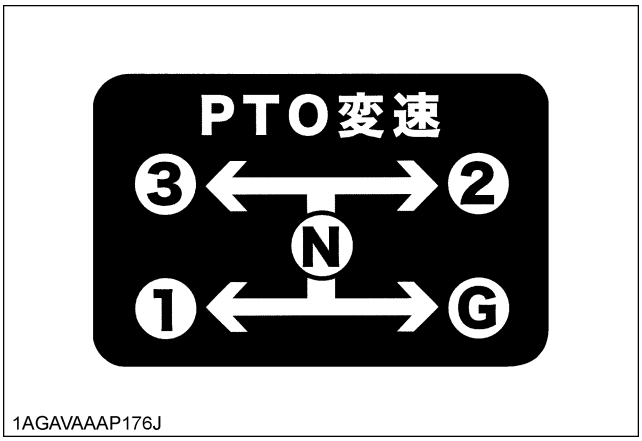
① PTO 変速レバー

◆ 逆転 PTO 付（標準）



1AGAVAAAP175J

◆ グランド PTO 付（G 仕様）



1AGAVAAAP176J

重　要

＊ 変速が入りにくいときは，PTO クラッチコントロールスイッチを**[入]**STOP**[切]**し，スムーズに入る位置を探してください。
無理に変速を入れようとすると故障の原因になります。

◆ PTO［逆転］の使い方

1. 使用できる作業機
   ＊ メーカ指定のロータリに限ります。

重　要

＊ メーカ指定以外のロータリを使用すると，作業機の故障の原因になります。

2. 使用できる作業
   ＊ 土寄せ作業
   ＊ 草やわらなどの巻きつきをほぐすとき
3. 使用できない作業
   ＊ 未耕地での耕うん作業
   ＊ ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業

◆ グランド PTO の使い方

1. PTO クラッチコントロールスイッチを **[切]** にします。
2. クラッチペダルを踏込みトラクタを停止し，PTO 変速レバーを **[G]** の位置にするとグランド PTO が使えます。

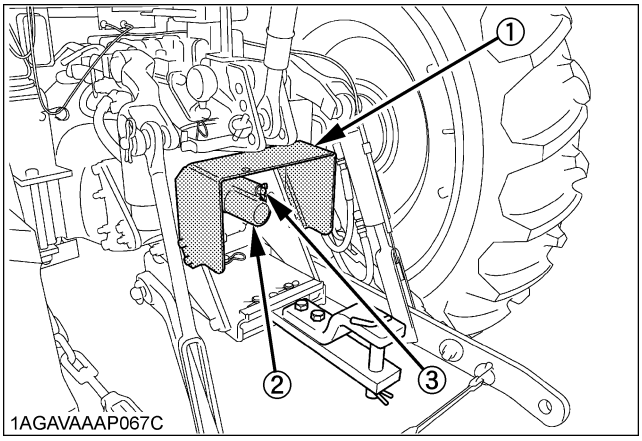
重　要

＊ グランド PTO は，ロータリ耕うん，フォーレージハーベスタなど負荷の大きい作業には使用しないでください。

■ PTO 軸カバー・PTO 軸キャップ

注 意

- ＊ PTO 軸を使わないときは，PTO 軸にグリースを塗布した後，PTO 軸キャップを取付けておいてください。そうしないと，巻込まれによる傷害事故を引起こすおそれがあります。
- ＊ PTO 軸キャップを使用しないときは，PTO 軸キャップを紛失しないように大切に保管してください。
- ＊ PTO 軸カバーは常に取付けておいてください。
- ＊ PTO 軸カバーの上に乗らないでください。



① PTO 軸カバー
② PTO 軸キャップ
③蝶ボルト

タイヤ・ウエイト

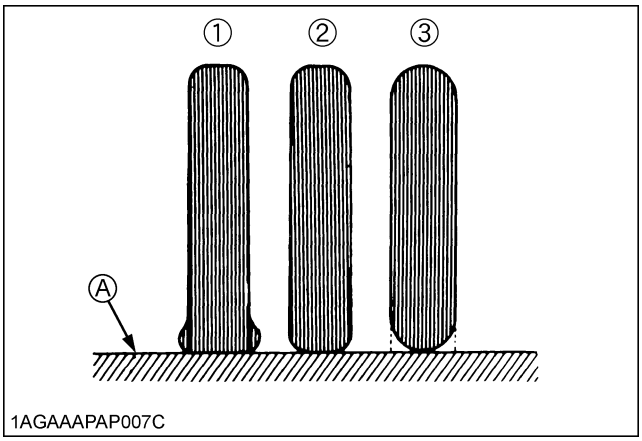
タイヤ

警　告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

■タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安は次のとおりです。



①空気が不足
②標準
③空気が多い

Ⓐ“接地面”

◆ 標準空気圧

● バイアスタイヤ　　[　]内はローダ装着時

前輪 kPa(kgf/cm²)		後輪 kPa(kgf/cm²)	
8-18	160(1.6) [200(2.0)]	13.6-28	140(1.4)
		13.6-28H	100(1.0)
8.3-20		12.4-32	160(1.6)
		12.4-32H	120(1.2)
8.3-24	240(2.4) [260(2.6]	12.4-32	160(1.6)
		12.4-36H	
9.5-18	140(1.4) [160(1.6)]	14.9-28H	120(1.2)
9.5-22 9.5-24	220(2.2) [240(2.4)]	12.4-36	160(1.6)
		12.4-36H	
		12.4-38	140(1.4)
		13.9-36	
		16.9-30	120(1.2)
		16.9-30H	
11.2-20 11.2-24	180(1.8) [200(2.0)]	13.6-38	140(1.4)
		13.6-38H	
		16.9-30	120(1.2)
		16.9-34	
		18.4-30	

Hはハイラグタイヤを示します。

● ラジアルタイヤ　　[　]内はローダ装着時

前輪 kPa(kgf/cm²)		後輪 kPa(kgf/cm²)	
9.5R24 11.2R24	140(1.4) [160(1.6)]	13.6R36	140(1.4)
		13.6R38	
		16.9R30	
		16.9R34	

輪距の調整

注　意

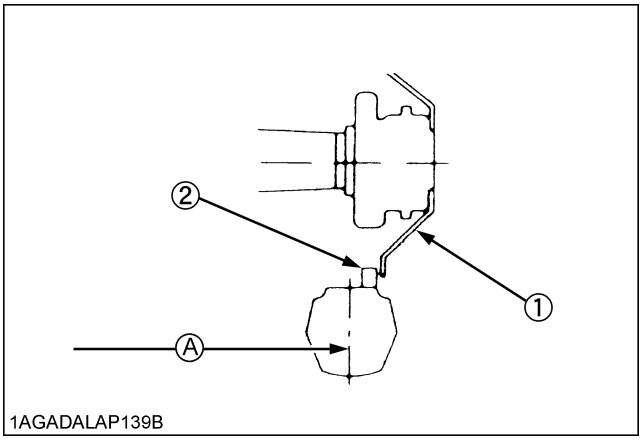
＊ けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は，左右の安定を良くするため，支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。
＊ 輪距は前輪 1210mm，後輪 1200mm にした場合は，安定性確保のため作業時以外の移動では必ず輪距を広くして使用してください。[GV760・850・950]

重　要

＊ 決められた輪距以外では使用しないでください。

■前輪

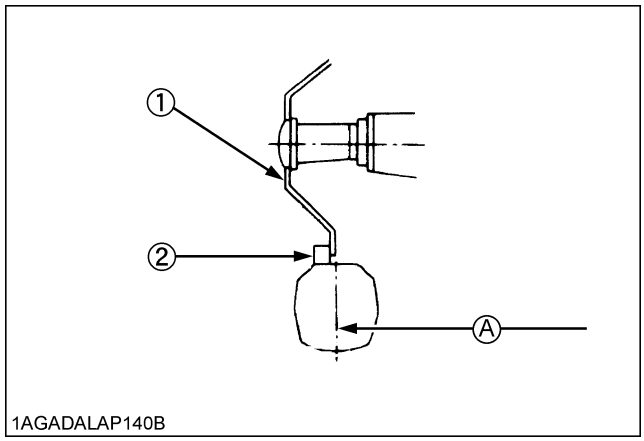
可変タイヤ仕様の場合，リムとディスクの取付け位置変更により，輪距の調整が行なえます。（固定タイヤ仕様の場合，変更できません。）



①前輪ディスク　　Ⓐ“輪距”
②前輪リムブラケット

■後輪

リムとディスクの取付け位置変更により，輪距の調整が行なえます。（タイヤの仕様により異なります。）

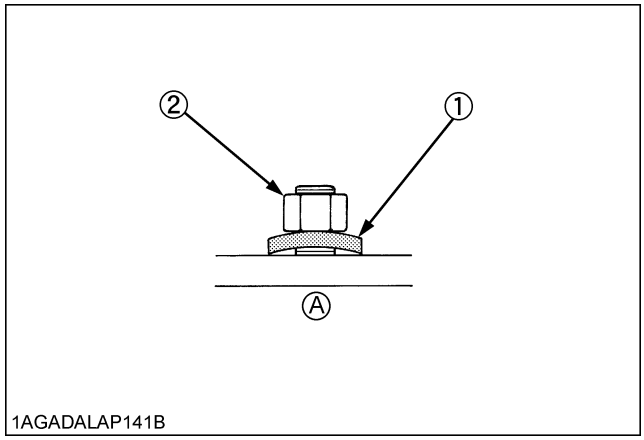


①後輪ディスク　　Ⓐ“輪距”
②後輪リムブラケット

補　足

＊ タイヤは，両側の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。
＊ 後輪ウエイトは，すべての輪距で取付けられます。

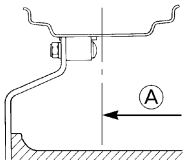
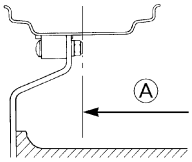
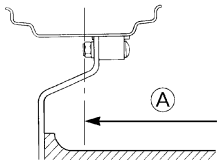
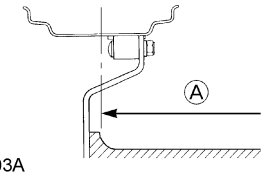
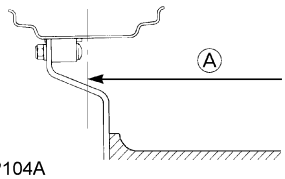
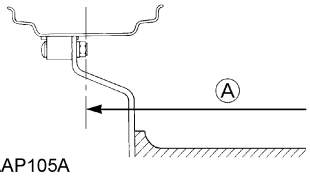
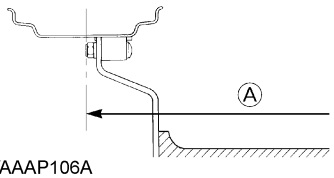
1. 皿バネの取付け方向には十分注意し，図のようにしてください。



①皿バネ　　Ⓐ“ディスク側”
②ナット

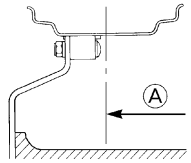
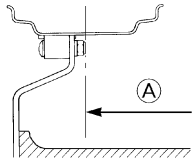
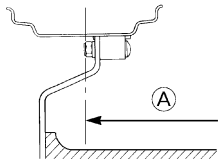
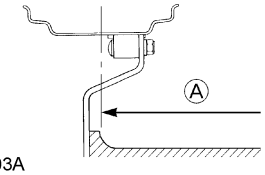
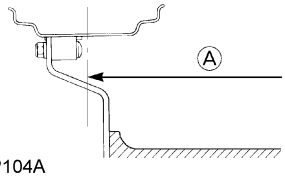
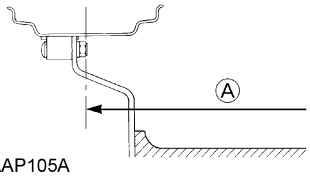
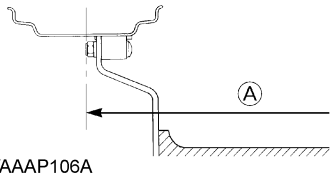
2. フロントローダ作業など重作業時，タイヤのボルト，ナットは規定トルクで十分締めあげ，締め忘れのないよう注意してください。また，しばらく作業した後，再度トルクチェックを行ない，増し締めを行なってください。
3. ボルト，ナット，スタッド，皿バネやリム，ディスクの締付け面に油やグリースが付着していると，規定トルクまで締まりあがりませんので，シンナなどで油分をふきとってください。

■前輪輪距

型　式	GV500・550・600			GV650・700・750	
タイヤサイズ 輪距 (A) (単位:mm)	8-18 ※ 1 (固定)	8.3-20 ※ 2 (可変)	8.3-20 (固定) 9.5-18 (固定)	9.5-22 (可変)	9.5-24 9.5R24 (ラジアル タイヤ) (可変)
①  1AGAVAAAP100A	1,300 [出荷時]	1,320 [出荷時]	1,320 [出荷時]	1,220	1,200
②  1AGAVAAAP101A	—	1,380	—	1,320 [出荷時]	1,300 [出荷時]
③  1AGAVAAAP102A	—	1,400	—	1,300	1,290
④  1AGAVAAAP103A	—	1,460	—	1,400	1,390
⑤  1AGAVAAAP104A	—	1,440	—	1,490	1,500
⑥  1AGAVAAAP105A	—	1,500	—	—	—
⑦  1AGAVAAAP106A	—	1,520	—	—	—

補　足

＊ 輪距の図は左前輪タイヤを示します。
＊ タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。
＊ ※ 1 は GV550,GV600 には採用していません。
＊ ※ 2 は GV500 には採用していません。

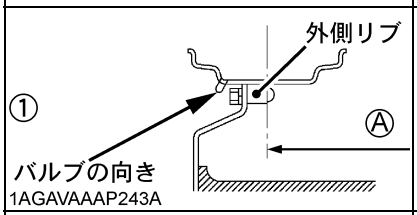
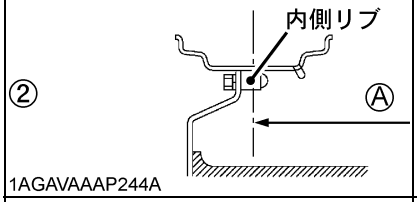
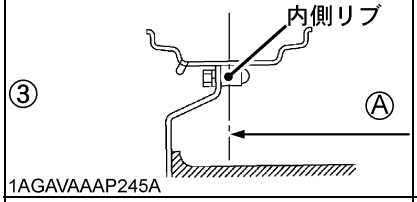
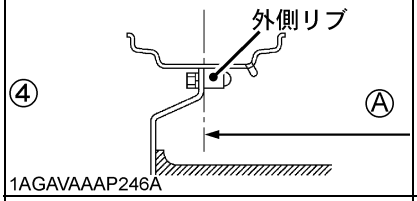
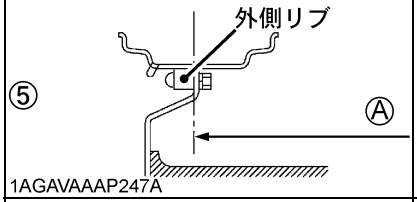
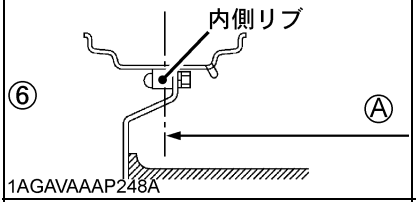
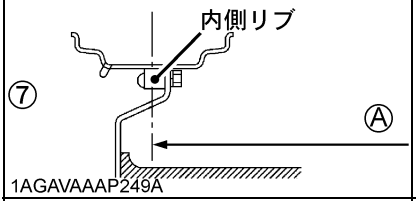
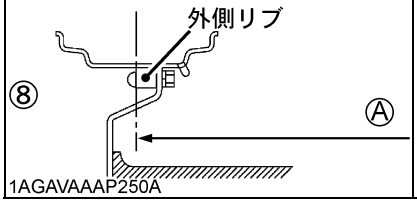
型　式	GV760		GV760W		GV850・950	GV850W・950W
タイヤサイズ 輪距（A）（単位:mm）	9.5-24 （可変） 9.5R24 （可変）	11.2-20 （固定）	8.3-24 （可変） 9.5-24 （可変） 11.2-24 （可変） 9.5R24 （可変）	11.2-20 （固定）	9.5-24 （可変） 11.2-24 （可変） 11.2R24 （可変）	9.5-24 （可変） 11.2-24 （可変） 11.2R24 （可変）
①  1AGAVAAAP100A	1,210	1,400 ［出荷時］	1,330	1,520 ［出荷時］	1,210	1,330
②  1AGAVAAAP101A	1,310	—	1,430	—	1,310	1,430
③  1AGAVAAAP102A	1,300	—	1,420	—	1,300	1,420
④  1AGAVAAAP103A	1,400 ［出荷時］	—	1,520 ［出荷時］	—	1,400 ［出荷時］	1,520 ［出荷時］
⑤  1AGAVAAAP104A	—	—	—	—	—	—
⑥  1AGAVAAAP105A	—	—	—	—	—	—
⑦  1AGAVAAAP106A	—	—	—	—	—	—

補　足

＊ 輪距の図は左前輪タイヤを示します。

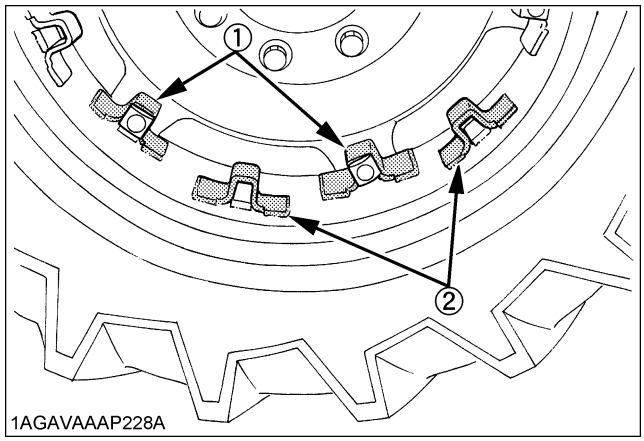
＊ タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。

◆ GV760(W)・850(W)・950(W) 前輪 RC タイヤ

型　式	GV760 GV850 GV950	GV760W GV850W GV950W
タイヤサイズ 輪距 (A)(単位:mm)	9.5-24 11.2-24 ※1	9.5-24 11.2-24 ※2
① 	1,210	1,330
② 	1,250	1,370
③ 	1,260	1,380
④ 	1,300	1,420
⑤ 	1,310	1,430
⑥ 	1,350	1,470
⑦ 	1,360	1,480
⑧ 	1,400 ［出荷時］	1,520 ［出荷時］

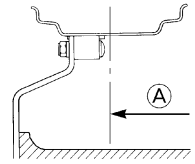
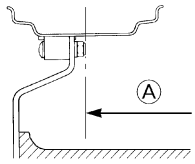
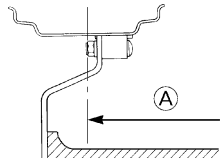
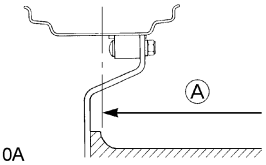
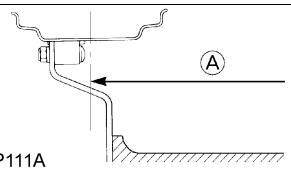
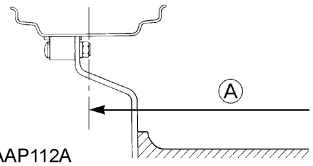
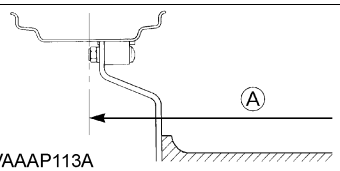
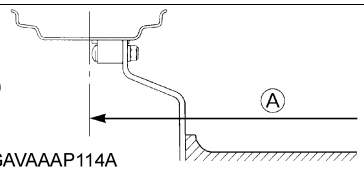
補　足

＊ 輪距の図は左前輪タイヤを示します。
＊ タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。
＊ ※1 ※2 は GV760(W) には採用していません。



①内側リブ
②外側リブ

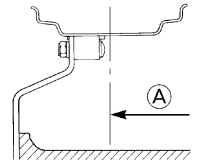
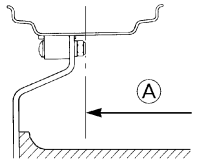
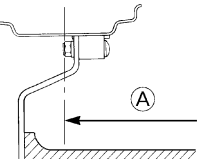
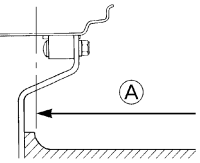
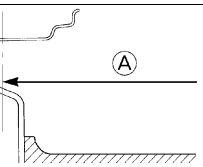
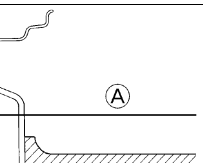
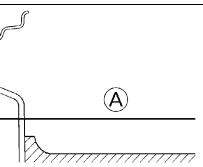
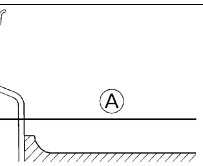
■後輪輪距

型　式	GV500・550・600		GV650・700・750	
タイヤサイズ	13.6-28H ※ 1 13.6-28 ※ 2	12.4-32H ※ 3 12.4-32 14.9-28H	12.4-36H 12.4-36 12.4-38 ※ 4 13.9-36 13.6R36 （ラジアルタイヤ）	16.9-30H 16.9-30
①  1AGAVAAAP107A	—	—	—	—
②  1AGAVAAAP108A	—	—	—	—
③  1AGAVAAAP109A	1,220 ［出荷時］	1,220 ［出荷時］	1,220	—
④  1AGAVAAAP110A	1,320	1,320	1,320 ［出荷時］	1,320 ［出荷時］
⑤  1AGAVAAAP111A	1,420	1,420	1,420	1,420
⑥  1AGAVAAAP112A	1,520	1,520	1,520	1,520
⑦  1AGAVAAAP113A	1,510	1,620	1,620	1,620
⑧  1AGAVAAAP114A	1,610	1,720	1,720	1,720

補　足

＊ 輪距の図は左後輪タイヤを示します。
＊ タイヤサイズの H はハイラグタイヤを示します。
＊ タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。
＊ ※ 1 と※ 2 は GV550,GV600 には採用していません。
＊ ※ 3 は GV500 には採用していません。
＊ ※ 4 は GV650 には採用していません。

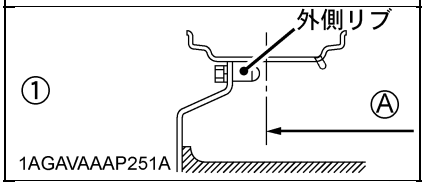
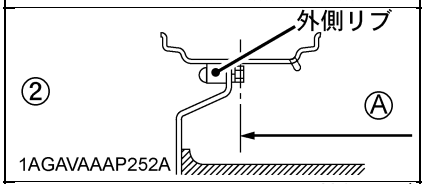
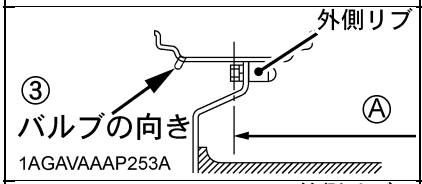
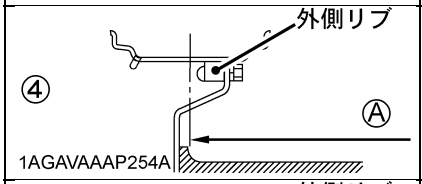
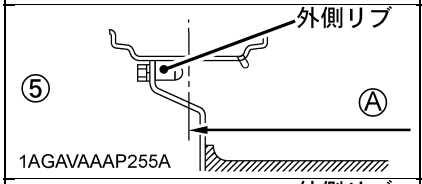
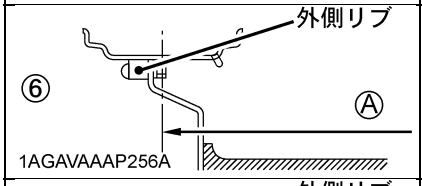
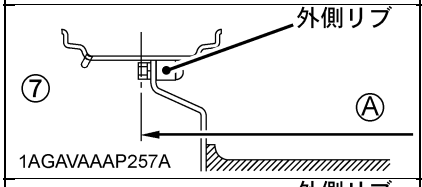
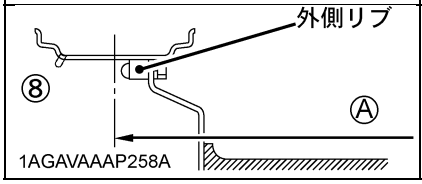
タイヤ・ウエイト

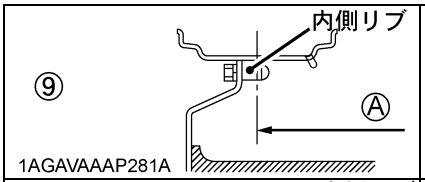
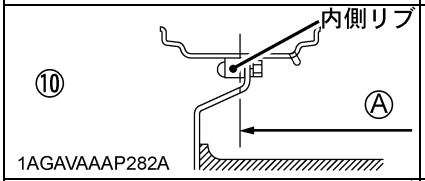
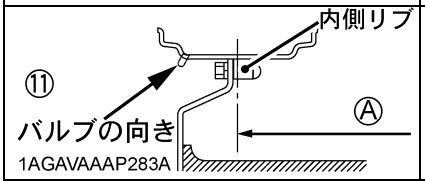
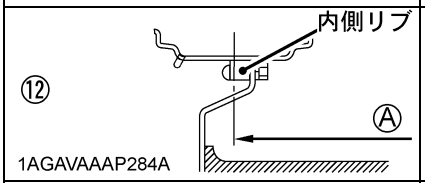
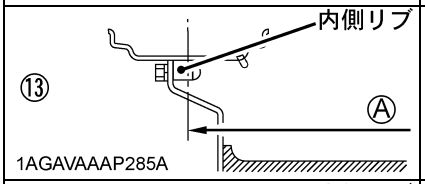
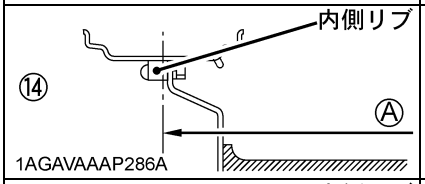
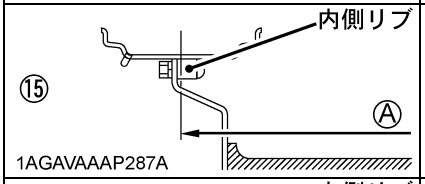
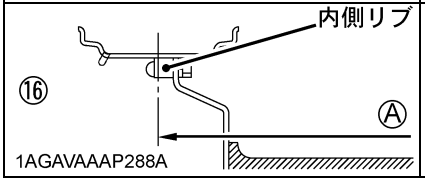
型　式	GV760(W)		GV850(W)・950(W)			
タイヤサイズ 輪距 (A)(単位:mm)	12.4-36H 13.6-38H 13.9-36 13.6R36	16.9-30 16.9-30H 16.9R30	13.6-38H 13.9-36 13.6R38	18.4-30	18.4-30 ※5	16.9-34 ※5 16.9R34 ※5
①  1AGAVAAAP107A	1,200	—	1,200	—	—	—
②  1AGAVAAAP108A	1,300	—	1,300	—	1,350	1,310
③  1AGAVAAAP109A	1,400 [出荷時]	1,400 [出荷時]	1,400 [出荷時]	1,400	1,420 [出荷時]	1,380 [出荷時]
④  1AGAVAAAP110A	1,500 ※6 [出荷時]	1,500 ※6 [出荷時]	1,500 ※6 [出荷時]	1,500 ※6 [出荷時]	1,550 ※6 [出荷時]	1,510 ※6 [出荷時]
⑤  1AGAVAAAP111A	1,600	1,600	1,600	1,600	1,620	1,660
⑥  1AGAVAAAP112A	1,700	1,700	1,700	1,700	1,750	1,790
⑦  1AGAVAAAP113A	1,800	1,800	1,800	1,800	1,820	1,860
⑧  1AGAVAAAP114A	1,900	1,900	1,900	1,900	1,950	1,990

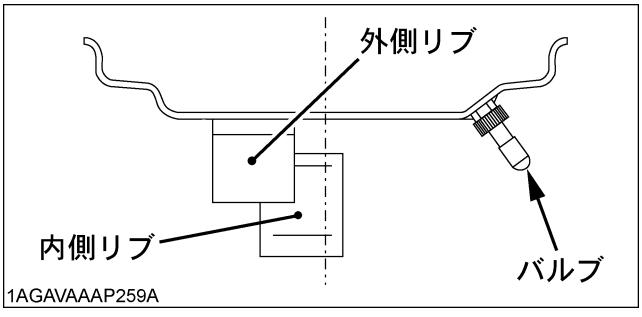
補　足

＊ 輪距の図は左後輪タイヤを示します。
＊ タイヤサイズの H はハイラグタイヤを示します。
＊ タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。
＊ ※5 のディスクは鋳物製です。
＊ ※6はワイドトレッド(W)仕様の出荷時トレッドです。

◆ GV760(W) ・850(W) ・950(W) 後輪 RC タイヤ

型　式	GV760(W) GV850(W) GV950(W)
タイヤサイズ 輪距 (A)(単位:mm)	12.4-38 13.6-38 ※1
① 	1,200
② 	1,320
③ 	1,380
④ 	1,500 ※2［出荷時］
⑤ 	1,600
⑥ 	1,720
⑦ 	1,780
⑧ 	1,900

⑨ 	1,260
⑩ 	1,380
⑪ 	1,320
⑫ 	1,440 ［出荷時］
⑬ 	1,660
⑭ 	1,780
⑮ 	1,720
⑯ 	1,840



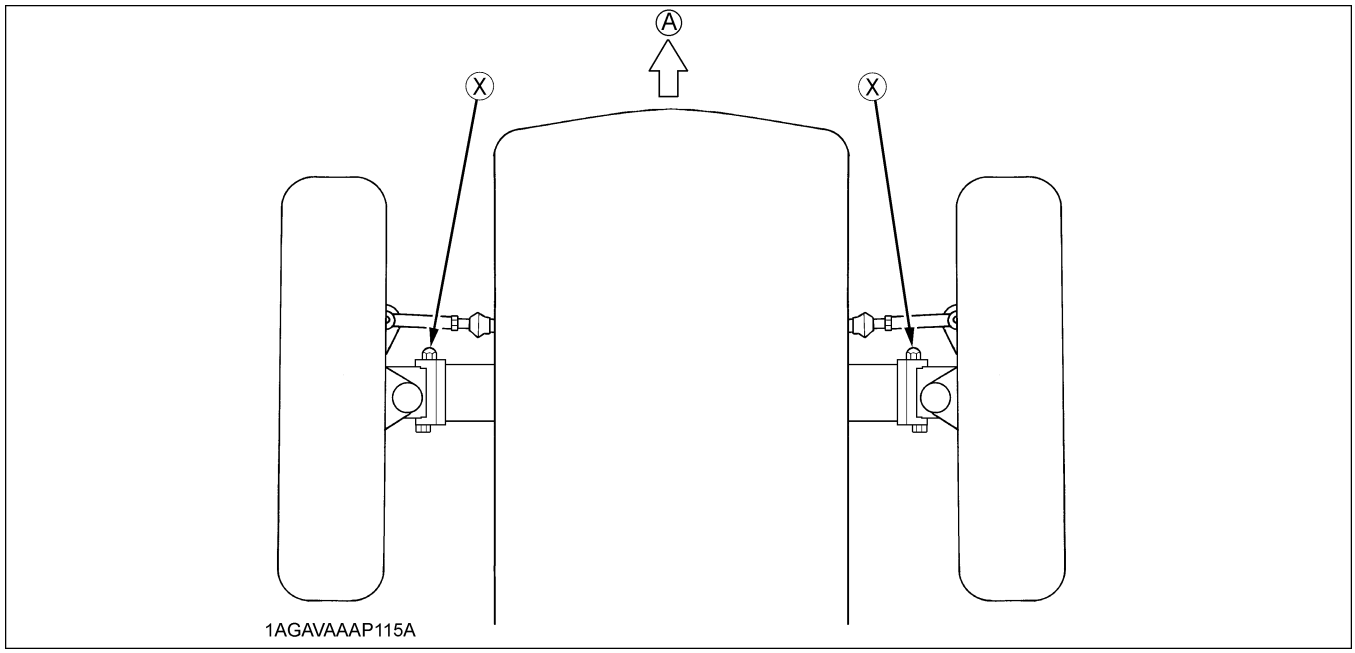
補　足

＊ 輪距の図は左後輪タイヤを示します。
＊ タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。

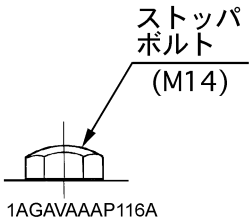
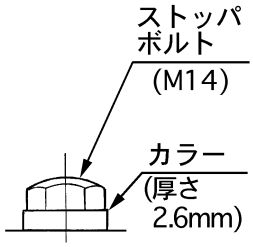
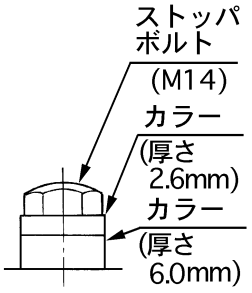
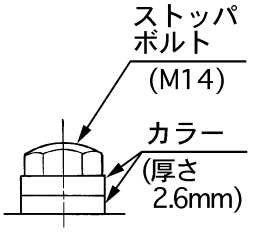
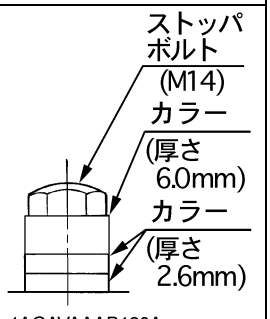
＊ ※1はGV760(W)には採用していません。
＊ ※2はワイドトレッド(W)仕様の出荷時トレッドです。

前輪切れ角の調整

[GV650・700・750]



Ⓐ**“トラクタ前方”**

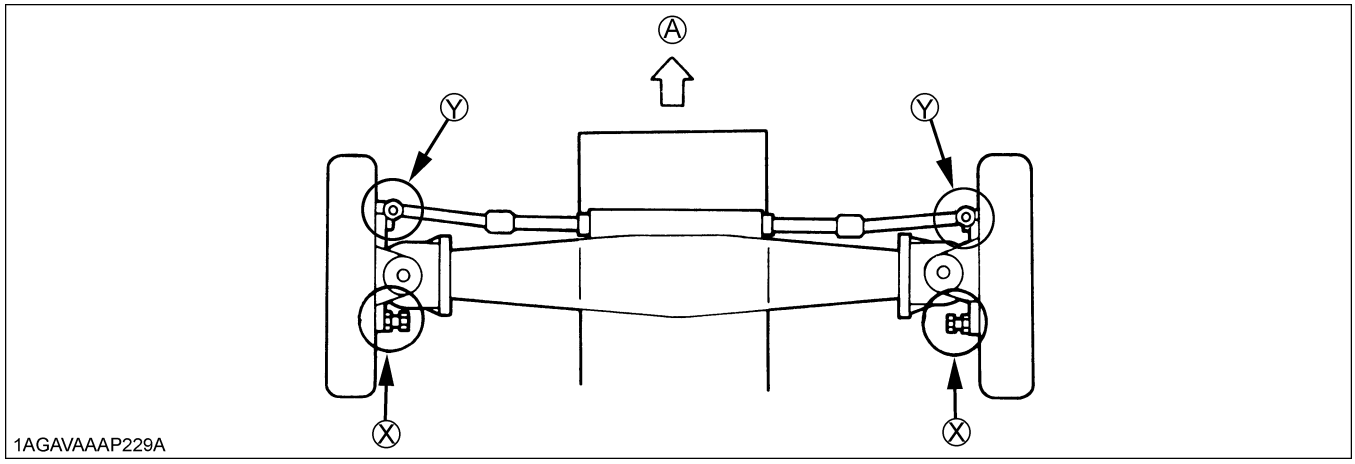
(X) 部ストッパボルトの調整要領				
(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
				

■ストッパボルトの調整

前輪輪距を変更した場合，タイヤサイズにより前輪切れ角の調整が必要となります。
必ず下表に基づき，前輪切れ角の調整を行なってください。

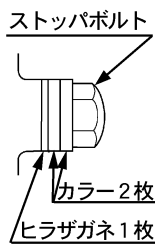
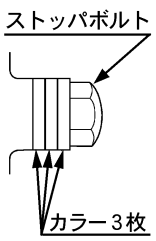
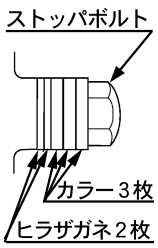
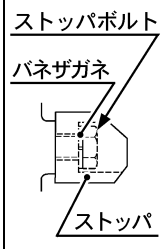
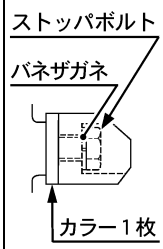
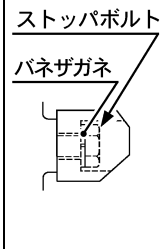
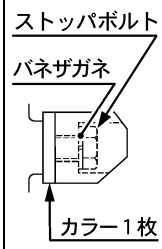
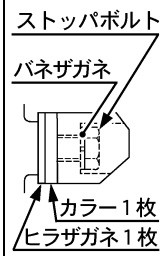
型　式	タイヤサイズ	輪距（mm）				
		ストッパ				
GV650 GV700 GV750	9.5-22	1220	1300	1320 以上	—	
		(A)	(A)	外す		
	9.5-24	1200	1290	1300	1390	1500
		(C)	(B)	(A)	(A)	外す
	9.5R24	1200	1290	1300	1390	1500
		(E)	(D)	(B)	(A)	外す

[GV760・850・950]



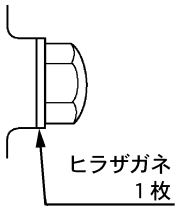
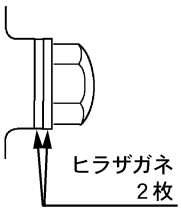
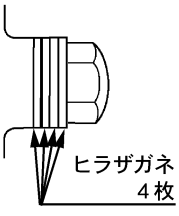
Ⓐ“トラクタ前方”　　Ⓨ“タイヤサイズ変更時以外は調整不要”

(X) 部ボルトの調整要領

(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)
			 ＊左側に取付けた状態	 ＊左側に取付けた状態	 ＊左側に取付けた状態	 ＊左側に取付けた状態	 ＊左側に取付けた状態

型式	タイヤサイズ	輪距 (mm)				
		1210	1250 1260	1300 1310	1350 1360	1400
GV760	9.5-24	F	E	D	C	A
	11.2-20	—	—	—	—	A
	9.5R24	F	—	D	—	A
GV850 GV950	9.5-24	F	E	D	C	A
	11.2-24	G	F	E	D	B
	11.2R24	H	—	F	—	C

(Y) 部ボルトの調整要領

①	②	③
		

型式	タイヤサイズ	輪距 (mm)				
		1330	1370 1380	1420 1430	1470 1480	1520
GV760W	8.3-24	D	—	A	—	A
	9.5-24	D	C	A	A	A
	11.2-20	—	—	—	—	A
	11.2-24	D	—	B	—	A
	9.5R24	D	—	A	—	A
GV850W GV950W	9.5-24	D	C	A	A	A
	11.2-24	D	D	B	A	A
	11.2R24	E	—	B	—	A

型式	タイヤサイズ	調整番号
GV760(W)	8.3-24	①
	9.5-24	①
	11.2-20	①
	11.2-24	①
	9.5R24	①
GV850(W) GV950(W)	9.5-24	① [①]
	11.2-24	② [①]
	11.2R24	③ [①]

[　] 内はワイドトレッド (W) 仕様

■ストッパ交換要領

1. 従来のストッパボルトとカラーを取外し，ストッパ又は，カラーを取付け，ストッパボルトを軽く締めてください。
2. エンジンを回転させステアリングハンドルを回してストッパを２～３回ベベルギヤケースに接触させてください。(ストッパの接触面の位置決めをするため)
3. その後，ストッパボルトを締込みますが，ストッパの位置がずれないようにするため，モンキーレンチでストッパの回り止めをしてからストッパボルトを強く締込んでください。

補　足

＊ (C) ～ (H) に輪距変更するときは
L=45㎜ のストッパボルト（付属品）を使用してください。出荷時は L=40㎜ のストッパボルトとなっています。

重　要

＊ (Y) 部のボルトは輪距変更による調整は不要ですが，購入時のタイヤからサイズを変更した場合には (Y) 部のボルトの調整を行なってください。

ウエイト（別売）

注　意

＊ トラクタ後部用作業機を装備したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
＊ 装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の20%以上を確保できない作業機は装着しないでください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。
＊ フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装着してください。
（詳細は購入先にご相談ください。）

■前部ウエイト（オプション）

ウエイトの必要枚数は使用するインプルメントの取扱説明書や購入先にご相談ください。

重　要

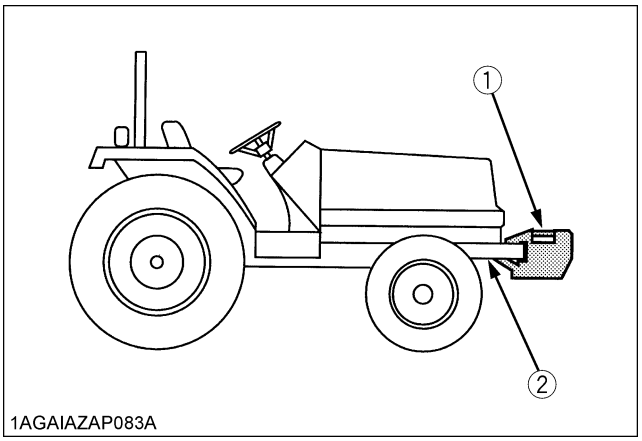
＊ タイヤに過負荷を加えないでください。
＊ 下表に示した以上にウエイトを追加しないでください。

[GV500・550・600・650・700・750]

ウエイト取付台	最大ウエイト
板金タイプ	45kg × 10 枚
鋳物タイプ	45kg × 8 枚

[GV760・850・950]

ウエイト取付台	最大ウエイト
板金タイプ	45kg × 10 枚
鋳物タイプ	45kg × 12 枚



①前部ウエイト
②フロントウエイト取付台

■後輪ウエイト（オプション）

ウエイトの必要枚数は使用するインプルメントの取扱説明書や購入先にご相談ください。

重　要

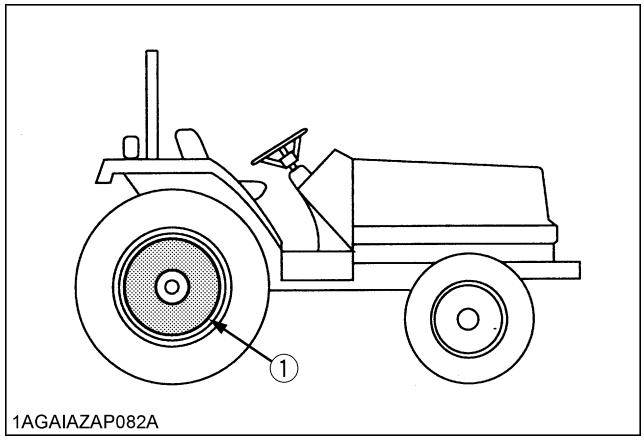
＊ タイヤに過負荷を加えないでください。
＊ 下表に示した以上にウエイトを追加しないでください。

[GV500・550・600]

最大ウエイト	50kg × 2 枚 / 片側タイヤ

[GV650・700・750・760・850・950]

最大ウエイト	50kg × 3 枚 / 片側タイヤ



①後輪ウエイト

補　足

＊ ウエイトの着脱は，オプションキット内の要領書を参照してください。

安全キャブ装備品の取扱い

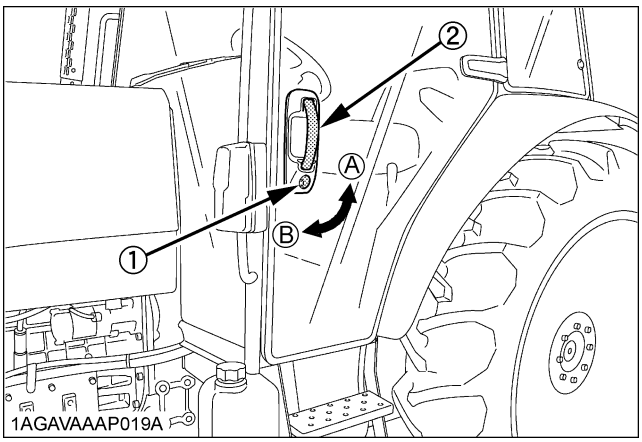
ドア・窓の開閉とロック

注　意

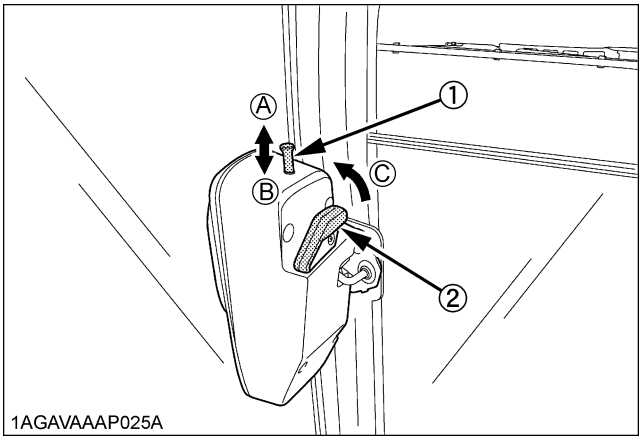
＊ リヤウインド後方で作業機を着脱・調整する場合は，リヤウインドの開閉に注意してください。（開放時頭などを打つおそれがあります。）
＊ ガラスを破損させるおそれがありますので安全キャブ内には物を載せないでください。
＊ ガラスの取扱いはていねいに行なってください。

■ドア

◆ ドアの開閉とロック



①ドアキー　　**Ⓐ“施錠”**
②ドアアウタハンドル　　**Ⓑ“解錠”**



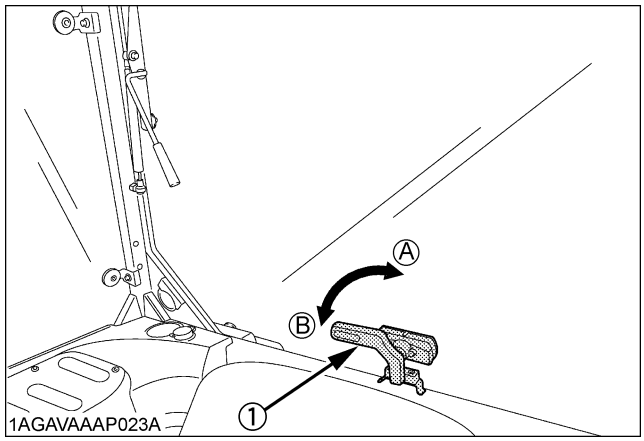
①ロックノブ　　**Ⓐ“解錠”**
②インナハンドル　　**Ⓑ“施錠”**
Ⓒ“開く”

補　足

＊ ドアにぶらさがったり，作動範囲以上に無理に押し開かないでください。

■リヤウインド

リヤウインドハンドルを時計方向に回し，そのまま押すと，ダンパの作用で容易に開くことができます。



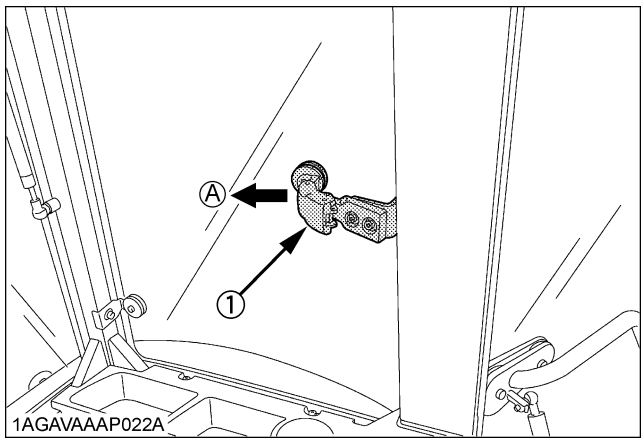
①リヤウインドハンドル　　**Ⓐ“開”**
Ⓑ“閉”

重　要

＊ 作業機によってはリヤウインドの開閉ができない場合がありますので，開閉するときには十分確認して行なってください。
＊ リヤウインドを開放したままで，作業機を上げるとリヤウインドを破損するおそれがありますので，作業機を上げるときには安全を十分確認してください。
＊ リヤウインドを開放したままで，高速走行や悪路走行をしないでください。

■クォータウインド

止め金具を手前に引き，ガラスと共に外側へ押すと開きます。



①止め金具　　**Ⓐ“引く”**

重　要

＊ クォータウインドを開放したままで，悪路走行をしないでください。

ルームランプ

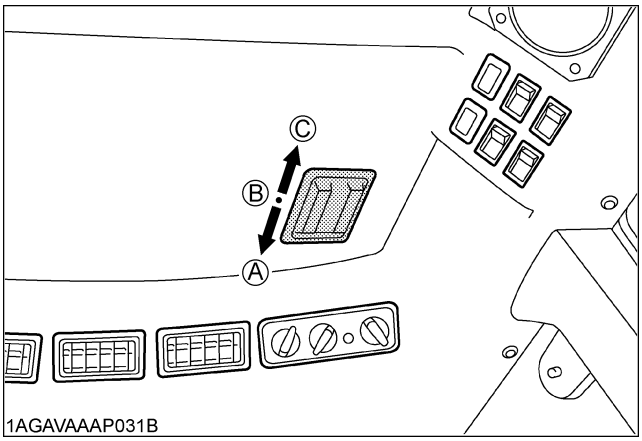
■ルームランプ

ルームランプカバーをスライドさせることにより，スイッチが作動します。

[OFF] ... 常時消灯。ドアを開けてもランプは点灯しません。

[●] .... 左側ドアを開けるとランプが点灯し，閉めるとランプは消灯します。

[ON] .... ドアの開閉に関係なく，ランプが点灯します。



①ルームランプ

Ⓐ“OFF”
Ⓑ“・”
Ⓒ“ON”

ワイパ

■フロントワイパ・ウォッシャスイッチ

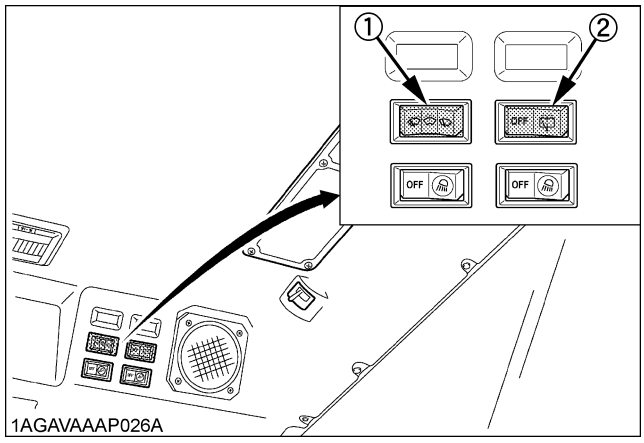
1. スイッチの右側を 1 段押すとワイパが作動します。さらに 2 段目を押すと，押している間のみ，ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
2. スイッチの左側を 1 段押すと，間欠ワイパが作動します。(少雨時使用)
   さらに 2 段目を押すと，押している間のみワイパが作動したまま，ウォッシャ液が噴射します。

■リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

1. スイッチの右側を 1 段押すとワイパが作動します。
   さらに 2 段目を押すと，押している間のみ，ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
2. スイッチの左側を押込むと，ウォッシャ液が噴射します。

重 要

＊ からぶきはガラスを傷つけることがあります。
必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。



①フロントワイパ・ウォッシャスイッチ
②リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

■寒冷時のワイパの使用

1. 寒冷時には，ワイパブレードを立ててガラスとの氷着をさけてください。
2. ガラスに雪が積もっているときには，雪を取除いてからワイパを使用してください。
3. ワイパブレードがガラスに氷着して作動しなかったときは，必ずキースイッチを**［切］**にしてブレード部の氷を取除いてから再度起動させてください。
4. 市販の寒冷地用ワイパブレードを使用する際は，標準装着品と同サイズか，それ以下のサイズのものを使用してください。

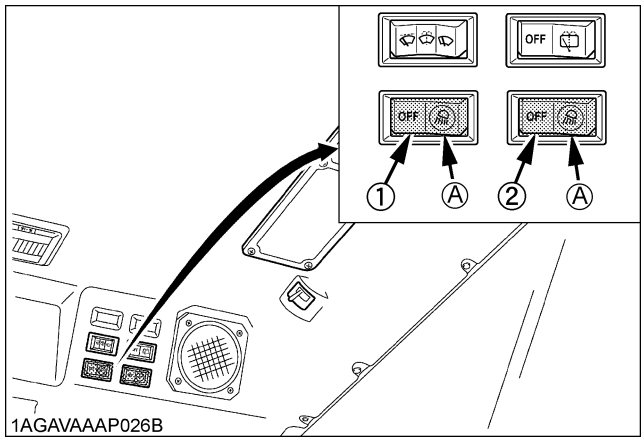
重　要

＊ 寒冷時には，ワイパブレード及びワイパモータに過大な負担がかかることがあります。そのため，ワイパブレード及びワイパモータの故障につながるおそれがあります。このようなことをなくすため，上記のことを必ず守ってください。

作業灯

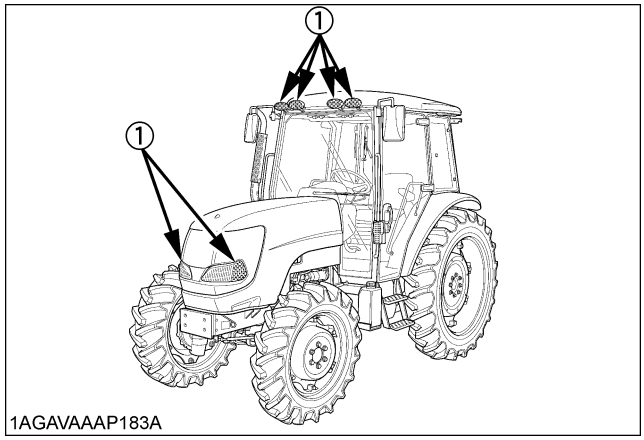
■作業灯スイッチ

作業灯スイッチの右側を押すと作業灯が点灯し，スイッチの左側を押すと消灯します。
またスイッチには，作業灯の点灯を示すインジケータランプが内蔵されています。



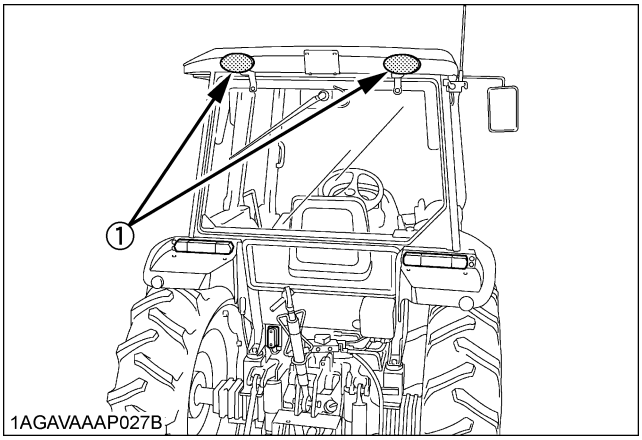
①作業灯（前）スイッチ　　Ⓐインジケータランプ
②作業灯（後）スイッチ

■作業灯（前）



①作業灯（前）

■作業灯（後）



①作業灯（後）

重　要

＊ バッテリがあがりますので，ヒータ・作業灯・ヘッドライトなど電装品を使用する場合は，エンジン回転を 1800 回転以上にしてください。

補　足

＊ 作業灯は**［道路運送車両の保安基準］**第 42 条（灯火の色等の制限）において，**［走行中に使用しない灯火］**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

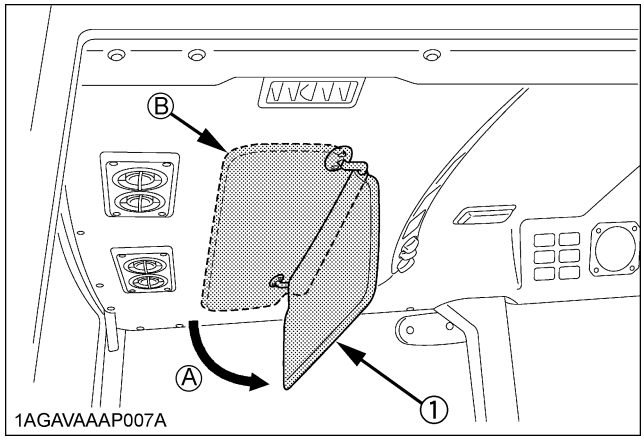
サンバイザ

■サンバイザ

注　意

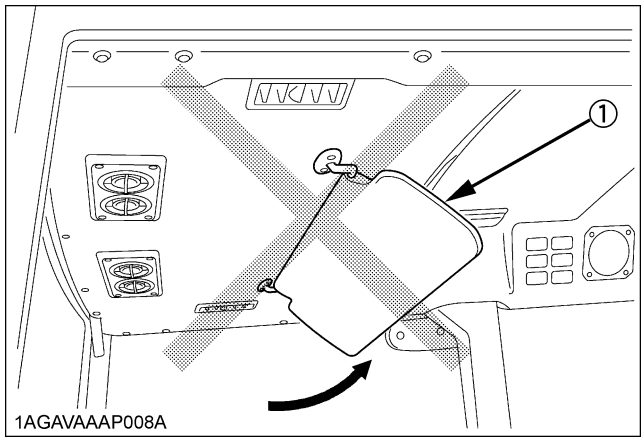
＊ サンバイザを適切な位置で使用しないと，前方視界がさえぎられたり，頭にあたったりするおそれがあります。
＊ サンバイザと天井の間に物をはさまないでください。発進・停止時に物が落ちるおそれがあります。

直射日光などでまぶしいときに使用します。
サンバイザは，収納位置より下げて使用してください。



①サンバイザ　　**Ⓐ“使用位置”**
Ⓑ“収納位置”

下図のように使用すると，頭などに当たるおそれがあります。

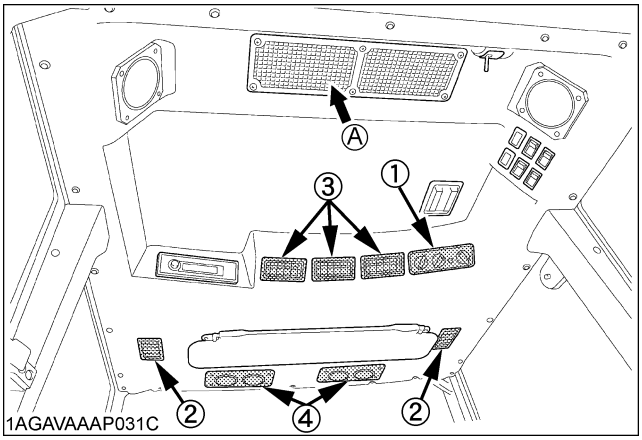


①サンバイザ

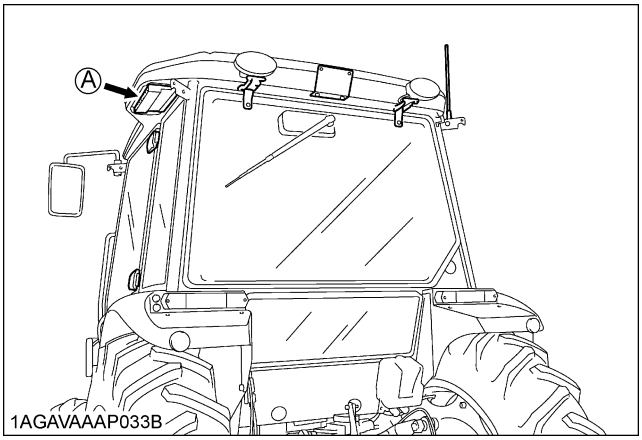
エアコン

■空気の流れ

安全キャブ内の空気の流れは下図の通りです。
9ヵ所の吹出口の調節により，最適のコンディションが得られます。



①コントロールパネル
②サイド（ドア）吹出口
③フェイス吹出口
④フロント吹出口
Ⓐ“内気循環導入口”

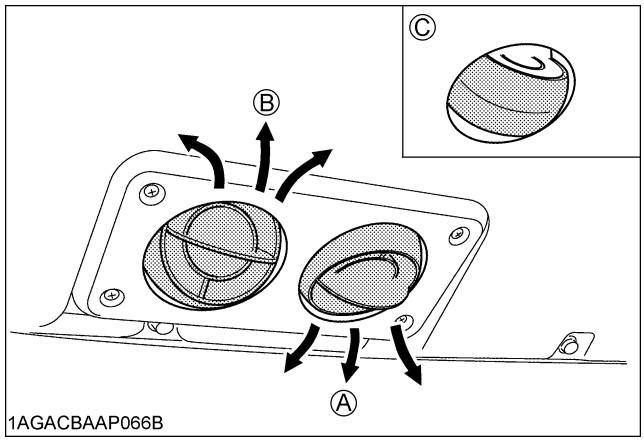


Ⓐ“外気導入口”

■風向調整

◆ フロント吹出口

風の方向は，吹出口により自由に調整できます。
デフロスタ（フロントガラスのくもり止め）として使用する場合，吹出口をフロントガラスの方向に向けてください。



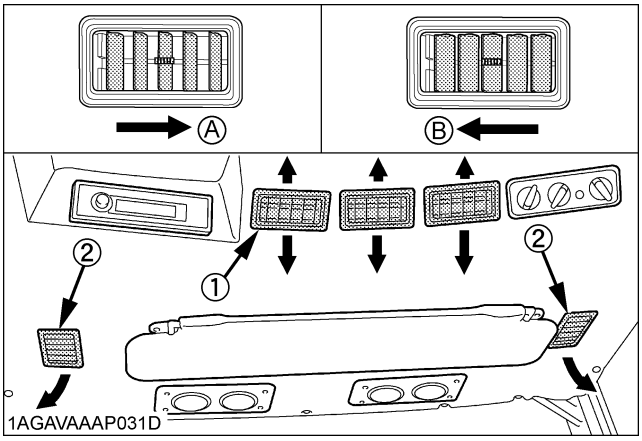
Ⓐ“フロントガラス（足元）”
Ⓑ“顔面”
Ⓒ“閉”

補　足

＊ フロント吹出口からの冷風がメータパネルに当たると，メータパネルが曇ることがあります。そのときは，吹出口の向きを変えて，メータパネルに冷風が当たらないようにしてください。

◆ フェイス吹出口
◆ サイド（ドア）吹出口

冷風の方向は，ルーバーの向きにより自由に調整できます。



①フェイス吹出口　　**Ⓐ“開”**
②サイド（ドア）吹出口　　**Ⓑ“閉”**

重　要

＊ 顔面や背面への風量を増したいときは，サイド吹出口（ドア）を**［閉］**にしてください。
＊ ドアのくもり止めのため，ドアへの風量を増したいときは，フェイス吹出口（顔面，背面）を**［閉］**にしてください。

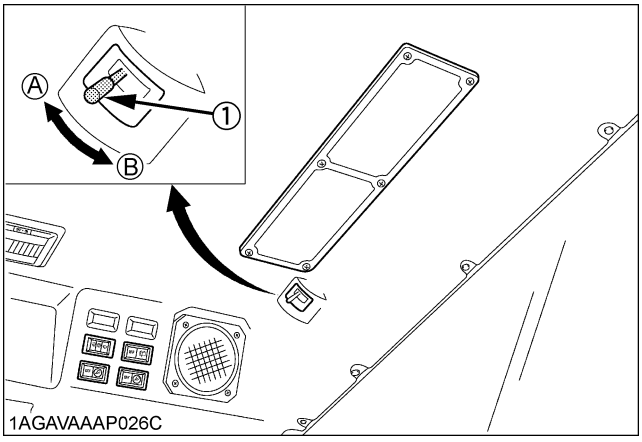
◆ 内外気切換えレバー

外気導入…　レバーを**［外気］**位置にすると，安全キャブ室内に外気が入ってきます。
ほこりが多い作業やガラスが曇る場合に使用します。



内気循環…　レバーを**［内気］**位置にすると，外気は入りません。
早く冷暖房をきかせたいときや強くきかせたいときに使用します。



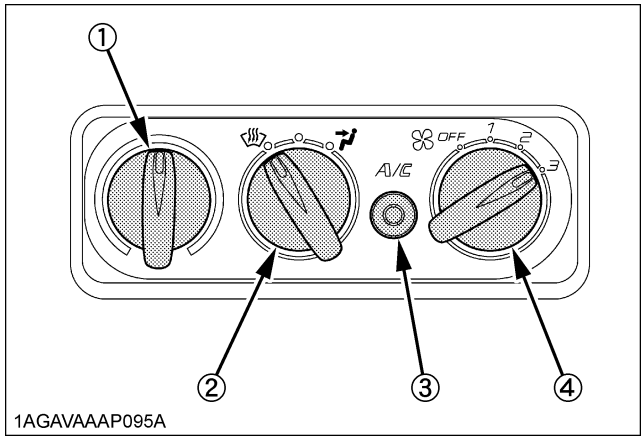


①内外気切換えレバー　　**Ⓐ“内気”**
Ⓑ“外気”

補　足

＊ 内気循環での長時間暖房は避けてください。ガラスが曇りやすくなります。
＊ ほこりが多発する作業では，外気導入で使用してください。外気を採り入れることにより室内の圧力が上昇し，安全キャブ室内にほこりが入りにくくなります。

■コントロールパネル



①温度コントロールつまみ
②モード切換スイッチ
③エアコンスイッチ（インジケータランプ付）
④ファンスイッチ

◆ モード切換スイッチ

フェイス吹出口より風が出ます。

フロントとサイド吹出口より風が出ます。

• 中間位置にするとフロントとサイド吹出口の風が弱く，フェイス吹出口の風が強くなります。

◆ 温度コントロールつまみ

温度を調節するためのつまみです。好みの位置にセットして適宜調節します。右に回すと温風，左に回すと冷風が出ます。

◆ ファンスイッチ

風量が 3 段階に切換えられます。**[3]** は最も風量の多い位置です。

◆ A/Cエアコンスイッチ

エアコンを使うときは，このスイッチを押して **[入]** にします。**[入]** のとき，インジケータランプが点灯します。

重　要

＊ トラクタを 1 週間以上，長期放置後にエアコンを使うときは，エンジン回転をアイドリングしてA/Cエアコンスイッチを **[入]** にし，1 分間運転してください。
エンジン回転が高いままで，A/Cエアコンスイッチを **[入]** にするとコンプレッサが故障するおそれがあります。

補　足

＊ モードの時，温度コントロールつまみを一番左に回した状態ではフェイス吹出口からも風が出ます。運転条件に応じフェイス吹出口の開閉調節を行なってください。

■取扱い操作方法

◆ 暖房

1. モード切換スイッチを又は● にします。
2. 内外気切換えレバーを FRESH 外気導入にします。
   早く室温を上げたいときは RECIRC 内気循環にします。
3. ファンスイッチ **(1・2・3)** と温度コントロールつまみを調整し，快適な温度にします。

補　足

＊ 夏期ヒータを使用しないときは，熱気で室内温度が上昇しないように，温度コントロールつまみを**冷風**（左端）に寄せてください。

◆ 冷房・除湿暖房

1. モード切換スイッチを又は● にします。
2. 内外気切換えレバーを FRESH 外気導入にします。
3. エアコンスイッチを押し **[入]** にします。
4. ファンスイッチ **(1・2・3)** を作動させます。
5. 温度コントロールつまみを**冷風**又は中間位置に調整し，快適な温度にします。

◆ 頭寒足熱

冷房・除湿暖房の運転状態で，温度コントロールつまみを中間位置で使用すると，顔が涼しく足元が暖かい（頭寒足熱）快適な状態が得られます。

◆ デフロスト

フロントガラスの曇り及び凍結除去するときは，

1. フロント吹出口を開き，フロントガラスの方向に向けます。
2. モード切換スイッチを にします。
3. 内外気切換えレバーを FRESH 外気導入にします。
4. ファンスイッチを **3**，温度コントロールつまみを**温風**（右端）にします。

■ヒータの使用上の注意

注　意

＊ ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。
＊ 異常を認めたとき、修理を怠るとヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。

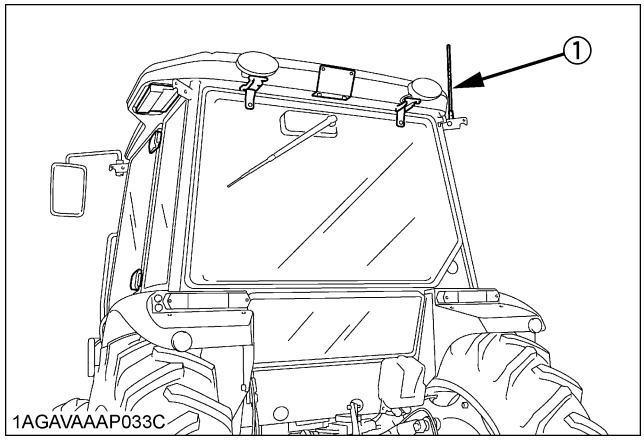
1. 冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
   また，有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
2. 冬期において不凍液を使用しない場合は，運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。
   (冷却水の排水のしかたは,**[2 年ごとの点検・整備]**の**[冷却水の交換]**の項を参照してください。)
3. ウォータホースは 2 シーズンごとに交換を受けてください。
4. 日常点検
   次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。
   (ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。)

＊ ウォータホースの傷付き，ひびわれ，ふくらみ,
＊ ウォータホースジョイント部の水漏れ
＊ ウォータホースの保護ブッシュ及びグロメットの外れ，破損
＊ 本体取付けボルトの緩み，ブラケットの破損

5. ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。

アンテナ

■アンテナ



①アンテナ

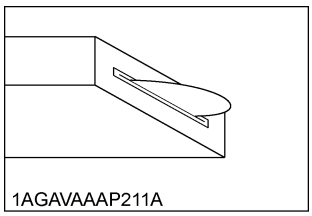
重　要

＊ アンテナは角度調節ができませんので動かさないでください。

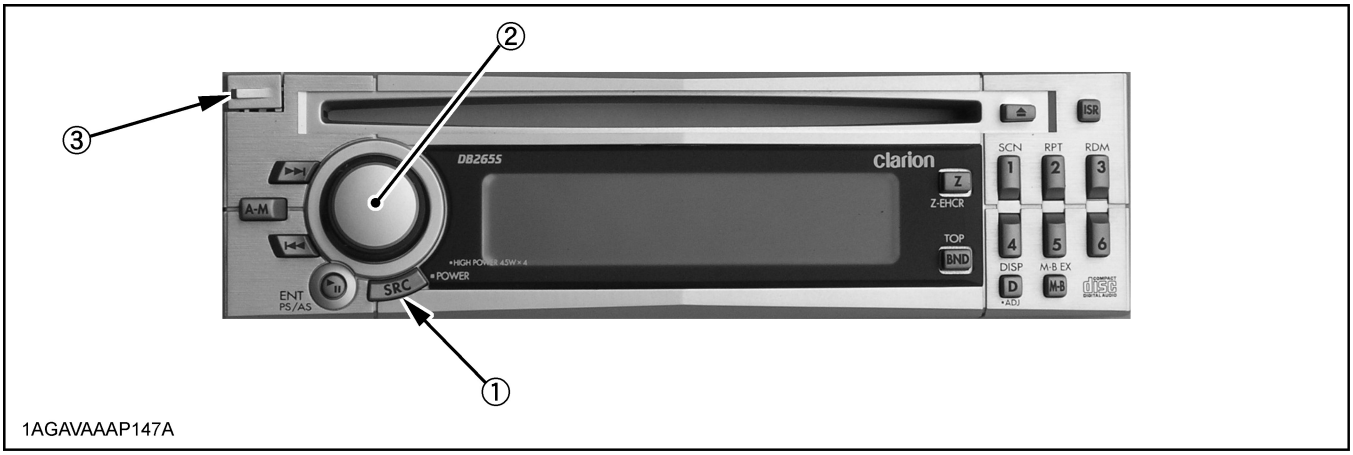
AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの取扱い

注 意

＊ 運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。
＊ CD が落下して頭にあたったりするおそれがあるので，下図の状態で放置しないでください。



共通部の操作のしかた



① [SRC] ボタン
② [VOLUME] ノブ
③ リリースボタン

■電源の入／切

1. **[SRC]** ボタンを押すと電源が入り，前回電源を切ったときのソースで始まります。
2. **[SRC]** ボタンを押すたびに，ラジオと CD が交互に切換わります。CD が入っていないときには，**[NO DISC]** と表示されます。
3. **[SRC]** ボタンを約 1 秒間押すとラジオ又は CD への電源が切れます。

補 足

＊ 電源が **[切]** 状態でも，キースイッチが **[ON]** または **[ACC]** 位置では，時計が表示されます。(時刻の設定は **[時刻合わせ]** の項を参照)

■音量調節

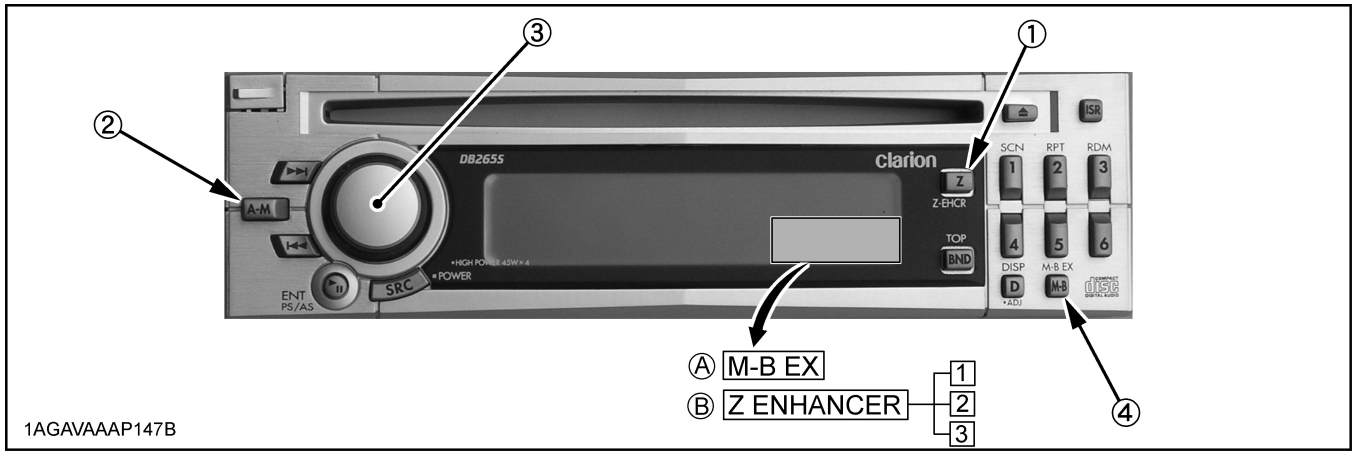
[VOLUME] ノブを左右に調節します。
右へ回すと大きくなり，左へ回すと小さくなります。

補 足

＊ 調節時はディスプレイに音量値が **[VOLUME 0]** ～ **[VOLUME 33]** の範囲内で表示されます。

■リリースボタン

このボタンを押すと操作パネルが外れます。
操作パネルは衝撃に弱いため，必要以上には取り外さないでください。



① [Z] ボタン
② [A-M] ボタン
③ [VOLUME] ノブ
④ [M-B] ボタン

Ⓐ マグナベース EX　ON 時点灯
Ⓑ Z エンハンサーインジケータ

■音質調整

◆ 音質自動ワンタッチ設定

[Z] ボタンを押すごとにインジケータ表示が下記のように切換わります。お好みの音質を設定してください。

インジケータ	備　考
Z ENHANCER 1	低音を重視したサウンド
Z ENHANCER 2	高音を重視したサウンド
Z ENHANCER 3	低音と高音を重視したサウンド
消灯 (OFF)	初期設定

◆ 音質手動設定

1. **[Z]** ボタンを押し，Z ENHANCER を **[OFF]**（消灯）にする。
2. **[A-M]** ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイ表示が切換わります。

ディスプレイ	備　考
BASS	低音部調整
TREB	高音部調整
BAL	左右スピーカの調整
FAD	—
消灯	元のソース

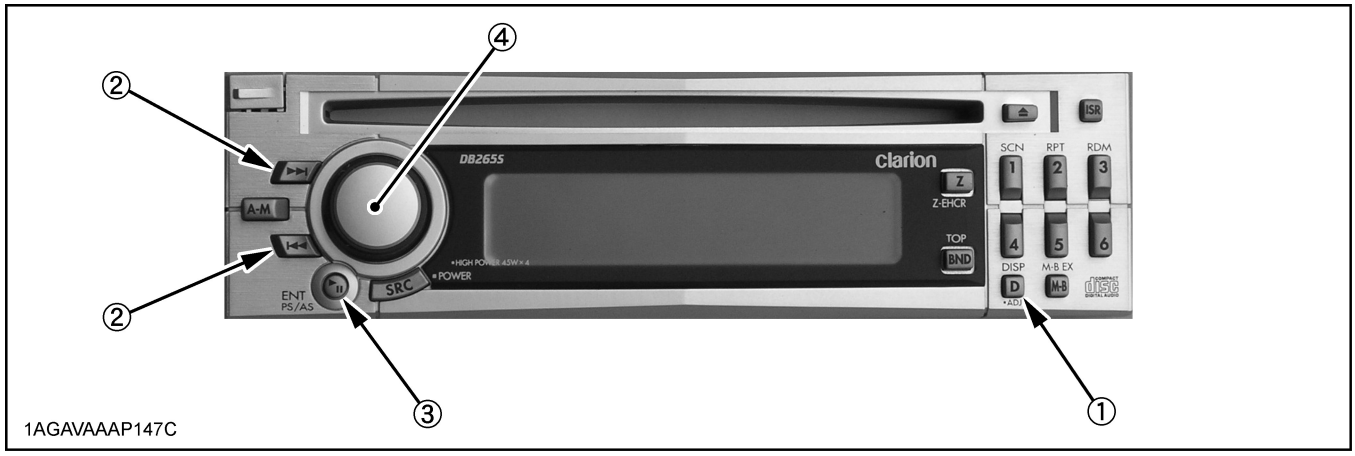
3. **[BASS]** または **[TREB]** を選択し，**[VOLUME]** ノブを左右に回し調節します。
   右へ回すと強調され，左へ回すと減衰されます。(調整範囲は，－7～＋7です。)
4. **[A-M]** ボタンを再度押すと設定が完了します。

補　足

＊ 音質は Z- エンハンサ機能が **[OFF]** のとき調整できます。

■重低音の増強

[M-B] ボタンを押すと，マグナ・ベース EX (MAGNA BASS EX) が ON になり，重低音が増強されます。
[M-B] ボタンを再度押すと，マグナ・ベース EX 機能が解除されます。



① [D] ボタン
② サーチボタン
③ プレイ / ポーズボタン
④ [VOLUME] ノブ

■時計表示への切換え

[D] ボタンを押すごとに下記のように表示が切換わります。

ラジオモードの場合

	表示例
周波数表示	FM 1 83.00
時間表示	AM 10:05

CD モードの場合

	表示例
演奏状態表示	TO 1 00:01
時間表示	PM 10:05

補　足

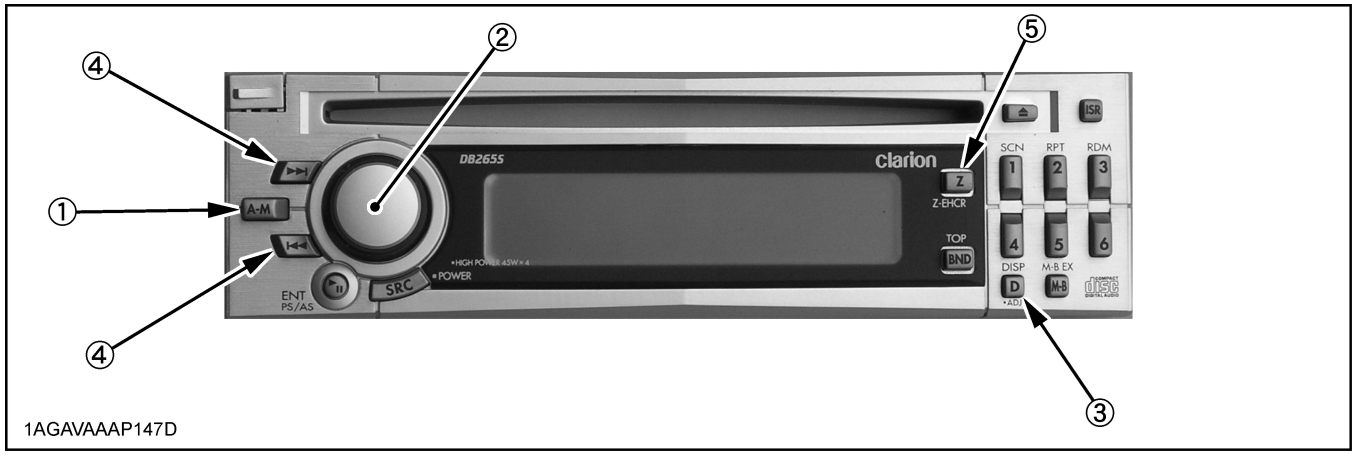
＊ 常に時計を表示させるには，スクリーンセーバー機能を **[SS OFF]** に設定します。
（**[スクリーンセーバーの設定]** の項を参照）
＊ 時計表示のときは，ラジオの選局や CD の選曲などのボタン操作時に，受信周波数やトラック No. などを表示した後，元の時計表示に戻ります。

■時刻合わせ

1. キースイッチを **[ACC]** 又は **[ON]** にします。
2. **[D]** ボタンを約 1 秒間押し，**[SCRN SVR]** を表示させる。
3. サーチボタンを押して，**[CLOCK<E>]** を選択します。
4. プレイ / ポーズボタンを押します。
   調整時点（**[AM 10:16]** など）の時刻を表示して，時刻設定モードになります。
5. サーチボタンを押して，「時」または「分」を選択します。
   点滅している項目が調整できます。
6. **[VOLUME]** ノブを回して，時刻を合わせます。
7. プレイ / ポーズボタンを押すと設定が完了します。

補　足

＊ 時計は 12 時間表示です。
＊ 時刻を合わせる途中で他のボタンを操作すると，時刻調整は解除されます。



① [A-M] ボタン
② [VOLUME] ノブ
③ [D] ボタン
④ サーチボタン
⑤ [Z] ボタン

■左右スピーカの音量バランス調整

1. **[Z]** ボタンを押し，Z ENHANCER を **[OFF]**（消灯）にする。
2. **[A-M]** ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイ表示が切換わります。

ディスプレイ	備　考
BASS	低音部調整
TREB	高音部調整
BAL	左右スピーカの調整
FAD	—
消灯	元のソース

3. **[BAL]** を選択し，**[VOLUME]** ノブを左右に回します。

右へ回すと右側が強調され，左へ回すと左側が強調されます。（調整範囲は，L13 ～ R13 です。）

4. **[A-M]** ボタンを再度押すと設定が完了します。

補　足

＊ 音量は Z- エンハンサ機能が **[OFF]** のとき調整できます。

■スクリーンセーバーの設定

1. **[D]** ボタンを約 1 秒間押し，**[SCRN SVR]** を表示させる。
2. サーチボタンを押して，**[SCRN SVR]** を選択します。
3. **[VOLUME]** ノブを回して，**[SS ON]** 又は **[SS OFF]** を選択します。

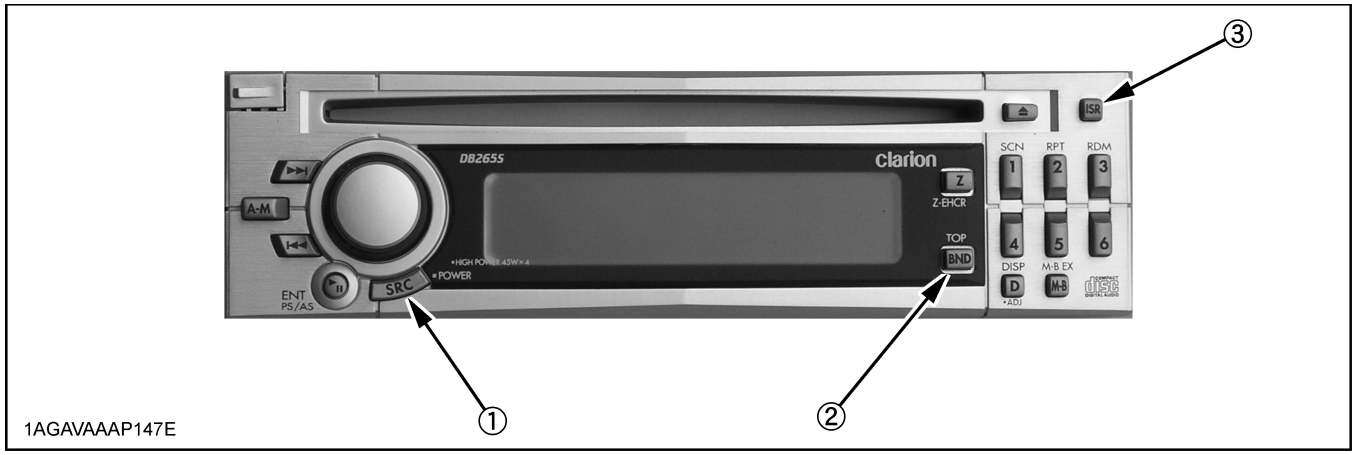
SS ON	スクリーンセーバー機能がONになります。 演奏などの状態表示で30秒間何も操作しないと，スクリーンセーバー表示になります。
SS OFF	スクリーンセーバー機能が OFF になります。

4. **[D]** ボタンを再度押すと設定が完了します。

補　足

＊ 初期設定は **[SS ON]** です。ディスプレイに演奏状態を常に表示させておきたい場合は，**[SS OFF]** に設定しておいてください。

ラジオを聴くには



①［SRC］ボタン
②［BND］ボタン
③［ISR］ボタン

■ラジオの選択

1. **【SRC】**ボタンを押すと受信バンドと受信周波数（**【FM1 83.00】**など）を表示して，ラジオが選択されます。

補　足

＊ **【SRC】**ボタンを押すたびに，ラジオと CD が切換わります。

■受信バンドの選択

1. **【BND】**ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイが切換わります。
お好みのバンドを選択してください。

FM1 → FM2 → AM1 → AM2

■クイック選局（ISR 機能）

ISR 機能とはどのソースからでもすぐに，特定の放送局を呼び出す機能です。
交通情報など，運転中に聴きたい情報などをすばやく選局できます。

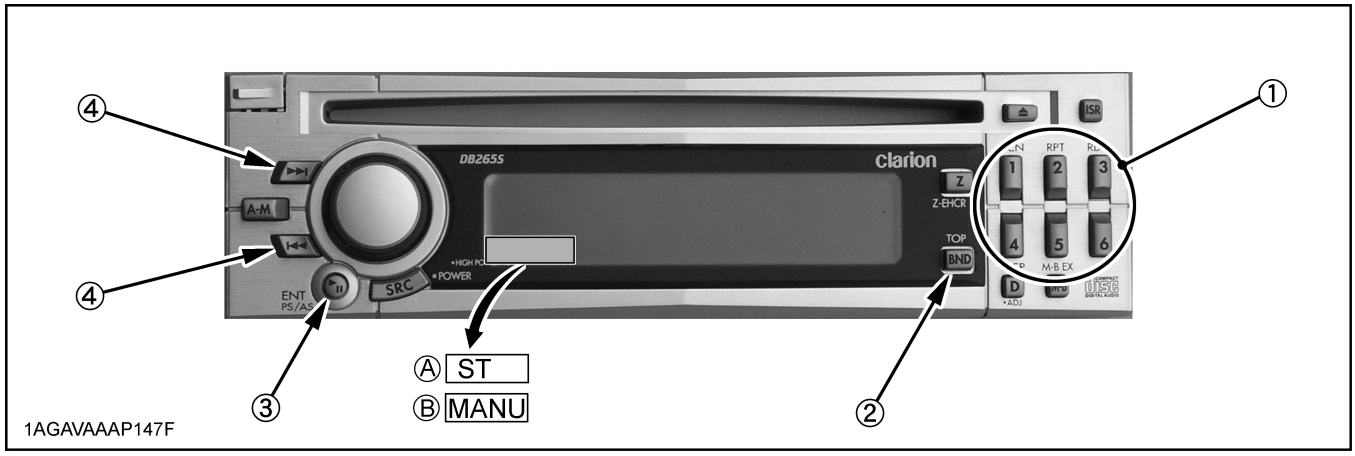
1. **【ISR】**ボタンを押すと，ディスプレイに**【ISR 1620】**が表示されます。
2. **【ISR】**ボタン又は**【SRC】**ボタンを押すと，元のソースに戻ります。

補　足

＊ 初期設定では，AM1620kHz の交通情報が登録されています。

◆ 登録のしかた

登録させたい放送局を選局し，**【ISR】**ボタンを約 2 秒間押すと登録されます。



① ダイレクトボタン
② [BND] ボタン
③ プレイ / ポーズボタン
④ サーチボタン

Ⓐ ST：ステレオ放送受信時に点灯
Ⓑ MANU：手動選局モード時点灯

■プリセット選局

あらかじめ自動又は手動でメモリ登録しておくと，ダイレクトボタン（1 ～ 6）を押すだけで選局できます。（登録のしかたは**［メモリ登録（自動選局）］**又は**［メモリ登録（手動選局）］**の項を参照）

■メモリ登録（自動選局）

登録できる数は FM1，FM2，AM1，AM2 の各バンドごとに 6 局ずつ，計 24 局です。

1. **［BND］**ボタンでメモリ登録させたいバンド（FM1，FM2 または AM1，AM2）を選択します。
2. プレイ / ポーズボタンを約 2 秒間押します。受信電波の強い放送局が自動的にダイレクトボタン（1 ～ 6）に登録されます。

補　足

＊ 電波の弱い場所では 6 局すべて登録されない場合もあります。

■メモリ登録（手動選局）

登録できる数は FM1，FM2，AM1，AM2 の各バンドごとに 6 局ずつ，計 24 局です。

1. **［BND］**ボタンでメモリ登録させたいバンド（FM1，FM2 または AM1，AM2）を選択します。
2. サーチボタンを押して登録させたい放送局を選択します。
3. 登録させたいダイレクトボタン（1 ～ 6）を約 2 秒間押すと登録されます。

■メモリ登録の確認

プレイ / ポーズボタンを押すと，登録された放送局を順に受信します。
プレイ / ポーズボタンを再度押すと解除されます。

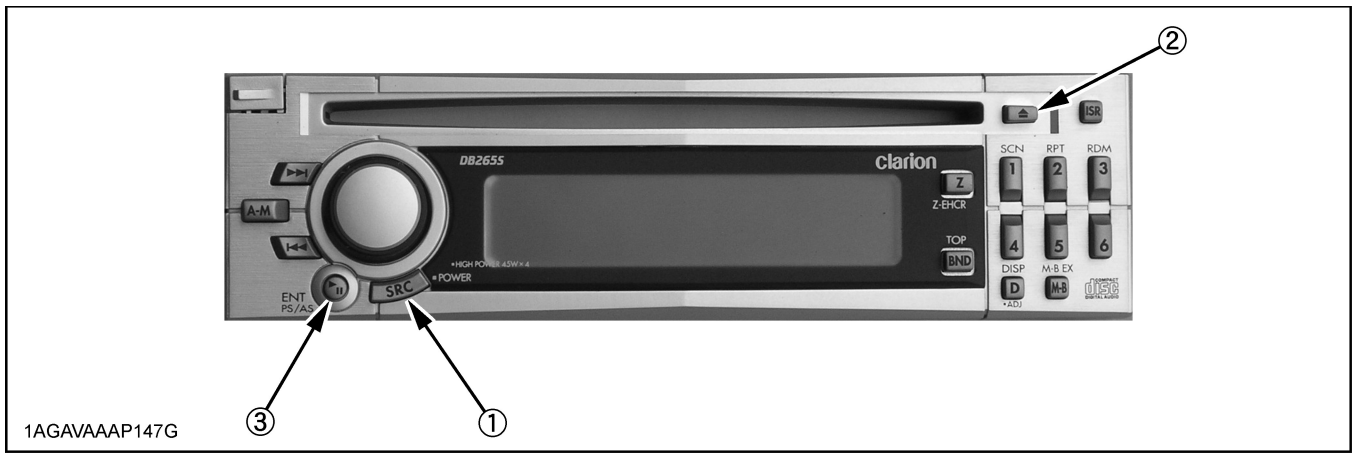
■自動選局

1. ディスプレイに**［MANU］**が点灯しているときは，**［BND］**ボタンを約1秒間押し消灯させます。（消灯時のみ自動選局できます。）
2. サーチボタンを押します。
3. 放送のあるところで自動的に選局が止まります。他を選局したいときは，再度ボタンを押してください。

■手動選局

1. ディスプレイに**［MANU］**が消灯しているときは，**［BND］**ボタンを約1秒間押し点灯させます。（点灯時のみ手動選局できます。）
2. サーチボタンを押して，放送のあるところに合わせます。

CD を聴くには



① [SRC] ボタン
② イジェクトボタン
③ プレイ / ポーズボタン

■ CD の挿入と再生

CD の挿入口に CD を入れると【T01 00:00】を表示し，自動的に演奏が始まります。
シングル CD のときは，CD 挿入口の中央に入れます。

すでに CD が入っている場合は，【SRC】ボタンを押して CD を選択すると，トラック No.（【T01 00:00】など）を表示し，自動的に CD の演奏が始まります。

補　足

＊ 本機は disc マーク表示のあるコンパクトディスク以外はご使用になれません。
＊ CD-R/RW で記録されたディスクは，使用できない場合があります。
＊ CD は印刷面を上にして入れてください。



1AGAVAAAP1530

■ CD の取出し

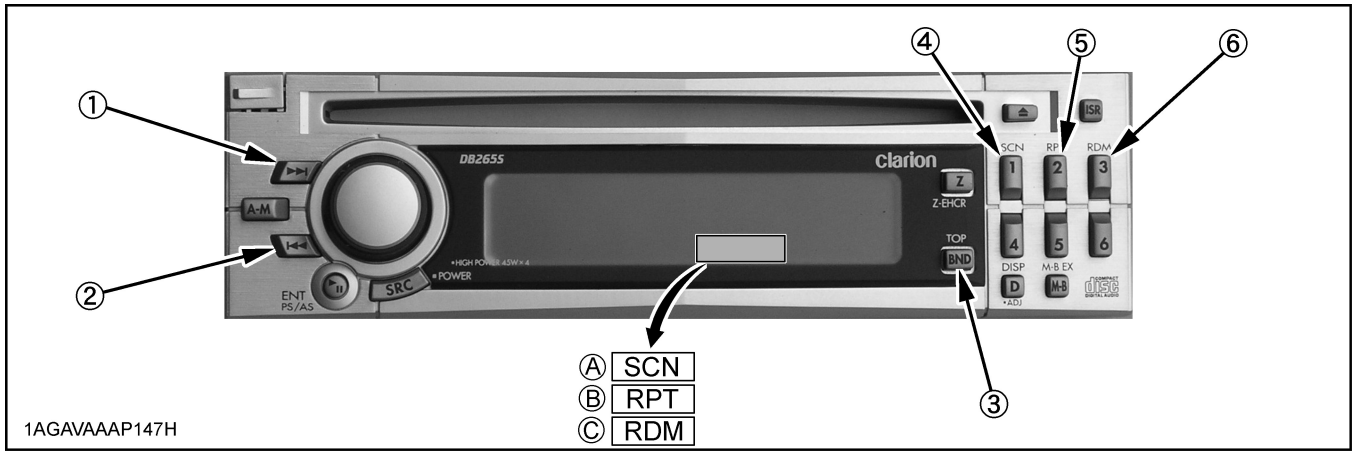
イジェクトボタンを押すと CD が取出されます。

補　足

＊ CD をイジェクトしたままにしておくと，15 秒後に本機内に引き込まれます（オートリロード）。
＊ オートリロード前に無理に CD を押し込むと，CD にキズがつくおそれがあります。
＊ シングル CD はオートリロードされません。イジェクトした場合は，シングル CD を取出してください。

■演奏の一時停止

プレイ / ポーズボタンを押すと【PAUSE】が表示され，演奏が一時停止します。
プレイ/ポーズボタンを再度押すと演奏が再開されます。



① サーチボタン（上）
② サーチボタン（下）
③［BND］ボタン
④［SCN］ボタン
⑤［RPT］ボタン
⑥［RDM］ボタン

Ⓐ SCN：スキャン演奏時に点灯
Ⓑ RPT：リピート演奏時に点灯
Ⓒ RDM：ランダム演奏時に点灯

■次の曲／前の曲の選択

次の曲を聴くときは，サーチボタン（上）を押します。また押した回数だけ先の曲が演奏されます。
前の曲を聴くときは，サーチボタン（下）を 2 回押します。サーチボタン（下）を押すと，演奏中の曲を最初から演奏します。
さらに押すと，押した回数だけ前の曲が演奏されます。
曲の頭部分を演奏しているときにサーチボタン（下）を 2 回押すと，2 つ前の曲へ戻ることがあります。

■早送り／早戻し

早送りするときはサーチボタン（上）を押し続けます。
早戻しするときはサーチボタン（下）を押し続けます。

1 秒以上押すと 5 倍速で，3 秒後には 30 倍速で，演奏曲が早送りまたは早戻しされます。

■トップ機能

[BND]ボタンを押すと，最初の曲（トラック No.1）から演奏されます。

■曲を探す（スキャン演奏）

CD に収録されている全曲を 10 秒間ずつ演奏します。
[SCN] ボタンを押すと，ディスプレイの **[SCN]** が点灯して，スキャン演奏します。スキャン演奏は，演奏している曲の次の曲から始まります。

■曲を繰り返し聴く（リピート演奏）

演奏中の 1 曲を繰り返し演奏します。
[RPT] ボタンを押すと，ディスプレイの **[RPT]** が点灯して，リピート演奏します。

■ランダムに演奏を聴く（ランダム演奏）

CD に収録されている全曲を順不同に演奏します。
[RDM] ボタンを押すと，ディスプレイの **[RDM]** が点灯して，ランダム演奏します。

安全キャブ装備品の取扱い

■取扱い上の注意

1. discマークのついたCDをご使用ください。
   また，ハート形や八角形など，特殊形状のCDは使用しないでください。
   CD-R/CD-RWで記録されたディスクは，使用できない場合があります。
   CDが曇っているときは，やわらかい布でふいてください。
2. 本機はシステム保護のため，各種の自己診断機能を備えています。ディスプレイにエラーが表示されたときには，**［不調と処置］**の**［エラー表示について］**の項を参照して障害を取除いてください。障害を取除けば，通常の動作になります。
3. 本機は，水分や高温，多湿を嫌いますので，車内清掃や換気に十分ご注意ください。
4. 車内の温度に気をつけてください。
   極寒や酷暑のとき，とくに夏期は車内の温度が大変高くなることがありますので，車内の換気に注意し，適温で使用してください。
5. 本機操作は，安全性の面から停車中に行なってください。また運転中の音量は事故防止のため，車外の音が聞こえる程度でお楽しみください。
6. 本機のお手入れは，乾いたやわらかい布でふいてください。固い布や，ベンジン・シンナ・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また，汚れがひどい場合にはやわらかい布を水またはぬるま湯に浸し，軽くふき取ってください。
7. CDはディスク面に，傷や指紋をつけないように扱ってください。
   汚れたときは，やわらかい布で，内側から外側へ向かって，よくふいてください。
8. 8cmシングルCDをイジェクトした状態で走行しないでください。走行中の振動により，ディスクが落下するおそれがあります。
9. CDは次のような場所には保管しないでください。
   - 直射日光のあたる場所
   - 湿気やホコリの多い場所
   - 暖房の熱が直接あたる場所

1AGAVAAAP1530

■お問合わせ

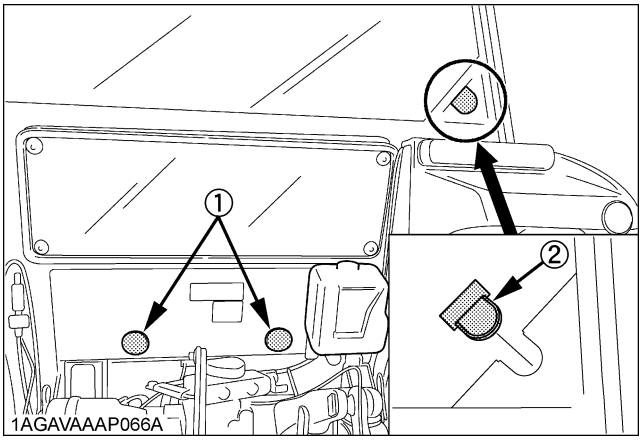
このAM/FMラジオ付CDプレーヤのお問合わせは，下記メーカ窓口でもご相談いただけます。

クラリオンサービス（株）
お客様相談室
TEL　0120-112-140
（土・日・祝除く / AM9:00 ～ 12：00
PM1:00 ～ 5：30）
048-541-2964
FAX　048-601-3807

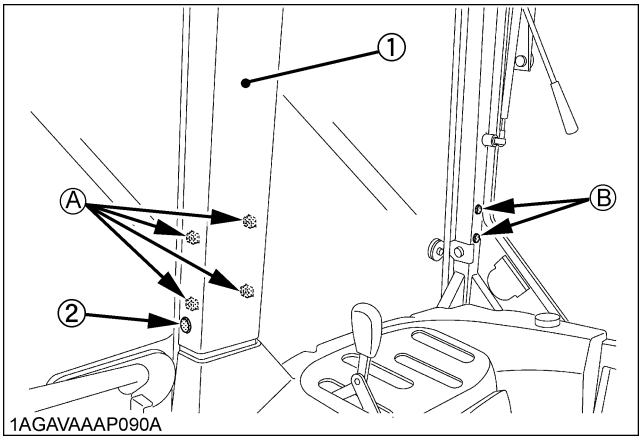
インプルメントの装着

■インプルメント用操作ボックスの取付

ゴムキャップ又はコーナープラグに穴を開け，インプルメント用操作コードなどを安全キャブ室内に導入してください。



①ゴムキャップ
②コーナープラグ

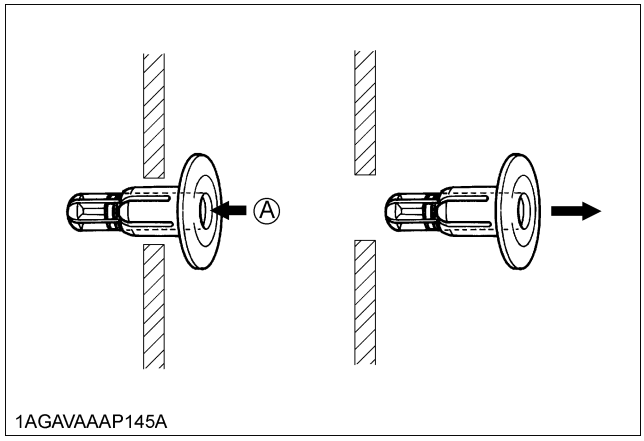


①センタピラーカバー　　**ⒶM8 ナット（4 個）**
②プッシュリベット　　**ⒷM6 ナット（2 個）**

◆ センタピラーカバーの取付け，取外し

● 外し方

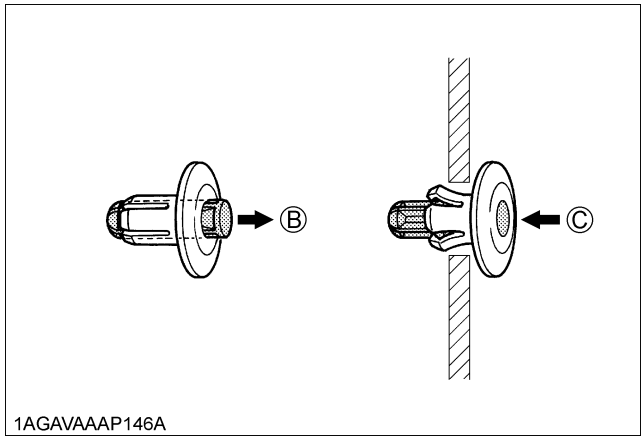
プッシュリベットの中央Ⓐ部を少し押し，センタピラーカバーよりリベット（4 個）を抜きます。



Ⓐ“少し押す”

● 取付け方

プッシュリベットの中央Ⓑ部を少し押出し，センタピラーカバーにプッシュリベットを差込んでから中央Ⓒ部を押し固定します。



Ⓑ“少し押し出す”
Ⓒ“押して固定する”

トラクタの簡単な手入れと処置

注　意

給油及び点検整備するときは
1. トラクタを平たんな広い場所に置き
2. 作業機を降ろし
3. 駐車ブレーキをかけ
4. エンジンを止め
5. キーを抜き，安全を確認してから行なってください。
そうしないと傷害事故を引起すおそれがあります。

廃棄物の処理について

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

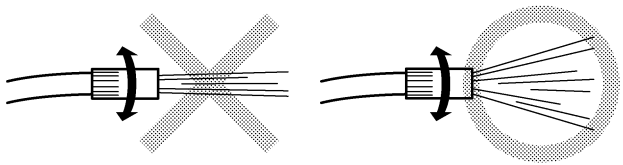
洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注　意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電子部品，エンジン・トランスミッション室内，安全キャブ室内等への浸入による故障
(3) タイヤ，オイルシール等のゴム類，樹脂類，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

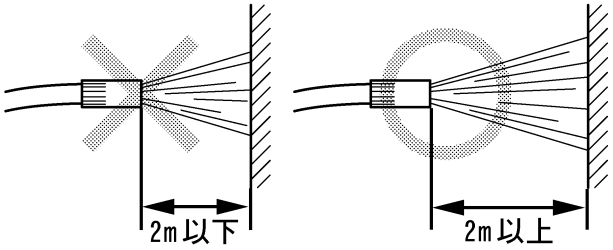
直射洗車厳禁



直射　　拡散

1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

定期点検箇所一覧表

重　要

＊ ◎はならし運転の 50 時間後に必ず行なってください。
＊ バッテリ電解液は年間使用時間が 100 時間以内の場合，1 年ごとに点検を行なってください。

次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	項目／時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	エンジンオイル **【GV500・550・600・650・700・750】**	交換	◎			○				○				○			200 時間ごと	129
	エンジンオイル **【GV760・850・950】**	交換	◎					○						○			300 時間ごと	129
2	エンジンオイルフィルタ **【GV500・550・600・650・700・750】**	交換	◎							○							400 時間ごと	135
	エンジンオイルフィルタ **【GV760・850・950】**	交換	◎											○			600 時間ごと	135
3	ミッションオイル	交換	◎											○			600 時間ごと	136
4	油圧オイルフィルタ	交換	◎			○				○				○			200 時間ごと	131
5	前車軸ケースオイル **【GV500・550・600・650・700・750】**	交換	◎											○			600 時間ごと	136
6	前部デフケースオイル **【GV760・850・950】**	交換	◎											○			600 時間ごと	137
7	前輪ケースオイル（左右） **【GV760・850・950】**	点検	◎											○			600 時間ごと	137
8	エンジン始動システム	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	123
9	タイヤ取付けボルト	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	124
10	クラッチハウジング	水抜き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	124
11	グリースの注入	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	121
12	パワーステアリングホース	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	124
		交換															2 年ごと	139
13	燃料ホース	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	125
		交換															2 年ごと	139
14	バッテリ電解液	点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	126
15	エアクリーナエレメント	清掃		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	127
		交換															1 年又は 6 回洗浄後	137
16	ファンベルト	調整		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	128
17	ブレーキペダル	点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	128
18	トーイン，タイロッド	点検				○				○				○			200 時間ごと	131
19	ラジエータホース	点検				○				○				○			200 時間ごと	130
		交換															2 年ごと	139
20	燃料タンク	水抜き				○				○				○			200 時間ごと	132
21	オイルクーラホース	点検				○				○				○			200 時間ごと	130
		交換															2 年ごと	139
22	燃料フィルタ	交換								○							400 時間ごと	135
23	前部デフケース前後遊び	調整												○			600 時間ごと	137
24	エンジンバルブクリアランス	点検															800 時間ごと	137
25	ラジエータ	洗浄															2 年ごと	139
26	冷却水	交換															2 年ごと	138
27	メインシリンダホース	交換															2 年ごと	139
28	傾き自動シリンダホース **【M 仕様】**	交換															2 年ごと	139
29	デフロックホース **【GV760・850・950】**	交換															2 年ごと	139

No.	項目／時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
30	燃料系統の空気抜き	—															必要に応じて	140
31	ヒューズ類	交換															必要に応じて	141, 141
32	ランプ類	交換															必要に応じて	142

[キャブ仕様]

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	内気(室内エア)フィルタ	清掃				○				○				○			200 時間ごと	132
2	外気フィルタ	清掃				○				○				○			200 時間ごと	133
3	エアコンコンデンサ	清掃				○				○				○			200 時間ごと	134
4	エアコンベルト	調整				○				○				○			200 時間ごと	134
5	エアコン配管，ホース	点検															1 年ごと	137
6	ウォッシャ液	補充															必要に応じて	143

＊専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。

給油（水）一覧表

■トラクタの給油（水）

<table>
<tr><th rowspan="2">No.</th><th rowspan="2">給油（水）項目</th><th colspan="9">容　　量（L）</th><th rowspan="2">備　　考</th></tr>
<tr><th>GV
500</th><th>GV
550</th><th>GV
600</th><th>GV
650</th><th>GV
700</th><th>GV
750</th><th>GV
760</th><th>GV
850</th><th>GV
950</th></tr>
<tr><td>1</td><td>燃　　料</td><td colspan="3">65</td><td colspan="6">105</td><td>ディーゼル軽油</td></tr>
<tr><td>2</td><td>冷　却　水
（リザーブタンク）</td><td colspan="3">7.0
(1.3)</td><td colspan="6">9.0
(1.3)</td><td>清水（不凍液を入れた場合は，その量だけ少なく清水を入れてください。）</td></tr>
<tr><td>3</td><td>ウォッシャ液</td><td colspan="9">1.3</td><td>自動車用ウォッシャ液</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">エンジンオイル
（フィルタ含む）</td><td colspan="4">10.5</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">10.5</td><td>—</td><td>純正オイル（ディーゼルエンジン用）D30 又は D10W-30
CC 級又は CD 級以上のみ使用</td></tr>
<tr><td colspan="4">—</td><td colspan="2">10.5</td><td colspan="2">—</td><td>10.5</td><td>純正オイル（ディーゼルエンジン用)D30 スーパーCD 又は D10W-30 スーパー CD
CC 級使用不可，CD 級以上のみ使用</td></tr>
<tr><td>5</td><td>ミッションオイル
（油圧オイル）</td><td colspan="7">67.0</td><td colspan="2" rowspan="5">純正オイル
スーパー UDT</td></tr>
<tr><td>6</td><td>前車軸ケース</td><td colspan="5">9.0</td><td colspan="2">—</td></tr>
<tr><td>7</td><td>前部デフケース</td><td colspan="5">—</td><td colspan="2">5 /*6</td></tr>
<tr><td>8</td><td>前輪ケース左・右</td><td colspan="5">—</td><td colspan="2">各 3.5</td></tr>
<tr><td>9</td><td>各操作レバー
・ペダル支点</td><td colspan="7">注　　油</td></tr>
<tr><td>10</td><td>三点リンク</td><td colspan="7">注入・塗布</td><td colspan="2" rowspan="3">極圧（万能）グリース</td></tr>
<tr><td>11</td><td>バッテリターミナル</td><td colspan="7">塗　　布</td></tr>
<tr><td>12</td><td>油圧シリンダ
ステアリングジョイント軸
前輪ケースサポート
前車軸受</td><td colspan="7">注　　入</td></tr>
</table>

＊印は W 仕様を示します。
注）グリースポンプは手動のハンドガン式のものを使用してください。

推奨オイル・グリース一覧

必ず下記の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル

エンジンオイル	ミッションオイル・前車軸ケースオイル・ 各操作レバー支点
純正オイル （ディーゼルエンジン用） D30 又は D10W-30 ターボ付エンジンは D30 スーパー CD 又は D10W-30 スーパー CD	純正オイル スーパー UDT

★エンジンオイルは純正オイル（スーパーマルチ STOU オイル「10W-30」，ターボ付はスーパーディーゼル「CF-F」）を使用してください。

■グリース

メーカ	商品名	用　途
新日本石油	エピノックグリース AP2	極圧（万能）グリース
コスモ石油	ダイナマックス EP2	
ジャパンエナジー	JOMO リゾニックス EP2	
昭和シェル石油	アルバニヤ EP グリース 2	
富士興産	フッコール EP2	
出光興産	ダフニーエポネックス EP2	
モービル	モービラックス EP2	
エッソ／ゼネラル	ビーコン EP2	
協同油脂	マルテンプ EP2	ホーン接点用グリース

ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方

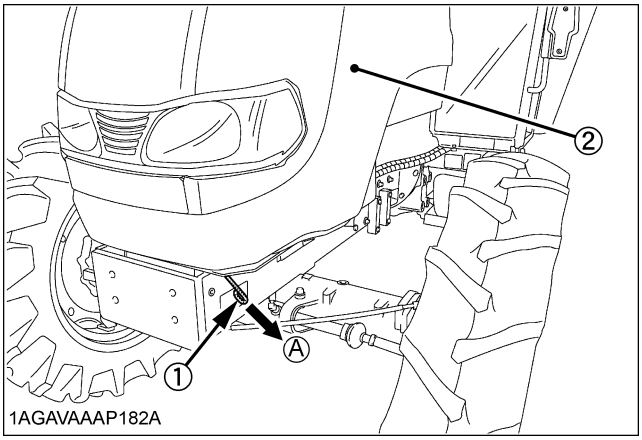
注　意

＊ エンジン回転中は絶対にボンネットを開けないでください。
＊ マフラが熱いときさわらないでください。ヤケドすることがあります。

■ボンネットの開閉

◆ ボンネットの開け方

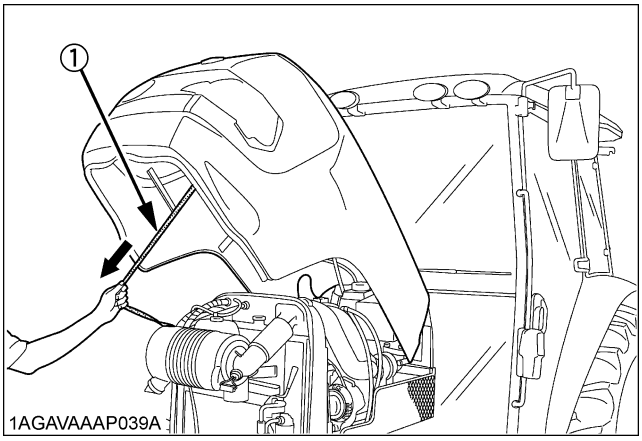
1. 片手でボンネットを軽く押えながら，ロック解除レバーを引きロックを解除します。
2. 両手でボンネットを持ち上げます。



①解除レバー　　**Ⓐ“引く”**
②ボンネット

◆ ボンネットの閉め方

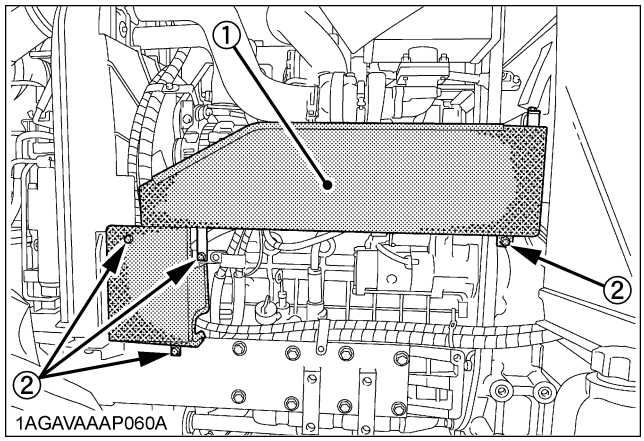
1. ストラップを引きボンネットを閉めます。
2. 両手でボンネットを上から押え，ロックします。
3. ボンネットを持ち上げロックされているか確認します。



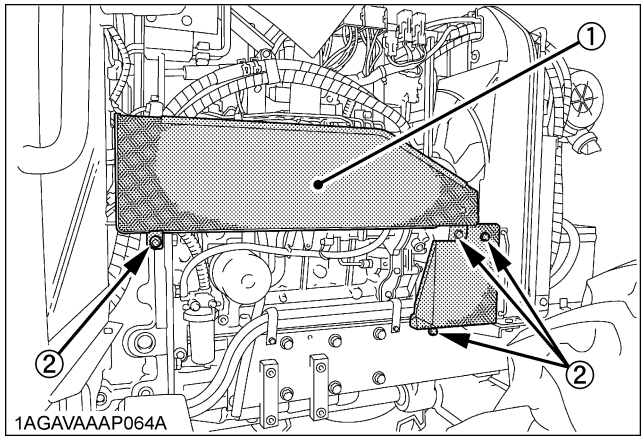
①ストラップ

■サイドカバーの取り外し

図で示すボルトを外してください。



①サイドカバー
②ボルト



①サイドカバー
②ボルト

日常点検

注　意

＊ 火気厳禁
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ トラクタは常に清掃しておいてください。バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因になります。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをすることがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，内部が十分に冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。

■前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

■トラクタの回りを歩いて

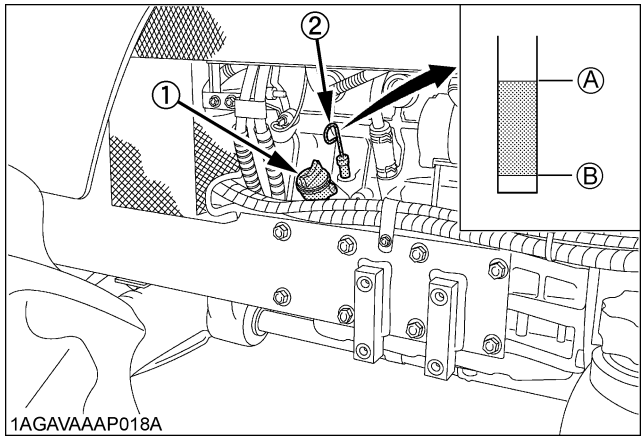
1. ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落
2. 車体各部の変形や損傷
3. 油や水もれなど異常がないか，点検してください。

■エンジンオイルの量及び汚れ

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**［下限と上限の間］**にオイルがあるかを調べます。
2. **［下限］**以下の場合は補給してください。ただし，**［上限］**以上には入れないでください。



①給油口　　**Ⓐ“上限”**
②オイルゲージ　　**Ⓑ“下限”**

重　要

＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約 5 分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

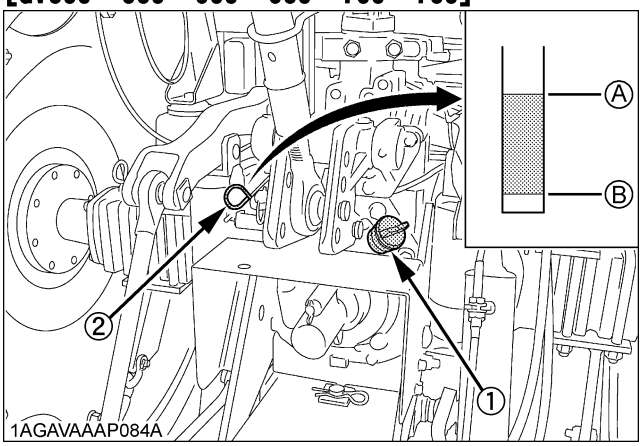
■ミッションオイルの量及び汚れ

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

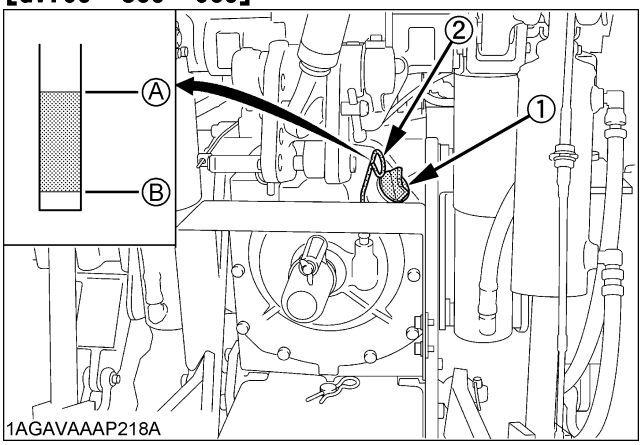
1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**［下限と上限の間］**にオイルがあるかを調べます。作業機（ロータリ）付の場合は，作業機（ロータリ）を下げて確認してください。
2. **［下限］**以下の場合は補給してください。ただし，**［上限］**以上には入れないでください。

［GV500・550・600・650・700・750］



①給油口　　**Ⓐ“上限”**
②オイルゲージ　　**Ⓑ“下限”**

［GV760・850・950］



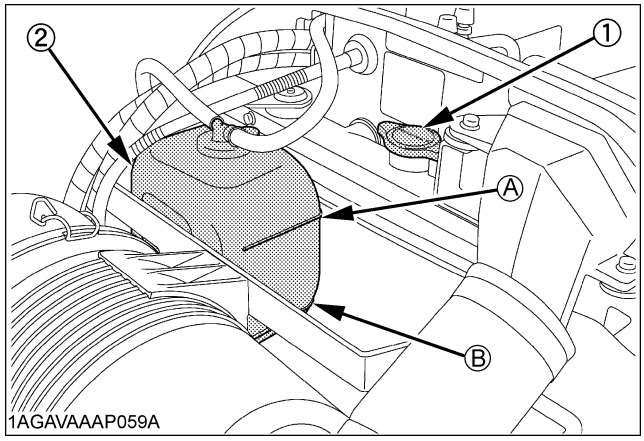
①給油口　　**Ⓐ“上限”**
②オイルゲージ　　**Ⓑ“下限”**

■冷却水の量

注　意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。
冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**［FULL から LOW の範囲］**であれば正常です。冷却水が LOW 以下の場合は，FULL のレベルまで補給してください。FULL 以上は入れないでください。
リザーブタンクの量が LOW 以下の場合は，ラジエータキャップを外してその口元まで冷却水が入っているか確認してください。少ない場合は口元まで補給してください。

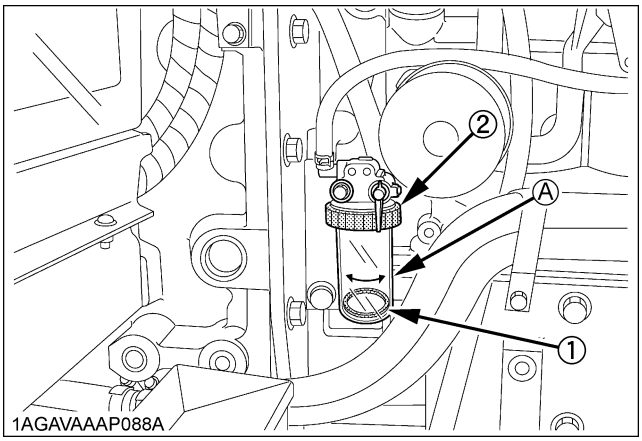


①ラジエータキャップ　　**Ⓐ“上限”**
②リザーブタンク　　**Ⓑ“下限”**

補　足

＊ ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

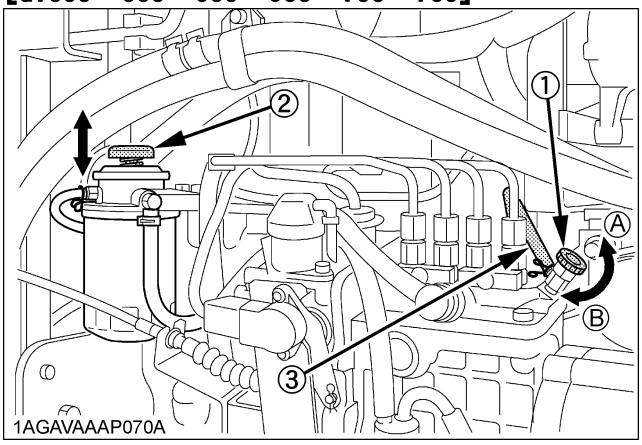
■セパレータの水の排出



①フロート　　Ⓐ“排出レベル”
②リングナット

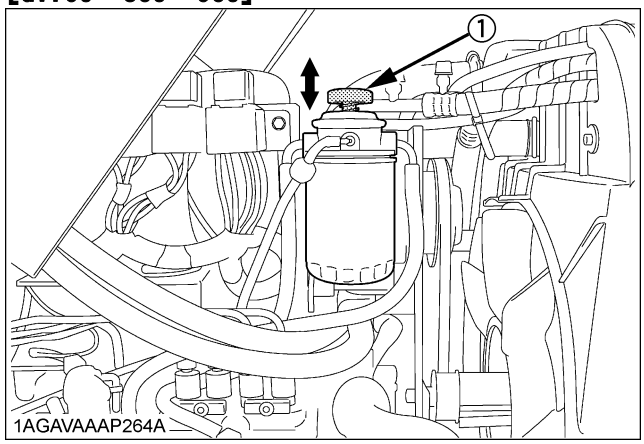
1. 分離された水がたまると赤色のフロート（浮き輪）が浮き上ります。フロートが排出レベル（←→印）に達したときは，燃料コックを閉めリングナットをゆるめてカップを取外し排出してください。
2. このときエレメントを破らないように注意して清掃してください。
3. カップ再セット後，燃料噴射ポンプのコックを開きます。**[GV500・550・600・650・700・750]**
4. 燃料フィルタ上部のプライミングポンプを上下に動かし，カップの中に燃料を充満させてください。このとき充満した後も更にポンプを 10 ～ 15 回押してください。
5. 燃料噴射ポンプのコックを閉じます。**[GV500・550・600・650・700・750]**

[GV500・550・600・650・700・750]



①エア抜きコック　　Ⓐ“開”
②プライミングポンプノブ　　Ⓑ“閉”
③燃料ポンプオーバフローホース

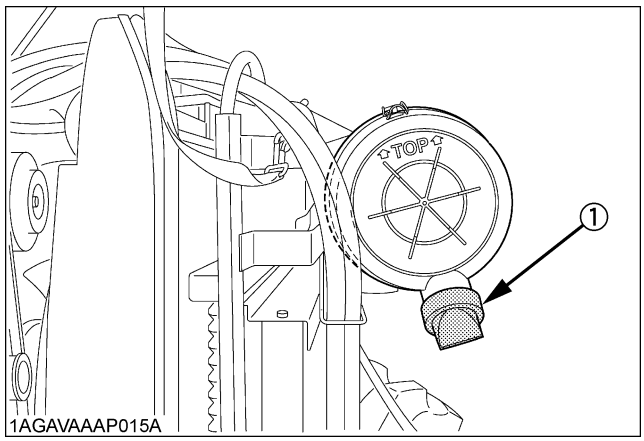
[GV760・850・950]



①プライミングポンプノブ

■バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，ゴミを取除いてください。水分があるときは，エアクリーナを掃除してください。



①バキュエータバルブ

■ワイヤハーネス，バッテリ（+）コードの点検・交換

注　意

＊ 配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は，電気部品の性能を損なうだけでなく，ショート（短絡）・漏電の原因となり，火災事故になるおそれがあり大変危険です。傷んだ配線は，早めに交換・修理してください。
ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金などで代用せず，購入先に点検・整備を依頼してください。
＊ また，本機の配線は，防水性など充分考慮して配線してありますのでむやみに修理して使用せず，購入先に点検・整備を依頼してください。
＊ バッテリおよび電気配線の周辺部は，マフラやエンジン周辺部と同様，ワラくず・ゴミ・燃料の付着があると火災の原因になるので，毎日作業前に清掃してください。

下記項目を点検してください。
1. 配線の損傷がないこと。配線被覆が破れているときは，購入先に点検・整備を依頼してください。
2. 配線のクランプのゆるみが無いこと。配線がクランプより外れているときは，所定のクランプに配線をセットしてください。
3. ターミナル（端子），カプラ（ソケット）の接続部のゆるみがないこと。
4. 各スイッチ，メータが確実に作動すること。

補　足

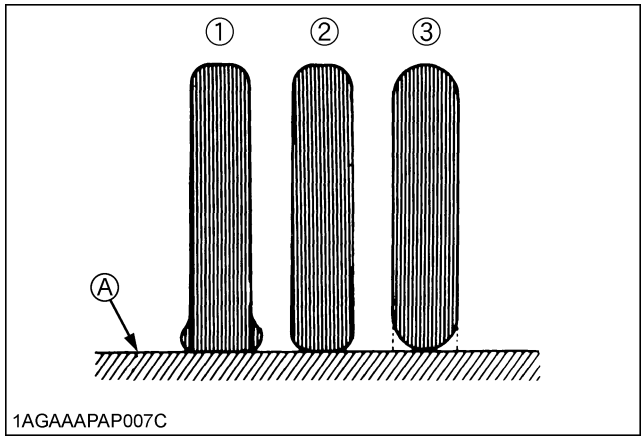
＊ 点検時，三点リンク装着作業機は取外してください。

■タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷

警　告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安はつぎのとおりです。



①空気が不足
②標準
③空気が多い
Ⓐ“接地面”

◆ 標準空気圧

● バイアスタイヤ　　[　]内はローダ装着時

前輪 kPa(kgf/cm²)		後輪 kPa(kgf/cm²)	
8-18	160(1.6) [200(2.0)]	13.6-28	140(1.4)
		13.6-28H	100(1.0)
8.3-20		12.4-32	160(1.6)
		12.4-32H	120(1.2)
8.3-24	240(2.4) [260(2.6)]	12.4-32	160(1.6)
		12.4-36H	
9.5-18	140(1.4) [160(1.6)]	14.9-28H	120(1.2)
9.5-22 9.5-24	220(2.2) [240(2.4)]	12.4-36	160(1.6)
		12.4-36H	
		12.4-38	140(1.4)
		13.9-36	
		16.9-30	120(1.2)
		16.9-30H	
11.2-20 11.2-24	180(1.8) [200(2.0)]	13.6-38	140(1.4)
		13.6-38H	
		16.9-30	120(1.2)
		16.9-34	
		18.4-30	

Hはハイラグタイヤを示します。

● ラジアルタイヤ　　[　]内はローダ装着時

前輪 kPa(kgf/cm²)		後輪 kPa(kgf/cm²)	
9.5R24 11.2R24	140(1.4) [160(1.6)]	13.6R36	140(1.4)
		13.6R38	
		16.9R30	
		16.9R34	

■防虫網の清掃

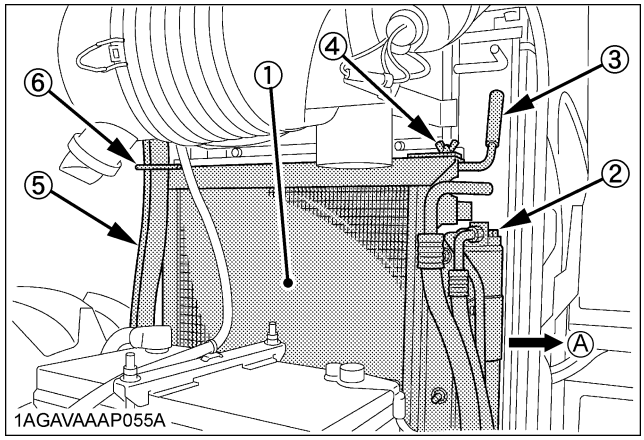
注　意

＊ エンジンを必ず停止して清掃してください。
＊ エアコン使用時コンデンサやレシーバは熱くなります。十分冷えてから点検・清掃を行なってください。

水田や夜間作業に使用すると，防虫網に実や昆虫が付着し詰まることがあります。
目詰まりがないよう点検，清掃してください。

◆ エアコンコンデンサの引出し

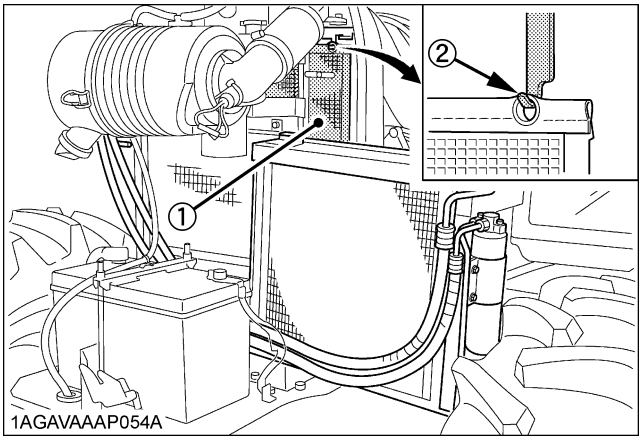
1. エアコンホースをフックより外します。
2. 蝶ボルトをゆるめます。
3. ハンドルを持ち手前に引きます。



①コンデンサ
②レシーバ
③ハンドル
④蝶ボルト
⑤エアコンホース
⑥フック
Ⓐ“引く”

◆ ラジエータ用防虫網

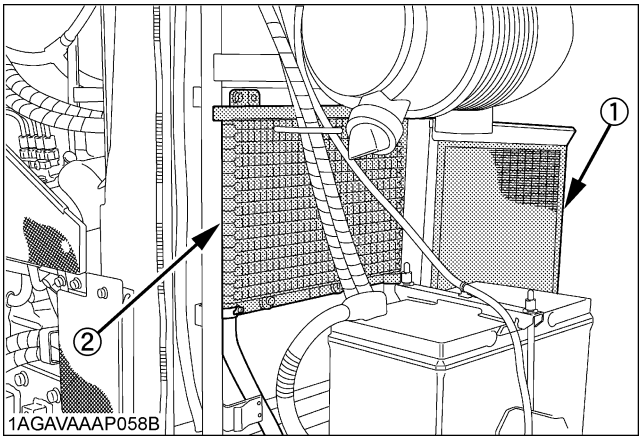
取外して清掃してください。
又, ゴミが詰まっていれば水道水などで取除いてください。
清掃後は防虫網をフックに掛けてください。



①防虫網
②フック

◆ エアコンコンデンサ用防虫網
◆ オイルクーラ

目詰まりがないよう点検清掃してください。
又, ゴミが詰まっていれば水道水などで取除いてください。



①防虫網（コンデンサ用）
②オイルクーラ

重　要

＊ 高圧洗車機を使用する場合には, ラジエータ・オイルクーラのフィンを損傷させないように，注意してください。

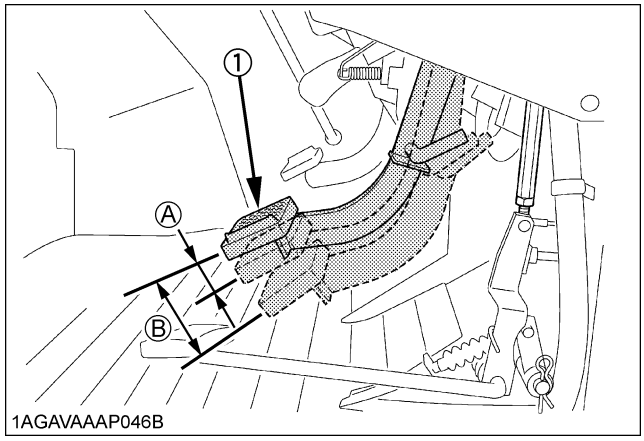
■ブレーキペダルの遊び・点検

警　告

＊ ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

1. ペダルを踏んで遊び量が **[35 ～ 45mm]** かどうか，また左右ブレーキの踏込み量の差が **5mm 以内**かどうかを調べます。
2. ブレーキのきき，片ぎきを調べます。

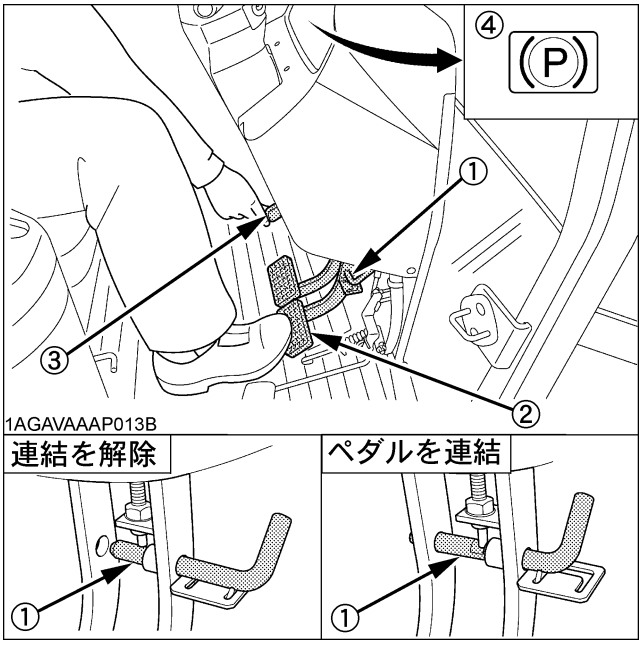
（調整のしかたは **[100 時間ごとの点検・整備]** の **[ブレーキペダルの点検・調整]** の項を参照）



①ブレーキペダル
Ⓐ“遊び”
Ⓑ“この位置での左右差 5mm 以内”（踏込み量）

■駐車ブレーキの作動点検

ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを**[引い]**たまま足をはなすと駐車ブレーキが掛かります。外すときは，ペダルを踏込めば外れます。

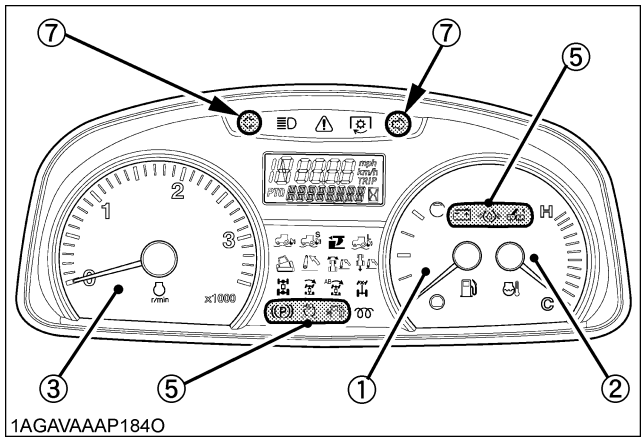


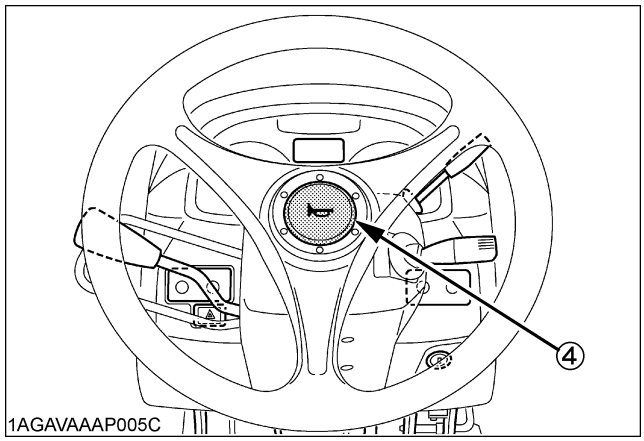
①連結金具
②ブレーキペダル
③駐車ブレーキレバー
④駐車ブレーキランプ

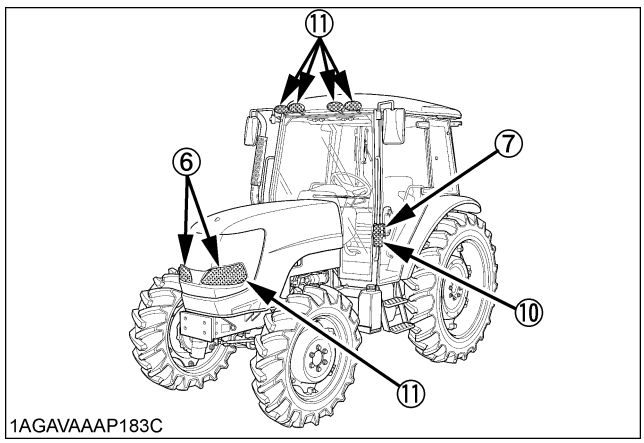
■メータ・ランプ類の作動

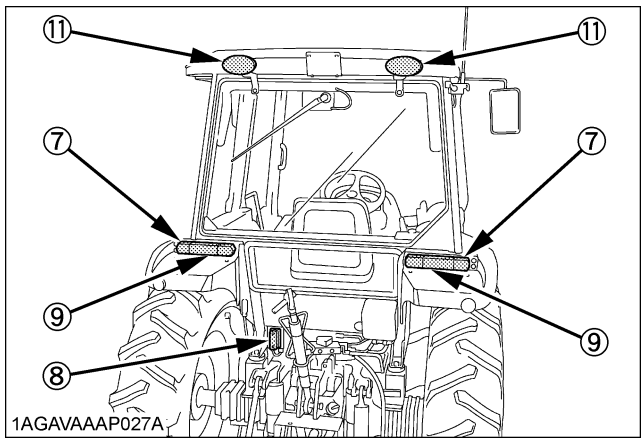
下記メータ及びランプ類が正しく作動するか点検してください。

① 燃料計
② 水温計
③ エンジン回転計
④ ホーン
⑤ イージーチェッカ
⑥ ヘッドライト
⑦ ウインカ / ハザード（前・後）
⑧ バックランプ
⑨ 尾灯，ブレーキランプ
⑩ 車幅灯
⑪ 作業灯（前・後）









■燃料の補給

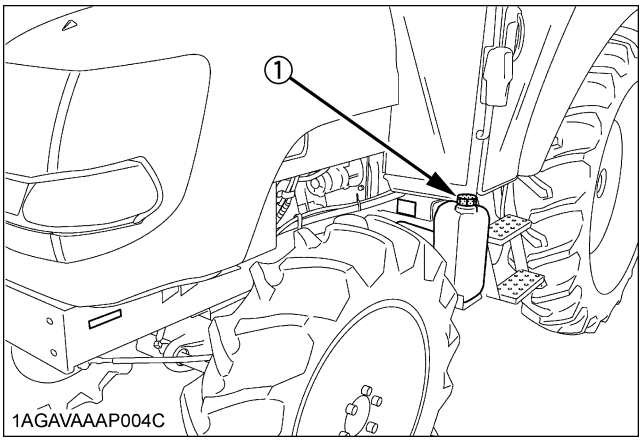
注　意

＊ 燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
＊ 火気厳禁。

燃料には，**［ディーゼル軽油］**を使用してください。
ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特 1 号	＋ 5 以上
1　号	0 及び－ 5
2　号	－ 10
3　号	－ 15 及び－ 20
特 3 号	－ 25 及び－ 30

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。



①燃料給油口

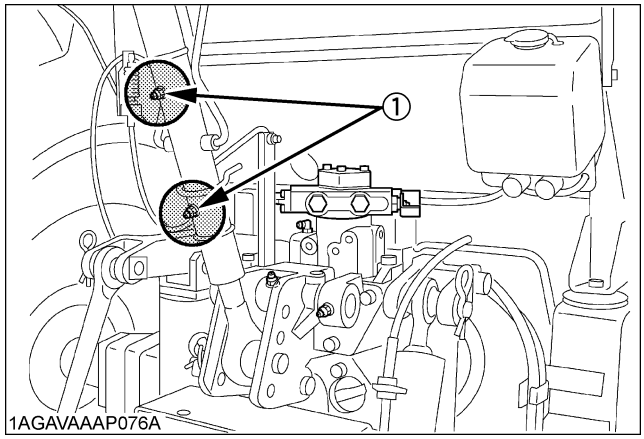
重　要

＊ 燃料中にゴミや砂が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，給油時はこし網を外さないでください。
＊ 燃料キャップの空気穴が土やゴミでふさがれていないか点検してください。
＊ 燃料キャップが締まっているか確認してください。

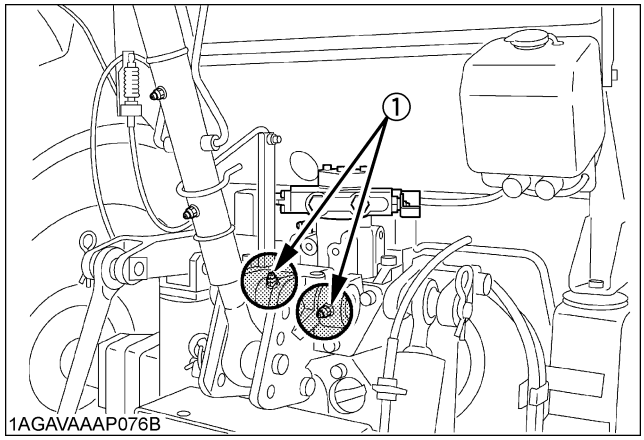
50 時間ごとの点検・整備

■グリースの注入

代かき作業などで泥水の中に入ったときは，1 日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。
グリースは，**［推奨グリース］**を使用してください。
グリースポンプは手動のハンドガン式のものを使用してください。高圧のエアーポンプ式のものは使用しないでください。

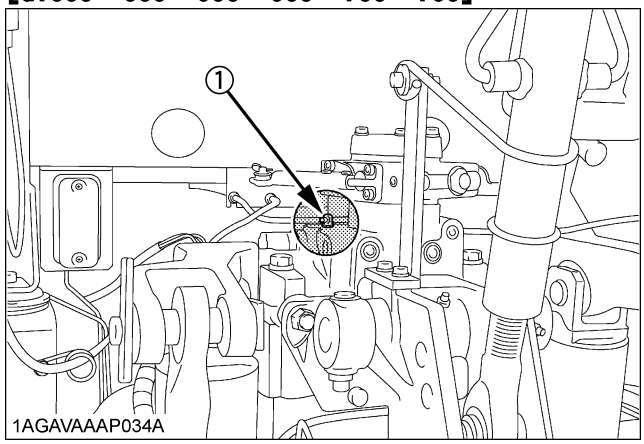


①トップリンク



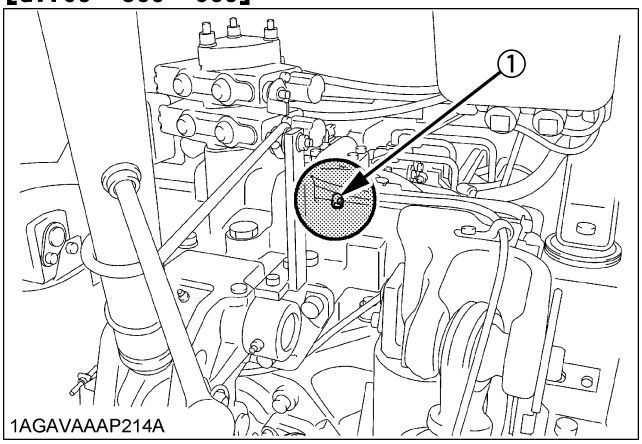
①トップリンクブラケット

［GV500・550・600・650・700・750］

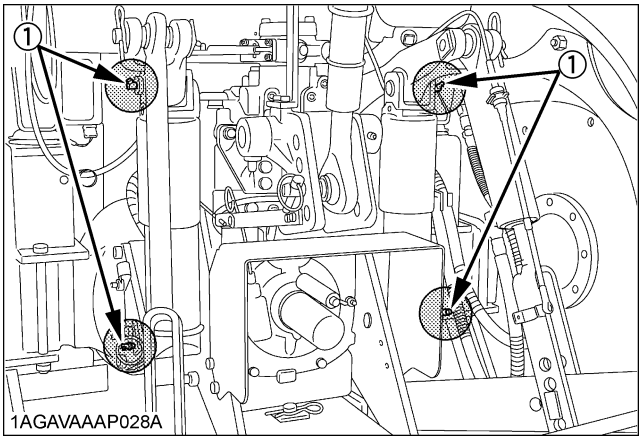


①油圧アーム軸

[GV760・850・950]

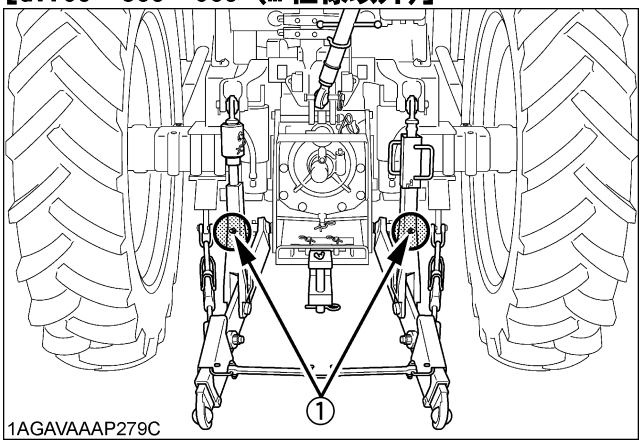


①油圧アーム軸

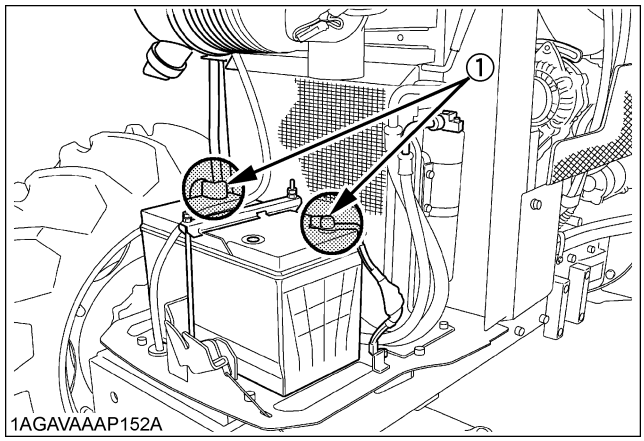


①油圧シリンダ

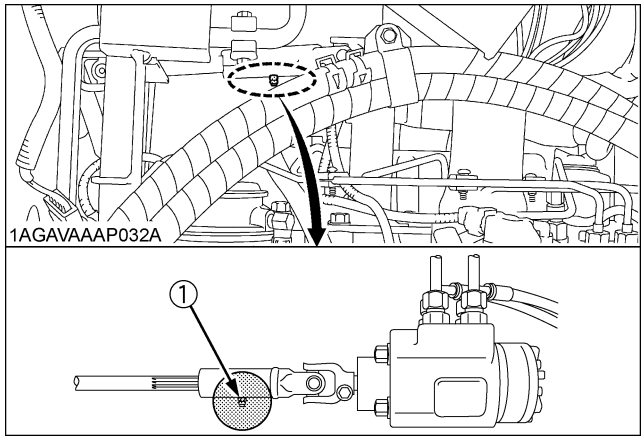
[GV760・850・950（M仕様以外）]



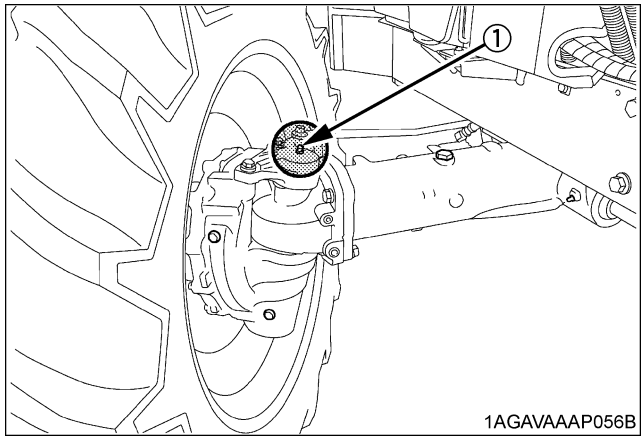
①リフトロッド



①バッテリターミナル

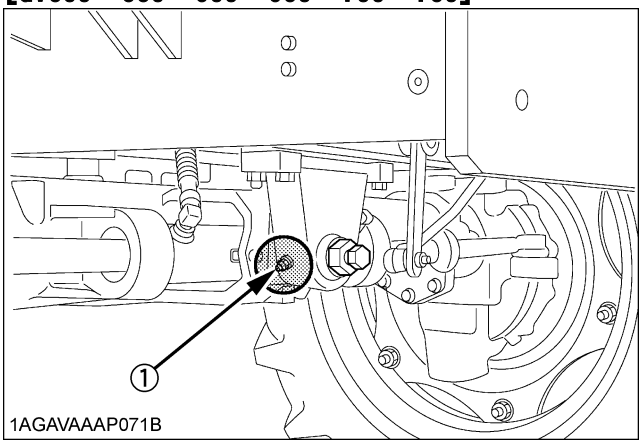


①ステアリングジョイント軸



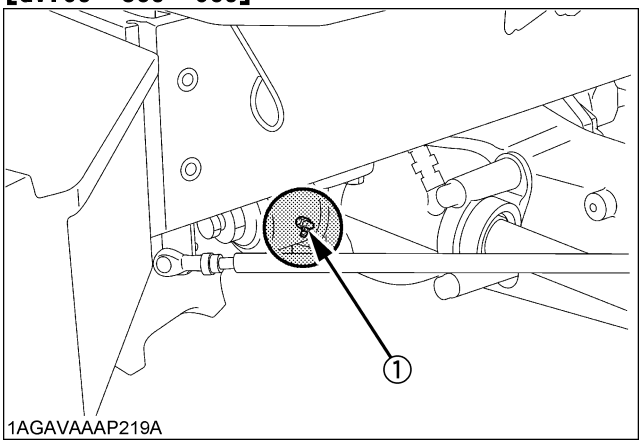
①前輪ケースサポート（左・右）

[GV500・550・600・650・700・750]

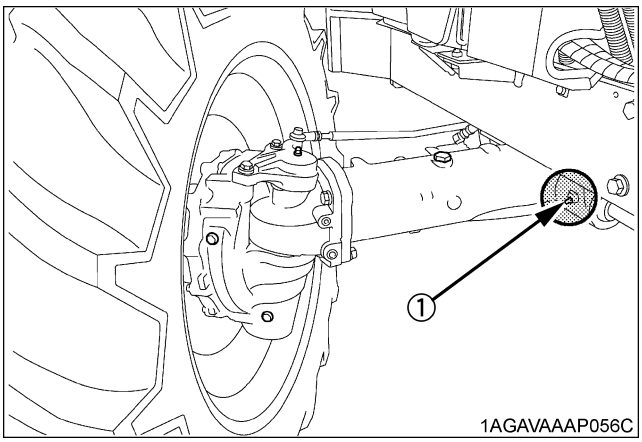


①前車軸受（前）

[GV760・850・950]



①前車軸受（前）



①前車軸受（後）

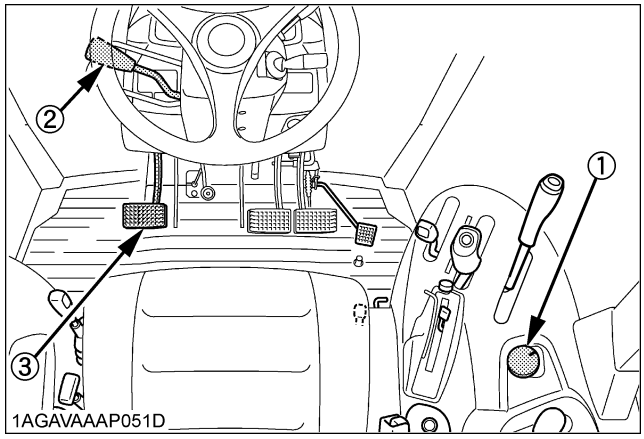
■エンジン始動システムの点検

注　意

＊ 点検中，トラクタに人を近づけないようにしてください。
＊ 装置に異常があれば必ず整備をした後，ご使用ください。

◆ 点検

1. 運転席に座り，シャトルレバーを**[中立](N)**，PTO クラッチコントロールスイッチを**[OFF]**（切）にします。
2. 駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。
3. アクセルレバーを**[最低速]**位置にします。
4. クラッチペダルを一杯踏込み，キースイッチを瞬時**[始動]**位置に回します。
   この時，エンジンが回れば正常です。
5. 次に，シャトルレバーを**[前進](F)**又は**[後進](R)**又はPTOクラッチコントロールスイッチを**[ON]**（入）にし，キースイッチを瞬時**[始動]**位置に回します。
   このとき，エンジンが回らなければ正常です。
6. もし，不良の場合は，購入先へご相談ください。

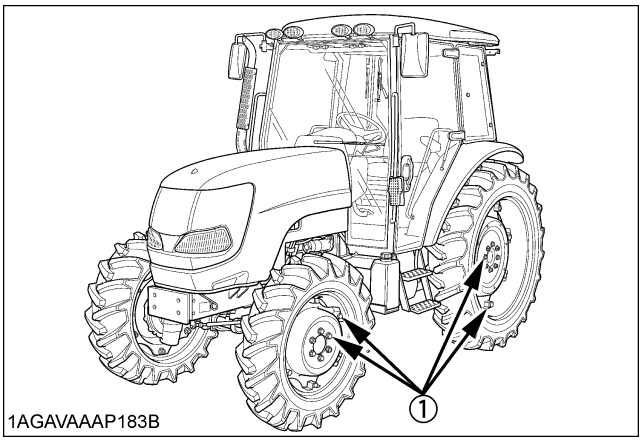


① PTO クラッチコントロールスイッチ
②シャトルレバー
③クラッチペダル

■タイヤ取付けボルトの点検

注　意

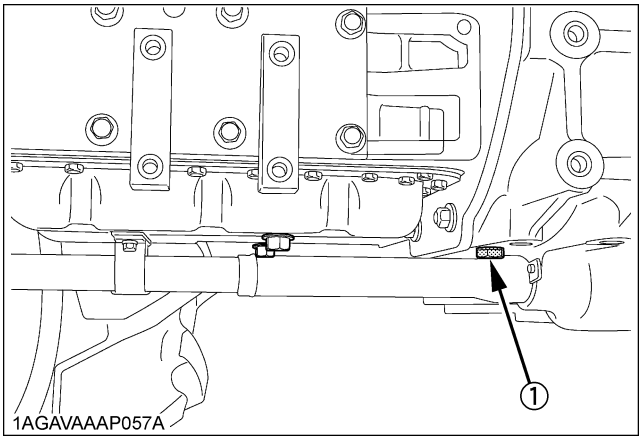
＊ タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。ゆるんだまま走行すると，傷害事故を引起こすおそれがあります。



①ボルト，ナット

■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は 50 時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水の浸入がないことを確認してください。もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。



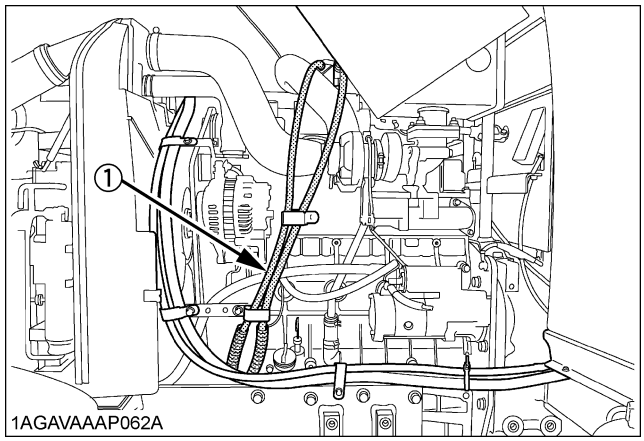
①ドレーンプラグ

■パワーステアリングホースの点検

注　意

＊ ホースの傷みは，必ず点検しましょう。ホースが破損しハンドル操作ができなくなり，傷害事故を引起こすおそれがあります。

パワーステアリングホースは，使わなくても劣化する消耗品です。2 年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホースが傷んでいないか常に注意してください。



①パワーステアリングホース

重　要

＊ 交換時にホースなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると作動不良の原因になります。

■燃料ホースの点検

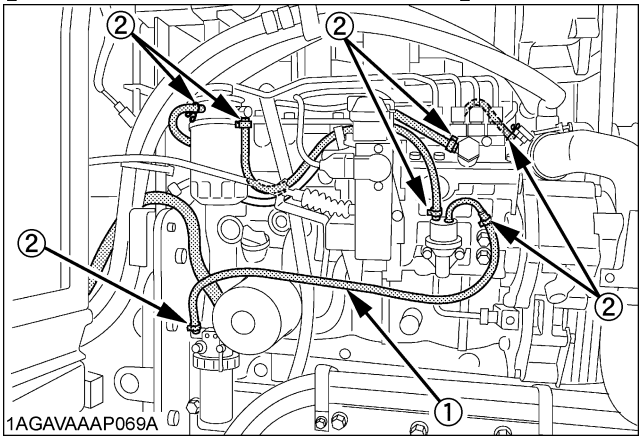
注　意

＊ ホース類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。

燃料ホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に 2 年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

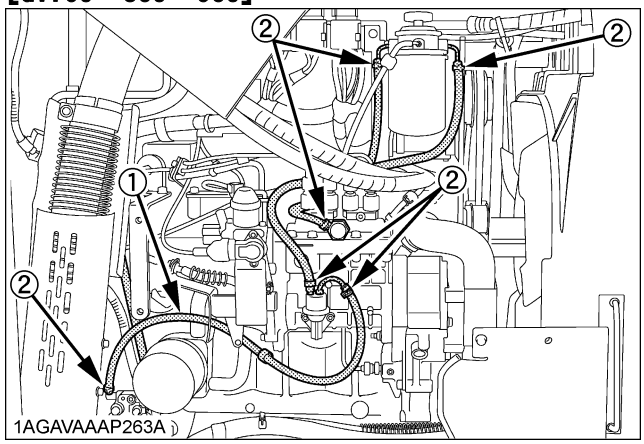
1. ホース類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。
2. 燃料ホースを交換した場合は，必ず空気抜きをする必要があります。
（**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）

［GV500・550・600・650・700・750］



①燃料ホース
②締付けバンド

［GV760・850・950］



①燃料ホース
②締付けバンド

重　要

＊ 交換時にホースや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

100 時間ごとの点検・整備

■バッテリ電解液の点検

危　険

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。

＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

警　告

＊ バッテリ液は希硫酸なので扱いには十分注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。状況により医師の診断を受けてください。

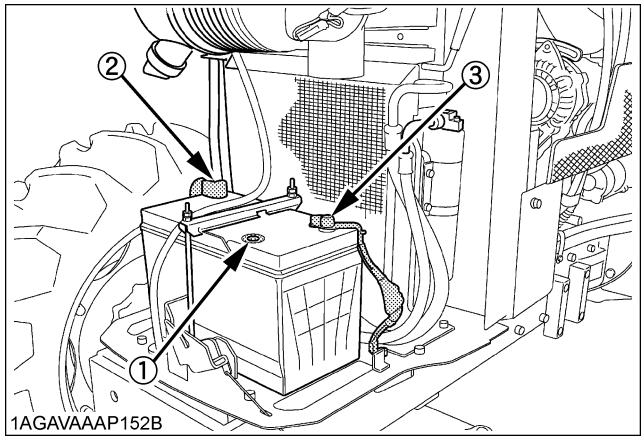
＊ バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止し，キースイッチを［切］位置にしておいてください。

＊ バッテリを取外すときは，短絡（ショート）事故を防ぐため，最初にバッテリ（−）コードを外し，接続するときは，最後にバッテリ（−）コードを接続してください。

＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

◆ バッテリ液の点検

バッテリは補水不要のタイプを使用しています。上面のインジケータの表示状態により補充電してください。



①インジケータ
②（+）コード
③（−）コード

◆ インジケータの見方

インジケータ表示状態	緑	電解液比重，電解液量共に良好です。
	黒	要充電です。 11A の普通充電電流で補充充電を行なってください。
	白	交換時間です。

◆ バッテリの取付け，取外し

注　意

＊ バッテリを取外すときは，バッテリ（−）コードを最初に外し，次に（+）コードを外してください。

＊ 取付けるときは，必ず（+）側から取付けます。逆にすると，工具が当たった場合にショートします。

重　要

＊ バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
＊ 新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式のバッテリを使用してください。

バッテリ型式
105E41L または 130E41L

＊ バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの（+），（−）のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

◆ 補充電のしかた

警　告

＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

1. バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電は行なわないでください。
2. バッテリコードを接続するときは，（+）と（−）をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
3. 充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）に，バッテリの（−）を充電器の（−）にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。コードの接続をまちがわないように注意してください。

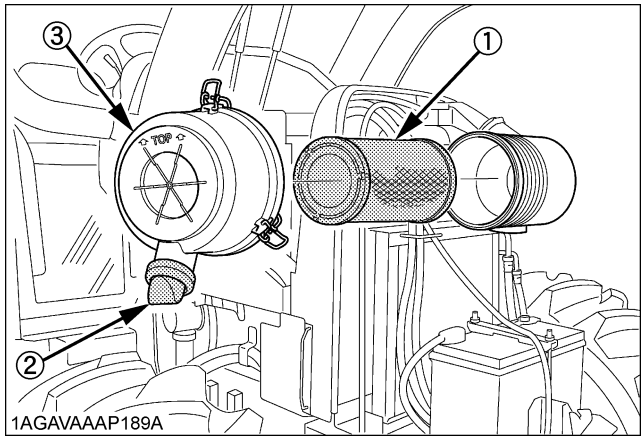
■エアクリーナエレメントの清掃

◆ エレメントの清掃

乾いたちりやほこりの場合は，エレメントを傷めないように注意しながら，エアで吹き飛ばしてください。（エアの圧力は 205 kPa（2.1 kgf/cm²）を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。）
エレメントがカーボンや油分で汚れている場合は，中性洗浄剤をご使用ください。

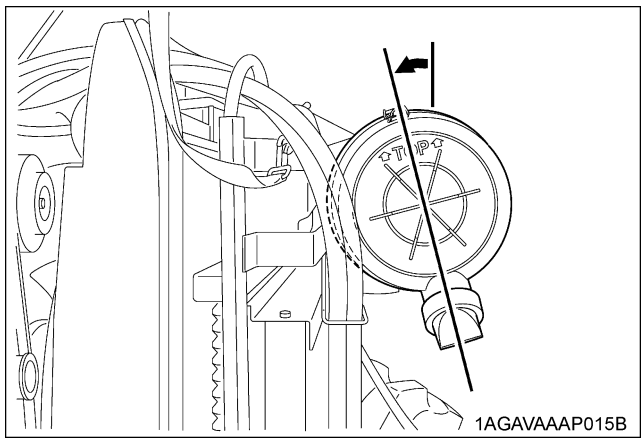
◆ エレメントの交換

エレメントの交換は 1 年間使用後，又は 6 回掃除ごとに交換が必要です。



①エレメント
②バキュエータバルブ
③ダストカップ

ダストカップは下図の角度になるように組付けてください。



重　要

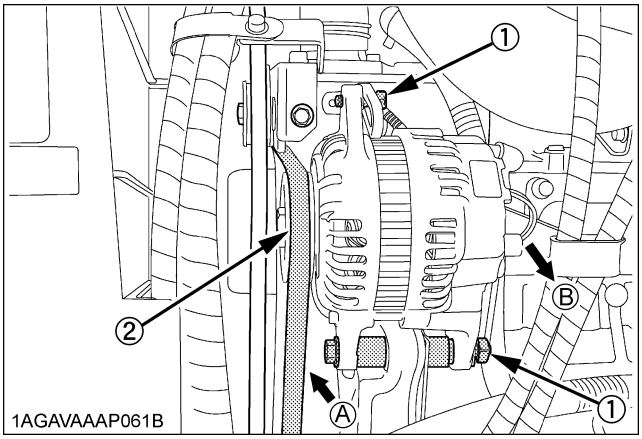
＊ エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
＊ 乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊ 清掃時，エレメントをたたいて変形させないでください。変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。変形したときは，すぐに新しいエレメントと交換してください。
＊ ダストカップの（⬆ マーク）を必ず上向きになるように取付けてください。

◆ バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，大きなごみを取除いてください。

■ファンベルトの点検・調整

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約 98 N (10 kgf)の力で押えて，約 7 mm たわむ程度



①ボルト　　**Ⓐ“押す”**
②ファンベルト　　**Ⓑ“張る”**

重　要

＊ ベルトの張りがゆるいと，オーバヒートや充電不足の原因になります。
＊ き裂やはがれがあれば交換してください。

■ブレーキペダルの点検・調整

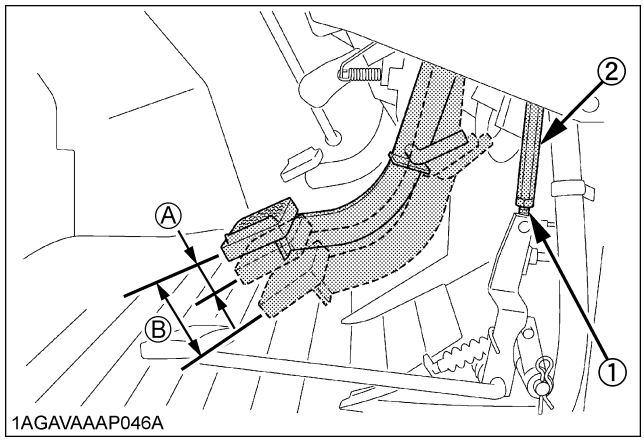
警　告

＊ 点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めて行なってください。
＊ ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。
＊ 調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず［5 mm 以内］にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。ブレーキが片ぎきになると，傷害事故を引起こすおそれがあります。

適正遊び量	ペダルで 35 ～ 45 mm

◆ 調整方法

1. 駐車ブレーキを解除します。
2. ロックナットをゆるめターンバックルを回して，ペダルの遊びを調整します。調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。
3. ブレーキペダルを踏込んだとき，駐車ブレーキレバーが確実に作動するか確認してください。



①ロックナット　　**Ⓐ“遊び”**
②ターンバックル　　**Ⓑ“この位置でのペダルの左右差 5 mm 以内”（踏込み量）**

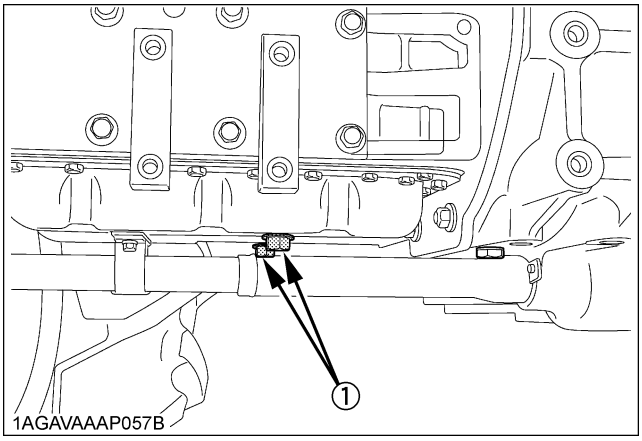
200 時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルの交換
[GV760・850・950 は 300 時間ごと]

注 意

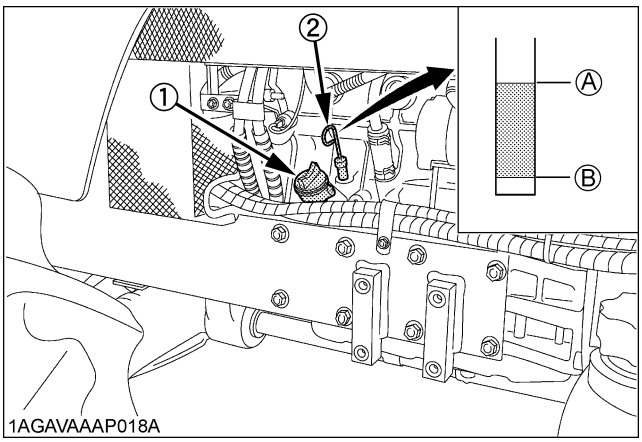
＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
   このときオイルが暖まっている方が排出しやすくなります。
   ただしヤケドに注意してください。



①ドレーンプラグ

2. エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。
   このときオイルをこぼさないように注意してください。



①給油口　　**Ⓐ“上限”**
②オイルゲージ　　**Ⓑ“下限”**

重 要

＊ 今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度 No. の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。注ぎ足し使用は絶対しないでください。
＊ 気温により次のように使いわけてください。

[GV500・550・600・650・760]

15 ℃以下	D10W-30（オールシーズン用）
15 ℃以上	D30，又は D10W-30

冬期は必ず D10W-30 を使用してください。

[GV700・750・850・950 ターボ付き]

15 ℃以下	D10W-30 スーパー CD （オールシーズン用）
15 ℃以上	D30 スーパー CD，又は D10W-30 スーパー CD

冬期は必ず D10W-30 スーパーCD を使用してください。

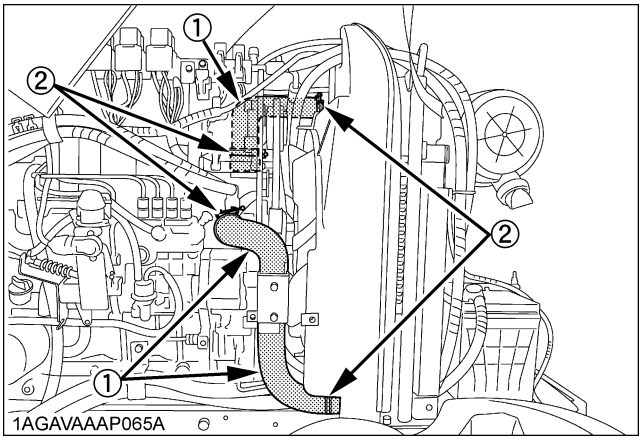
＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約 5 分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

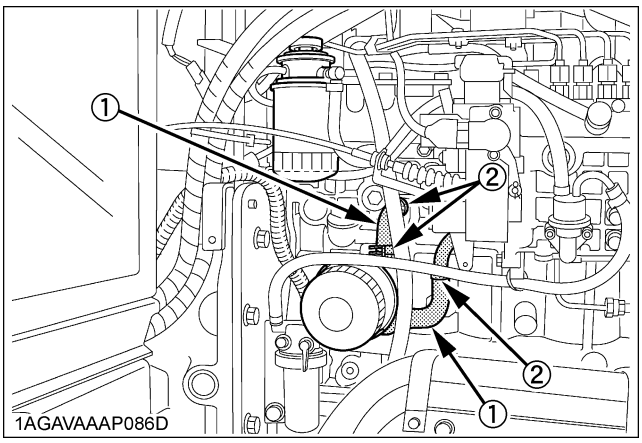
■ラジエータホースの点検

注　意

＊ ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。

ラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に 2 年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

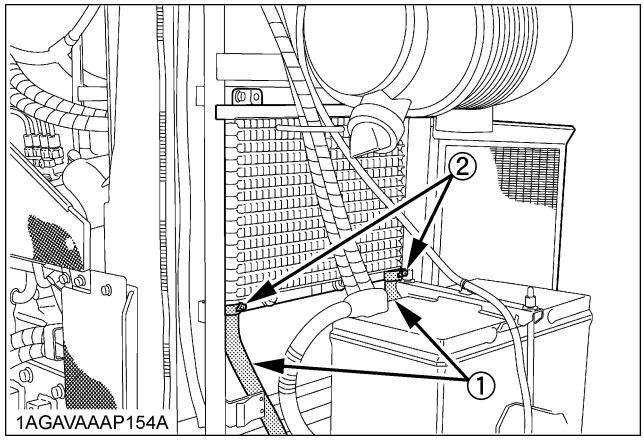




①ラジエータホース
②締付けバンド

■オイルクーラホースの点検

ゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に2年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。



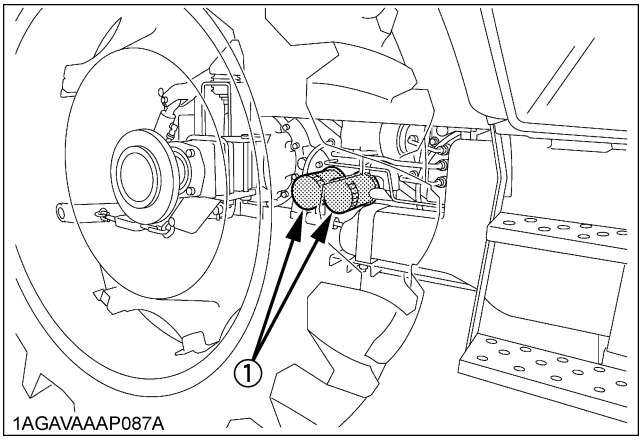
①オイルクーラホース
②締付けバンド

■油圧オイルフィルタカートリッジの交換

注　意

＊ 交換するときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

純正部品のカートリッジと交換してください。

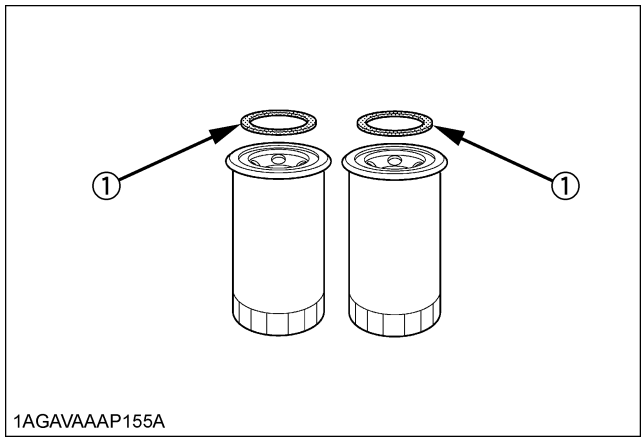


①油圧オイルフィルタカートリッジ

1. ドレンプラグを外してオイルを排出します。
2. フィルタレンチでフィルタを取外します。
3. マグネットフィルタを清掃します。
4. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
5. ミッションオイルを規定量まで補給します。
6. 約 2 分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
7. 再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。
   （ミッションオイルの抜き方，補給のしかたは**［600 時間ごとの点検・整備］**の**［ミッションオイルの交換］**の項を参照）

◆ マグネットフィルタの掃除

カートリッジを外して中のマグネットフィルタに付着したゴミをふき取ってください。



①マグネットフィルタ

■トーイン調整・タイロッドの点検

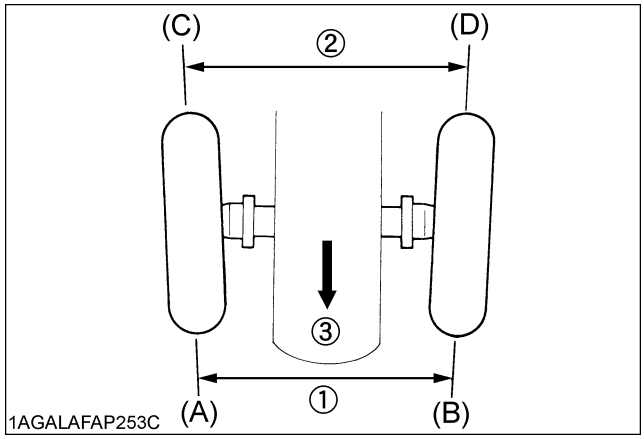
注　意

＊ トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

◆ 点検

前輪の前幅（A）（B）と後幅（C）（D）を測り，（C）（D）－（A）（B）＝下記基準値になっているかを調べます。

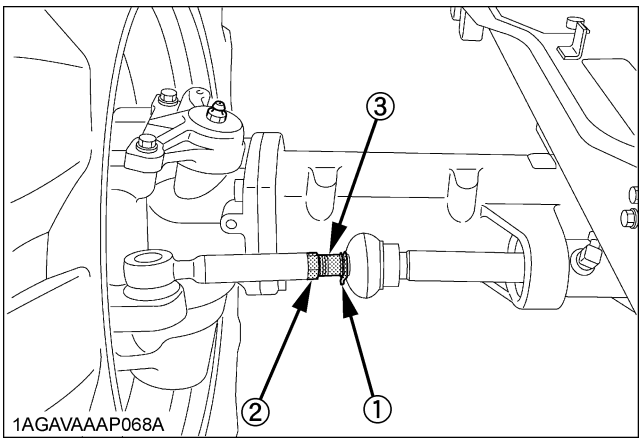
2 ～ 8 mm



①前幅
②後幅
③前

◆ 調整

1. スナップストッパをゴムブーツより外してロックナットをゆるめます。
2. タイロッドジョイントのネジ部を回して調整します。
3. 調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。



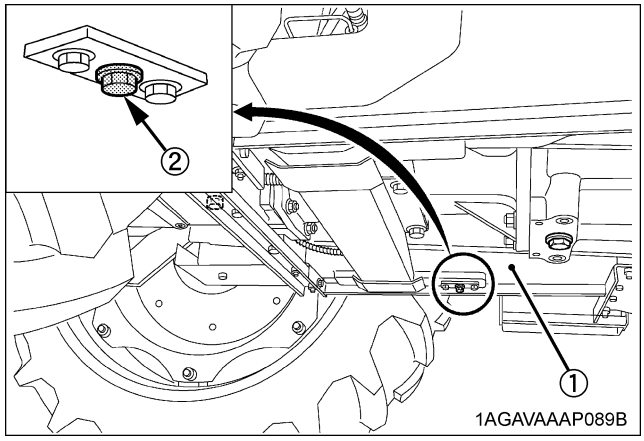
①スナップストッパ
②ロックナット
③タイロッドジョイント

補　足

＊ トーインの点検・調整時，タイロッドエンド(関接球)やリンクに摩耗や変形がないか調べてください。
＊ 標準空気圧で，トーインの点検･調整を行なってください。

■燃料タンクの水抜き

燃料タンク下部のドレーンプラグを外し，沈澱している不純物や水分を排出し，元通りに締めます。



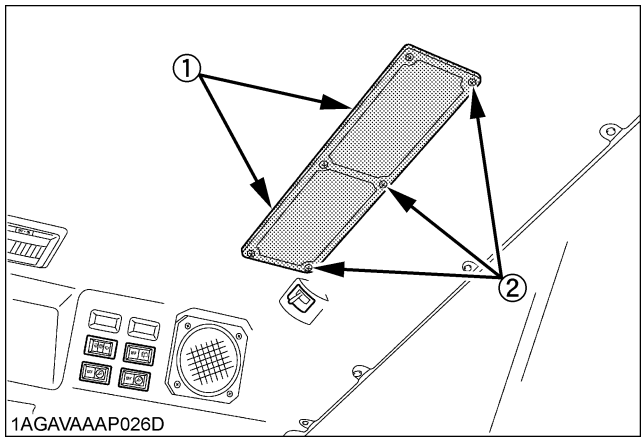
①燃料タンク
②ドレーンプラグ

重　要

＊ 水分が多く含まれている悪い燃料を使用した場合は，水抜きの間隔は更に短くしてください。
＊ トラクタを長時間格納後使用する前に行なってください。

■室内エアフィルタの清掃

フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。フィルタの網目を損傷させないように清掃をしてください。

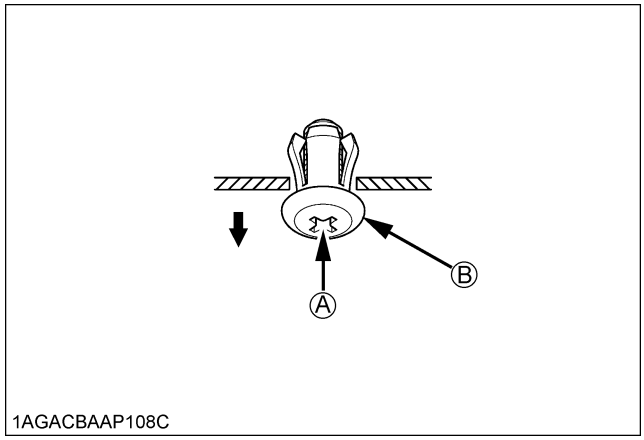


①室内エアフィルタ
②プッシュリベット

◆ 室内エアフィルタの取付け，取外し

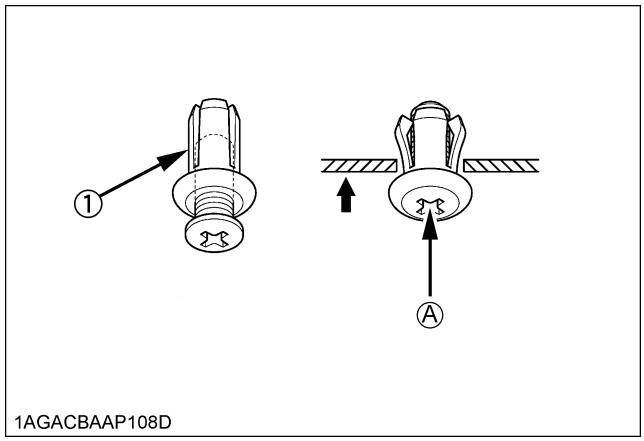
●「外し方」

室内エアフィルタのプッシュリベットの周辺Ⓑ部を手で押さえてⒶ部を（＋）ドライバで左に回すと外れます。



●「取付け方」

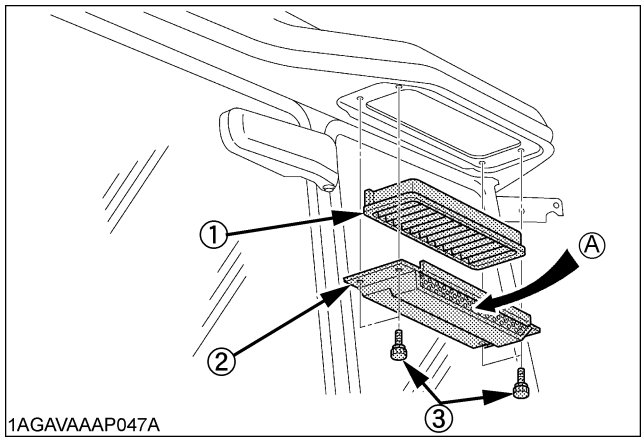
プッシュリベットを室内エアフィルタに差込み，Ⓐ部を押しプッシュリベットを固定します。



①取り外したプッシュリベット

■外気フィルタの清掃

ノブボルトを外し，カバーとフィルタをいっしょに外します。



①外気フィルタ
②カバー
③ノブボルト
Ⓐ“空気導入口”

補　足

＊ カバーの空気導入口を外側に向けて組付けてください。

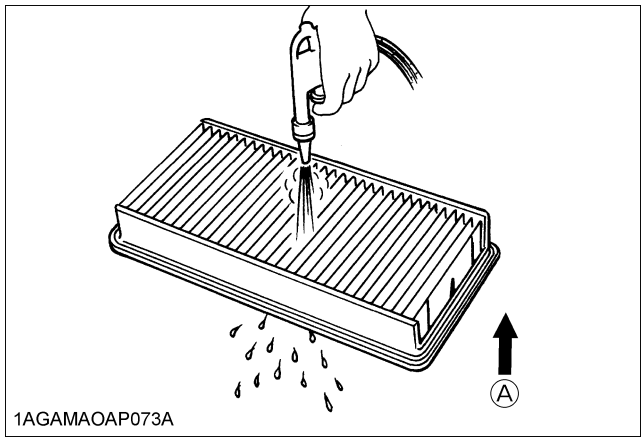
◆ 清掃法

●「通常」

風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。

重　要

＊ エレメントを叩かないでください。
エレメントが変形すると，エアコンユニットにほこりが浸入し，エアコンを損傷する場合があります。



Ⓐ“風の流れ”

●「汚れが著しいとき」

家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだ後，完全に自然乾燥させてください。

重　要

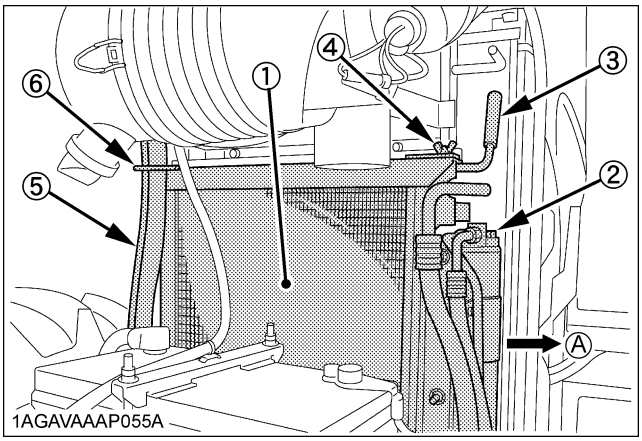
＊ 洗浄にガソリン，シンナなどを使用しないでください。

■エアコンコンデンサの詰まり

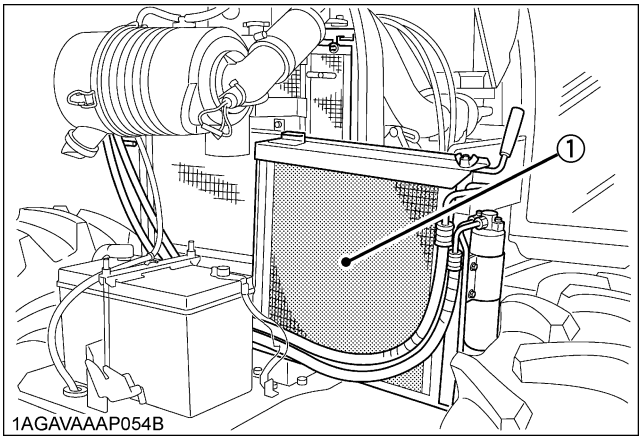
注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。
＊ エアコン使用時コンデンサやレシーバは熱くなります。十分冷えてから点検・清掃を行なってください。

1. エアコンホースをフックより外します。
2. 蝶ボルトをゆるめ，ハンドルを持ちコンデンサを手前に引出します。
3. 防虫網を外し，コンデンサフィンにゴミが詰まっていれば水道水などで取除いてください。



①防虫網（コンデンサ用）　　Ⓐ“引く”
②レシーバ
③ハンドル
④蝶ボルト
⑤エアコンホース
⑥フック



①コンデンサフィン

重　要

＊ 高圧洗車機を使用する場合には，コンデンサのフィンを損傷させないように，注意してください。

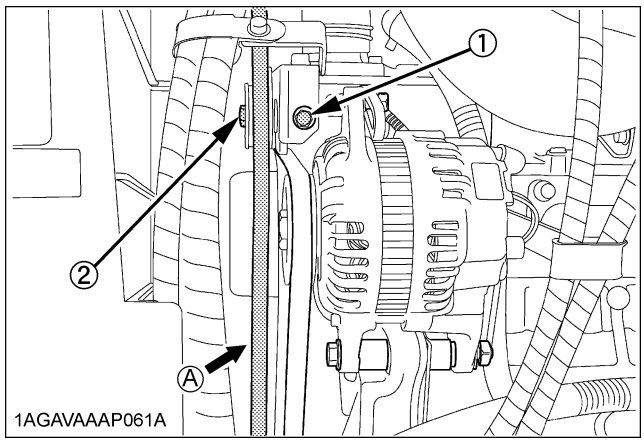
■エアコンベルトの張り

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約 98 N（10 kgf）の力で押えて，10 ～ 12 mm たわむ程度

調整はナットをゆるめ，調整ボルトで張ります。



①調整ボルト　　Ⓐ“押す”
②テンションプーリ取付けナット

400 時間ごとの点検・整備

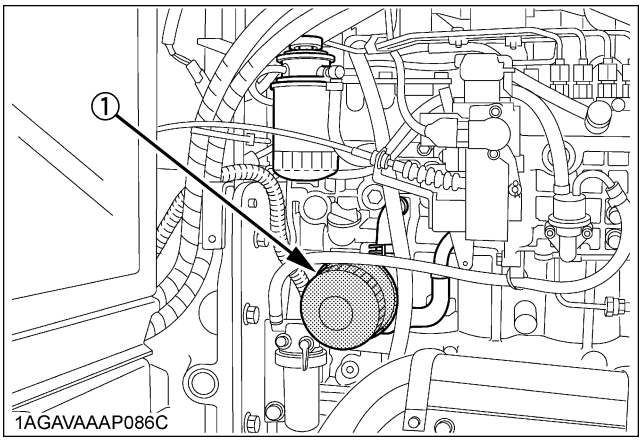
■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

[GV760・850・950 は 600 時間ごと]

注　意

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. フィルタレンチでフィルタを取外します。
2. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
3. エンジンオイルを規定量まで補給します。
4. 約 5 分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか又，油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
5. 再びオイルゲージで油量を確認し，不足していれば補給してください。



①エンジンオイルフィルタカートリッジ

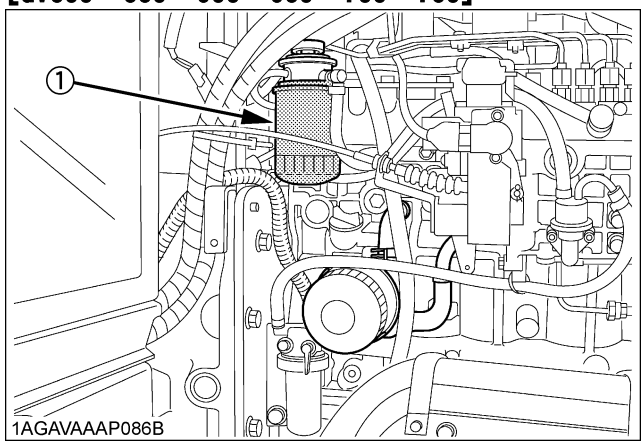
補　足

＊ オイルフィルタは，カートリッジタイプです。このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しい純正部品のカートリッジと交換してください。

■燃料フィルタカートリッジの交換

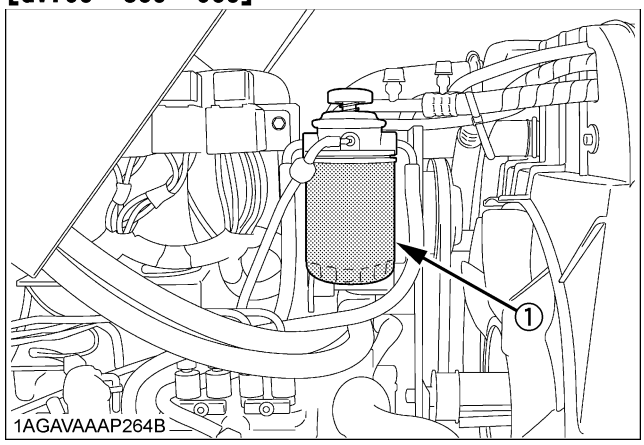
1. フィルタレンチでフィルタを外してください。
2. 組付けはパッキンに燃料を薄く塗布してからフィルタレンチを使用せず手で確実に締付けてください。
3. 空気抜きを行なってください。
（詳細は**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照してください）

[GV500・550・600・650・700・750]



①燃料フィルタカートリッジ

[GV760・850・950]



①燃料フィルタカートリッジ

重　要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊ カートリッジ交換後は，必ず空気抜きをしてください。（詳細は**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照してください）

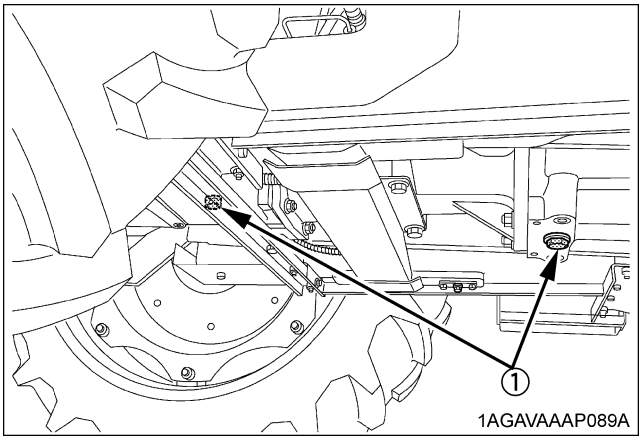
600 時間ごとの点検・整備

■ミッションオイルの交換

注 意

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

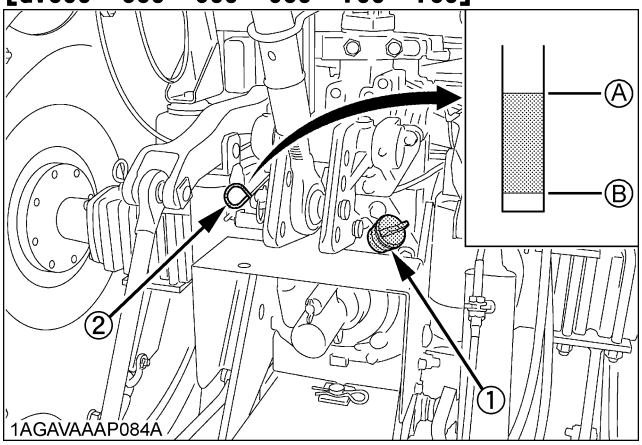
1. ドレーンプラグを外してオイルを抜きます。



①ドレーンプラグ

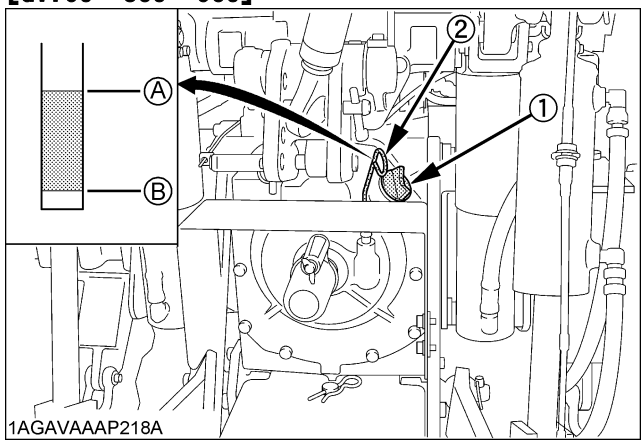
2. ミッションオイルを給油口から規定量まで入れてください。
3. エンジンを始動して 2 ～ 3 分運転してから止め，再度油量を点検して規定量まで補給してください。

[GV500・550・600・650・700・750]



①給油口 **Ⓐ“上限”**
②オイルゲージ **Ⓑ“下限”**

[GV760・850・950]

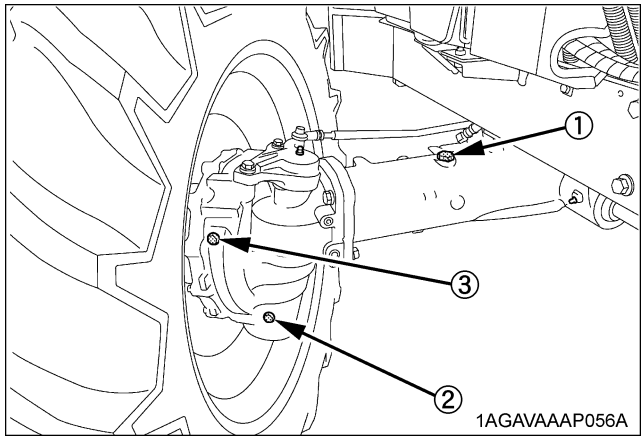


①給油口 **Ⓐ“上限”**
②オイルゲージ **Ⓑ“下限”**

■前車軸ケースオイルの交換

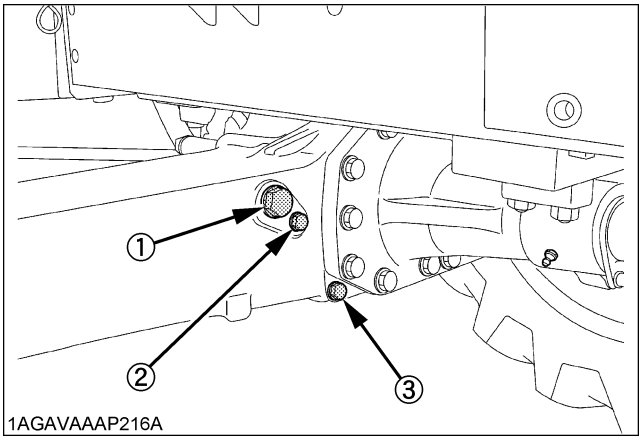
[GV500・550・600・650・700・750]

左右のドレーンプラグと給油プラグを外してオイルを抜き，給油口から新しいオイルを（検油プラグ位置まで）入れてください。



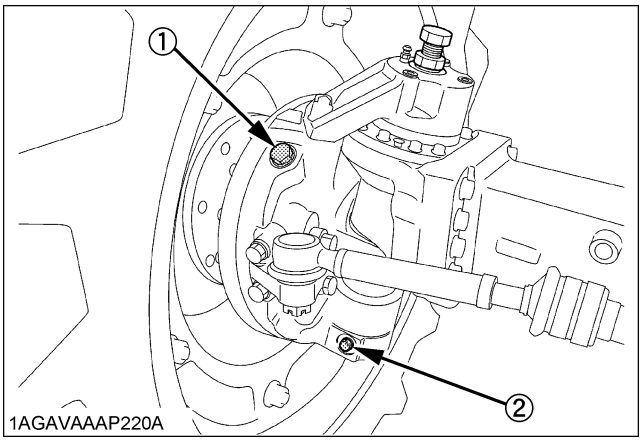
①給油口
②ドレーンプラグ
③検油プラグ

■前部デフケースのオイル交換
[GV760・850・950]
ドレーンプラグと給油プラグを外してオイルを抜き，給油口から新しいオイルを規定量（検油プラグ位置まで）入れてください。



①給油口
②検油プラグ
③ドレーンプラグ

■前輪ケース左・右のオイル交換
[GV760・850・950]
左右のドレーンプラグと給油プラグを外してオイルを抜き，給油口から新しいオイルを規定量入れてください。

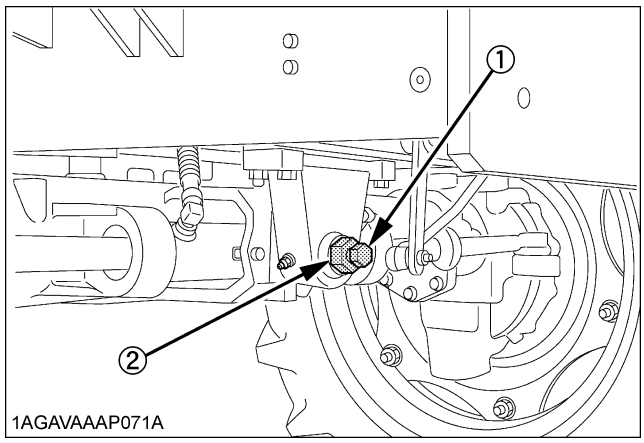


①給油（検油）プラグ
②ドレーンプラグ

■前部デフケース前後遊びの調整
前部デフケース支持部の調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

◆ 点検
前後方向のガタを点検し，ガタがあれば調整します。

◆ 調整
前輪タイヤ（両輪）を持上げて，ロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込みガタを調整します。



①調整ボルト
②ロックナット

800 時間ごとの点検・整備

■エンジンバルブクリアランスの点検
購入先で交換及び点検をしてもらってください。

1 年ごとの点検・整備

■エアクリーナエレメントの交換
エレメントの交換は 1 年間使用後，又は 6 回掃除ごとに交換が必要です。
（**[100 時間ごとの点検・整備]** の **[エアクリーナエレメントの清掃]** の項を参照。）

■エアコン配管，ホースの点検
各配管及びホースの損傷を点検してください。

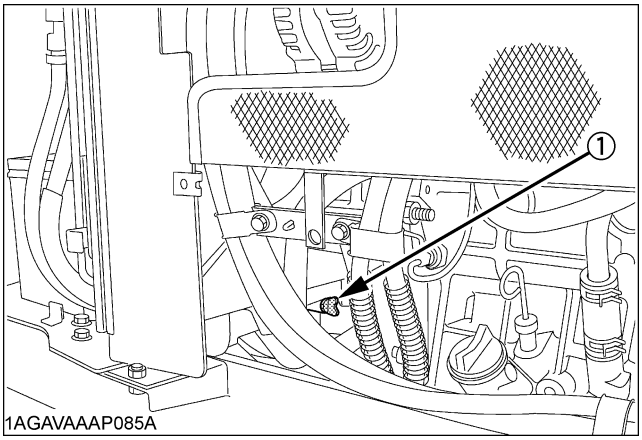
2年ごとの点検・整備

■冷却水の交換

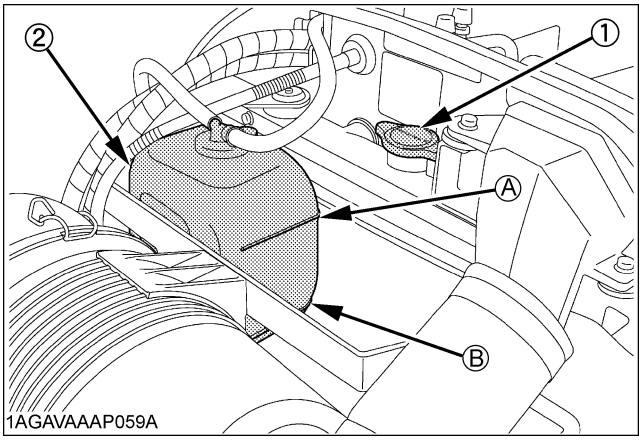
注 意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

1. ラジエータの排水コックとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。



①排水コック



①ラジエータキャップ　　Ⓐ“上限”
②リザーブタンク　　Ⓑ“下限”

2. ポンプ等を用いリザーブタンクより排水します。
3. 水道の水でラジエータ内を洗浄し，排水コックを締めます。
4. ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち，ラジエータキャップを確実に閉めてください。
5. 安全キャブ仕様はヒータに冷却水が循環するため，冷却水が約 1.5L ヒータ部に必要となります。
   冷却水を交換した場合，冷却水をリザーブタンクの注入口まで一杯にし，ヒータ **[ON]**（温度コントロールつまみを **[WARM]**（右端）に回して，しばらくエンジンを回し，冷却水を暖め，エンジンを止めてください。このとき吹出口より温風が出ることを確認してください。温風が出ない場合は購入先にご相談ください。
   冷却水が冷えると，リザーブタンクの冷却水が吸込まれ，リザーブタンクの冷却水が適量になります。

重 要

＊ 冷却水補給後エンジンを運転し，リザーブタンク内の量及びラジエータの給水口のすぐ下まで冷却水があることを確認してください。そうでないと，冷却水の量が不足しエンジンの破損につながるおそれがあります。
＊ 冷却水交換作業では，冷却水系統にエアが混入する可能性があります。交換時は，購入先にご相談ください。

◆ 不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。冬期気温が 0 ℃以下になるようなときは，必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。〔工場出荷時は，不凍液（ロングライフクーラント）が入っています。〕

重　要

＊ 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を 50% 入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。
＊ 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。
＊ 不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は 2 年間です。必ず 2 年で交換してください。

不凍液の保証不凍結温度

原液混合比%	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍結温度℃	-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43

■ラジエータの洗浄

洗浄には，ラジエータ洗浄剤を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。
＊ 2 年使用ごと
＊ 不凍液を混入するとき
＊ 不凍液混入から水だけに変えるときなどに使用してください。

■ラジエータホースの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■パワーステアリングホースの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■燃料ホースの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■傾き自動シリンダホースの交換［M 仕様］

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■メインシリンダホースの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■オイルクーラホースの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■デフロックホースの交換

[GV760・850・950]

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

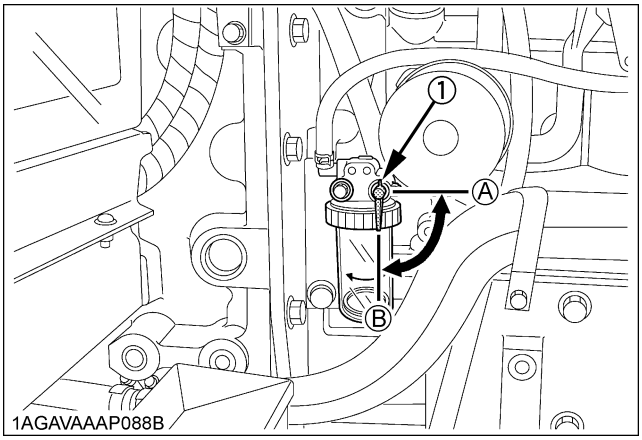
必要に応じた点検・整備

■燃料の空気抜きのしかた

燃料の空気抜きは，次のようなときに行なう必要があります。

- セパレータより排水したとき
- 燃料フィルタ及び配管を取外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

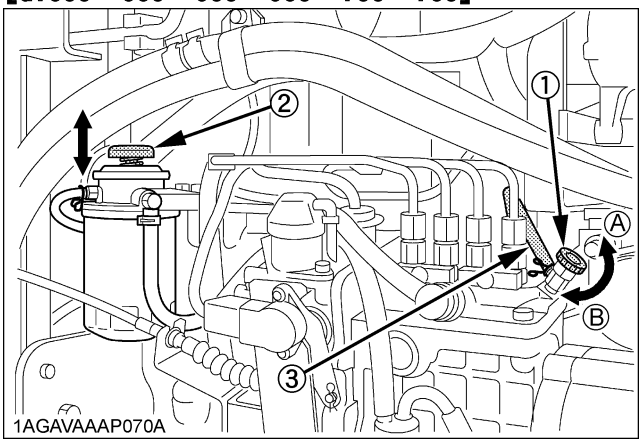
1. タンクに燃料を満たします。
2. 燃料コックが**【開】**になっているか確認します。



①燃料コック　　**Ⓐ“閉”**
Ⓑ“開”

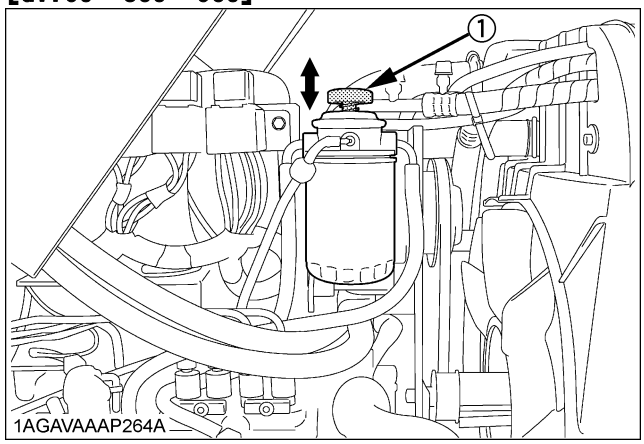
3. 燃料噴射ポンプのコックを開きます。**【GV500・550・600・650・700・750】**
4. 燃料フィルタ上部のプライミングポンプを上下に動かし，燃料タンクより燃料を吸い上げます。

【GV500・550・600・650・700・750】



①エア抜きコック　　**Ⓐ“開”**
②プライミングポンプノブ　　**Ⓑ“閉”**
③燃料ポンプオーバフローホース

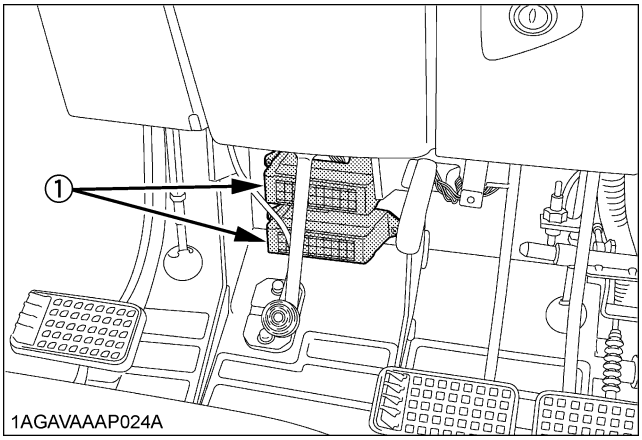
【GV760・850・950】



①プライミングポンプノブ

5. 燃料回路内に空気が入っていると，プライミングポンプの操作が軽く，空気が抜けると重くなります。
   また，燃料ポンプオーバフローパイプを指でつまんでいると，燃料が流れ出すと指に脈動を感じます。**【GV500・550・600・650・700・750】**
   この状態になれば，空気抜きは完了です。
6. アクセルレバーを最高回転位置でエンジンを始動し，アクセルレバーを中速回転（約1500rpm）位置に戻します。
   (スタータを連続 10 秒間回しても始動しない場合は，30 秒間休み，この操作を再度 1 ～ 2 回くり返します)
7. エンジンをふかす操作をし，燃料系統の中に残っている微量のエアを追い出します。
8. 以上の操作後，まだエアが抜けずにエンストする場合は，上記の 1. ～ 7. の手順で再度エア抜きを行ないます。
9. 燃料噴射ポンプのコックを閉じます。**【GV500・550・600・650・700・750】**

■ヒューズの交換



①ヒューズボックス

1. ヒューズボックスのふたを外す。
2. ヒューズを外す。
3. 切れたものと同容量のヒューズと交換する。

重　要

＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検，修理してください。

補　足

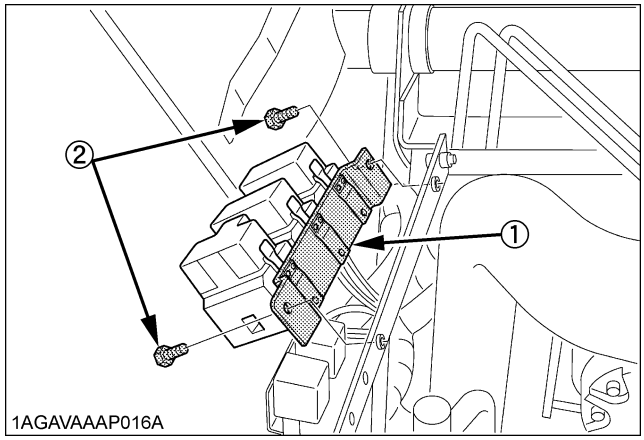
＊ トラクタに作業灯やラジオなどを取付けるときの電源取出しは，購入先にご相談ください。

■スローブローヒューズの交換

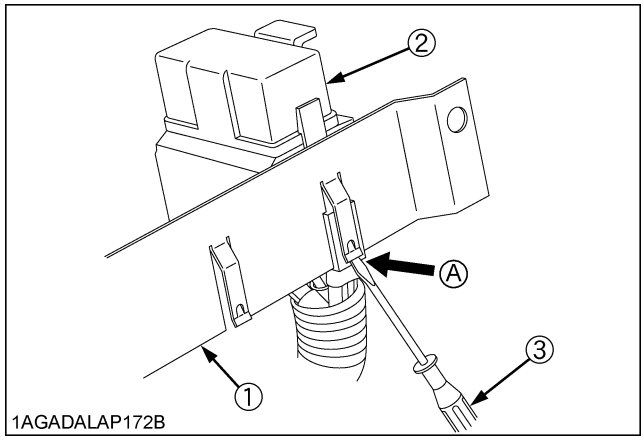
スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

◆ 交換手順

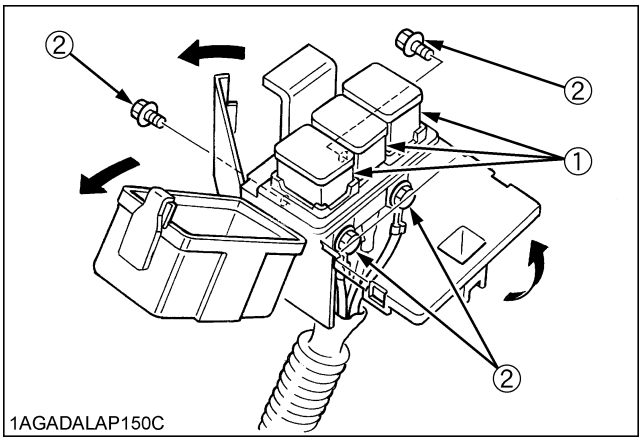
1. バッテリの（−）コードを外します。
2. ホルダ取付ボルト（2 本）を外します。
3. Ⓐ部にマイナスドライバ等を差し込み，ホルダよりヒューズボックスケースを下に引き抜きます。
4. 各ケースの中央部のスローブローヒューズは，フタを開き引き抜きます。両側のスローブローヒューズは，両側のカバーを開きボルトを外してから，引き抜きます。



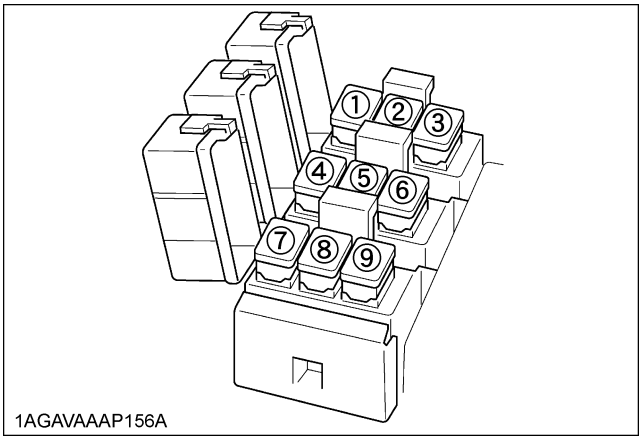
①ホルダ
②ボルト



①ホルダ
②ヒューズボックスケース
③マイナスドライバ



①スローブローヒューズ
②ボルト



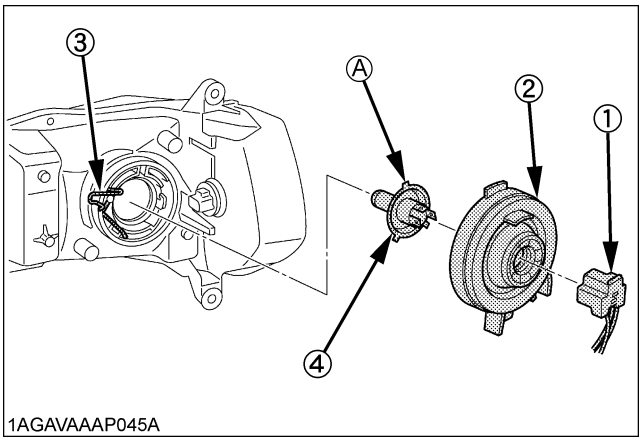
①	40A	作業灯（前） **[GV500・550・600・650・700・750]**
	60A	作業灯（前）**[GV760・850・950]**
②	30A	予備電源
③	40A	エアコン
④	60A	ヘッドランプ，ホーン
⑤	40A	作業灯（後）
⑥	60A	キースイッチ
⑦	60A	グロープラグ，ヒータ
⑧	30A	スタータ
⑨	100A	オルタネータ

■ヘッドランプの交換

注　意

＊ 電球を落としたり，キズをつけたりしないでください。破損した場合，ガラス片が飛散しケガの原因となります。
特にハロゲン電球は，ガラス内部の圧力が高いため，注意してください。
＊ 電球を交換する時は，充分冷えてから行なってください。
ヤケドの原因となることがあります。

1．コネクタを抜き，ゴムブーツを外します。
2．電球固定金具を解除し，電球を外します。



①コネクタ
②ゴムブーツ
③固定金具
④電球
Ⓐ“幅の広い突起部を上側に向け組み付ける”

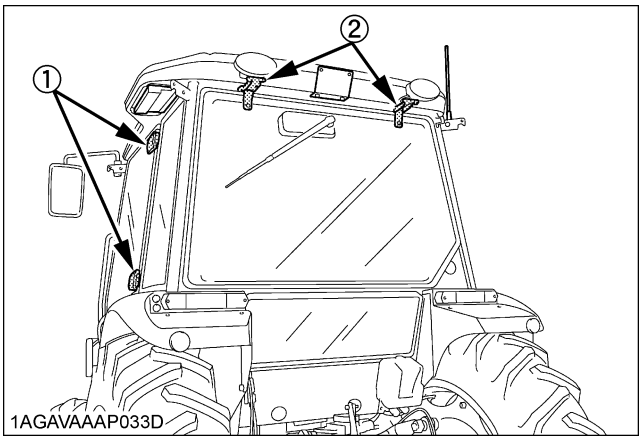
重　要

＊ ワット数の大きい電球を取付けないこと。
＊ 素手でガラス面を触らないこと。指紋や油脂が付着すると電球が破損するおそれがあります。

■ランプ一覧

ヘッドランプ	60/55W	作業灯	55W
ウインカランプ(前)	21W	作業灯(ヘッドライト横)	21W
ウインカランプ(後)	21W	尾灯,ブレーキランプ	5W/21W
車幅灯	5W	バックランプ	21W

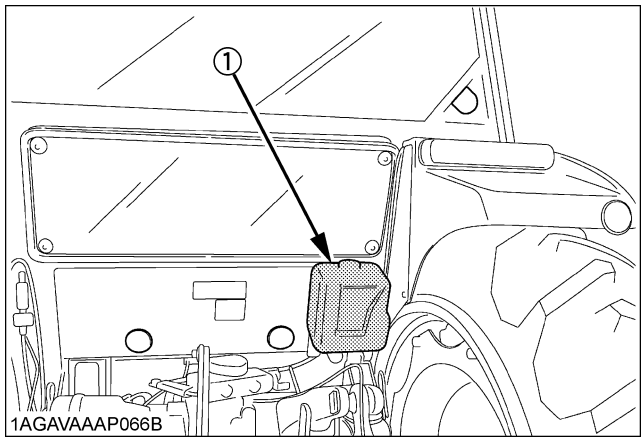
■注油



①ドアヒンジ部
②リヤウインドヒンジ部

■ウォッシャ液の補充

自動車用ウォッシャ液を適量補充してください。



①ウォッシャタンク

重　要

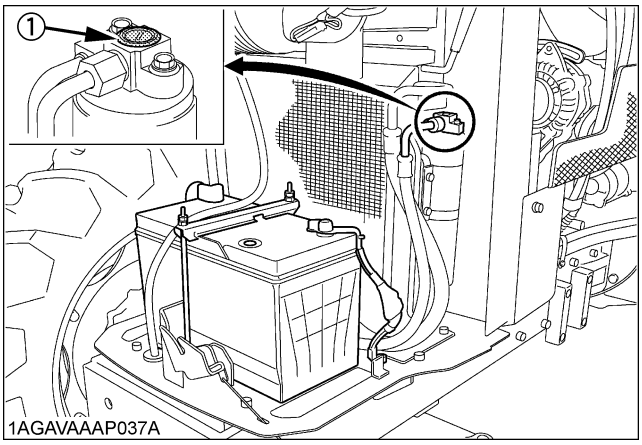
＊ 凍結を避けるため，清水のみの使用はしないでください。
＊ 空回しはポンプを損傷させる原因となりますので空運転をしないでください。
＊ ウォッシャノズルの詰まりを防ぐために，ゴミが入らないようにしてください。

■冷媒（ガス）量の点検

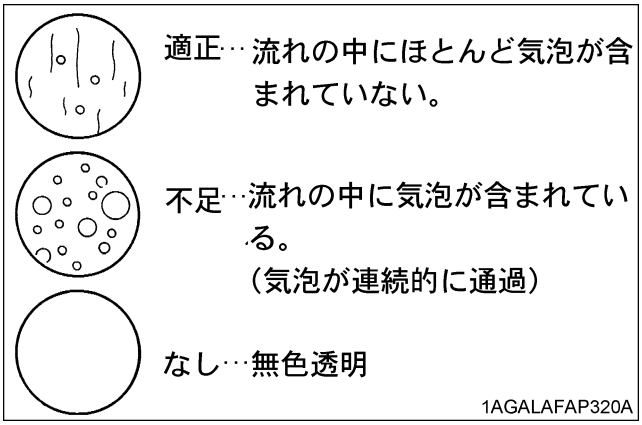
冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。
下記要領で点検し，冷媒が不足しているときは，購入先で点検及び充てんをしてもらってください。

◆ 点検方法

1. エアコンを以下の条件で運転します。
＊ エンジン回転数　　：約 1500rpm
＊ 温度コントロール　　：最強冷位置
＊ ファンスイッチ　　：最強風
＊ エアコンスイッチ　　：ON
2. サイトグラスにより，冷凍サイクルを流れている冷媒の状態を確認する。



①サイトグラス



格納

長期格納時の手入れ

注 意

＊ シートをかける場合，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。
火災を起こす原因になります。

トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

1. 不具合箇所は整備してください。
2. エンジンオイルを交換し，2000 回転／分以上で 10 ～ 15 分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。
   その後も 1 ～ 2ヵ月ごとに同様に防錆運転をしてください。
3. 定期点検箇所一覧表の項目を確認するようにしてください。
4. 車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。パワーステアリングシリンダのロッド部防錆のため，1ヵ月に 1 回フルストロークさせるか，防錆油を塗布してください。
5. 燃料コックを**【閉】**にしておいてください。
6. 冷却水は抜いておいてください。但し，オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
7. クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が浸入していないことを確認してください。
8. タイヤの空気圧は，標準より少し多いめにしてください。
9. バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側（－側）を外してください。
10. ウエイトは取外し，作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。
11. 後輪の前後に車止めをしておいてください。
12. 各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。
13. 格納中バッテリは，1ヵ月に 1 回充電器で完全充電するようにしましょう。
14. 格納場所は，周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。
15. 燃料は満タンにしてください。空にしておくと水滴ができ，燃料系統故障の原因になります。

重 要

＊ 洗車するときは，以下の点に注意して行なってください。

- エンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。
- 灯火類は消灯した状態で行なってください。もし点灯した灯火類に直接水がかかるとランプのバルブが切れるおそれがあります。
- 三点リンク外部操作スイッチ，傾き手動外部操作スイッチには直接水がかからないようしてください。もし水が入ると故障の原因となります。
- 高圧洗車機を使用するときは，ノズルの先端をドア，リヤウインドなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると水圧が高いため，室内に水が入るおそれがあります。

＊ 格納時は，必ず**【切】**の位置でキーを抜いておいてください。

不調と処置

エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　象	原　因	処　置
始動困難な場合	1. 燃料が流れない。	● 燃料タンクを点検し，沈殿している不純物や水分を除く。 ● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	2. 燃料送油系統に，空気や水が混入している。	● ホース・プラグ・袋ナット及び締付けバンドを点検し，ゆるみがあれば締め，損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 ● 空気抜きをする。 （**[必要に応じた点検・整備]** の項を参照してください。）
	3. 寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い	● ラジエータに熱湯をそそぐ。 ● 気温によってオイルの使い分けをする。 冬期は 10W-30，ターボ付は D10W-30 スーパー CD を使用。 （**[200 時間ごとの点検・整備]** エンジンオイルの交換の項を参照してください。）
	4. バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	● バッテリを充電する。
出力不足の場合	1. 燃料不足	● 燃料を補給する。 ● 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	2. 燃料の流れ不足	● 燃料フィルタの清掃をする。
	3. エアクリーナの目詰まり	● エレメントを清掃する。
突然停止した場合	1. 燃料不足	● 燃料を補給する。 ● 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	2. 燃料が流れない	● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	1. 燃料が悪い。	● 良質の燃料に交換する。
	2. エンジンオイルの入り過ぎ	● 正規のオイル量にする。
	3. エアクリーナの目詰まり	● エレメントを清掃する。
水温計が H 付近を示すとき	1. 冷却水が 125 ℃付近になったため。	● 冷却水の量（不足）及び水漏れの点検 ● ファンベルトの張り（ゆるみ）の点検 ● フロントグリル，ラジエータの防虫網にゴミの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない。	1. 前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合，マフラ内部に湿りが残っている。	● 負荷をかけてマフラを十分に加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返し，及び，長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	2. ノズル不良	● ノズルを点検する。
	3. 燃料不良	● 良質の燃料に交換する。

☆わからない場合は，購入先にご相談ください。

傾き自動･耕深制御･ドラフト･レーザ･AB･倍速･トランスミッションの故障と処置

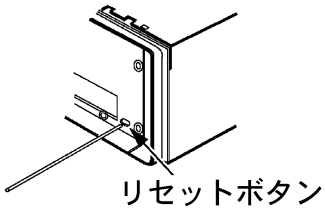
異常が生じた場合、電子メータに異常箇所を示す下記エラーコードが表示されます。
もし表示された場合、すぐ購入先に連絡して点検・整備を受けてください。
なお，故障箇所によっては緊急避難処置として一部使用制限をした使い方ができる場合もあります。詳細はエラーコードと処置の欄を確認してください。

表示エラーコード	状　態	処　置
ERROR － 1	ローリング　センサ異常	傾き自動切替スイッチを**【切】**（傾き自動ランプ消灯）にし、傾き手動スイッチで操作する
ERROR － 2	リフトアーム　センサ異常	作業切替スイッチを**【切】**（モードランプ消灯）にし、3P 外部スイッチで操作する
ERROR － 3	ストローク　センサ異常	傾き自動切替スイッチを**【切】**（傾き自動ランプ消灯）にし、傾き手動スイッチで操作する
ERROR － 4	ポジションレバー　センサ異常	作業切替スイッチを**【切】**（モードランプ消灯）にし、3P 外部スイッチで操作する
ERROR － 5	カバー　センサ異常	作業切替スイッチを**【S モード】**に切換えて使用する
ERROR － 6	傾き自動角度ダイヤル異常	傾き自動切替スイッチを**【切】**（傾き自動ランプ消灯）にし、傾き手動スイッチで操作する
ERROR － 7	高さ規制ダイヤル異常	購入先に連絡
ERROR － 8	ドラフト　センサ異常	作業切替スイッチを**【切】**（モードランプ消灯）にし、3P 外部スイッチで操作する
ERROR － 11	アクセル　センサ異常	購入先に連絡　S モード使用時は耕深制御に切換える 変速はクラッチボタン併用操作を行う
ERROR － 12	エンジン回転　センサ異常	購入先に連絡　S モード使用時は耕深制御に切換える 変速はクラッチボタン併用操作を行う
ERROR － 14	感度調節ダイヤル異常	購入先に連絡　作業精度が調整できない
ERROR － 15	落下速度調節ダイヤル異常	購入先に連絡　下げ速度が調整できない
ERROR － 18	車速検出センサ異常	購入先に連絡　変速はクラッチボタン併用操作を行う
ERROR － 19 ALL NG	主変速レバー　センサ異常	エンジン停止までは変速を保持、すみやかに停止し、購入先に連絡
ERROR － 20 ALL NG	クラッチペダル　センサ異常	購入先に連絡　変速はクラッチボタン併用操作を行う
ERROR － 21	耕深調節ダイヤル異常	作業切替スイッチを**【切】**（モードランプ消灯）にし、ポジションレバーで操作する
ERROR － 22	前輪切れ角　センサ異常	走行モード切換スイッチを**【切又は 4WD】**に切換える 旋回アップ（オートアップ）スイッチを**【切】**にする
ERROR － 23	ミッション油温　センサ異常	購入先に連絡　変速はクラッチボタン併用操作を行う
ERROR － 24	3P 昇降バルブ　上げ異常	購入先に連絡　作業機が上昇できない
ERROR － 25	傾き自動バルブ　縮み異常	購入先に連絡　傾き自動シリンダが縮まない
ERROR － 27	レーザ　センサ異常	購入先に連絡
ERROR － 28	3P 昇降バルブ　下げ異常	購入先に連絡　作業機が下降できない
ERROR － 29	傾き自動バルブ　伸び異常	購入先に連絡　傾き自動シリンダが伸びない
ERROR － 31 1357NG	主変速 1 速バルブ異常	購入先に連絡 シャトルレバーを**【N】**に戻し，2 速で走行する
ERROR － 32 2468NG	主変速 2 速バルブ異常	購入先に連絡 シャトルレバーを**【N】**に戻し，1 速で走行する
ERROR － 33 1357NG	主変速 3 速バルブ異常	購入先に連絡 シャトルレバーを**【N】**に戻し，2 速で走行する
ERROR － 34 2468NG	主変速 4 速バルブ異常	購入先に連絡 シャトルレバーを**【N】**に戻し，1 速で走行する

表示エラーコード	状　　態	処　　置
ERROR －　35 1357NG	1 － 3 速側 H － L バルブ異常	購入先に連絡 シャトルレバーを【N】に戻し，2 速で走行する
ERROR －　36 1357NG	1 － 3 速側クラッチバルブ異常	購入先に連絡 シャトルレバーを【N】に戻し，2 速で走行する
ERROR －　37 2468NG	2 － 4 速側 H － L バルブ異常	購入先に連絡 シャトルレバーを【N】に戻し，1 速で走行する
ERROR －　38 2468NG	2 － 4 速側クラッチバルブ異常	購入先に連絡 シャトルレバーを【N】に戻し，1 速で走行する
ERROR －　43 ALL NG	メインクラッチバルブ異常	購入先に連絡
ERROR －　44	スイッチボックス通信異常	購入先に連絡
ERROR －　45	メータパネル通信異常	購入先に連絡
ERROR －　47	4WD バルブ異常	走行モード切換スイッチを【切】に切換える
ERROR －　48	倍速バルブ異常	走行モード切換スイッチを【切又は 4WD】に切換える
ERROR －　49	AB 左バルブ異常	AB スイッチを【切】に切換える
ERROR －　50	AB 右バルブ異常	AB スイッチを【切】に切換える
ERROR －　51	ブレーキバルブ異常	購入先に連絡
ERROR －　52	前進側圧力スイッチ異常	購入先に連絡
ERROR －　53	後進側圧力スイッチ異常	購入先に連絡
ERROR －　54	1 － 3 速側 H － L スイッチ異常	購入先に連絡
ERROR －　55	1 － 3 速側クラッチスイッチ異常	購入先に連絡
ERROR －　56	2 － 4 速側 H － L スイッチ異常	購入先に連絡
ERROR －　57	2 － 4 速側クラッチスイッチ異常	購入先に連絡
ERROR －　59	シャトルレバー前後進スイッチ異常	購入先に連絡
ERROR －　60	アナログ基準電圧 5V 異常	購入先に連絡
ERROR －　61	ST センサ異常	購入先に連絡 (ただし、水平精度は落ちるが耕うん作業はできる
ERROR －　62	ST センサダイアグ異常	購入先に連絡 (ただし、水平精度は落ちるが耕うん作業はできる
ERROR －　63	アクセルセンサ調整値異常	購入先に連絡
SW13HL	1 － 3 速側 H － L スイッチ異常	購入先に連絡
SW24HL	2 － 4 速側 H － L スイッチ異常	購入先に連絡
SW13CL	1 － 3 速側クラッチスイッチ異常	購入先に連絡
SW24CL	2 － 4 速側クラッチスイッチ異常	購入先に連絡
SW F	前進側圧力スイッチ異常	購入先に連絡
SW R	後進側圧力スイッチ異常	購入先に連絡
SW SHTLH	シャトルレバー前後進スイッチ異常	購入先に連絡

AM/FM ラジオ付き CD プレーヤの不調と処置

次のような症状は，故障ではないことがあります。修理を依頼される前に，もう一度次のことをお調べください。

現　　象	原　　因	処　　置
電源が入らない (音が出ない)	ヒューズが切れている。	入っていたものと同じ容量のヒューズ（15A）と交換する。 再度切れる場合は，購入先にご相談ください。
CD がすぐ出てしまう	CD を裏表逆に入れている。	CD の印刷面を上にして入れる。
音飛びする ノイズなどが入る	CD が汚れている。	CD をやわらかい布でふく。
	CD に大きい傷やソリがある。	CD を無傷なものに交換する。
電源を入れた直後 音質が悪い	湿気の多いところに駐車すると，内部のレンズに水滴が付くことがあるため。	電源を入れた状態にして 1 時間乾燥させる。
ボタンを押しても動作しない ディスプレイが正確に表示されない	ノイズなどが原因で，マイコンが誤動作している。	リセットボタンを，細い棒などで約 2 秒間押す。リセットボタンを押したときは，設定したプリセットメモリーなどが全て消えるので，もう一度設定し直す。  1AGAVAAAP148A

■エラー表示について

異常が生じたときには，各種のエラーが表示されますので，対処方法にしたがって障害を取除いてください。

表示エラーコード	原　　因	対処方法
ER 2	本機の CD デッキ内の CD が引っかかってイジェクトされないとき	引っかかる要素を取除く。CD がイジェクトされない場合は，機器の故障と思われるので，購入先にご相談ください。
ER 3	本機の CD デッキ内の CD に傷などがあり，演奏できないとき	傷やソリのない CD と交換する。

※上記対処を行なっても復帰しない場合は，本体の電源を切り，購入先にご相談ください。

付表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

型式名			GV500	GV550	GV600	GV650	GV700	GV750
駆動方式			4輪駆動					
機体寸法	全長 mm		3625					
	全幅 mm		1565			1640		1730
	全高 mm		2415	2445		2495		2500
	軸距 mm		2050			2150		
	輪距	前輪 mm	1300	1320		1220～1490（5段）		1200～1500（5段）
		後輪 mm	1220～1610（6段）	1220～1720（6段）				1320～1720（5段）
	最低地上高 mm		380	410		460		465
質量（重量）kg			2370	2410		2550		2580
エンジン	機関型式		V3300				V3300-T（ターボ）	
	形式		水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル					
	総排気量 L		3.318					
	出力／回転速度 kW(PS)/rpm		36.8(50)/2400	40.5(55)/2400	44.1(60)/2400	47.8(65)/2600	51.5(70)/2600	55.2(75)/2600
	使用燃料		ディーゼル軽油					
	燃料タンク容量 L		65			105		
	始動方式		セルモータ式					
	バッテリ		105E41L または 130E41L					
タイヤ	前輪		8-18-4PR	8.3-20-4PR		9.5-22-6PR		9.5-24-6PR
	後輪		13.6-28-6PR	12.4-32-6PR		12.4-36-6PR		16.9-30-6PR
車体	クラッチ方式		電子油圧式湿式多板					
	制動装置		一系統左右独立（連結装置付き），湿式ディスクブレーキ（機械式）					
	かじ取り方式		全油圧式パワーステアリング					
	差動方式		4ピニオンかさ歯車式（デフロック付）					
	変速方式		パルシフト					
変速段数 （段）			前進24，後進24（シャトル）					
走行速度 (km/h)		前進	0.18～32.6	0.19～34.2		0.19～34.0		0.19～34.3
		後進	0.18～32.5	0.19～34.1		0.19～33.9		0.19～34.2
最小旋回半径（ブレーキ使用時） m			2.5			2.6		
PTO	標準	PTO回転速度 回転／分	544，764，1080（エンジン2400）			589，828，1170（エンジン2600）		
	選択	逆転PTO仕様 回転／分	483（エンジン2400）			523（エンジン2600）		
		グランドPTO仕様（回転／トラクタ走行1mにつき）	2.90（タイヤ13.6-28）	2.76（タイヤ12.4-32）		2.78（タイヤ12.4-36）		2.75（タイヤ16.9-30）
	軸寸法 mm		JIS 35					
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール，ドラフトコントロール					
	装着方式		三点リンク　JIS 1形，2形					

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

付表

型式名			GV760	GV850	GV950
駆動方式			4輪駆動		
機体寸法	全長	mm	3800		3815
	全幅	mm	1810[1910]	1765[1825]	1805[1935]
	全高	mm	2550	2545	2580
	軸距	mm	2250		
	輪距 前輪	mm	1210～1400（4段） [1330～1520（4段）]	1210～1400（8段） [1330～1520（8段）]	1210～1400（4段） [1330～1520（4段）]
	輪距 後輪	mm	1400～1900（6段）	1200～1900（16段）	1310～1990（7段）
	最低地上高	mm	445	440	480
質量（重量）		kg	2890[2900]	2910[2920]	3120[3130]
エンジン	機関型式		V3800	V3800-T	
	形式		水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル		
	総排気量	L	3.769		
	出力／回転速度	kW(PS)/rpm	55.9(76)/2600	62.5(85)/2600	69.9(95)/2600
	使用燃料		ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量	L	105		
	始動方式		セルモータ式		
	バッテリ		105E41Lまたは130E41L		
タイヤ	前輪		9.5-24-6PR	9.5-24-6PR	11.2-24-6PR
	後輪		16.9-30-6PR	12.4-38-6PR	16.9-34-6PR
車体	クラッチ方式		電子油圧式湿式多板		
	制動装置		一系統左右独立（連結装置付き），湿式ディスクブレーキ（機械式）		
	かじ取り方式		全油圧式パワーステアリング		
	差動方式		4ピニオンかさ歯車式（デフロック付）		
	変速方式		パルシフト		
変速段数		（段）	前進24，後進24（シャトル）		
走行速度		(km/h) 前進	0.19～32.3	0.18～31.6	0.19～33.8
		(km/h) 後進	0.18～32.2	0.18～31.5	0.19～33.7
最小旋回半径（ブレーキ使用時）		m	3.2[3.5]		3.3[3.5]
PTO	標準	PTO回転速度 回転／分	589，828，1170（エンジン2600）		
	選択	逆転PTO仕様 回転／分	523（エンジン2600）		
	選択	グランドPTO仕様（回転／トラクタ走行1mにつき）	2.71（タイヤ16.9-30）	2.77（タイヤ12.4-38）	2.59（タイヤ16.9-34）
	軸寸法	mm	JIS 35		
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール，ドラフトコントロール		
	装着方式		三点リンク　JIS 2形		

[　]内はワイドトレッド(W)仕様

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

■走行速度表

(km/h)

主変速レバー	副変速レバー	クリープレバー	GV500		GV550・GV600		GV650・GV700		GV750	
			前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
1	L（低）	入	0.18	0.18	0.19	0.19	0.19	0.19	0.19	0.19
2			0.24	0.24	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25
3			0.31	0.30	0.32	0.32	0.32	0.32	0.32	0.32
4			0.38	0.38	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40
5			0.49	0.49	0.51	0.51	0.51	0.51	0.51	0.51
6			0.64	0.64	0.67	0.67	0.67	0.67	0.68	0.68
7			0.83	0.83	0.87	0.87	0.87	0.87	0.88	0.88
8			1.03	1.03	1.09	1.08	1.08	1.08	1.09	1.09
1	L（低）	切	0.89	0.89	0.93	0.93	0.93	0.92	0.93	0.93
2			1.17	1.16	1.22	1.22	1.22	1.22	1.23	1.23
3			1.51	1.51	1.58	1.58	1.59	1.58	1.60	1.59
4			1.88	1.88	1.98	1.97	1.97	1.97	1.99	1.99
5			2.42	2.41	2.53	2.53	2.52	2.51	2.54	2.53
6			3.17	3.16	3.33	3.32	3.33	3.32	3.35	3.34
7			4.11	4.09	4.31	4.29	4.31	4.30	4.35	4.34
8			5.12	5.11	5.37	5.36	5.37	5.35	5.42	5.40
1	H（高）	入／切	5.22	5.21	5.48	5.47	5.45	5.43	5.50	5.48
2			6.86	6.84	7.20	7.18	7.19	7.17	7.25	7.23
3			8.88	8.85	9.32	9.29	9.32	9.30	9.40	9.38
4			11.08	11.05	11.62	11.59	11.61	11.58	11.71	11.68
5			14.20	14.16	14.90	14.86	14.82	14.77	14.94	14.90
6			18.66	18.61	19.57	19.52	19.56	19.50	19.72	19.67
7			24.12	24.07	25.33	25.25	25.35	25.28	25.57	25.50
8			※ 32.62	※ 32.53	※ 34.22	※ 34.13	※ 34.01	※ 33.91	※ 34.30	※ 34.20

主変速レバー	副変速レバー	クリープレバー	GV760		GV850		GV950	
			前進	後進	前進	後進	前進	後進
1	L（低）	入	0.18	0.18	0.18	0.18	0.19	0.19
2			0.24	0.24	0.24	0.24	0.25	0.25
3			0.30	0.30	0.30	0.30	0.32	0.32
4			0.38	0.38	0.37	0.37	0.40	0.40
5			0.50	0.50	0.49	0.49	0.53	0.52
6			0.66	0.66	0.65	0.64	0.69	0.69
7			0.82	0.82	0.80	0.80	0.86	0.86
8			1.03	1.03	1.01	1.01	1.08	1.08
1	L（低）	切	0.91	0.91	0.89	0.89	0.96	0.95
2			1.20	1.20	1.18	1.17	1.26	1.25
3			1.50	1.49	1.46	1.46	1.57	1.56
4			1.88	1.87	1.84	1.83	1.96	1.96
5			2.49	2.48	2.43	2.42	2.60	2.59
6			3.27	3.26	3.20	3.19	3.42	3.41
7			4.07	4.06	3.98	3.97	4.26	4.25
8			5.11	5.09	4.99	4.98	5.34	5.32
1	H（高）	入／切	5.38	5.36	5.25	5.24	5.62	5.61
2			7.08	7.06	6.91	6.90	7.40	7.38
3			8.81	8.79	8.61	8.59	9.22	9.19
4			11.05	11.01	10.79	10.76	11.55	11.52
5			14.62	14.58	14.28	14.24	15.29	15.24
6			19.24	19.18	18.80	18.75	20.12	20.06
7			23.96	23.90	23.42	23.35	25.06	24.99
8			※ 32.34	※ 32.25	※ 31.60	※ 31.51	※ 33.82	※ 33.72

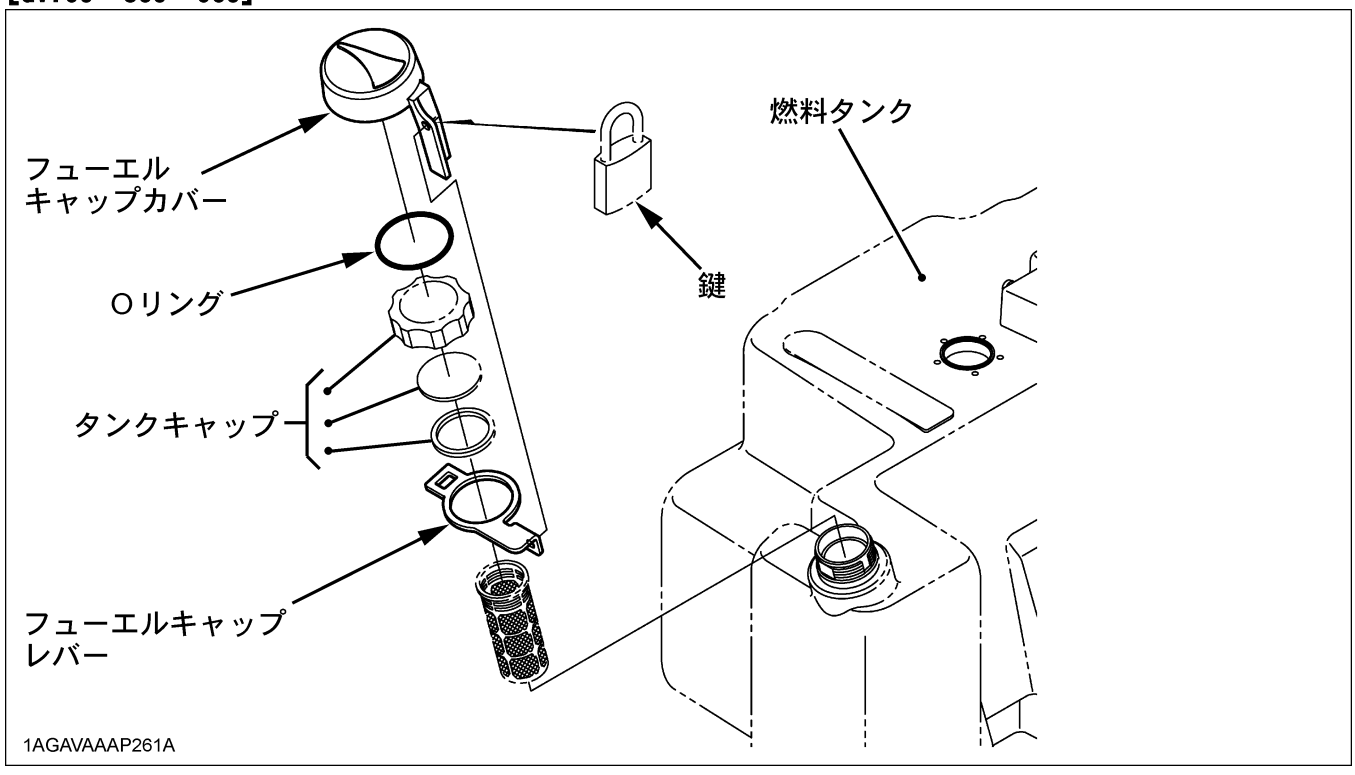
※エンジン回転最高回転時

■標準付属品

品　　名	数量		品　　名	数量	
	A	B		A	B
取扱説明書	1	1	カラー 1（JIS1 用）	2	－
取扱説明確認カード	1	1	カラー 1（JIS2 用）	2	－
保証書	1	1	トップリンクピン（JIS2 用）	1	－
メンテナンスブック	1	1	トップリンクセットピン（JIS2 用）	1	－
ヒューズ（30A）	1	1	フューエルキャップカバー	－	1
スローブローヒューズ（100A）	1	1	フューエルキャップレバー	－	1
チョウセイボルト，アッシ（前輪切れ角調整用）	1	1	O リング	－	1
フィルタレンチ	1	1	* GV500・550・600 は C 仕様のみ付属します。		
メインスイッチキーアッシ（キー２コ）	1	1			
ニップル（油圧取出用）	2*	4			
O リング（油圧取出用）	2*	4			

（A：GV500・550・600・650・700・750　B：GV760・850・950）

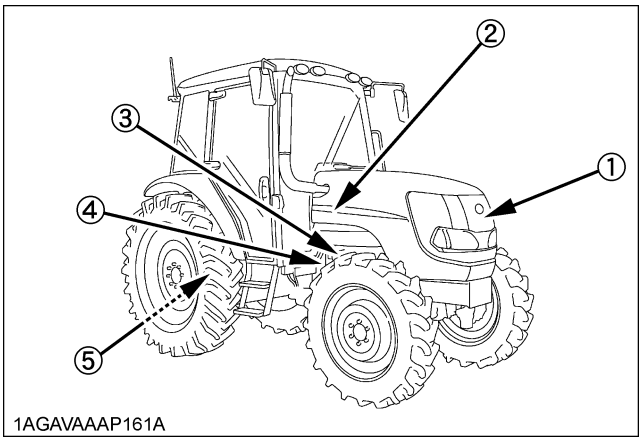
[GV760・850・950]



補　足

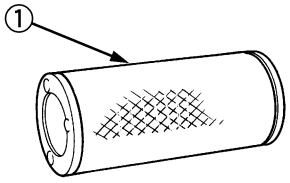
＊ 鍵は同梱されておりません。適宜ご用意ください。

主な消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう）



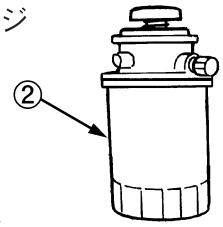
1AGAVAAAP161A

エアクリーナエレメント



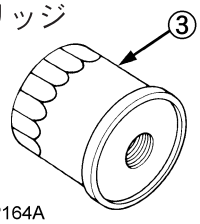
1AGAVAAAP162A

フューエルフィルタ
カートリッジ



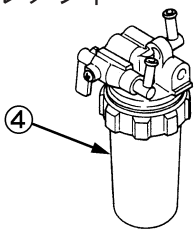
1AGAVAAAP163A

エンジンオイルフィルタ
カートリッジ



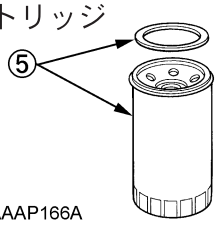
1AGAVAAAP164A

セパレータエレメント



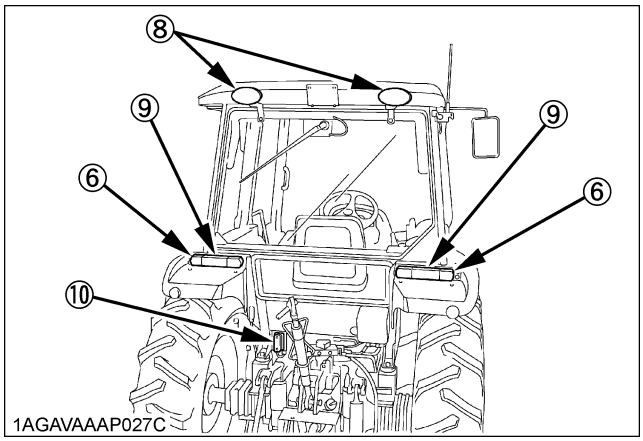
1AGAVAAAP165A

油圧オイルフィルタ
カートリッジ

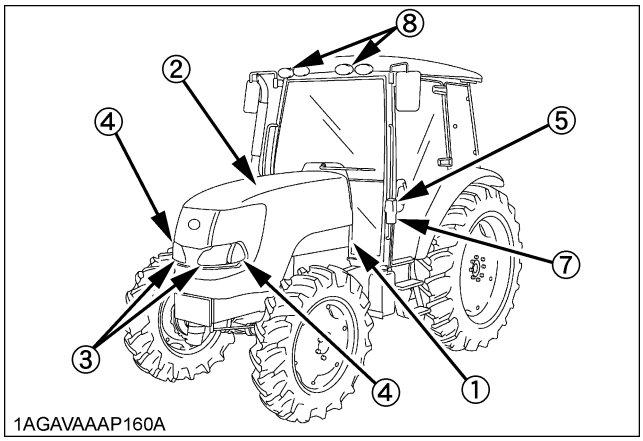


1AGAVAAAP166A

図番	品　　名	品　番	図番	品　　名	品　番
①	エアクリーナエレメント **[GV500・550・600]**	KR140142270	③	エンジンオイルフィルタ カートリッジ	K1C02032430
	エアクリーナエレメント **[GV650・700・750]**	K5980026110	④	セパレータエレメント	K1G31143380
	エアクリーナエレメント **[GV760・850・950]**	K5970026110	⑤	油圧オイルフィルタ カートリッジアッシ	K3G70282620
②	フューエルフィルタ カートリッジ	K1663143562			

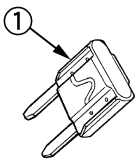


1AGAVAAAP027C



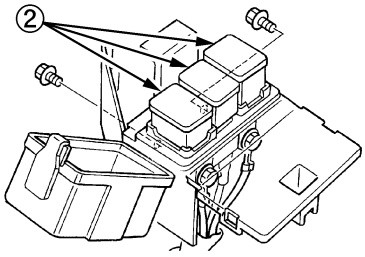
1AGAVAAAP160A

ヒューズ



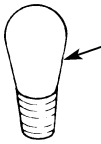
1AQAAAAAP033B

スローブローヒューズ



1AGADALAP150E

電球



③ ヘッドライト
④ 作業灯（ヘッドライト横）
⑤ ウインカ前
⑥ ウインカ後
⑦ 車幅灯
⑧ 作業灯
⑨ 尾灯，ブレーキランプ
⑩ バックランプ
⑪ ルームランプ

1AQAAAAAP030F

図番	品　　名	品　番	図番	品　　名	品　番
①	ヒューズ（ミニ 20A）	KT205030500	③	デンキュウ（60/55W）	KT127099010
	ヒューズ（ミニ 15A）	KT205030490	④	デンキュウ（21W）	KT127099020
	ヒューズ（ミニ 10A）	KT205030480	⑤	デンキュウ（21W）	KT137099110
	ヒューズ（ミニ 5A）	KT205030470	⑥	デンキュウ（21W）	KT225599120
②	スローブローヒューズ（100A）（ネジ止めタイプ）	K3F24075550	⑦	デンキュウ（5W）	KT137099140
			⑧	デンキュウ（55W）	K3C58175900
	スローブローヒューズ（60A）（ネジ止めタイプ）	K3M77075550	⑨	デンキュウ（5W/21W）	K5K11065620
			⑩	デンキュウ（21W）	KT225599120
	スローブローヒューズ（40A）（ネジ止めタイプ）	K3M76075550	⑪	デンキュウ（10W）	KT018074220
	スローブローヒューズ（40A）	K3467034530			
	スローブローヒューズ（30A）	K5195029320			

アタッチメント一覧表（純正アタッチメントを使いましょう）

分類	品　番	品　名	用途・仕様	適応型式									備考
				GV 500	GV 550	GV 600	GV 650	GV 700	GV 750	GV 760	GV 850	GV 950	
ウエイト	K9965112000	前部ウエイトアッシ（取付け台含まず）	ウエイト 25kg × 4 枚 ボルト 4 枚用含む	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	K3F86012100	前部ウエイトアッシ（取付け台含まず）	ウエイト 45kg × 4 枚 ボルト 4 枚用含む	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	K3A25917000	前部ウエイト取付け台アッシ（板金製，30kg）	取付けボルト含む	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ウエイトは含まない
	K3R60017000	前部ウエイト取付け台アッシ（鋳物製，80kg）	取付けボルト含む	○	○	○	○	○	○				ウエイトは含まない
	K9965112110	前部ウエイト単体	25kg	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	K3F86012080	前部ウエイト単体	45kg	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	K9965112130	ボルト（前部ウエイト）	ウエイト 4 枚用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	K9965112120	ボルト（前部ウエイト）	ウエイト 6 枚用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	K3545221810	ボルト（前部ウエイト）	ウエイト 8 枚用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	K3A25921790	ボルト（前部ウエイト）	ウエイト 10 枚用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	K3671097180	ボルト（前部ウエイト）	ウエイト 12 枚用							○	○	○	
	K9988115000	後輪ウエイトアッシ	ウエイト 50kg × 4 枚 取付けボルト含む	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	K9988115110	後輪ウエイト単体	50kg	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他	K3R60397500	クイックアップスイッチキット	右内装フェンダ用	○	○	○	○	○	○				
	K3R90397502	クイックアップレバースイッチキット	ハンドル下用							○	○	○	
	K3R60097430	トレーラ用コネクタキット（メス用）	トレーラ側オスカプラ 33740-9751-0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	K3G71597430	トレーラ用コネクタキット（メス用）	トレーラ側オスカプラ 3G715-9747-0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ヨーロッパタイプ
	K3R60097650	リヤデフォッガガラスキット		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	K3G70089100	スイングドローバアッシ		○	○	○	○	○	○				
	K3R60097530	PTO 連動キット	クラッチペダルと連動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	K3R60097910	レバーキット（1 連目ロック）	1 連目補助コンレバーの固定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	K3R60097550	タンクキャップキット	燃料タンクキャップキー	○	○	○	○	○	○				

補助コントロールバルブ一覧表

		品　名	品　番	1連目追加	2連目追加	3連目追加	4連目追加	備　考
バルブ	1	単複切換えバルブ	K3R60097810	○	○	○	○	
	2	複動バルブ	K3R60097820	○	○	○	○	
	3	セルフキャンセルデテントバルブ	K3R60097830	○	○	○	○	
	4	フローティングバルブ	K3R60097840	○	○	○	○	
パーツキット	5	パーツキット（1連目取付用）	K3R60097860	○				
	6	パーツキット（2連目取付用）	K3R60097870		○			
	7	パーツキット（3連目取付用）	K3R60097880			○		
	8	パーツキット（4連目取付用）	K3R60097890				○	
カプラ	9	カプラキット（3/8）	K3G70097900	○	○	○	○	10～13部品各2セット含む
	10	カプラメス（3/8）	KR140179970	○	○	○	○	
	11	カプラオス（3/8）	KR140179960	○	○	○	○	
	12	油圧取出しニップル（3/8用）	K3978258610	○	○	○	○	
	13	Oリング	K0481700140	○	○	○	○	
	14	カプラキット(1/2)	K3G70097990	○	○	○	○	15～18部品各2セット含む
	15	カプラメス(1/2)	K3979511500	○	○	○	○	
	16	カプラオス(1/2)	K3979551500	○	○	○	○	
	17	油圧取出しニップル（1/2用）	K3978258840	○	○	○	○	
	18	Oリング	K0481700140	○	○	○	○	
	19	カプラキットクイックタイプ(1/2)	K3G90097900	○	○	○	○	20～25部品各2セット含む
	20	カプラメスアッシ	K3A11182030	○	○	○	○	
	21	カプラオスアッシ	K3586182190	○	○	○	○	
	22	油圧取出しニップル（1/2用）	K3A15182010	○	○	○	○	
	23	Oリング	K0481600140	○	○	○	○	
	24	Oリング	K0481600200	○	○	○	○	
	25	ブッシング（1/2 × 3/8）	K3970855430	○	○	○	○	
	26	油圧取出しニップル（3/8用）	K3G70097930	○	○	○	○	エルボ（45度）
	27	油圧取出しニップル（1/2用）	K3G70097940	○	○	○	○	エルボ（45度）

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表



型 式 名：クボタ　ＩＣ７５ＭＺ

合格番号：２０６０１５

種　　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

１．型 式 名

クボタ MZ75　クボタ MZ70　クボタ MZ65　クボタ MZ60
クボタ MZ55　クボタ MZ50

２．主要諸元（最大トラクター）

■型　　式　　名		：	クボタ MZ75
■種　　類		：	４輪駆動
■質　量（キャブ付き）	kg	：	2725
■軸　　距	mm	：	2150
■機関出力／回転速度	kW{PS}/rpm	：	55.2{75}/2600

Ⅱ　構造の概要

１．構造及び装着法

供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。

ウインドスグリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

２．主な装備

シートベルト（２点式），換気・暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

３．主要寸法　※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	107.5 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	145.0 cm
■座席基準点上方90cmの高さにおけるキャブの内幅		：	91.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	107.0 cm
■戸口の幅	（上部）	：	70.0 cm
	（中部）	：	75.5 cm
	（下部）	：	33.0 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	134.5 cm
■最低位ステップの高さ		：	50.5 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	249.5 cm
■キャブの全幅		：	133.5 cm
■座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	23.0 cm

※１．クボタ MZ75（タイヤサイズ ： 前輪 9.5R24 106A8 後輪13.6R36 127A8）に装着時。
２．トラクターシートの銘柄型式 ：グラマー㈱，DS85H/90
３．ステアリングホイールのチルトは中央位置。

４．主要材料

■主 フ レ ー ム ：STKM 11 A，STKR 400，STK 400，SS 400，SPHC，SPCC
■装着ブラケット ：SS 400
■組立・装着ボルト ：S 45 C

Ⅲ　検査成績

１．強度試験

１）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。

■基準質量 ：2750 kg
■所要吸収エネルギー ：後部負荷 3.85 kJ {393 kgf･m}
：側部負荷 4.81 kJ {491 kgf･m}
■圧壊力 ：55.00 kN {5608 kgf}

２）試験後のキャブの永久変位

■後 部（前 方 へ） ：右側 5.0 cm　左側 8.5 cm
■前 部（前 方 へ） ：右側 4.5 cm　左側 8.5 cm
■側 部（左側方へ） ：前側 18.0 cm　後側 12.0 cm
■上 部（下 方 へ） ：前部 右側 2.5 cm　左側 2.0 cm
：後部 右側 -2.0 cm　左側 2.0 cm

３）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 ： 10.0 cm

２．騒　　音 ※

■79.5 dB(A) ［クボタ MZ75］

※ 7.5km/h に近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ　付　記

本キャブは任意鑑定受験機（平18任鑑９号，コードⅠ）であり，強度試験については，任意鑑定の試験成績を転用した。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成19年度
農業・食品産業技術総合研究機構



型式名：クボタ　ＩＣ９５ＭＺ

合格番号：２０７０１８

種　　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

１．型式名

クボタ SMZ95-HPC　クボタ SMZ95　クボタ SMZ85-HPC　クボタ SMZ85
クボタ SMZ76-HPC　クボタ SMZ76

２．主要諸元（最大トラクター）

■ 型式名		：	クボタ SMZ95-HPC
■ 種類		：	半装軌式
■ 質量（キャブ付き）	kg	：	3515
■ 軸距	mm	：	2250
■ 機関出力／回転速度	kW{PS}/rpm	：	69.9{95}/2600

Ⅱ　構造の概要

１．構造及び装着法

供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。

ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

２．主な装備

シートベルト（２点式），換気・暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

３．主要寸法　※

■ 座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	109.0 cm
■ フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	147.0 cm
■ 座席基準点上方90cmの高さにおけるキャブの内幅		：	91.0 cm
■ ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	107.0 cm
■ 戸口の幅	（上部）	：	69.5 cm
	（中部）	：	76.0 cm
	（下部）	：	33.0 cm
■ 戸口の高さ	（フートプレートから）	：	134.5 cm
■ 最低位ステップの高さ		：	52.0 cm
■ キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	257.0 cm
■ キャブの全幅		：	133.5 cm
■ 座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	21.0 cm

※１．クボタ SMZ95-HPC（タイヤサイズ：前輪 320/60-26 4PR 後輪 450W×50L×90P）に装着時。
２．トラクターシートの銘柄型式：グラマー，DS85H/90
３．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

４．主要材料

■ 主フレーム	： STKM 13 A STKM 11 A，STKR 400，STK 400，STKMR，SS 400，SPHC，SPCC
■ 装着ブラケット	： SS 400
■ 組立・装着ボルト	： S 45 C

Ⅲ　検査成績

１．強度試験

１）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。

■ 基準質量	：	3700 kg
■ 所要吸収エネルギー	：	後部負荷　5.18 kJ {528 kgf･m}
	：	側部負荷　6.48 kJ {661 kgf･m}
■ 圧壊力	：	74.00 kN {7546 kgf}

２）試験後のキャブの永久変位

■ 後部（前方へ）	：	右側	3.0 cm	左側	10.5 cm
■ 前部（前方へ）	：	右側	3.0 cm	左側	10.5 cm
■ 側部（左側方へ）	：	前側	14.5 cm	後側	15.5 cm
■ 上部（下方へ）	：	前部　右側	3.5 cm	左側	2.5 cm
	：	後部　右側	1.0 cm	左側	2.0 cm

３）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差　：　9.5 cm

２．騒音　※

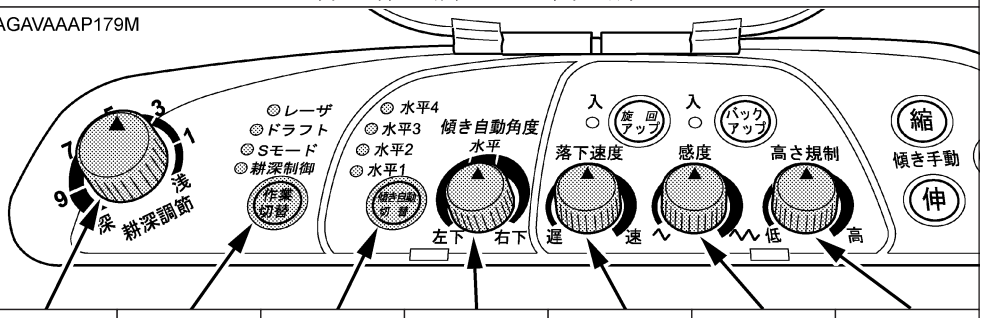
■ 80.0 dB(A)　[クボタ SMZ95-HPC]

※ 7.5km/h に近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ　付記

本キャブは任意鑑定受験機（平18任鑑22号，コードⅠ）であり，強度試験については，任意鑑定の試験成績を転用した。

作業ごとの一般的な調整要領

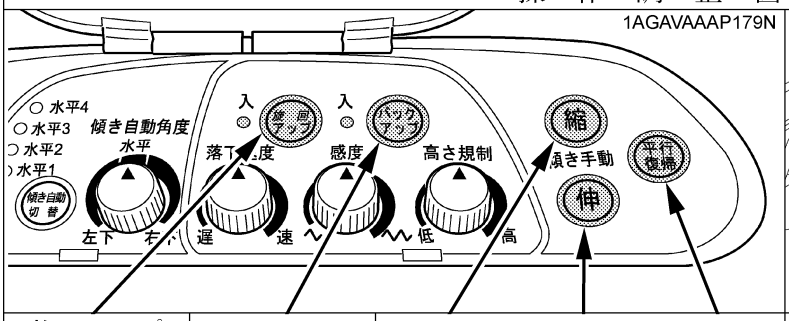
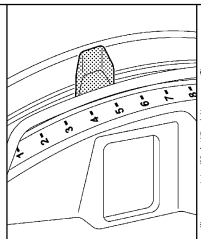
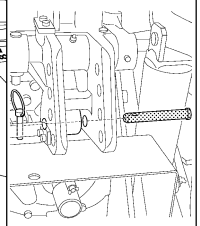
作業内容		操作調整箇所						
							
		耕深調節ダイヤル	作業切替スイッチ	傾き自動切替スイッチ	傾き自動角度ダイヤル	落下速度ダイヤル	感度ダイヤル	高さ規制ダイヤル
ロータリ耕うん（傾き自動・耕深制御［入］）	一般耕うん	希望耕深になるよう調節	耕深制御	純正ロータリの場合［水平1］ ロアーリンク幅，取付穴により適宜選択 ＊1	［水平］（必要に応じて調整）	2～3秒に調整	仕上がりに応じ調整 （純正ロータリは中央～敏感［右方向］ 他社作業機は中央～鈍感［左方向］を目安に調整）	作業機・作業に応じて適切な位置に調整
	ロータリカバー（耕深ワイヤ）を使用しない耕うん		Sモード					
	代かき湿田		耕深制御					
プラウ耕（その他けん引作業機）		希望耕深になるよう調節	ドラフト	傾き自動［入］（位置制御）（全スイッチランプ消灯位置）	—	1～2秒に調整	土質に応じ調整	通常作業位置は［高］
一般作業機（ポジションコントロール）		—	ポジションコントロール（全スイッチランプ消灯位置）	傾き自動［入］ロアーリンク幅，取付穴により適宜選択	［水平］（必要に応じて調整）	作業に合わせ調整	—	作業機に合わせ調整
				傾き自動［入］（位置制御）（全スイッチランプ消灯位置）	—			

補　足

＊1 **［傾き自動切替スイッチ］**の項を参照してください。

＊2 作動しない場合があります。**［旋回アップ（オートアップ）スイッチ］**の項を参照してください。

＊3 **［すき込み高さ位置調整要領］**の項を参照してください。
レーザモードはレーザの取扱説明書を参照してください。

<table>
<tr><td colspan="7">操　作　調　整　箇　所</td></tr>
<tr><td colspan="3">
</td><td>
</td><td>
</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">旋回アップ
(オートアップ)
スイッチ</td><td rowspan="2">バックアップ
スイッチ</td><td colspan="3">傾き手動スイッチ</td><td rowspan="2">ポジション
レバー</td><td rowspan="2">ドラフトストッパ
ピン</td><td rowspan="2">備　考</td></tr>
<tr><td>縮</td><td>伸</td><td>平行復帰</td></tr>
<tr><td>隣接耕うん時は
[入]（選択）
＊2</td><td rowspan="2">[入]
(作業に応じて)</td><td colspan="3" rowspan="2">—</td><td rowspan="2">最下位置</td><td rowspan="2">ピンを入れる</td><td rowspan="2">すき込み高さ
位置調整
＊3</td></tr>
<tr><td>[切]</td></tr>
<tr><td>[切]</td><td>[入]
(作業に応じて)</td><td colspan="2">任意の角度に
作業機を傾斜させる</td><td>左右のリフト
ロッドが同じ
長さになる</td><td>最下位置
耕盤が軟弱な
場合下限位置を
設定する</td><td>ピンを抜く</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">作業機に合わせ
選択</td><td rowspan="2">作業機に合わせ
選択</td><td colspan="2">—</td><td>—</td><td rowspan="2">作業に合わせ
高さを調整</td><td rowspan="2">ピンを入れる</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">任意の角度に
作業機を傾斜させる</td><td>—</td></tr>
</table>